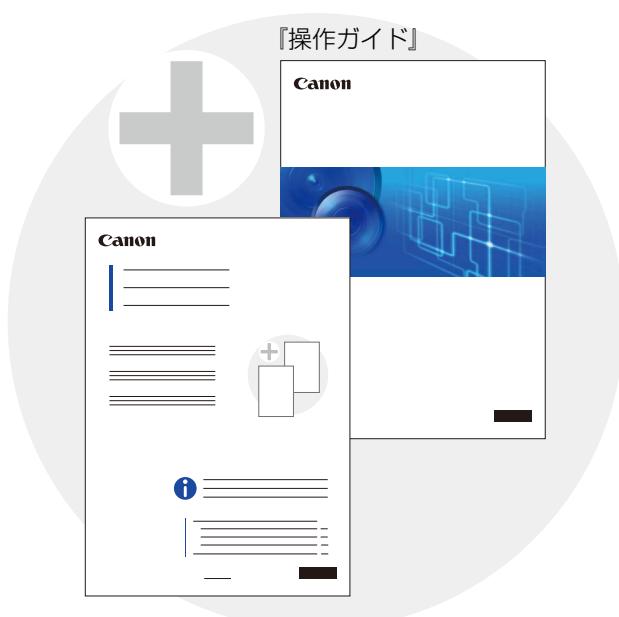


操作ガイドをお読みになる前に 新機能/変更内容のお知らせ

最新ファームウェアによる新機能/仕様変更と、
『操作ガイド』の記載変更などの最新情報を
P. ii ~ P. xvii で説明しています。

すでに本製品を使用しているかた
ファームウェア更新後の最新情報については、
P. ii ~ P. xvii をお読みください。

本製品を初めてご使用になるかた
P. ii ~ P. xvii と、P. 1 以降の『操作ガイド』を
あわせてお読みください。



最新ファームウェアに更新することで、新機能/仕様変更が有効になります。ファームウェアのバージョン確認および更新方法は、次のページをご覧ください。

『操作ガイドをお読みになる前に』

ファームウェアバージョンの確認と更新 P. ii

新機能と仕様変更 P. iii

その他の変更情報 P. xiii

『操作ガイド』 P. 1

ファームウェアバージョンの確認と更新

カメラのファームウェアバージョンの確認と更新は、カメラマネジメントツールを使って行います。

必要に応じて、最新ファームウェアをホームページからダウンロードして、カメラのファームウェアを更新してください。
カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

最新ファームウェアバージョン

カメラ機種	ファームウェアバージョン
VB-H45, VB-H45B ^{*1} , VB-M44, VB-M44B ^{*1}	1.1.x
VB-H730F Mk II	
VB-S30D Mk II, VB-S31D Mk II	
VB-S800D Mk II, VB-S900F Mk II	
VB-S805D Mk II, VB-S905F Mk II	
VB-S30VE, VB-S800VE, VB-S910F	
VB-R13VE (H2) ^{*2} , VB-R13VE, VB-R13, VB-R11VE (H2) ^{*2} , VB-R11VE, VB-R11	
VB-R12VE (H2) ^{*2} , VB-R12VE, VB-R10VE (H2) ^{*2} , VB-R10VE	
VB-M50B	
VB-H652LVE, VB-H651VE, VB-H651V	
VB-M641VE, VB-M641V, VB-M640VE, VB-M640V	1.2.x
VB-H761LVE (H2) ^{*2} , VB-H761LVE-H, VB-H761LVE, VB-H760VE (H2) ^{*2} , VB-H760VE	
VB-H751LE (H2) ^{*2} , VB-H751LE-H, VB-H751LE	
VB-M741LE (H2) ^{*2} , VB-M741LE-H, VB-M741LE, VB-M740E (H2) ^{*2} , VB-M740E	

*1 VB-H45とVB-H45B、VB-M44とVB-M44Bの違いは外観色のみです。

*2 "(H2)" が付いている機種は、同じ機種名の親水コーティングモデルです。

『操作ガイド』は、上表のファームウェアバージョンよりも前のバージョンの内容で記載されています。

そのため、最新ファームウェアバージョンによる新機能と仕様変更内容については、以降のページをお読みください。

新機能と仕様変更

対象機種

ファームウェアの更新による新機能と仕様変更は、次のとおりです。

なお、お使いの機種によっては、説明の画面と実際の画面が異なる場合があります。

● : 最新ファームウェアで対応 ○ : 対応済み

新機能/仕様変更	対象機種			
	VB-H45, VB-M44 VB-H730F Mk II VB-S30D Mk II VB-S31D Mk II VB-S800D Mk II VB-S900F Mk II VB-S805D Mk II VB-S905F Mk II	VB-S30VE VB-S800VE VB-S910F	VB-R13VE (H2), VB-R13VE VB-R13, VB-R11VE (H2) VB-R11VE, VB-R11 VB-R12VE (H2), VB-R12VE VB-R10VE (H2), VB-R10VE VB-M50B, VB-H652LVE VB-H651VE, VB-H651V VB-M641VE, VB-M641V VB-M640VE, VB-M640V VB-H761LVE (H2) VB-H761LVE-H, VB-H761LVE VB-H760VE (H2), VB-H760VE VB-H751LE (H2) VB-H751LE-H, VB-H751LE VB-M741LE (H2) VB-M741LE-H, VB-M741LE VB-M740E (H2), VB-M740E	
動作環境： PC環境/モバイル端末情報の更新	●	●	●	P. v
カメラの初期設定： 管理者アカウント登録の追加	○	○	●*4	P. vi
カメラビューワー： [ワンショットAF] ボタンの追加*1	●	●	●	P. vii
カメラビューワー： スナップショットの保存形式変更	●	●	●	P. vii
設定ページ： 登録ユーザー確認用パスワードの入力	○	●	●	P. viii
設定ページ： [簡単カメラ設定] の推奨値変更と性能向上	○	○	●	P. viii
設定ページ： [ADSR] および [プライバシーマスク] 設定時の プリセット選択追加*2	○	●	○	P. ix
設定ページ： [オンスクリーン表示] の入力文字数変更	○	●	○	P. x
設定ページ： [音声全般] の項目追加*3	○	○	●	P. x
設定ページ： 初期化時の保持項目変更	○	●	●	P. xi

		対象機種			
新機能/仕様変更	VB-H45, VB-M44 VB-H730F Mk II VB-S30D Mk II VB-S31D Mk II VB-S800D Mk II VB-S900F Mk II VB-S805D Mk II VB-S905F Mk II	VB-S30VE VB-S800VE VB-S910F	VB-R13VE (H2), VB-R13VE VB-R13, VB-R11VE (H2) VB-R11VE, VB-R11 VB-R12VE (H2), VB-R12VE VB-R10VE (H2), VB-R10VE VB-M50B, VB-H652LVE VB-H651VE, VB-H651V VB-M641VE, VB-M641V VB-M640VE, VB-M640V VB-H761LVE (H2) VB-H761LVE-H, VB-H761LVE VB-H760VE (H2), VB-H760VE VB-H751LE (H2) VB-H751LE-H, VB-H751LE VB-M741LE (H2) VB-M741LE-H, VB-M741LE VB-M740E (H2), VB-M740E		
工場出荷設定： 設定値変更 (IPv4、管理者アカウント、フォーカス)	○	○	● ⁵	P. xii	
工場出荷設定： 設定値変更 (DNS、カメラ名、デイナイト、メモリーカードの操作)	○	●	●	P. xii	
工場出荷設定： 設定値変更 (ユーザー権限)	●	●	●	P. xii	
設定名称： ピットレート制御内容の表示	○	●	●	P. xii	

*1 オートフォーカス機能がある機種のみ

*2 光学ズーム機のみ

*3 音声送受信機能がある機種のみ

*4 VB-R11VE (H2)、VB-R11VE、VB-R11、VB-R10VE (H2)、VB-R10VE、VB-M641VE、VB-M641V、VB-M640VE、VB-M640V、VB-M741LE (H2)、VB-M741LE-H、VB-M741LE、VB-M740E (H2)、VB-M740E のみ

*5 IPv4、管理者アカウント：

VB-R11VE (H2)、VB-R11VE、VB-R11、VB-R10VE (H2)、VB-R10VE、VB-M641VE、VB-M641V、VB-M640VE、VB-M640V、VB-M741LE (H2)、VB-M741LE-H、VB-M741LE、VB-M740E (H2)、VB-M740E のみ

フォーカス：

VB-H651VE、VB-H651V、VB-M641VE、VB-M641V、VB-M640VE、VB-M640V のみ

動作環境

最新のファームウェアに対する動作環境は次のとおりです。

■ PC環境詳細

CPU (推奨)	Intel Core i7-2600 以上	
グラフィックボード (推奨)	指定なし	
メモリー (推奨)	2 GB 以上	
ビューワー用ディスプレイ (推奨)	1920 x 1080 以上	
OSとWebブラウザー	Windows 7 Ultimate/Windows 7 Professional/Windows 7 Enterprise/Windows 7 Home Premium SP1 32/64-bit	Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows 8.1/Windows 8.1 Pro/Windows 8.1 Enterprise 32/64-bit* ¹	Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows 10 Pro/Windows 10 Enterprise/Windows 10 Education/Windows 10 Home 32/64-bit	Internet Explorer 11 32/64-bit, Microsoft Edge* ² , Chrome 65* ²
	Windows Server 2008 Standard SP2 32/64-bit	Internet Explorer 9 32-bit
	Windows Server 2008 R2 Standard SP1 64-bit	Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows Server 2012 Standard 64-bit* ¹	Internet Explorer 10 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows Server 2012 R2 Standard 64-bit* ¹	Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 65* ²
	Windows Server 2016 Standard 64-bit	Internet Explorer 11 64-bit, Chrome 65* ²
- JavaScript、IFRAME (HTMLタグ)、Web Storage を使用できる設定とすること - カメラビューウィーのみCookieが必要		
OS言語	設定ページ、カメラビューウィー、モバイルカメラビューウィー: ドイツ語/英語/スペイン語/フランス語/イタリア語/ポーランド語/ロシア語/ トルコ語/タイ語/韓国語/中国語(簡体字)/日本語	

*1 Windowsのスタート画面では動作しない

*2 映像表示 (H.264)、音声送受信は非対応

■ 動作確認済モバイル端末 (設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー) – 2018年4月時点

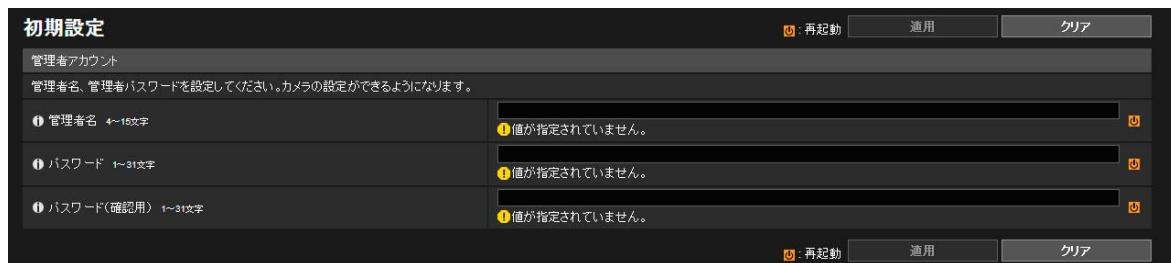
モバイル端末	OS	Webブラウザー
Surface 3	Windows 10 Home 64-bit	Internet Explorer 11, Microsoft Edge* ¹
	– JavaScript、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	
iPad Pro 12.9-inch iPad Pro 10.5-inch iPhone 7* ² iPhone 8 Plus* ² iPhone X* ²	iOS 10.3.3 iOS 11.3	Safari* ¹
	– JavaScript、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューワーのみCookieが必要	
Nexus 9	Android 7.1.1	Chrome 65* ¹
Galaxy Tab S 8.4	Android 4.4.2	Chrome 65* ¹
Nexus 6P* ²	Android 8.1	Chrome 65* ¹
Galaxy S8* ²	Android 8.0	Chrome 65* ¹

*1 映像表示 (H.264)、音声送受信は非対応

*2 設定ページ、カメラビューワーは非対応

カメラの初期設定

[管理者アカウント] の工場出荷設定は空欄となりました。ファームウェア更新後、工場出荷設定に戻したときは初回アクセス時に、[管理者名] と [パスワード] の設定が必要になります (本変更は、ファームウェアバージョン 1.1.8 から対応済み)。



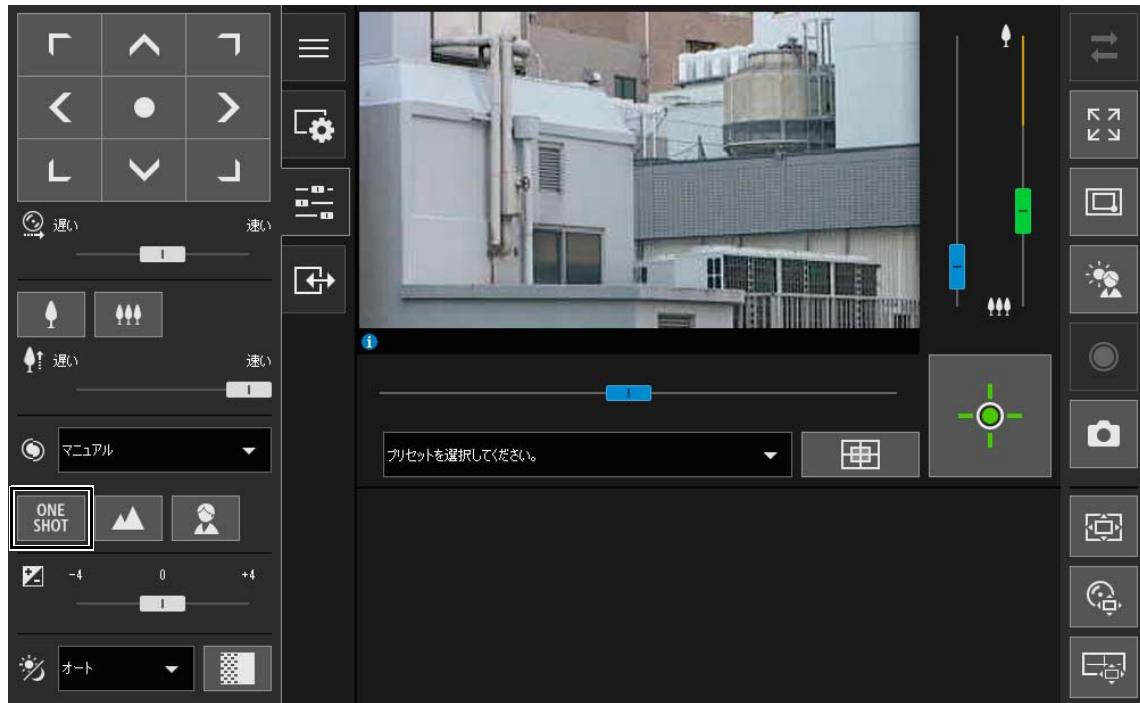
Webブラウザーから初回アクセスしたときに表示される初期設定画面

カメラマネジメントツールを使用して初期設定を行う場合は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

カメラビューワー

■ 映像を調整する > フォーカスを合わせる

カメラビューワーにおいても、ワンショットAFの操作が可能になりました。



[ワンショットAF] ボタン

[フォーカス] が [マニュアル] の場合に使用します。[ONE SHOT] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後に、マニュアルモードになります。

重 要

フォーカスの使用についての注意事項と、フォーカスの合う範囲については、『操作ガイド』の記載をご確認ください。

■ スナップショットを保存する

次の [メモ] が変更になりました。

変更前

- スナップショットはJPEGファイルで保存されます。

変更後

- スナップショットの保存形式は、使用するWebブラウザによって異なります。

設定ページ

■ [基本] > [ユーザー管理]

登録ユーザーのパスワード設定時に、確認用パスワードの入力が必要になりました。

The screenshot shows the 'User Management' page with two sections: 'Administrator Account' and 'Normal User Account'. In the 'Administrator Account' section, fields for 'Administrator Name' (5~15 characters) and 'Password' (8~31 characters) are filled with placeholder text. Below it, in the 'Normal User Account' section, fields for 'User Name' (5~15 characters), 'Password' (8~31 characters), and 'Confirm Password' (8~31 characters) are also filled with placeholder text. A 'Add' button is visible at the bottom right.

[パスワード(確認用)]

上と同じパスワードを確認のため入力します。

■ [カメラ] > [起動時設定]

[簡単カメラ設定] の [動き優先] 選択時に表示される [露出]、[シャッターリミット(低速)]、[シャッターリミット(高速)]、[シャッタースピード] の推奨値を変更しました。また、性能向上に伴い、[簡単カメラ設定] の [動き優先] と [深度優先] の留意点を変更します。

The screenshot shows the 'Startup Settings' page. On the left, a sidebar lists categories like 'Basic', 'Network', 'User Management', 'Clock/Timing', 'Image', 'Sound', 'Server', 'Image Recording', 'Events', 'Security', 'Memory Card', and 'Maintenance'. The 'Startup Settings' section is highlighted. The main area features a live video feed from a camera showing an outdoor scene of buildings. To the right of the video are various controls for camera movement (pan, tilt, zoom) and settings. Below the video, there are dropdown menus for camera position (パンチルト・ズーム位置: 登録する or 登録しない) and digital PTZ position (デジタルPTZ位置: 登録する or 登録しない). Under 'Camera Settings', there are dropdown menus for 'Simple Camera Settings' (種類を選択してください) and 'Focus' (オート).

[簡単カメラ設定]

種類	動き優先
[露出]	オート
[シャッターリミット(低速)]	1/1000 (秒)
[シャッターリミット(高速)]	1/16000 (秒)
シャッタースピード	-

重 要

[簡単カメラ設定] では、次の留意点があります。

[動き優先]

- 蛍光灯などの影響によりフリッカーやが発生する場合があります。
- 低照度時において [標準設定] と比べて映像が暗くなったり、ノイズが増える場合があります。

[深度優先]

- 低照度時において [標準設定] と比べて映像が暗くなったり、ノイズが増える場合があります。

■ [映像と音声] > [ADSR] / [映像と音声] > [プライバシーマスク]

ADSRの指定領域とプライバシーマスク領域の設定で、カメラアングルを変更する場合、スライダー操作に加えて、プリセット選択ボックスからプリセットを選択できるようになりました。



■ [映像と音声] > [オンスクリーン表示]

[テキスト表示] で、[指定文字列を表示する] の選択時に設定できる [テキスト文字列] の入力文字数が増え、最大で40文字以内になりました。



メモ

- 英語以外の文字列を表示する場合は、オンスクリーン表示アシストツールを使用します（ただし、タイ語には対応していません）。詳細については、『オンスクリーン表示アシストツール 使用説明書』を参照してください。
- [テキスト表示] と [日付表示] [時刻表示] を同じ行に並べると、文字列が途切れる場合があります。文字列が重なった場合、[テキスト表示位置] を [右上] または [右下] に設定したものが優先して表示されます。
- 映像サイズやテキスト表示の文字数、表示位置によっては、すべての文字列が表示されないことがあります。映像サイズ、オンスクリーン表示の設定変更を行った場合は、表示内容を確認してください。

■ [映像と音声] > [音声]

[音声入力の使用] の有無および [音声通信方式] の選択ができるようになりました。また、音声入力の [現在の音量レベル] も表示されるようになりました。



[音声入力の使用]

マイクからの音声使用の有無を選択します。[使用する] を選択すると [音声サーバー] > [カメラからの音声送信]、[イベント] > [音声検知] > [音量検知イベント] など音声入力にかかる機能が使用できます。

[使用しない] を選択し [適用] すると、次の設定項目が固定となり、音声入力機能が無効になります。

- [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] > [送信しない]
- [サーバー] > [RTPサーバー] > [RTPストリーム1] ~ [RTPストリーム5] > [音声送信] > [使用しない]
- [イベント] > [音声検知] > [音量検知] > [音量検知イベント] > [使用しない]
- [イベント] > [音声検知] > [悲鳴検知] > [悲鳴検知イベント] > [使用しない]

[現在の音量レベル]

[音声入力の使用] が [使用する] の場合に、現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。

[音声通信方式]

音声送受信方法を選択します。

[半二重]

マイクとスピーカーが近くにある場合に発生するハウリングを防ぐことができます。ただし、カメラがビューワーからの音声を受信しているときや、音声ファイル再生中は、カメラからビューワーへの音声送信が無音になります。そのため、ビューワーの[音声受信]ボタンがアクティブ(紫)でも、マイクからの入力音声は聞こえません。

[全二重]

カメラがビューワーからの音声を受信しているときでも、カメラからビューワーへ音声送信ができます。

■ [メンテナンス] > [全般]

[初期化] > [ネットワーク設定] > [保持する] を選択した場合、新たに下線の項目が保持されるようになりました。



[ネットワーク設定]

[保持する] に設定した場合、次の設定を残して初期化します。

- 管理者名
- 管理者パスワード
- ネットワーク設定
- NTPサーバー
- HTTPサーバー
- ホストアクセス制限
- タイムゾーン
- 証明書
- 秘密鍵
- IPsec

[保持しない] に設定した場合、上記設定も含めて初期化します。

管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください。

■ [メンテナンス] > [ファームウェア更新]

[ファームウェア更新] > [初期設定に戻す] > [戻す] を選択した場合に保持される項目は、前項の [初期化] > [ネットワーク設定] > [保持する] と同様に変更されました。

■ 工場出荷設定一覧

工場出荷設定の設定値を次のように変更しました。

項目	変更前	変更後
・ IPv4 IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定	自動設定 (DHCP)
・ DNS ネームサーバーアドレスの自動設定	使用しない	DHCP / DHCPv6を使用する
・ 管理者アカウント 管理者名 パスワード	設定値あり	設定値なし
・ ユーザー権限 一般ユーザーのカメラ権限	映像配信+一般カメラ制御	アクセス権限なし
・ ユーザー権限 一般ユーザーの音声配信	配信する	配信しない
・ カメラ名 カメラ名(半角英数字)	Camera	機種名(例) VB-M50B
・ カメラ設定 フォーカス	マニュアル	オート
・ カメラ設定 ディナイト	デイモード	オート
・ メモリーカードの操作 映像の上書き	無効	有効

■ メモ

工場出荷設定のカメラは、DHCPでIPアドレスを取得する設定になるため、カメラマネジメントツールでのカメラの検出は、DHCP環境で実行するか、もしくはIPv6環境で実行してください。これらの環境以外で設定する場合は、『操作ガイド』の「DHCPサーバーがない環境でのネットワーク設定」を参照してください。

■ 設定名称の変更

■ メモ

お使いのカメラによっては、下記以外の設定名称も変更されています。

[基本] > [映像] > [H.264(1)] と [H.264(2)] において、[ビットレート制御] の設定名称を変更しました。

- ・ [ビットレート制御する] → [ビットレート制御する(固定ビットレート)]
- ・ [ビットレート制御しない] → [ビットレート制御しない(可変ビットレート)]

その他の変更情報

ファームウェアの更新に伴う変更以外に、次の項目について『操作ガイド』の説明を変更します。
説明変更の対象機種は、次のとおりです。

変更情報	対象機種			
	VB-H45, VB-M44 VB-H730F Mk II VB-S30D Mk II VB-S31D Mk II VB-S800D Mk II VB-S900F Mk II VB-S805D Mk II VB-S905F Mk II	VB-S30VE VB-S800VE VB-S910F	VB-R13VE (H2), VB-R13VE VB-R13, VB-R11VE (H2) VB-R11VE, VB-R11 VB-R12VE (H2), VB-R12VE VB-R10VE (H2), VB-R10VE VB-M50B, VB-H652LVE VB-H651VE, VB-H651V VB-M641VE, VB-M641V VB-M640VE, VB-M640V VB-H761LVE (H2) VB-H761LVE-H, VB-H761LVE VB-H760VE (H2), VB-H760VE VB-H751LE (H2) VB-H751LE-H, VB-H751LE VB-M741LE (H2) VB-M741LE-H, VB-M741LE VB-M740E (H2), VB-M740E	
RMシリーズ販売終了について	●	●	●	P. xiii
セットアップCD-ROM 製品同梱終了について		●	●	P. xiv
日常のお手入れ	●	●	●	P. xv
操作ガイドの改訂： カメラビューワーの操作に必要な権限	●	●	●	P. xvi
操作ガイドの改訂： [映像記録] > [アップロード]	●	●	●	P. xvi
操作ガイドの改訂： [イベント] > [タイマー]	●	●	●	P. xvi
操作ガイドの改訂： [無限遠固定]	●	●	●	P. xvi
操作ガイドの改訂： トラブルシューティング	●	●	●	P. xvii
操作ガイドの改訂： ビューワーメッセージ	●	●	●	P. xvii
操作ガイドの改訂： 工場出荷設定一覧	●		●	P. xvii

RMシリーズ販売終了について

ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRMシリーズの販売は終了しました。
これに伴い、録画ソフトウェアRM-Liteの配布も終了しました。

セットアップCD-ROM 製品同梱終了について

セットアップCD-ROMの製品同梱は終了しました。

これに伴い、セットアップCD-ROMに収録されていたソフトウェア、使用説明書、ソフトウェアの使用許諾契約など各種ファイル情報の提供方法が次のとおり変更になりました。

種類	名前	提供方法
ソフトウェア	ネットワークビデオレコーディングソフトウェア RM-Lite	配布終了
	カメラマネジメントツール	
	録画映像ユーティリティ	ホームページからダウンロード canon.jp/nvs-app
	オンスクリーン表示アシストツール*1	インストーラー名: VBToolsInstall.exe
ライセンス	ソフトウェアの使用許諾契約	
	第三者のソフトウェア	設定ページに表示 [メンテナンス] > [全般] > [表示と実行] > [ライセンスを見る]
使用説明書	操作ガイド	
	主な仕様	
	モバイルカメラビューウェ 操作ガイド	
	カメラマネジメントツール 使用説明書	ホームページからダウンロード canon.jp/nvs-app
	録画映像ユーティリティ 使用説明書	
	オンスクリーン表示アシストツール 使用説明書*1	
音声ファイルのサンプル	サウンドサンプル*2	

*1 オンスクリーン表示アシストツールに対応する機種および言語のみ

*2 音声送受信機能がある機種のみ

日常のお手入れ

日常のお手入れの説明を改訂します。

■ 映像の確認

定期的に、設定した撮影範囲からずれていないか、フォーカスが合っているかなどを確認します。
必要に応じて再調整してください。

■ 清掃方法

作業を開始する前に、電源を切ってください。

ドームカバー、トップカバーおよび保護窓のお手入れ

- 1 ホコリや砂粒などの付着物をきれいな水(水道水など)で流します*。

*屋内専用のカメラ(VB-H730F Mk II、VB-S30D Mk II、VB-S800D Mk II、VB-S805D Mk II、VB-R13、VB-R11、VB-H651V、VB-M641V、VB-M640V)は、直接水で洗い流せないため、きれいな水で湿らせたやわらかい布で拭きます。

- 2 指紋や油分など水だけで取れない汚れは、食器用中性洗剤を水で約1%に薄めてやわらかいスポンジや布に含ませ、やさしく拭き取ります。
- 3 水滴や洗剤が残らないように、きれいな水で湿らせたやわらかい布で拭きます**。

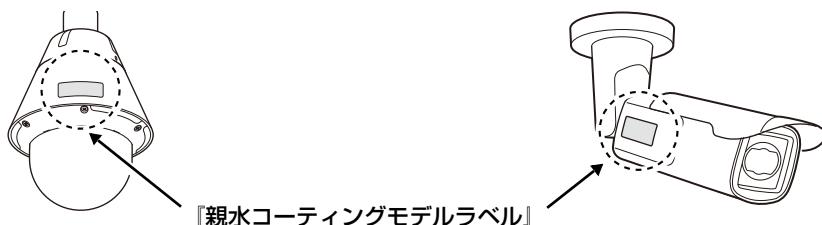
** VB-H761LVE-H、VB-H751LE-H、VB-M741LE-Hは、洗剤をきれいな水(水道水など)で流し、自然乾燥させます。

重 要

誤った清掃方法により、ドームカバーやトップカバー、保護窓に傷がついた場合、有償による交換が必要となるため、次の点に注意してお手入れしてください。

- ・ ホコリ、砂粒、指紋などの汚れにより、オートフォーカスがうまく動作しなかったり、逆光や赤外照明が反射して映像が白く曇ることがあります。映像品質を維持するためには定期的な清掃が必要です。
- ・ 乾いた布では拭かないでください。特に付着した汚れを取り除かず、そのまま布などで拭くことは絶対にしないでください。ドームカバー、トップカバーおよび保護窓を傷つける原因になります。
- ・ 親水コーティングモデルは次の点もご注意ください。
 - 清掃に使うスポンジや布は、新品であってもコーティングの効果を低下させる不純物が付着している場合がありますので、食器用中性洗剤で洗ってからお使いください。
 - 霧吹きによっては潤滑材などの不純物の影響でコーティングの効果を低下させる場合がありますので、霧吹きはできるだけ使用しないことをおすすめします。

親水コーティングモデルには、製品外装カバーに『親水コーティングモデルラベル』が貼付されています。



レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とします。

- ・ レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因になります。
- ・ レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。

■ カメラビューウィーの操作に必要な権限

次のメニュー やボタンは、登録ユーザーおよび一般ユーザーのすべての権限を無効にしても、使用できます。

≡ [メイン] メニュー

- 言語切り替えボタン
- [ユーザー切り替え]
- [設定ページ]
- [モバイルカメラビューウィー]

⇄ [再接続] ボタン

インフォメーション表示

■ [映像記録] > [アップロード]

次の重要文は不要になりました。



重要

HTTPまたはFTPでのアップロード、メール通報先にWindows系OSを設定する場合、IPsec通信は対応しません。

■ [イベント] > [タイマー]

タイマーイベントの説明を改訂します。

[24時間連続設定]

[有効]に設定し、[繰り返し間隔]に[なし]以外を設定すると、[開始時刻]によらず[繰り返し間隔]の間隔でタイマーイベントが繰り返し発生します。[繰り返し間隔]に[なし]を設定したときは、[開始時刻]にだけタイマーイベントが発生します。

なお、[有効]に設定したときに実行できる動作は、[映像記録]のみとなります。

■ [無限遠固定]

フォーカスの[無限遠固定]の説明を改訂します。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカス位置を移動します。

より厳密にフォーカスを合わせたい場合は、[マニュアル]を選択してフォーカスを調整します。

■ トラブルシューティング

次の問題に、対処方法を追加します。

問題	対処方法
カメラに接続できない 映像が表示されない 音声が利用できない* ビューワーの接続が切れる	<ul style="list-style-type: none">ご利用のセキュリティソフトウェアで、カメラや問題が発生したソフトウェアの除外設定を行ってください。
カメラビューワーが起動できない	<ul style="list-style-type: none">カメラビューワー起動時に、発行元不明によるファイルブロックのセキュリティ警告が表示された場合は、次のいずれかの対応を行ってください。<ul style="list-style-type: none">- インターネット接続環境でカメラを使用している場合は、最新の状態にWindows Update実施後、カメラビューワーを起動してください。- インターネット接続不可の環境の場合は、接続可能なPCでキヤノンダウンロードサイトよりルート証明書インストーラーをダウンロードし、対象の環境にインストールしてください。
カメラビューワーで一部機能が使用できない	<ul style="list-style-type: none">『操作ガイド』の「カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして追加する」の手順に従い、[セキュリティ]設定で、このWebサイトを[信頼済みサイト]に追加し、信頼済みサイトの保護モードを無効にしてください(Windows Serverを使用していない場合も同様に行ってください)。Internet Explorer以外のWebブラウザーをお使いの場合、もしくは、Internet Explorerで、Canon Network Camera Addon Moduleが正しくインストールされていない場合は、次の機能を使用できません。<ul style="list-style-type: none">- 音声の受信/送信*- H.264映像の受信/再生

*音声送受信機能がある機種のみ

■ ビューワーメッセージ一覧>警告メッセージ

次のメッセージの、説明を改訂します。

メッセージ	説明
ActiveXが無効になっています。	Webブラウザー設定でActiveXの利用が無効化されている、またはセキュリティ設定でActiveXからシステムの機能にアクセスできない場合。ActiveXが有効であるにもかかわらず、プロキシサーバーを使用する環境でこのメッセージが表示された場合は、[コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [接続]タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の[LANにプロキシサーバーを使用する]をチェック > [詳細設定] > [例外]に、カメラのIPアドレスを指定してください。

■ 工場出荷設定一覧

次の項目の、設定値を改訂します。

項目	設定値
・ カメラ設定 シャッタースピード	1/100

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE <HTTP://WWW.MPEGLA.COM>

Canon

ネットワークカメラ

操作ガイド



VB-R13VE/VB-R13/VB-R11VE/VB-R11

VB-R12VE/VB-R10VE

VB-M50B

VB-H652LVE/VB-H651VE/VB-H651V

VB-M641VE/VB-M641V/VB-M640VE/VB-M640V

VB-H761LVE-H/VB-H761LVE/VB-H760VE

VB-H751LE-H/VB-H751LE

VB-M741LE-H/VB-M741LE/VB-M740E

ご使用の前に必ずこの使用説明書をお読みください。

日本語

はじめに

キヤノンネットワークカメラ(以下、カメラ)をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます*。この『操作ガイド』は、カメラの設定や操作方法について説明しています。ご使用前によくお読みになり、カメラを正しく利用してください。また、セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダ内のファイルも必ずお読みください。

* 本書に記載しているカメラには、国または地域によって販売していない機種もあります。

製品に関する最新情報(ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など)は、ホームページをご確認ください。

製品紹介ホームページ：canon.jp/webview

この製品の使用に関するご注意(免責事項)

■ ネットワークセキュリティ

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で行ってください。

不正アクセスなどネットワークのセキュリティ上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。

<対策例>

- カメラのパスワードを定期的に変更する。
- カメラのHTTP、HTTPSポート番号を変更する。
- 通信機器でカメラへのアクセス制限を行う。

その他、対策のポイントについては、次のホームページでも紹介しています。合わせてご確認ください。

<http://cweb.canon.jp/e-support/information/security/index.html>

■ ラジオやテレビなどへの電波障害

VB-R13VE、VB-R12VE、VB-R11VE、VB-R10VE、VB-H652LVE、VB-H651VE、VB-M641VE、VB-M640VE、VB-H761LVE-H、VB-H761LVE、VB-H760VE、VB-H751LE-H、VB-H751LE、VB-M741LE-H、VB-M741LE、VB-M740E

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

VB-R13、VB-R11、VB-M50B、VB-H651V、VB-M641V、VB-M640V

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

■ 法的な注意事項

お客様は、本製品の使用に関して、プライバシー保護および肖像権に関する全ての適用法令を順守する責任があります。場合によって、カメラまたは音響機器による監視または記録は、法令により制限または禁止されていることがあります。その詳細は国・地域によって異なります。お客様は、本製品を設置する前に、本製品が全ての適用法令に基づく法的 requirement を順守した方法によって設置されたことを確実にするために、お客様の国・地域の法令(当該国・地域の州または地方自治体の法令を含む)を確認する必要があります。法令により要求される場合、マイクを使用しないで

ください。居住者または訪問者がプライバシー確保への期待を合理的に持つ可能性がある場所（寝室、更衣室、トイレなど）に、本製品を設置しないでください。

本製品は、映像および音声を監視される全ての人物にとって明らかに視認できるように設置される必要があります。加えて、本製品により監視される全ての人物にとって明らかに視認できるように本製品に近接して目立つように表示された掲示物によって、当該人物に対して本製品が当該人物の映像および会話を記録していることを伝える必要があります。

本製品の設置、または、カメラまたは音響機器による監視または記録に関してお客様と第三者との間で紛争を生じた場合において、キヤノンはいかなる責任も負いません。

■ 著作権

お客様が撮影した映像や画像、録音した音声などは、著作権法上、権利者に無断で使用・公開することはできませんのでご注意ください。

■ 同梱ソフトウェアRM-Liteの使用

RM-Liteの不具合などにより、録画ができなかったり、録画データが破壊、消失する場合があります。これにより生じるお客様の損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

■ 部品交換目安

R1x

本製品は、設置環境や使用方法によって、駆動部（パン/チルト機構など）あるいは電子部品の交換時期が早くなる場合があります。

目安となる使用事例につきましては、弊社ホームページをご確認ください。

■ CMOSセンサーについて

ネットワークカメラで動きの速い被写体を撮影したときや、撮影中に画角が変化したときに被写体が斜めに曲がって見えることがあります。

これはCMOS撮像素子を使用した場合に発生する現象であり、ネットワークカメラの異常ではありません。

同梱ソフトウェアの使用許諾契約

同梱ソフトウェアの使用許諾契約については、同梱セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダの中のBundledSoftwareフォルダ内にある次のファイルをご覧ください。

ソフトウェアの種類	ファイル名
カメラマネジメントツール	VBTools-J.txt
録画映像ユーティリティ	
ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite	RM-Lite-J.txt

This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

商標

- Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Windows Server、Microsoft Edge、SurfaceおよびActiveXは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- 本製品には、Microsoft社より使用を許諾されたexFATファイルシステムの技術が組み込まれています。
- iPhone、iPad、iPad mini、iPad AirおよびSafariは、Apple Inc. の商標です。
- SD、SDHC、SDXC、microSD、microSDHC、microSDXCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- ONVIF®は、Onvif, Inc. の商標です。
- その他、本書に記載された商品名、社名などは各社の商標または登録商標です。

第三者のソフトウェア

この製品(カメラおよび同梱のRM-Lite)には、第三者のソフトウェアモジュールが含まれています。詳細は同梱セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダのOpenSourceSoftwareフォルダ内「ThirdPartySoftware-J.pdf」をご覧ください。また、各モジュールのライセンス条件につきましては、同じフォルダに含まれていますのでご覧ください。

GPLおよびLGPLで許諾されるソフトウェアについて

GPLおよびLGPLに基づき、ソースコードの入手を希望されるお客様は、次の情報を記載の上、日本語または英語で nvsossg@mail.canon まで電子メールでご連絡ください。

1. 製品名称およびファームウェアのバージョン
2. 入手を希望されるソフトウェアモジュールの名称

ソースコードはお客様が本製品を購入された日より、少なくとも3年間はご入手いただけます。なお、ソースコードをご提供するにあたり、弊社からご提供に要した実費をご請求させていただく場合もございますので、その旨ご了承ください。

輸出規制

本製品は、安全保障輸出規制貨物に該当します。そのため、輸出または海外に持ち出す場合は、関係当局の許可が必要となることがあります。

使用説明書について

使用説明書の種類

カメラの使用説明書には、次のものがあります。各使用説明書を参照していただきたい部分には、その使用説明書名を記しています。

同梱の説明書

「設置ガイド」

カメラ設置上の注意、設置手順を説明しています。

セットアップCD-ROM収録の説明書

「操作ガイド」(本書)

カメラの初期設定、カメラビューウィーの操作、設定ページでの各種設定、トラブルシューティングなどを説明しています。

「モバイルカメラビューウィー 操作ガイド」

モバイルカメラビューウィーの詳しい使いかたについて説明しています。

「付録 主な仕様」

カメラの仕様一覧です。

「カメラマネジメントツール 使用説明書」

カメラマネジメントツールの詳しい使いかたについて説明しています。

「録画映像ユーティリティ 使用説明書」

録画映像ユーティリティの詳しい使いかたについて説明しています。

ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite 「システム管理者マニュアル」

録画ソフトウェアRM-Lite (P. 21) の詳しい使いかたについて説明しています。

■ ご注意

- 1 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 2 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3 本書の内容については万全を期して作成しましたが、お気づきの点がございましたら、裏表紙に記載のお客様相談センターまでご連絡ください。
- 4 運用した結果の影響につきましては、上記2項、3項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書の使いかた

本書はPCの画面上に表示して読むことを想定しています。

■ ソフトウェアの画面例

本書に記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。

説明には、OSはWindows 8.1、WebブラウザーはInternet Explorer 11を使用して、VB-M50Bを接続した画面例を基本的に使用しています。

また、映像サイズセットは、[1280x720/640x360/320x180] を選択している場合で説明しています。ほかの映像サイズセットをご利用の場合は、映像サイズを置き換えてお読みください。

本書で使用している記号

■ カメラ機種を示す記号

機種ごとに異なる機能の説明については、機種名や次の記号を記載しています。

記号	カメラ機種	
R13	R1x	VB-R13VE、VB-R13
R12		VB-R12VE
R11		VB-R11VE、VB-R11
R10		VB-R10VE
M50		VB-M50B
H652	H65x	VB-H652LVE
H651		VB-H651VE、VB-H651V
M641	M64x	VB-M641VE、VB-M641V
M640		VB-M640VE、VB-M640V
H761	H76x	VB-H761LVE-H、VB-H761LVE
H760		VB-H760VE
H751		VB-H751LE-H、VB-H751LE
M741	M74x	VB-M741LE-H、VB-M741LE
M740		VB-M740E

■ 安全上の注意を示す記号

この『操作ガイド』で使用している記号について説明します。製品を安全にお使いいただくための注意事項や、使用に際しての重要事項/補足説明などには次のような記号を使用しています。表示の内容を十分理解して作業してください。

記号	意味
 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。必ずこの注意事項をお守りください。
 火災注意  感電注意	これらの記号を無視して取り扱いを誤った場合に、火災の発生や感電の可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 禁止  分解禁止  水ぬれ禁止	これらの記号は、禁止事項を示しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれている場合もあります。
 指示	この記号は、必ず実行していただく指示の内容を示しています。
 重要	この記号は、重要事項や制限事項が書かれています。必ずお読みください。
 メモ	操作の参考になることや補足説明が書かれています。

安全にお使いいただくために

カメラをお使いいただくうえで、必ず守っていただきたい注意事項について説明します。

守られない場合、けがや死亡事故、物的損害が発生する事がありますので、よくお読みになったうえ、必ずお守りください。

注意事項

■ 使用上の注意

⚠ 警告	
 指示	発煙、異音、発熱、異臭などの異常を発見したときは、直ちに使用を中止し、最寄りの販売店にご連絡ください。 継続して使用すると火災、感電の原因になります。
 禁止  分解禁止  水ぬれ禁止  火災注意  感電注意	次の点に注意してください。火災、感電の原因になります。 <ul style="list-style-type: none">雷が鳴り始めたら、設置や点検などの作業を中止し、カメラや接続ケーブルなどに触れないでください。分解、改造はしないでください。カメラに水をかけたり濡らしたりしないでください (VB-R13/VB-R11/VB-M50B/VB-H651V/VB-M641V/VB-M640V)。カメラの内部に水や金属などの異物を入れないでください。カメラの近くで可燃性のスプレーを使用しないでください。カメラを長期間使用しないときは、カメラにLANケーブルや外部電源、ACアダプター（オプション）の電源用コネクターを繋いだままにしないでください。接続ケーブル類を傷つけないでください。
 禁止	医療機器などの人命に関わるシステムには使用しないでください。 PCやネットワークの環境によっては映像の遅延や欠落が発生するため高精度の映像伝送は保証できません。 上記の場合にカメラを使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

⚠ 注意	
 禁止	H652 H761 H751 M741 赤外照明を近距離で長時間直視しないでください。 目を傷めることができます。

注意	
 禁止	次の点に注意してください。故障の原因になることがあります。 <ul style="list-style-type: none">太陽、ハロゲン灯など高輝度の光源や被写体を撮影しないでください。カメラに強い衝撃や振動を与えないでください。カメラヘッドまたはレンズ部に触らないでください。カメラ回転部を手で回さないでください。 R1x M50 H651 M64x

■ 設定ページの [カメラ] > [カメラアングル] 使用上の注意

H651 M64x

注意	
 禁止	設定ページの [カメラ] > [カメラアングル] (P. 43) は、カメラ設置時の使用を想定しています。日常の頻繁な使用はしないでください。 故障の原因になることがあります。

■ カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意

注意	
 禁止	<p>カメラに搭載されている次の機能および同梱ソフトウェアは、常に高い信頼性が要求される用途では使用しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none">- インテリジェント機能- ブレ補正機能- ネットワークビデオコーディングソフトウェアRM-Lite <p>これらの機能は高精度の撮影を保証するものではなく、一定範囲を超えると対応できません。これらの機能を使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。</p>

■ 屋外設置時の映像への影響について

VB-R13VE/VB-R12VE/VB-R11VE/VB-R10VE/VB-H652LVE/VB-H651VE/VB-M641VE/VB-M640VE/VB-H761LVE-H/VB-H761LVE/VB-H760VE/VB-H751LE-H/VB-H751LE/VB-M741LE-H/VB-M741LE/VB-M740E

注意	
 指示	屋外に設置したカメラは、ドームケースやカメラ前面の保護窓に雨、雪、霜などが付着し、映像が見えにくくなる場合があります。また、空気中の粉じんや自動車の排気ガスなどの影響により、ドームケースや保護窓が汚れ、画質が低下する場合があります。 屋外設置時は、環境による映像への影響に十分注意して運用してください。

■ お手入れに関する注意

⚠ 警告	
 禁止	アルコールやシンナー、ベンジンなど引火性溶剤は使用しないでください。 火災、感電の原因になります。

⚠ 注意	
 指示	取付金具やネジのさびつき、ネジの緩みがないか定期的に点検を行ってください。 点検は販売店にご依頼ください。 落下によるけがや機器の破損の原因になります。

日常のお手入れ

お手入れは、電源を切って行ってください。



VB-H761LVE-H、VB-H751LE-H、VB-M741LE-H をご使用のお客様へ

お手入れについては、下記の方法には従わず、カメラに同梱の『親水コーティングモデルについて』を参照してください。

■ 外装のお手入れ

- 1 柔らかい布を水またはうすい中性洗剤で湿らせ、軽く汚れを拭き取ります。
- 2 乾いた布で拭きます。



重要

ドームケースや保護窓に汚れがつくと、オートフォーカスがうまく動作しなかったり、画質が低下したりする原因となります。定期的にお手入れしてください。

■ レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とします。

- レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因になります。
- レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。

カメラの廃棄

カメラを廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

その際、メモリーカード^{*}の抜き忘れに十分ご注意ください。

* 本書では、カメラで使用できるメモリーカードのことを「メモリーカード」と表記します。



目次

はじめに	2
この製品の使用に関するご注意(免責事項)	2
同梱ソフトウェアの使用許諾契約	3
商標	3
第三者のソフトウェア	4
輸出規制	4
使用説明書について	5
使用説明書の種類	5
本書の使いかた	5
本書で使用している記号	6
安全にお使いいただくために	7
注意事項	7
日常のお手入れ	8
カメラの廃棄	9
1章 ご使用の前に	
ネットワークカメラでできること	18
カメラのソフトウェア	20
カメラの操作と設定	20
セットアップCD-ROM収録のソフトウェア	20
オプションのソフトウェア/ライセンス	21
動作環境	23
PC環境詳細	23
動作確認済モバイル端末(設定ページ、カメラビューワー、モバイルカメラビューワー) －2016年12月時点	24
カメラを使用するまでの流れ	25
Step 1 設置前の準備	25
Step 2 カメラとの接続を確認する	25
Step 3 カメラを設置する	25
Step 4 カメラアングルを設定する	25
Step 5 カメラビューワーを使う	26
Step 6 運用に合わせて詳細設定する	26
困ったときは	26
2章 カメラのセットアップ	
ソフトウェアをインストールする	28
必要なソフトウェア	28
インストール	28
セキュリティを確認/設定する	31
ファイアウォールの設定を確認する	31
Windows Server 使用時の設定	32
カメラを初期設定する	35
カメラマネジメントツールを起動する	35
カメラを検出する	35
ネットワークの設定をする	38

	映像を確認する	38
	DHCPサーバーがない環境でのネットワーク設定	39
3章	カメラアングルの設定	
	カメラアングルの設定の流れ	42
	Step 1 カメラアングルの設定前にカメラの設定をする	42
	Step 2 カメラアングルとフォーカスを設定する	42
	カメラアングルを設定する	43
	カメラアングルの画面構成	43
	カメラアングルとズームを設定する	44
	フォーカスを設定する	45
4章	カメラビューワー	
	カメラビューワーで映像を見る	48
	カメラビューワーを起動する	48
	管理者や登録ユーザーに切り替える	50
	カメラビューワーの画面構成	53
	インフォメーションを確認する	58
	受信映像サイズや表示画面サイズを変更する	59
	受信映像サイズ/フォーマット、表示画面サイズを変更する	59
	全画面表示にする	60
	カメラを操作する	63
	カメラ制御権を取得する	63
	パン・チルト・ズームを操作する	64
	映像を調整する	68
	逆光補正を使用する	70
	プリセット/ホームポジションを使用する	70
	ビューワー PTZとデジタルPTZ	72
	映像の一部を拡大して表示する (ビューワー PTZ)	72
	映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ)	73
	スナップショットを保存する	76
	メモリーカードに映像を記録する	77
	映像を手動録画する	77
	録画した映像を確認する	78
	音声を受信・送信する	79
	音声を受信する	79
	音声を送信する	79
	イベント検知の状態を確認する	81
	外部デバイス出力を操作する	81
	イベント検知の状態を確認する	81
5章	設定ページ	
	設定ページの使いかた	84
	設定ページにアクセスする	84
	設定ページ共通の操作	85
	映像表示部の操作について	86
	各設定ページについて	89
	ビデオ出力	92

[基本] > [ネットワーク]	
ネットワークを設定する.....	93
LAN.....	93
IPv4.....	93
IPv6.....	94
DNS	95
mDNS	96
[基本] > [ユーザー管理]	
アカウント、権限について設定する	97
管理者アカウント	97
登録ユーザーアカウント	97
ユーザー権限	98
[基本] > [日付と時刻]	
日付/時刻を設定する	99
現在の日付と時刻	99
設定	99
[基本] > [映像]	
映像のサイズや品質を設定する	101
映像全般	101
JPEG.....	102
H.264(1).....	102
H.264(2).....	103
[基本] > [ビューウー]	
ビューウーを設定する	104
全般	104
ビューウー設定.....	104
[カメラ] > [カメラ]	
カメラの制御全般を設定する	106
カメラ名	106
カメラ制御	106
デイナイト (オート設定時).....	108
鮮明IRモード	109
設置条件	109
カメラ位置制御.....	109
外部入力デバイス1、2	109
外部出力デバイス1、2	110
[カメラ] > [起動時設定]	
映像設定の初期値を設定する	111
カメラ位置	111
カメラ設定	112
[カメラ] > [デイナイトフォーカス]	
デイナイトフォーカス	120
デイナイトフォーカス	120
カメラ制御	121
[カメラ] > [パノラマ]	
パノラマ画像を作成する	123
パノラマ画像を作成する.....	123
パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルを開く	125

撮影時の設定	126
[カメラ] > [可視範囲]	
可視範囲を設定する	127
可視範囲を設定する	128
[カメラ] > [プリセット]	
プリセットを登録する	131
プリセットを登録する	131
[カメラ] > [プリセット巡回]	
プリセット巡回ルートを設定する	135
画面構成について	135
巡回ルートの設定	138
[映像と音声] > [ADSR]	
映像品質を部分的に下げてデータ量を低減する	141
指定領域	141
ADSR	143
[映像と音声] > [オブスクリーン表示]	
映像上に日時やテキストを表示する	144
オブスクリーン表示	144
[映像と音声] > [プライバシーマスク]	
プライバシーマスクを設定する	146
プライバシーマスクを登録する	146
プライバシーマスクを変更/削除する	148
[映像と音声] > [音声]	
音声の入出力について設定する	150
音声全般	150
再生音ファイル登録1~3	151
[サーバー] > [サーバー]	
HTTP、SNMP、FTPの各サーバーについて設定する	152
HTTPサーバー	152
SNMPサーバー	152
SNMPv1, v2cサーバー	153
SNMPv3サーバー	153
FTPサーバー	153
WS-Security	154
[サーバー] > [映像サーバー]	
映像配信について設定する	155
映像サーバー	155
[サーバー] > [音声サーバー]	
音声の送受信について設定する	156
音声サーバー	156
[サーバー] > [RTPサーバー]	
RTPの使用について設定する	157
RTPサーバー	157
音声マルチキャスト	157
RTPストリーム1~5	158
[映像記録] > [アップロード]	
HTTPやFTPでのアップロードについて設定する	159

映像記録設定	159
アップロード全般	159
HTTPアップロード	160
FTPアップロード	161
[映像記録] > [メール通報]	
メールでの通報を設定する	163
メール通報	163
[イベント] > [外部デバイス]	
外部デバイスからの入力があった場合の動作を設定する	165
外部デバイス出力1、2	165
外部デバイス入力	166
外部デバイス入力1、2	166
[イベント] > [音声検知]	
異常な音声入力があった場合の動作を設定する	168
音量検知	168
悲鳴検知	169
[イベント] > [タイマー]	
指定時刻に実行する動作を設定する	171
タイマー1~4	171
[イベント] > [インテリジェント機能]	
一概要	173
インテリジェント機能とは	173
インテリジェント機能の設定・運用上の注意	176
プリセットを登録しておく	177
インテリジェント機能の動作モードを選択する	177
[イベント] > [インテリジェント機能]	
一映像検知	178
映像検知設定の流れ	178
検知条件を設定する ([検知条件] タブ)	182
「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)	193
イベントの状態を確認する	193
検知領域/検知ライン、非検知領域、検知結果の表示を設定する (表示オプション)	193
照明変化の影響を軽減する (検知オプション設定)	194
右クリックメニューについて	194
[イベント] > [インテリジェント機能]	
一自動追尾	196
自動追尾を設定する	196
自動追尾の打ち切りについて	199
自動追尾を無効化するには	199
検知領域、検知結果の表示を設定する (表示オプション)	199
[イベント] > [インテリジェント機能]	
一共通操作	201
「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)	201
インテリジェント機能を再起動する	202
[イベント] > [デイナイト切り換え]	
デイナイト切り換え時にプリセットを実行する	203
デイナイト切り換え	203

[イベント] > [連結イベント]	
イベントを組み合わせて使用する.....	204
連結イベント1~4.....	204
連結イベントの動作例.....	206
[セキュリティ] > [ホストアクセス制限]	
アクセス制限を設定する.....	208
IPv4ホストアクセス制限.....	208
IPv6ホストアクセス制限.....	209
[セキュリティ] > [SSL/TLS]	
HTTP通信の暗号化を設定する.....	210
証明書.....	210
証明書の管理.....	211
暗号化通信.....	211
[セキュリティ] > [802.1X]	
ネットワークポートの認証について設定する.....	213
802.1X認証.....	213
認証方式.....	213
[セキュリティ] > [IPsec]	
IPsecを設定する.....	215
IPsec設定方法.....	215
自動鍵交換の設定.....	216
IPsecセット1~5.....	216
[メモリーカード]	
メモリーカードの操作と情報の表示を行う.....	219
映像記録設定.....	219
メモリーカードの操作.....	219
メモリーカードの情報.....	221
[メンテナンス] > [全般]	
カメラの機器情報の表示やメンテナンスを行う.....	223
機器情報.....	223
表示と実行.....	223
初期化.....	223
[メンテナンス] > [バックアップ/リストア]	
カメラの設定値を保存/復元する.....	225
バックアップ/リストア.....	225
[メンテナンス] > [ファームウェア更新]	
カメラのファームウェアを更新する.....	226
機器情報.....	226
ファームウェア更新.....	226
[メンテナンス] > [ログ]	
カメラのログ情報を確認/通知する.....	227
ログ表示.....	227
ログ通知.....	227

6章

付録

修飾子について	230
トラブルシューティング	232
ログメッセージ一覧	235

カメラのログメッセージ	235
エラーログ	235
警告ログ	239
通知ログ	243
ビューワーメッセージ一覧	247
インフォメーション表示に表示されるメッセージ	247
工場出荷設定に戻す	249
Web ブラウザーから初期設定に戻す	249
本体リセットスイッチで工場出荷設定に戻す	249
工場出荷設定一覧	253
索引	265

1 章

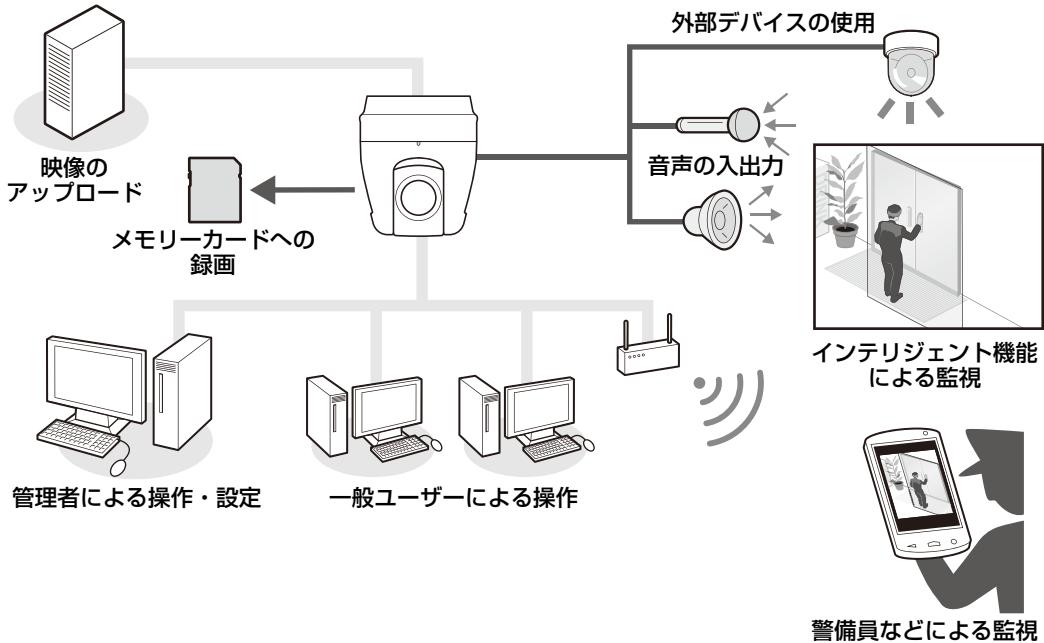
ご使用の前に

カメラの機能や使用するソフトウェア、カメラの動作環境について記載しています。
また、実際に運用するまでの準備・設定についての流れも説明します。

ネットワークカメラでできること

ネットワークカメラでは、カメラ操作だけでなく、映像の録画やアップロード、また、各種インテリジェント機能を使用した監視が可能です。

ただし、機種によって使用できる機能は異なります。機種による機能の違いについては、下表を参照してください。



■ 機種別機能対応表

機種によって搭載・非搭載の差分がある機能は、次のとおりです。

	R13	R12	M50	H652	H651	H761	H760	H751
パン・チルト・ズーム	○	○	○	-	-	-	-	-
ズーム	-	-	-	-	-	○	○	-
デジタルPTZ	-	-	○	○	○	○	○	○
音声入出力端子	○	-	○	○	○	○	-	○
外部デバイス端子	○	-	○	○	○	○	-	○
最大解像度	1920 x 1080		1280 x 960		1920 x 1080			
赤外照明	-	-	-	○	-	○	-	○
カメラアングル設定*	-	-	-	-	○	-	-	○
音声検知	○	-	○	○	○	○	-	○
自動追尾	○	○	-	-	-	-	-	-
イベントによるプリセット移動	○	○	○	-	-	○	-	-
連結イベント	○	-	○	○	○	○	-	○
パノラマ作成	○	○	○	-	-	-	-	-
可視範囲設定	○	○	○	-	-	○	○	-
拡張デジタルズーム	○	○	○	-	-	○	○	-
鮮明IRモード	-	-	○	-	-	○	-	-
映像表示の回転	-	-	-	○	○	○	○	○
microSD/microSDHC/microSDXC メモリーカード対応	-	-	-	○	○	-	-	-
SD/SDHC/SDXCメモリーカード対応	○	○	○	-	-	○	○	○
プリセット最大登録数	257		65		21			

	R11	R10	M641	M640	M741	M740
パン・チルト・ズーム	○	○	-	-	-	-
デジタルPTZ	-	-	○	○	○	○
音声入出力端子	○	-	○	-	○	-
外部デバイス端子	○	-	○	-	○	-
最大解像度	1280 × 960					
赤外照明	-	-	-	-	○	-
カメラアングル設定*	-	-	○	○	○	○
音声検知	○	-	○	-	○	-
自動追尾	○	○	-	-	-	-
イベントによるプリセット移動	○	○	-	-	-	-
連結イベント	○	-	○	-	○	-
パノラマ作成	○	○	-	-	-	-
可視範囲設定	○	○	-	-	-	-
拡張デジタルズーム	○	○	-	-	-	-
鮮明IRモード	-	-	-	-	-	-
映像表示の回転	-	-	○	○	○	○
microSD/microSDHC/microSDXC Cメモリーカード対応	-	-	○	○	-	-
SD/SDHC/SDXCメモリーカード対応	○	○	-	-	○	○
プリセット最大登録数	257		21			

* 設定ページの [カメラアングル] および [起動時設定] で設定

カメラのソフトウェア

カメラの設定や操作を効率よく行うソフトウェアには次のものがあります。

カメラの操作と設定

カメラの操作は、カメラビューワー/モバイルカメラビューワーを使います。

カメラの設定は、設定ページから各種設定をします。

■ カメラビューワー (P. 47) /モバイルカメラビューワー

カメラの制御や、映像・各種イベントをモニターします。

カメラビューワー(主にPC用)、モバイルカメラビューワー(主に、画面サイズが7インチ以下のデバイス用)があります。

ビューワーは、ユーザーの権限によって使用できる機能が異なります(P. 52)。



モバイルカメラビューワーの詳しい使いかたは、『モバイルカメラビューワー 操作ガイド』を参照してください。

■ 設定ページ (P. 83)

管理者がカメラの設定や管理に使用します。

セットアップCD-ROM収録のソフトウェア

同梱のセットアップCD-ROMから、PCにインストールして使用するソフトウェアです。



カメラマネジメントツールおよび録画映像ユーティリティを使用するには、.NET Framework 3.5 SP1 (Internet Explorer 9使用時) または.NET Framework 4.5 (Internet Explorer 10/11使用時) が必要です。

PCにインストールされていない場合、インストーラーを使用する際に自動的にインストールされます(P. 28)。

■ カメラマネジメントツール (P. 35)

カメラの初期設定からメンテナンスまで、複数台のカメラを一括管理するためのツールです。カメラマネジメントツールを使うと、カメラに対し次の設定・操作が可能です。

- カメラの検出
- カメラの各種設定
- ビューワーおよび設定ページの呼び出し
- ファームウェアの更新や設定値のバックアップ/リストア、メモリーカードの操作など、カメラの各種メンテナンス

本書では、このうちのカメラの初期設定方法を中心に説明しています(P. 35)。その他の使用方法や各種機能など、詳細情報は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

カメラマネジメントツールは、インストーラーからインストールできます。

インストーラーの保存先：セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > VBToolsInstall.exe

■ 録画映像ユーティリティ

カメラにマウントされているメモリーカードに記録された映像を、閲覧・管理するユーティリティです。録画映像ユーティリティを使うと、記録されている映像に対し次の設定・操作が可能です。

- 映像一覧の表示
- 映像の再生や削除
- 映像のPCへのダウンロード

使用方法や各種機能など、詳細情報は、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

録画映像ユーティリティは、インストーラーからインストールできます。

インストーラーの保存先：セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > VBToolsInstall.exe

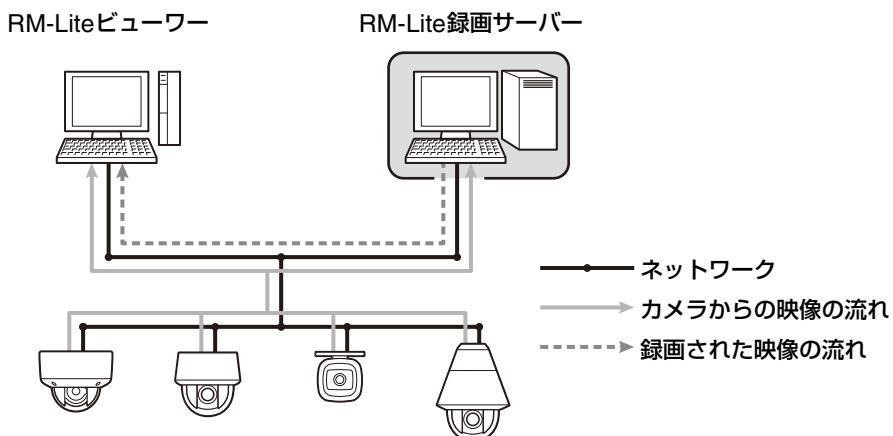
■ RM-Lite

ネットワーク経由で、最大4台のカメラの映像を表示・録画・再生できるソフトウェアです。

ソフトウェアの保存先：セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > RMLiteInstall.exe

RM-Liteのソフトウェア構成

種類	概要
RM-Lite録画サーバー	最大4台のカメラを登録して映像 (JPEG) を録画できます。
RM-Liteビューウー	録画サーバーに録画された映像の再生や、カメラのライブ映像 (JPEG/H.264) の表示ができます。 ビューウーに登録できるカメラは最大4台です。
RM-Liteマネージャー	カメラの登録や録画スケジュールの設定に使用します。



■ 重 要

RM-LiteビューウーおよびRM-Liteマネージャーを追加する場合は、RM-Lite-V (オプション)をお買い求めください。

■ メ モ

RM-Liteの使用方法、動作環境、機能などの詳細情報は、『システム管理者マニュアル』を参照してください。

オプションのソフトウェア/ライセンス

必要に応じて別途お買い求めください。

■ H.264追加ユーザーライセンス AUL-VB

複数のPCで、ビューワーおよび録画映像ユーティリティからH.264映像を見るための追加ライセンスです。カメラ1台につき、1ライセンスは付いています。1台のカメラのH.264映像を複数のPCから見る場合に、追加が必要になります。

■ RM-64/RM-25/RM-9

ネットワークカメラを使用して複数拠点をモニタリングし、カメラからの映像を表示・録画・再生するソフトウェアです。

RM-64/RM-25/RM-9は登録可能なカメラの台数が異なり、それぞれ64台/25台/9台まで登録できます。複数の録画サーバーを使用して、最大512台のカメラに対応した監視システムを構築可能です。



RM-9からRM-25またはRM-64、RM-25からRM-64にアップグレードするライセンスも用意されています。

■ RM-V

複数のPCにRM-64/RM-25/RM-9のRMマネージャーおよびRMビューワーをインストールするための追加ライセンスです。

複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

■ RM-Lite-V

複数のPCにRM-Lite ビューワーおよびRM-Lite マネージャーをインストールするための追加ライセンスです。

複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

動作環境

製品に関する最新情報（ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など）は、ホームページをご確認ください。

製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

PC環境詳細

CPU(推奨)	Intel Core i7-2600 以上	
グラフィックボード(推奨)	指定なし	
メモリー(推奨)	2 GB 以上	
ビューワー用ディスプレイ(推奨)	1920 x 1080 以上	
OSとWebブラウザー	Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium SP2 32/64-bit Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise/Home Premium SP1 32/64-bit Windows 8.1/Windows 8.1 Pro/Windows 8.1 Enterprise 32/64-bit* ¹ Windows 10 Pro/Windows 10 Enterprise/Windows 10 Education/Windows 10 Home 32/64-bit Windows Server 2008 Standard SP2 32/64-bit Windows Server 2008 R2 Standard SP1 64-bit Windows Server 2012 Standard 64-bit* ¹ Windows Server 2012 R2 Standard 64-bit* ¹ Windows Server 2016 Standard 64-bit	Internet Explorer 9 32-bit Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 54* ² Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 54* ² Internet Explorer 11 32/64-bit, Microsoft Edge* ² , Chrome 54* ² Internet Explorer 9 32-bit Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 54* ² Internet Explorer 10 32/64-bit, Chrome 54* ² Internet Explorer 11 32/64-bit, Chrome 54* ² Internet Explorer 11 64-bit, Chrome 54* ² – JavaScript、IFRAME (HTMLタグ)、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューウィーのみCookieが必要
OS言語	設定ページ、カメラビューウィー、モバイルカメラビューウィー： ドイツ語/英語/スペイン語/フランス語/イタリア語/ポーランド語/ロシア語/タイ語/ トルコ語/中国語(簡体字)/日本語	

*1 Windowsのスタート画面では動作しない

*2 映像表示 (H.264)、音声送受信は非対応

メモ

- ・ カメラマネジメントツールの動作環境については、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- ・ 録画映像ユーティリティの動作環境については、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

動作確認済モバイル端末 (設定ページ、カメラビューウィー、モバイルカメラビューウィー) – 2016年12月時点

モバイル端末	OS	Web ブラウザー
Surface 3	Windows 10 Home 64-bit – JavaScript、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューウィーのみCookieが必要	Internet Explorer 11, Microsoft Edge ^{*1}
iPad mini 4 iPad Air 2 iPad Pro iPhone SE ^{*2} iPhone 7/iPhone 7 Plus ^{*2}	iOS 9.3.5 iOS 10.1.1 – JavaScript、IFRAME (HTMLタグ)、Web Storage を使用できる設定とすること – カメラビューウィーのみCookieが必要	Safari ^{*1}
Nexus 9	Android 7.0	Chrome 54 ^{*1}
Galaxy Tab S 8.4	Android 4.4.2	Chrome 54 ^{*1}
Galaxy Tab S 10.5	Android 4.4.2	Chrome 54 ^{*1}
Nexus 6P ^{*2}	Android 7.0	Chrome 54 ^{*1}
Galaxy S7 edge ^{*2}	Android 6.0.1	Chrome 54 ^{*1}

*1 映像表示 (H.264)、音声送受信は非対応

*2 設定ページ、カメラビューウィーは非対応

カメラを使用するまでの流れ

Step 1 設置前の準備

カメラをネットワーク経由で操作できるように準備します。

必要なソフトウェアをPCにインストールする

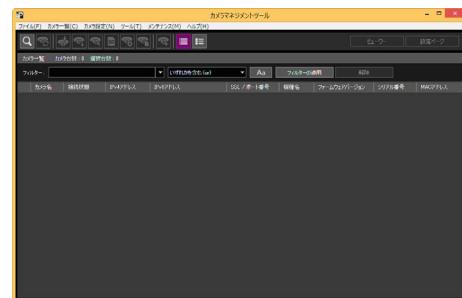
- 「ソフトウェアをインストールする」(P. 28)

PCとWebブラウザーのセキュリティを確認/設定する

- 「セキュリティを確認/設定する」(P. 31)

カメラマネジメントツールを使用して、カメラを初期設定する

- 「カメラを初期設定する」(P. 35)



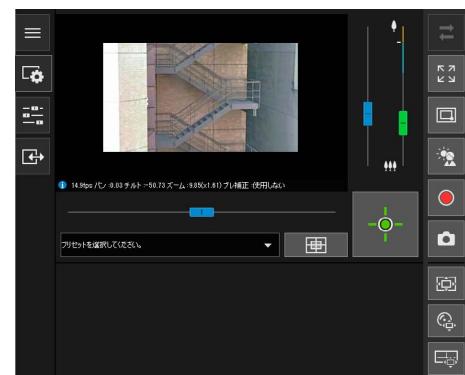
カメラマネジメントツール

Step 2 カメラとの接続を確認する

PCからカメラにアクセスして、準備が正常に完了していることを確認します。

カメラにアクセスして映像を確認する

- 「カメラマネジメントツールからアクセスする」(P. 38)
- 「WebブラウザーからIPアドレスを入力してアクセスする」(P. 48)



カメラビューワー

Step 3 カメラを設置する

使用する環境に合わせてカメラを設置します。

- 『設置ガイド』

Step 4 カメラアングルを設定する

H651 M64x H751 M74x

設定ページで、映像をPCで確認しながらカメラアングルを設定します。

- 「カメラアングルの設定」(P. 41)

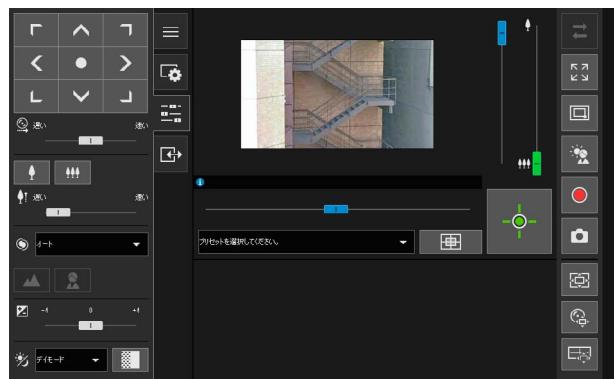


カメラアングル設定

Step 5 カメラビューワーを使う

ビューワーで映像を見ながらカメラを操作します。

→ 「カメラビューワー」(P. 47)



カメラビューワー

Step 6 運用に合わせて詳細設定する

設定ページで、カメラの運用に合わせて、カメラの制御やセキュリティなどを詳細に設定します。

なお、カメラマネジメントツールを使用して設定することもできます（『カメラマネジメントツール 使用説明書』参照）。

→ 「設定ページ」(P. 83)

VB-M50B 設定メニュー		ビューワー	言語: 日本語
基本	カメラを使用するための基本設定		
カメラ	鏡頭・ナラメーターなどのカメラの設定		
映像と音声	映像と音声に関する設定		
サーバー	各種サーバー・機能の設定		
映像記録	アップロード・メール通知などの映像記録に関する設定		
イベント	タイマーなどのイベントに関する設定		
セキュリティ	アクセス制限やセキュリティ通信に関する設定		
メモリーカード	メモリーカードの各種操作や設定		
メンテナンス	ログ・設定値一覧の表示・本体再起動などのカメラのメンテナンス		
ユーザーページ	ユーザーが追加できる設定ページ		

設定ページ

困ったときは

運用時のエラーメッセージやトラブルについては、「付録」(P. 229) を参照してください。

2 章

カメラのセットアップ

カメラを使用できる状態にするため、必要なソフトウェアをPCにインストールし、Webブラウザーのセキュリティとカメラの初期設定を行います。

初期設定が完了したら、カメラにアクセスして、映像が表示されるか確認します。

ソフトウェアをインストールする

カメラに同梱されているセットアップCD-ROMを使って、必要なソフトウェアをインストールします。

必要なソフトウェア

必要なソフトウェアは、次のとおりです。

- カメラマネジメントツール (P. 35)
- 録画映像ユーティリティ
- .NET Framework 3.5 SP1/.NET Framework 4.5 (PCにインストール済みの場合はインストール不要)

■ メモ

.NET Framework 3.5 SP1/.NET Framework 4.5は、PCにインストールされていない場合に、PCのInternet Explorerのバージョンに合わせて自動的にインストールされます。

インストール

■ インストール方法について

ソフトウェアのインストール方法には、ソフトウェアをまとめてインストールする [おまかせインストール] と、ソフトウェアを選択できる [選んでインストール] があります。

■ ソフトウェアのインストール

- 1 セットアップCD-ROMをPCのディスクドライブにセットする
- 2 他のすべてのアプリケーションが終了していることを確認する
- 3 CD-ROMアイコン > [Applications] フォルダ > [VBToolsInstall.exe] の順にダブルクリックする



インストール画面が表示されます。

■ メモ

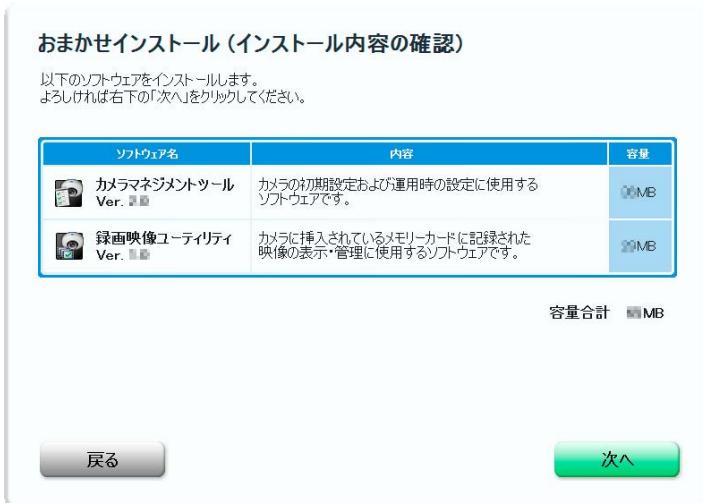
[ユーザー アカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] (または [続行]) をクリックしてください。

4 インストール方法を選択する

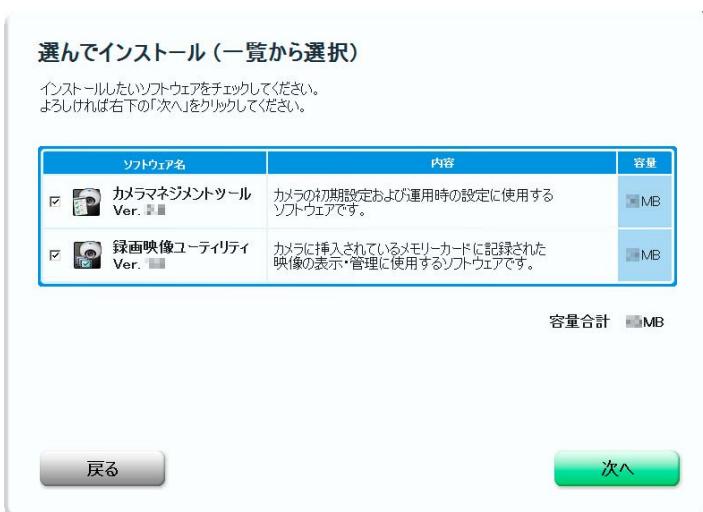


5 インストールされるソフトウェアを確認または選択する

[おまかせインストール] を選んだ場合、インストールされるソフトウェアを確認して [次へ] をクリックします。

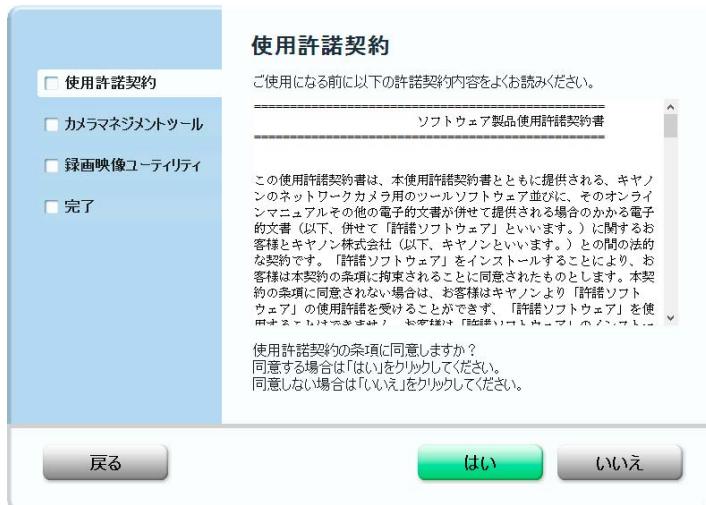


[選んでインストール] を選んだ場合、インストールしたいソフトウェアをチェックして [次へ] をクリックします。



使用許諾契約画面が表示されます。

6 使用許諾契約を読み、[はい] をクリックする



インストールが開始します。

7 [終了] または [再起動] をクリックする



デスクトップに、カメラマネジメントツールと録画映像ユーティリティのアイコンが表示されます。



セキュリティを確認/設定する

2

OSやWebブラウザーのセキュリティ機能によって、カメラへの設定・操作がブロックされる場合があります。事前にセキュリティの設定を変更・確認してください。

カメラのセットアップ

ファイアウォールの設定を確認する

Windows ファイアウォールが有効になっているPCでセットアップCD-ROM収録のソフトウェアを使用するには、ファイアウォール経由での通信を許可するアプリケーションとして、各ソフトウェアを追加しておく必要があります。

メモ

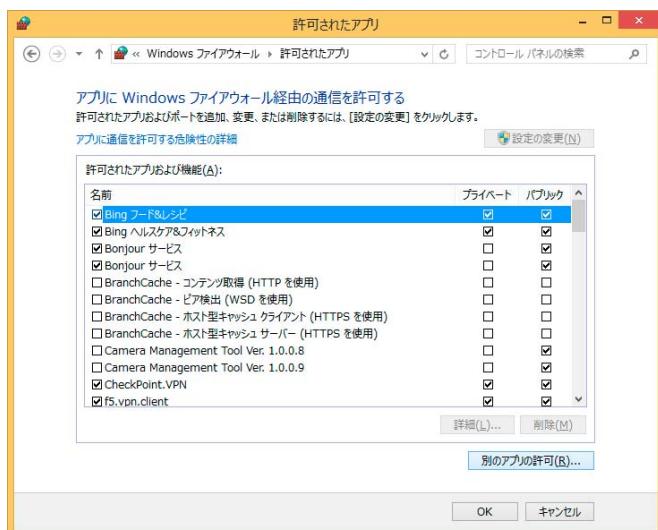
この手順で追加しなかった場合でも、セットアップCD-ROM収録のソフトウェア起動時に表示される [Windows セキュリティの重要な警告] ダイアログで、許可するアプリケーションとして追加できます。

1 [コントロール パネル] の [システムとセキュリティ] > [Windows ファイアウォール] をクリックする

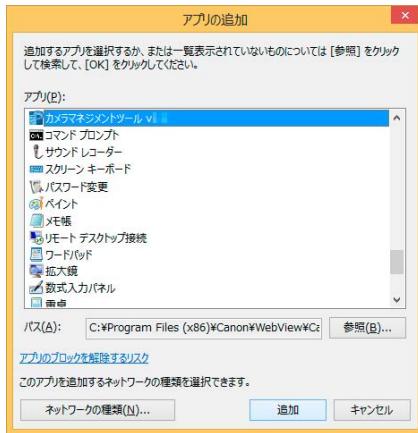
2 [Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] をクリックする



3 [設定の変更] > [別のアプリの許可] の順にクリックする



4 [カメラマネジメントツール] など、使用するソフトウェアを選択し、[追加] をクリックする



Windows Server 使用時の設定

■ カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして追加する

インターネットサイトとインターネットサイトのセキュリティレベルが、[高] に設定されている場合、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに追加しておく必要があります。

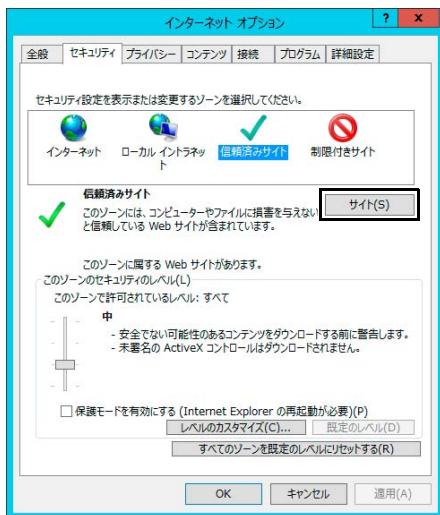
メモ

- カメラのIPアドレスは、カメラマネジメントツールで設定します (P. 38)。

1 [コントロール パネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネット オプション] をクリックする

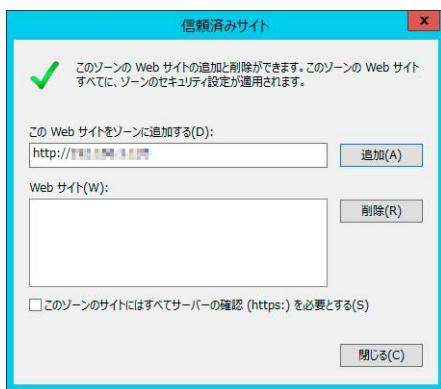
2 [セキュリティ] タブをクリックする

3 [信頼済みサイト] を選択し、[サイト] をクリックする



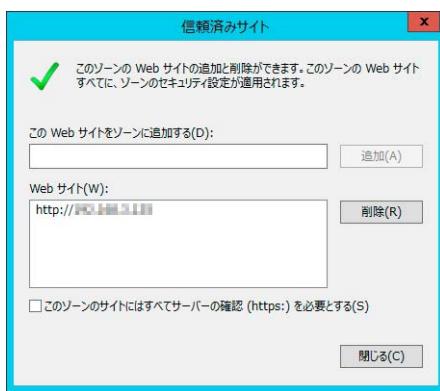
[信頼済みサイト] ダイアログが表示されます。

4 [このWebサイトをゾーンに追加する] にカメラのIPアドレスを入力し、[追加] をクリックする



メモ

- [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする] にチェックがついている場合は、外してください。[Web サイト] の一覧にカメラのIPアドレスが追加されます。



- IPアドレスの入力にワイルドカード (*) を使用することで、複数のカメラのIPアドレスを追加できます。たとえば、「192.160.1.*」と入力すると、「192.160.1」部分が共通のカメラが、すべて信頼済みサイトに追加されます。

■ 音声機能を使用するためのサウンドの設定

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

Windows Serverの初期設定では、サウンド機能が無効に設定されています。

ビューワーで音声機能を使用するには、次の手順でサウンド機能を有効にしてください。

1 [コントロールパネル] の [ハードウェア] をクリックする

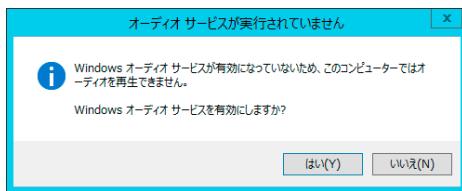


2 [サウンド] をクリックする



[オーディオ サービスが実行されていません] というメッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックする



[サウンド] ダイアログが表示されます。

4 [再生] タブで、オーディオデバイスがインストールされていることを確認する

オーディオデバイスがインストールされていない場合はご使用のPCの使用説明書をご確認ください。

カメラを初期設定する

カメラを使用するには、最初にカメラの管理者アカウントの設定を行い、次にネットワークの設定をして、PCとカメラをネットワーク経由で接続する必要があります。この設定には、カメラマネジメントツールを使用します。ここでは、工場出荷設定のカメラに、管理者アカウントの設定、ネットワーク設定など、カメラマネジメントツールを使ってカメラを初期設定する方法を説明します。

20

カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

カメラマネジメントツールを起動する

セットアップCD-ROMからPCにインストールしたカメラマネジメントツールを起動します。

1 カメラとPCを同じネットワークに接続し、電源を入れる

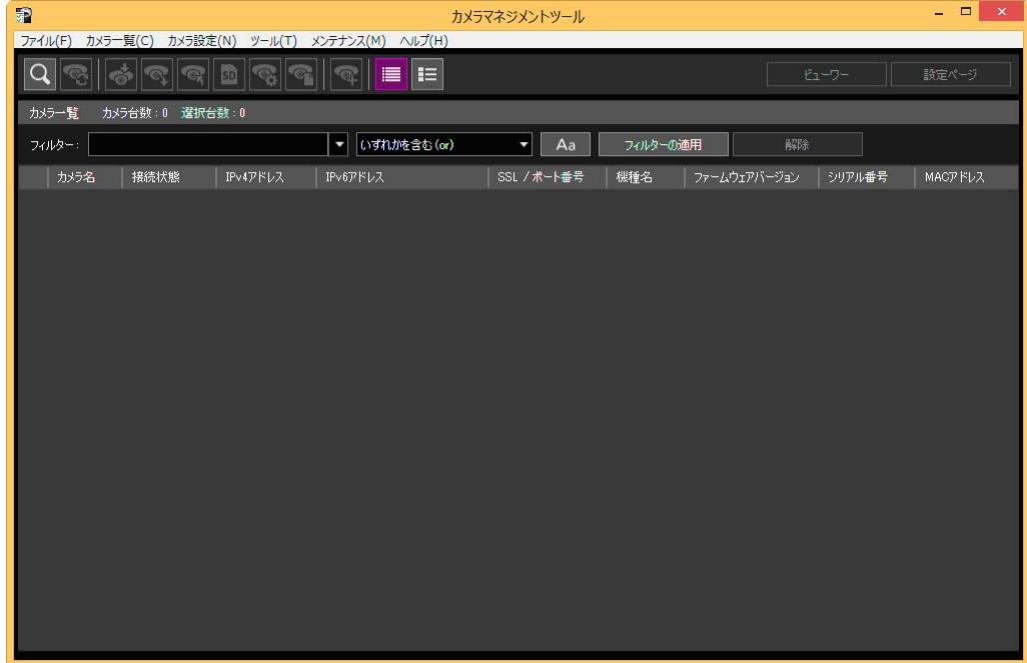
2 デスクトップ上の [カメラマネジメントツール] のアイコンをダブルクリックする



カメラマネー

カスラ

カメラマネジメントツールが起動し、メイン画面が表示されます。



カメラを検出する

カメラマネジメントツールがインストールされているPCと同じネットワークに接続されているカメラを検索し、カメラ一覧に表示します。

× ⚙ R13 R12 M50 H65x H76x H751

工場出荷設定のカメラは、DHCPでIPアドレスを取得する設定になっています。カメラの検出は、DHCP環境で実行するか、もしくはIPv6環境で実行してください。

これらの環境以外で設定する場合は、「DHCPサーバーがない環境でのネットワーク設定」(P. 39)を参照してください。

1 [カメラの検索] アイコンをクリックする



[カメラの検索] ダイアログが表示されます。

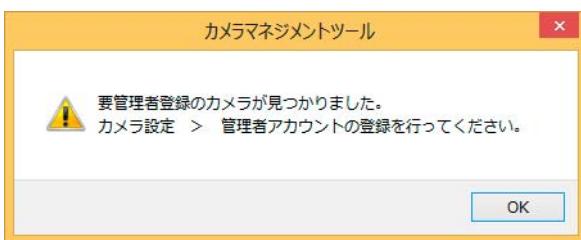
2 カメラの検索を実行する

[検索] をクリックします。



カメラ一覧に、検出したカメラが表示されます。

管理者の登録が必要なカメラを見つけた旨のダイアログが表示されますので、[OK] をクリックします。



メモ

同じネットワークに接続しているにもかかわらず、カメラが検出されないときは、再度クリックして検索してください。

■ 要管理者登録のカメラに管理者アカウントを登録する

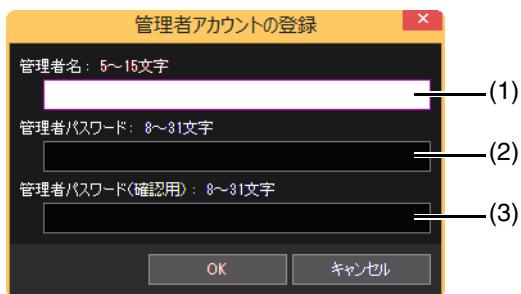
[接続状態] が [要管理者登録] のカメラに対して、管理者アカウントを登録します。

1 カメラ一覧でカメラを選択し、[カメラ設定] > [管理者アカウントの登録] をクリックする または、[接続状態] の [要管理者登録] をダブルクリックする



[管理者アカウントの登録] のダイアログが表示されます。

2 管理者名と管理者パスワードを設定する



(1) [管理者名]

管理者名を半角英数字と“-”、“_”のみ入力できます。

(2) [管理者パスワード]

管理者パスワードを入力します。

(3) [管理者パスワード(確認用)]

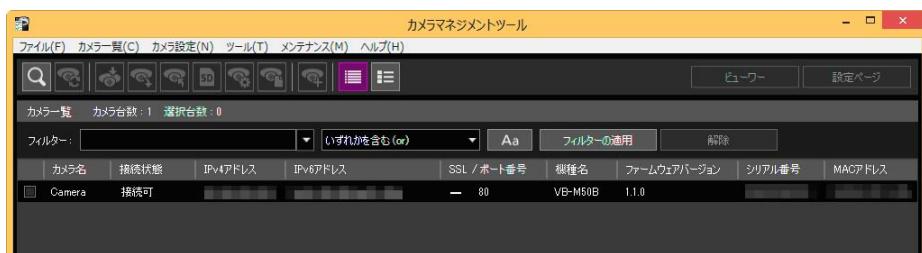
確認用に管理者パスワードを再度入力します。

3 [OK] をクリックする

カメラの再起動を確認するダイアログが表示されます。

[OK] をクリックするとカメラが再起動します。

再起動後、カメラの [接続状態] が [接続可] になります。

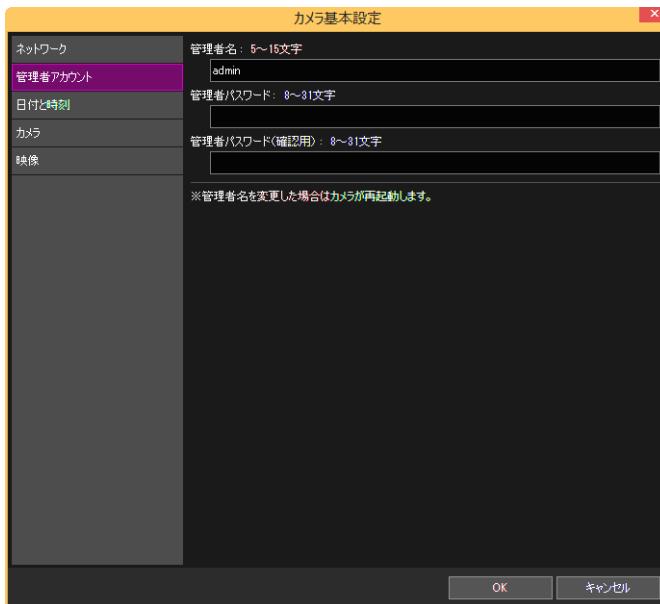


■ 管理者アカウントを変更する

カメラ一覧でカメラを選択し、[カメラ設定] > [カメラ基本設定] から、[管理者アカウント] をクリックして、管理者名または管理者パスワードを変更します。

重 要

システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは定期的に変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。

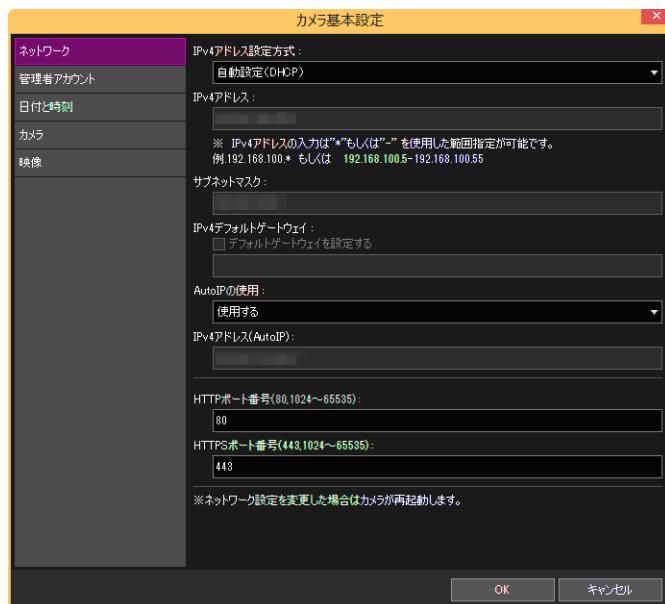


ネットワークの設定をする

カメラのネットワーク設定をします。

カメラ一覧でカメラを選択し、[カメラ設定] > [カメラ基本設定] から、[ネットワーク] をクリックして、各項目を設定します。

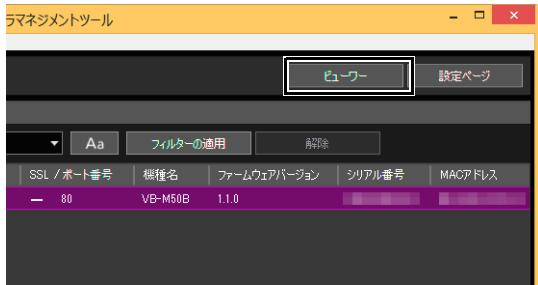
カメラマネジメントツールでは、カメラ一覧から複数のカメラを選択し、まとめて設定することもできます。



映像を確認する

カメラの初期設定終了後、カメラにアクセスし、映像が正しく表示されるか確認します。

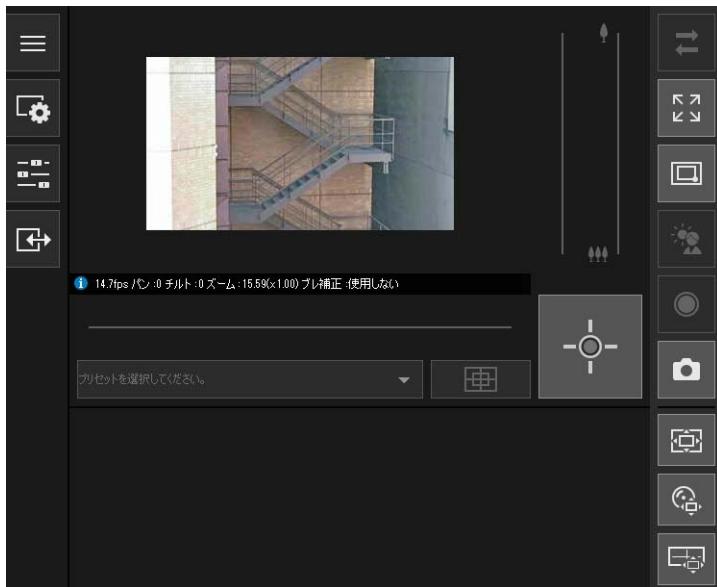
- 1 カメラマネジメントツールを起動する(P. 35)
- 2 カメラ一覧で、ビューワーを開くカメラを選択する
- 3 [ビューワー] をクリックする



ビューウィーの認証画面が表示されます (P. 49)。

4 管理者名と管理者パスワード (P. 36) を入力し、[OK] をクリックする

Webブラウザーが起動し、カメラのビューウィーが表示されます。



メモ

カメラの [接続状態] が [接続可] または [接続可(エラー)] の場合のみ、Webブラウザーが起動します。

DHCPサーバーがない環境でのネットワーク設定

R13 R12 M50 H65x H76x H751

工場出荷設定のカメラは、DHCPでIPアドレスを取得する設定になっています。ただし、DHCPサーバーからの応答がないネットワーク環境にカメラを接続したときでも、特定のIPアドレス (192.168.100.1) を指定してカメラにアクセスすることができます。

重要

- 192.168.100.1のIPアドレスでアクセスできるのは、DHCPサーバーからの応答がないネットワーク環境にカメラを接続してから30秒後です。
- 30秒経過後、DHCPサーバーから応答があった場合には、DHCPサーバーから割り当てられたアドレスに切り換わります。
- Webブラウザーで192.168.100.1を入力してカメラにアクセスするときは、PCと同じサブネット (255.255.255.0) のIPアドレスに設定してください。
- 同一ネットワーク上に複数の工場出荷設定のカメラがある場合、カメラにアクセスできません。

1 Webブラウザーを起動する

2 192.168.100.1を入力し、Enterキーを押す

[初期設定] ページが表示されます。

初期設定

管理者アカウント
管理者名、管理者パスワードを設定してください。カメラの設定ができるようになります。

① 管理者名 5~15文字
② パスワード 8~31文字
③ パスワード (確認用) 8~31文字

① 値が指定されていません。

④ : 再起動 適用 クリア

3 管理者名と管理者パスワードを入力し、[適用] をクリックする

カメラの再起動後、設定ページが表示され、各種設定が可能になります。

3 章

カメラアングルの設定

H651 M64x H751 M74x

カメラの設置後、設定ページで、表示される映像を見ながらカメラアングルを設定します。

カメラアングルの設定の流れ

カメラの設置時や設置場所変更後などのカメラアングル調整に使用します。

カメラアングルの一連の設定は、設定ページにアクセスして行います (P. 84)。

重要 H651 M64x

設定ページの [カメラ] > [カメラアングル] は、カメラ設置調整用であり、日常的な利用は想定していません。多用するとカメラが故障する原因になります。

Step 1 カメラアングルの設定前にカメラの設定をする

カメラアングルに影響する、デジタルズーム、ブレ補正、映像反転を設定します。

設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] の [デジタルズーム] (P. 106) と [ブレ補正] (P. 107)

設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [設置条件] の [映像反転] (P. 109)

Step 2 カメラアングルとフォーカスを設定する

H651 M64x

パン、チルト、ズーム、ローテーション、フォーカスを設定します。

設定ページの [カメラ] > [カメラアングル] (P. 43)

H751 M74x

ズームを設定します。

設定ページの [カメラ] > [起動時設定] (P. 111)

設定ページの [カメラ] > [カメラアングル] を選択して、パン、チルト、ズーム、ローテーションや、フォーカスを設定します。

重要

- カメラアングル設定を開始する際、カメラに接続している各種ビューワーや録画ソフトとの接続が切断されます。
- 1つのカメラに接続可能な時間は30分までに制限されています。30分経過すると自動的に切断されますので、カメラアングルの設定が完了していない場合は、[再接続] ボタンをクリックして再度接続してください。
- 1台のカメラに対して、同時に [カメラアングル] に接続することはできません。

メモ

[カメラアングル] は、カメラマネジメントツールから起動することもできます。詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

カメラアングルの画面構成



(1) 映像表示部

カメラの映像を表示します。

(2) 操作アシスト

パン・チルト操作時にカメラの動く方向を点線で示します。

(3) [パン] ボタン

カメラのパンを操作します。

(4) [チルト] ボタン

カメラのチルトを操作します。

(5) [ズーム] ボタン

カメラのズームを操作します。

(6) [ローテーション] ボタン

カメラのローテーションを操作します。

(7) [ローテーション] スライダー

スライダー上をクリックするか、つまみをドラッグして、カメラのローテーションを操作します。

(8) [再接続] ボタン

カメラに接続し直します。カメラに接続していない場合に操作できます。

(9) [操作アシストの補正]

操作アシストの表示が実際のカメラアングルと一致しない場合に [実行] をクリックすると、実際のカメラアングルを確認する動作が行われ、操作アシストの表示位置が自動的に補正されます。

操作アシストの補正には、1分程度かかります。

(10) [カメラ設定]

フォーカスを操作します。

(11) デジタルズーム領域

設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] の [デジタルズーム] が [使用する] の場合に表示されます。

(12) [ズーム] スライダー

スライダー上をクリックするか、つまみをドラッグして、ズームを操作します。

(13) [操作アシスト] ボタン

操作アシストの映像表示部への表示/非表示を切り替えます。

(14) [適用]

クリックすると、変更した設定が適用されます。

(15) [クリア]

クリックすると、変更する前の設定に戻ります。

カメラアングルとズームを設定する

映像表示部やボタンを操作して、アングルやズームを設定します。



重 要

インテリジェント機能、プライバシーマスク、プリセット、ADSRの設定後にカメラアングルを変更した場合は、これらを再設定する必要があります。

■ 操作ボタンとスライダーで設定する

[パン]、[チルト]、[ズーム]、[ローテーション] の各ボタンで、アングルとズームを設定します。

ボタンを押し続けると動作し、ボタンを放すと停止します。



パン (左右) を操作します。



チルト (上下) を操作します。

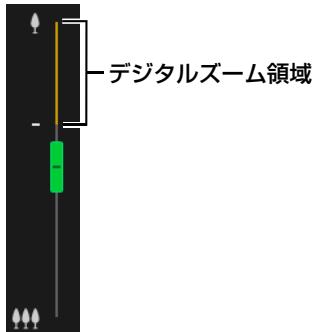


ズーム倍率 (望遠・広角) を操作します。

[ズーム] スライダーで操作する場合は、スライダーをドラッグすると、スライダーの位置に合わせてカメラのズーム倍率が変わります。

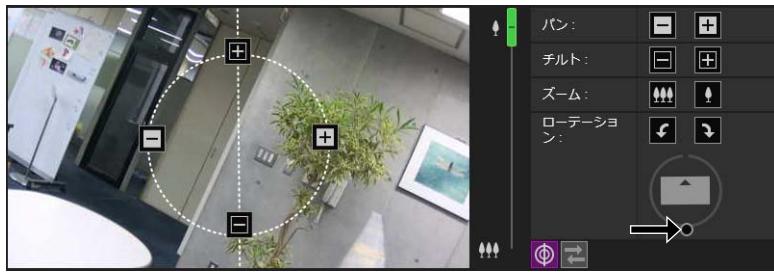
設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] の [デジタルズーム] を [使用する] に設定すると、デジタルズーム領域 (黄) が表示され、デジタルズームが可能になります。

ただし、デジタルズームは、倍率が高くなるに従って画質が低下します。



ローテーション(傾き)を操作します。

[ローテーション] スライダーで傾きを操作する場合は、スライダー上をクリックするか、つまみをドラッグし、映像内の被写体が水平になる角度に調整します。



■ 映像をクリックして設定する

映像表示部で、映像の任意の位置をクリックすると、その位置が画面の中心になるように、カメラアングルが移動します。

ただし、クリックした位置が、パンまたはチルトの範囲を超える場合、パンまたはチルトのいずれか移動可能なほうだけが移動します。

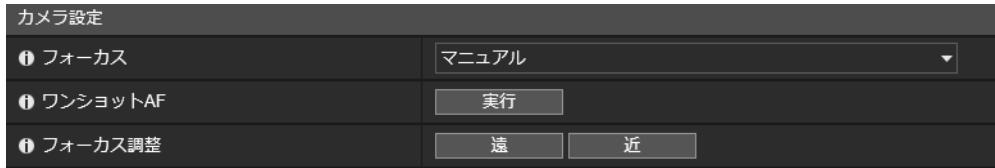
メモ

カメラが操作と異なる動きをする場合や、操作アシストで示されている範囲まで設定できない場合は、操作アシストが実際のカメラアングルと一致していない可能性があります。その場合は、[操作アシストの補正] の [実行] をクリックして補正してから、再度カメラアングルを設定してください。

フォーカスを設定する

フォーカスは、自動またはマニュアル操作で被写体に合わせるか、無限遠に固定します。マニュアル操作の場合は、ワンショットAF機能を使用して被写体にフォーカスを合わせることができます。

なお、フォーカスに関する注意事項などは、設定ページの [カメラ] > [起動時設定] > [カメラ設定] > [フォーカス] の重要なおよびメモを参照してください (P. 113)。



[フォーカス]

フォーカスを選択します。

[オート]

自動的にフォーカスを合わせます。

[マニュアル]

[フォーカス調整] の [遠]、[近] ボタンを押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調整します。[ワンショットAF] の [実行] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後に、マニュアルモードになります。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

メモ

カメラアングルを [適用] すると、ズームとフォーカスの設定は [起動時設定] にも反映されます。

4 章

カメラビューワー

Webブラウザーを使用してカメラに搭載されているビューワーにアクセスすることで、カメラ操作やライブ映像の表示、イベントの状態が確認できます。

カメラビューウィーで映像を見る

カメラビューウィーを起動して、ユーザーを切り替えたり、カメラの状態や映像の表示を確認・設定します。

メモ

認証済みのWebページを表示したまま、別のウィンドウやタブを開いてカメラにアクセスすると、表示中のWebページの認証情報が破棄される場合があります。

その場合は、再度認証情報を入力してください。

カメラビューウィーを起動する

カメラマネジメントツールで設定したIPアドレス (P. 38) を、Webブラウザーに直接入力してカメラの設定ページを表示し、設定ページからビューウィーを起動できます。

メモ

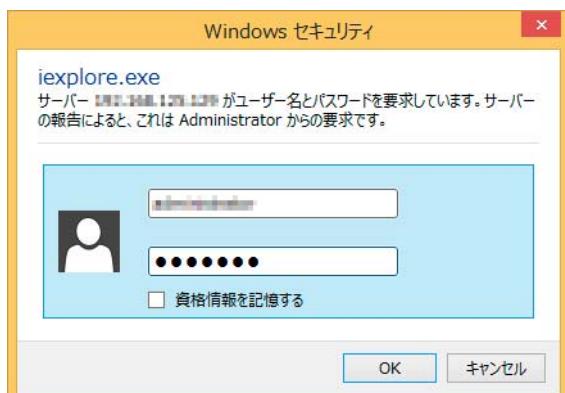
カメラマネジメントツールでの設定の詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

1 Webブラウザーを起動する

2 IPアドレスを入力し、Enterキーを押す

設定ページの認証画面が表示されます。

3 管理者名と管理者パスワード (P. 36) を入力し、[OK] をクリックする



設定メニューが表示されます。

メモ

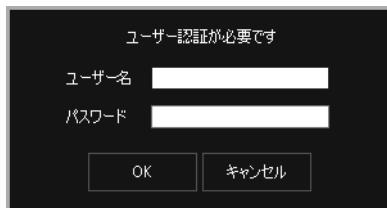
設定メニューの [基本] > [ビューウィー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューウィーを表示] にすることで、デフォルトページをビューウィーに設定できます。 (P. 104)

4 [ビューウィー] をクリックする

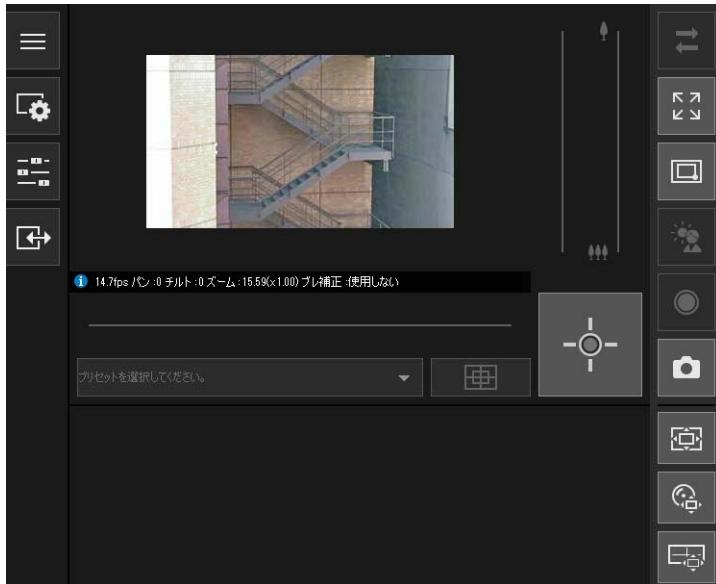
VB-M50B	設定メニュー	ビューワー	言語 : 日本語
基本	カメラを使用するための基本設定		
カメラ	制御・パラメーターなどのカメラの設定		
映像と音声	映像と音声に関する設定		
サーバー	各種サーバー機能の設定		
映像記録	アップロード・メール通知などの映像記録に関する設定		
イベント	タイマーなどのイベントに関する設定		
セキュリティ	アクセス制限やセキュリティ通信に関する設定		
メモリーカード	メモリーカードの各種操作や設定		
メンテナンス	ログ・設定値一覧の表示・本体再起動などのカメラのメンテナンス		
ユーザーページ	ユーザーが追加できる設定ページ		

ビューワーの認証画面が表示されます。

5 管理者名と管理者パスワード (P. 36) を入力し、[OK] をクリックする



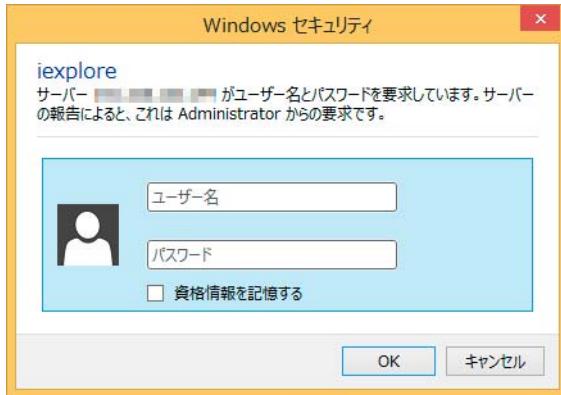
カメラのビューワーが表示されます。



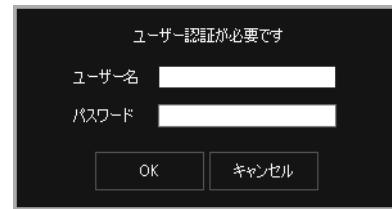
■ ユーザー認証について

ビューワーおよび設定ページを使用する際は、認証画面が表示され、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。ユーザー名またはパスワードの入力を間違えると、カメラへの接続ができません。正しいユーザー名およびパスワードを入力して接続してください。

設定ページの [基本] > [ビューワー] > [ビューワー設定] > [ユーザー認証] が [認証しない] に設定されている場合は、ビューワー接続時に認証画面が表示されません。



設定ページの認証画面



ビューウィーの認証画面

管理者名と管理者パスワードは、カメラマネジメントツールで設定します (P. 36)。

重要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは定期的に変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。
- 管理者アカウントを忘れてしまった場合は、工場出荷設定に戻してください (P. 249)。ただし、管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください (P. 35)。
- 同じPCを管理者と登録ユーザーが共有してビューウィーを使用する場合には、[資格情報を記憶する] のチェックを外すことを強くお勧めします。

メモ

- 設定ページは、管理者のみ接続できます。
- Windows ServerでIE ESC (Internet Explorerのセキュリティ強化の構成) が有効に設定されている場合、設定ページやビューウィーにアクセスすると、コンテンツブロックのダイアログが表示されることがあります。その場合は、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに追加してください (P. 32)。



管理者や登録ユーザーに切り替える

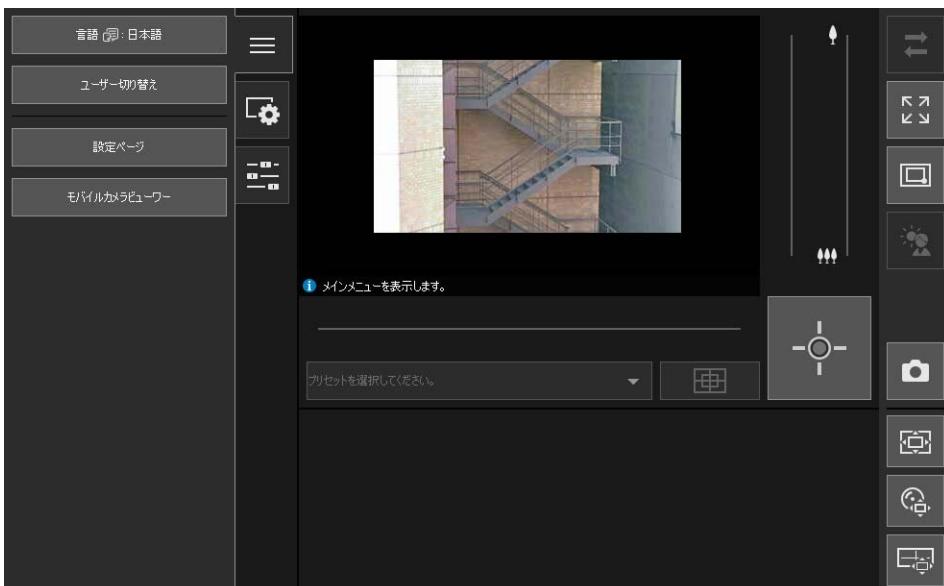
設定ページの [基本] > [ビューウィー] > [ビューウィー設定] > [ユーザー認証] が [認証しない] に設定されている場合は、ビューウィー接続時に認証画面が表示されず、一般ユーザーとしてビューウィーを使用できます。一般ユーザーの場合、ビューウィーの一部の操作しかできませんが、あとからユーザーを切り替えて、管理者や登録ユーザーとしてビューウィーを使用することもできます。

1 [メイン] ボタンをクリックする



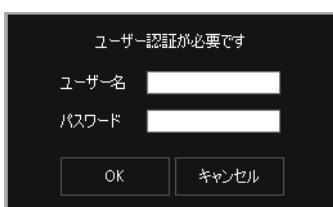
[メイン] メニューが表示されます。

2 [ユーザー切り替え] をクリックする



ユーザー認証の画面が表示されます。

3 ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックする



ユーザー認証で入力したユーザー用のビューワーが表示されます。

メモ

プロキシサーバーのない環境では、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] で、[設定を自動的に検出する] のチェックを外してください。

■ カメラビューウィーのアクセス制限

ビューウィーには、ユーザー認証が必要な登録ユーザーとユーザー認証が不要な一般ユーザーを設定できます。各ユーザーがカメラビューウィーで使用できる機能は、付与される権限によって決まります (P. 98)。

管理者 :

すべての権限が与えられたユーザーです。

管理者アカウントで登録した管理者名とパスワードで、ビューウィーにアクセスします (P. 36)。

管理者は、登録ユーザーおよび一般ユーザーのすべての権限を無効にすることで、登録ユーザーおよび一般ユーザーのカメラへのアクセスを完全に禁止できます。

登録ユーザー :

登録ユーザーは一般ユーザーよりも上位の権限となります。

ユーザー名とパスワードを登録する必要があります (P. 97)。

一般ユーザー :

使用できる機能が限定されたユーザーです。

ユーザー認証なしでビューウィーにアクセスできます。

ビューウィーを操作するための権限には、特権カメラ制御、一般カメラ制御、映像配信、音声配信の4つがあります。各権限の内容と、ユーザーへの付与の可否は、次のとおりです。

権限	特権カメラ制御	一般カメラ制御	映像配信	音声配信
権限の内容	管理者に次ぐ権限で操作ができる	ビューウィーの一部の操作ができる	ビューウィーで映像を表示できる	ビューウィーで音声を受信できる
登録ユーザーへの付与	可	可	可	可
一般ユーザーへの付与	不可	可	可	可

「特権カメラ制御」「一般カメラ制御」「映像配信」は、ある項目が「可」に設定された場合、その上および右側の権限付与もすべて「可」となります。同様に、ある項目が「不可」で設定された場合、その下および左側の権限付与もすべて「不可」となります。

横軸では、より強い左側の権限は、それより弱い右側の権限を伴います。ただし、音声配信は独立して設定できます。縦軸では、登録ユーザー権限が、一般ユーザー権限以上の権限を持ちます。

重要

- 1台のカメラに対して、同時に複数の管理者アカウントで接続はできません。
登録ユーザーと一般ユーザーのアカウントでは同時に複数のPCからカメラに接続できます。ただし、カメラを制御する場合、登録ユーザーは制御権が優先になります。
- 登録ユーザーと一般ユーザーがカメラに接続するためには、[基本] > [ビューウィー] > [全般] > [デフォルトページ] を[ビューウィーを表示]に設定する必要があります。

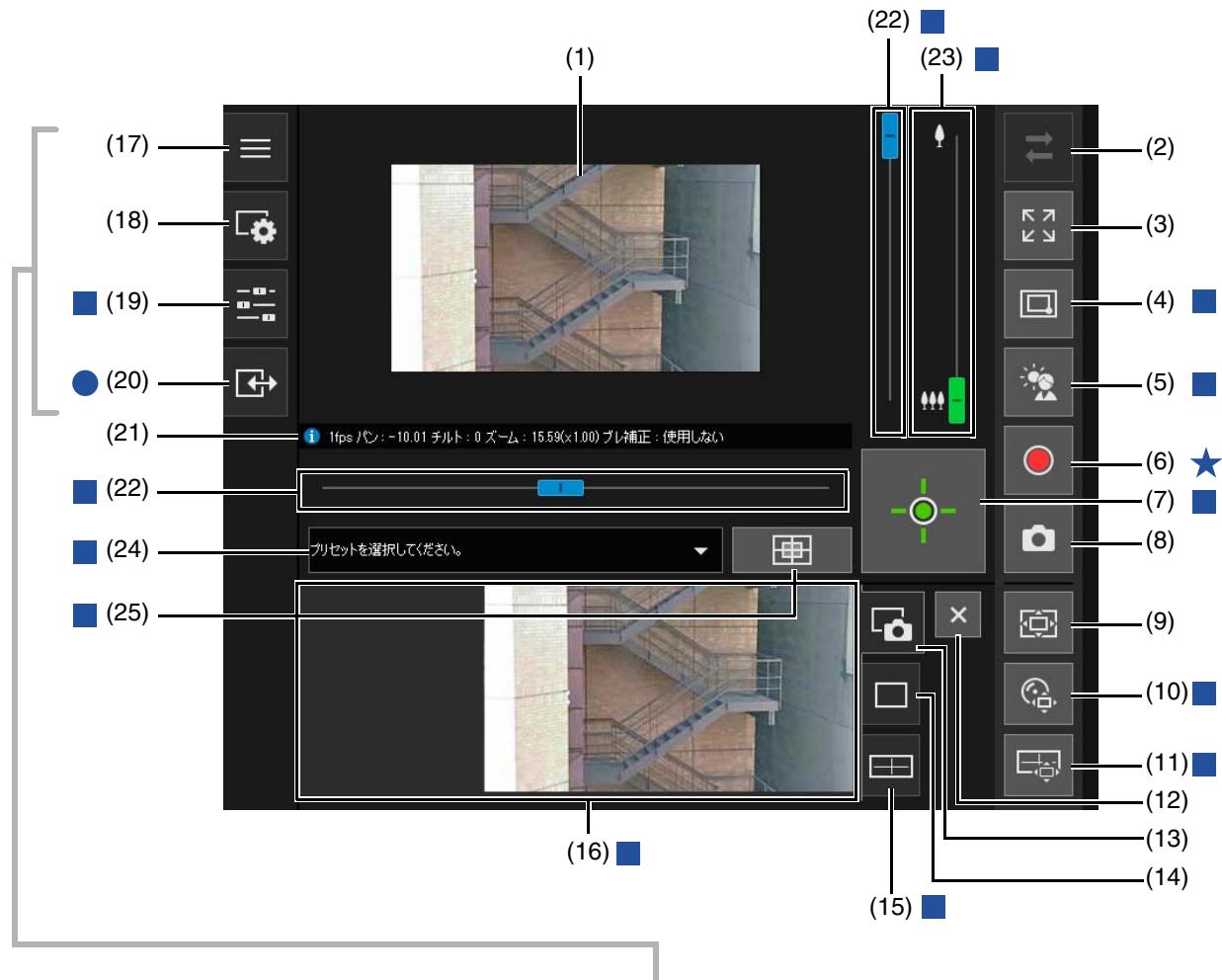
メモ

- 工場出荷設定では、登録ユーザーに特権カメラ制御権が与えられています。
- 工場出荷設定では、一般ユーザーに一般カメラ制御、映像配信、音声配信権限が与えられています。

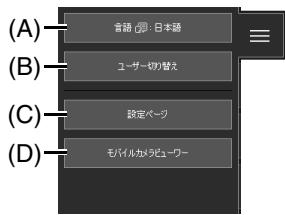
カメラビューワーの画面構成

ビューワーの操作に必要な権限を次のマークで示しています。

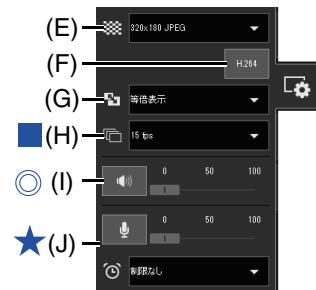
	管理者権限
	特権カメラ制御以上の権限
	一般カメラ制御以上の権限
無印	映像配信以上の権限
	音声配信権限



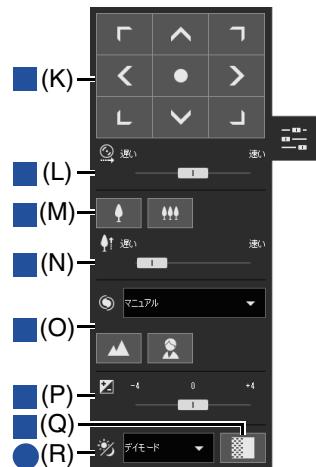
(17) ≡



(18) ☰



(19) ≡



(20) ☰



- (1) 映像表示部
カメラから受信した映像を表示します。
- (2)  [再接続] ボタン
カメラに接続し直します。ビューワーがカメラに接続していない場合に操作できます。
- (3)  [全画面表示] ボタン
映像表示部を全画面で表示します (P. 60)。
- (4)  [エリアズーム/ドラッグムーブ切り替え] ボタン R1x M50
映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り替えます (P. 65)。
- (5)  [逆光補正] ボタン
逆光補正の入/切を選択します。映像が逆光で暗い場合に使用すると効果があります (P. 70)。
- (6)  [メモリーカード録画] ボタン
メモリーカードへの録画を開始/停止します (P. 77)。
- (7)  [カメラ制御権取得/解放] ボタン
カメラ制御権を取得または解放します (P. 63)。
- (8)  [スナップショット] ボタン
クリックした瞬間の静止画を、コントロール表示部にスナップショットパネルを開いて表示します (P. 76)。
- (9)  [ビューワー PTZ] ボタン
ビューワー PTZを開始/終了します。開始すると、コントロール表示部にビューワー PTZパネルが表示されます (P. 72)。
- (10)  [デジタルPTZ] ボタン M50 H65x M64x H76x H751 M74x
デジタルPTZを開始/終了します。開始すると、コントロール表示部にデジタルPTZパネルが表示されます (P. 73)。
- (11)  [パノラマ表示] ボタン R1x M50
コントロール表示部にパノラマ表示パネルを表示します (P. 68)。
- (12)  [閉じる] ボタン
コントロール表示部に表示された各種パネルを閉じます。
- (13)  スナップショットタブ
スナップショットタブのクリックで、コントロール表示部を、スナップショットパネルに切り替えます (P. 76)。
- (14)  ビューワー PTZ/デジタルPTZタブ
ビューワー PTZ/デジタルPTZタブのクリックで、コントロール表示部を、ビューワー PTZ/デジタルPTZパネルに切り替えます (P. 72)。
- (15)  パノラマ表示タブ R1x M50
パノラマ表示タブのクリックで、コントロール表示部を、パノラマ表示パネルに切り替えます (P. 68)。
- (16) コントロール表示部
(13)、(14)、(15)をクリックすると、それぞれスナップショットパネル、ビューワー PTZ/デジタルPTZパネル、パノラマ表示パネルを表示します。

(17) [メイン] メニュー

言語やユーザーの切り替え、設定ページやモバイルカメラビューウィーへ移動します。



(A) 言語切り替えボタン

表示言語を切り替えます。

(B) [ユーザー切り替え]

管理者や登録ユーザーでログインしたい場合に使います (P. 50)。

(C) [設定ページ]

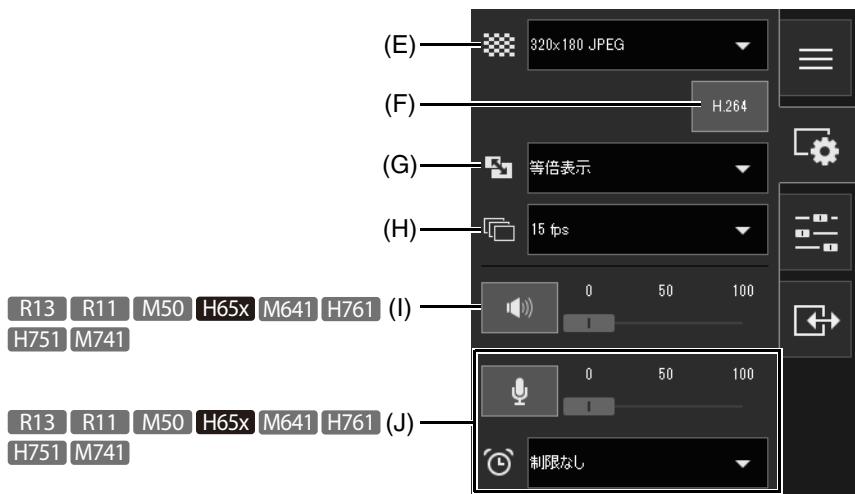
設定ページへ移動します (P. 84)。

(D) [モバイルカメラビューウィー]

モバイルカメラビューウィーへ接続を切り替えます。モバイルカメラビューウィーの詳しい使いかたは、『モバイルカメラビューウィー 操作ガイド』を参照してください。

(18) [映像と音声] メニュー

ビューウィーの映像表示サイズや音声の送受信を設定します。



(E) 映像サイズ

カメラからの映像受信サイズと映像フォーマットを選択します (P. 59)。

(F) H.264受信

H.264映像受信の有効/無効を選択します (P. 59)。

一般ユーザーは、設定ページの [基本] > [ビューウィー] > [ビューウィー設定] > [一般ユーザでのH.264の使用] を [使用する] (P. 105) に設定すると、[H.264] が表示されます。

(G) 表示サイズ

画面上の映像表示サイズを選択します (P. 59)。

(H) 最大フレームレート

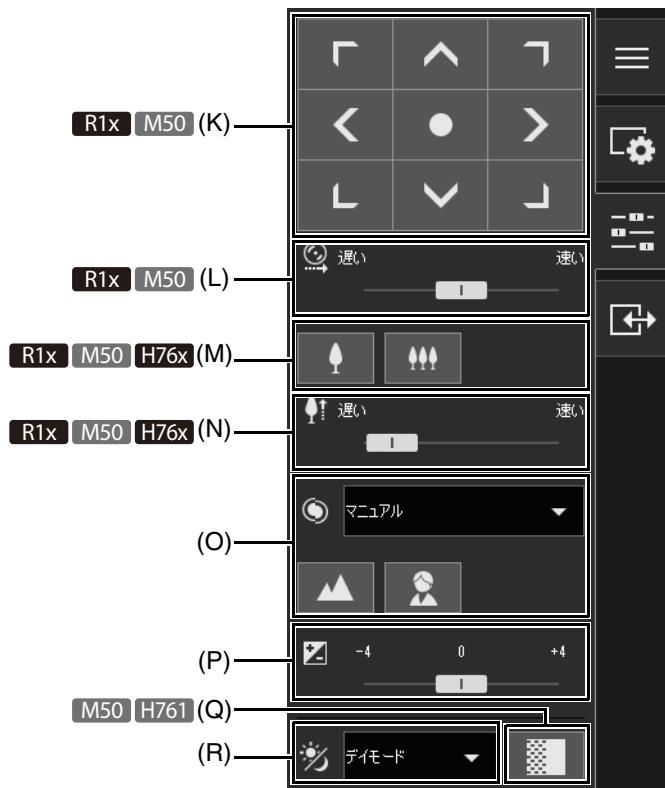
JPEG映像の最大フレームレートを選択します (P. 60)。

(I) 音声受信 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741
カメラからの音声受信の開始/終了、音量を設定します (P. 79)。

(J) 音声送信 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741
カメラへの音声送信の開始/終了、音量、音声の送信時間を設定します (P. 79)。

(19) [カメラ操作] メニュー

カメラのパン・チルト・ズーム、フォーカス、露出、デイナイト切り換えを設定します。



(K) パン/チルト R1x M50

ボタン操作により、各矢印の方向にアングルを移動します (P. 67)。

(L) パン/チルト速度 R1x M50

パン/チルトのボタン操作による動作速度を選択します (P. 67)。

(M) ズーム R1x M50 H76x

ボタン操作により、ズームインまたはズームアウトします (P. 67)。

(N) ズーム速度 R1x M50 H76x

ズームのボタン操作による動作速度を選択します (P. 67)。

(O) フォーカス

被写体に焦点を合わせる設定をします (P. 69)。

(P) 露出補正

被写体の明るさに合わせて、露出を補正します (P. 69)。

(Q) 鮮明IRモード M50 H761

遠景のかすみや陽炎のゆらぎを軽減する、鮮明IRモードの有効/無効を選択します (P. 69)。

(R) デイナイト

カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します (P. 69)。

(20) [イベントと入出力] メニュー

外部デバイスの出力操作や入力状態の確認、インテリジェント機能の検知状態の確認、連結イベントの発生状況の確認ができます。



(S) 外部デバイス出力 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

外部デバイスの出力を操作します (P. 81)。

(T) 外部デバイス入力 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

外部デバイスによる入力信号の状態が、入力ごとに表示されます (P. 81)。

(U) インテリジェント機能(映像検知)

インテリジェント機能による映像検知の状態が、検知設定番号ごとに表示されます (P. 81)。

(V) インテリジェント機能(自動追尾) R1x

インテリジェント機能による自動追尾の状態が表示されます (P. 82)。

(W) インテリジェント機能(音声検知) R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

[音量検知] または [悲鳴検知] の状態が表示されます (P. 82)。

(X) 連結イベント R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

連結イベントの状態が表示されます (P. 82)。

(21) インフォメーション表示

情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージが表示されます (P. 58)。

(22) パン・チルトスライダー R1x M50 H65x M64x H751 M74x

つまみを動かして、カメラのパン(左右)、チルト(上下)を操作します (P. 64)。

(23) ズームスライダー

つまみを動かして、カメラのズームイン(望遠)/ズームアウト(広角)を操作します (P. 64)。

(24) プリセット選択ボックス

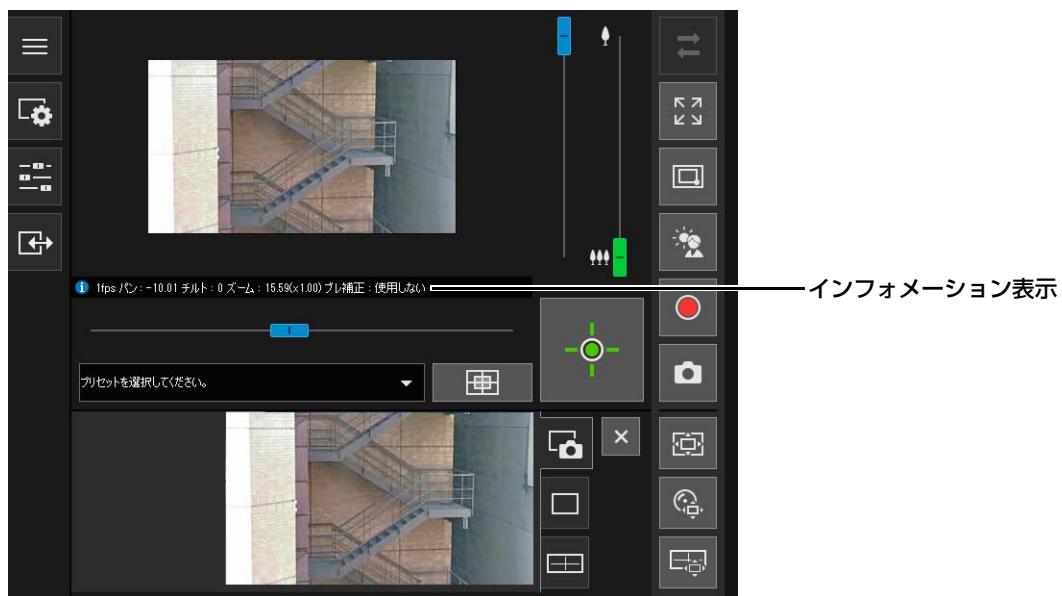
カメラにあらかじめ登録したプリセットを選択します (P. 70)。

(25) [ホームポジション] ボタン

カメラのアングルをホームポジションに移動します (P. 70)。

インフォメーションを確認する

インフォメーション表示には、フレームレートや、カメラのパン・チルト・ズーム値、各部の説明などが表示されます。また、カメラの動作やシステムに問題が発生した場合は、警告またはエラーメッセージが表示されます。



表示されるインフォメーションの内容については、「ビューワーメッセージ一覧」(P. 247) を参照してください。

重要

- 設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] > [プレ補正] をOn にした場合 (P. 107)、実際の映像表示画角はインフォメーション表示のパン・チルト・ズーム値より小さくなります。
- R11 R10
- パノラマ表示パネルに表示される画角 (枠線) (P. 68) よりも実際の映像表示画角は小さくなります。

受信映像サイズや表示画面サイズを変更する

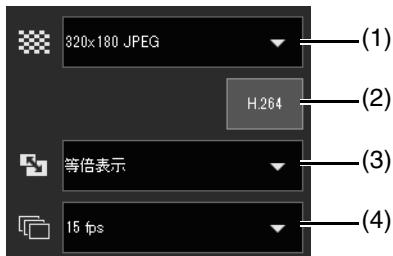
カメラから受信する映像サイズや映像フォーマット、PC上の表示画面サイズを設定できます。

受信映像サイズ/フォーマット、表示画面サイズを変更する

4

カメラビュー
ワー

[映像と音声] メニューを開いて、カメラから受信する映像について設定します。



(1) 映像サイズ設定

カメラからの受信映像サイズおよび映像フォーマットを選択します。

選択できるサイズは、設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定によって変わります (P. 101)。

[映像サイズセット] の設定	選択できる映像サイズ	
	JPEG	H.264 ^{*1}
1920x1080/960x540/480x270 ^{*2}	480x270	• 設定ページの [基本] > [映像] > [H.264(1)] および [H.264(2)] (P. 102) の [映像サイズ] で設定しているサイズがメニューに表示されます。 • 設定ページの [基本] > [映像] > [H.264(2)] (P. 103) で [H.264(2) の使用] を [使用する] にしている場合に、[H.264(1)] と [H.264(2)] 両方の映像サイズがメニューに表示されます。
	960x540	
	1920x1080	
1280x720/640x360/320x180	320x180	
	640x360	
	1280x720	
1280x960/640x480/320x240	320x240	
	640x480	
	1280x960	

*1 [H.264] をオン (紫) にすると、H.264の映像サイズがメニューに追加表示されます。

*2 [映像サイズセット] に [1920x1080/960x540/480x270] を設定できません (P. 101)。R11 R10 M50 M64x M74x

(2) [H.264]

H.264映像を受信する場合、オン (紫) にします。

オフ (グレー) 状態でクリックすると、「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されます。契約書の条項に同意する場合は [はい] をクリックしてください。カメラからデコーダーがダウンロードされ、H.264映像の受信が可能になります。一般ユーザーは「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されません。

(3) 表示サイズ設定

選択できるサイズは、設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定によって変わります (P. 101)。

[映像サイズセット] の設定	選択できる表示サイズ	備考
1920x1080/960x540/480x270*	等倍表示 480x270 960x540 1920x1080 自動調整	
1280x720/640x360/320x180	等倍表示 480x270 640x360 1280x720 自動調整	[等倍表示] は、映像サイズの大きさのままで表示します。 [自動調整] は、Web ブラウザーのウィンドウサイズに合わせて、最大のサイズで表示します。
1280x960/640x480/320x240	等倍表示 480x360 640x480 1280x960 自動調整	

* [映像サイズセット] に [1920x1080/960x540/480x270] を設定できません (P. 101)。R11 R10 M50 M64x M74x

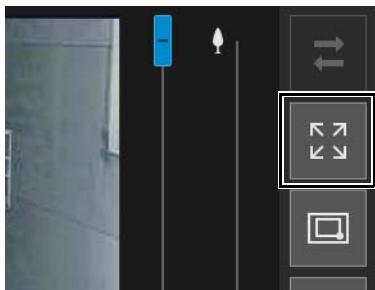
(4) 最大フレームレート(JPEG)

JPEG 映像の最大フレームレートを選択できます。

映像表示部に H.264 映像を表示している場合は選択できません。

全画面表示にする

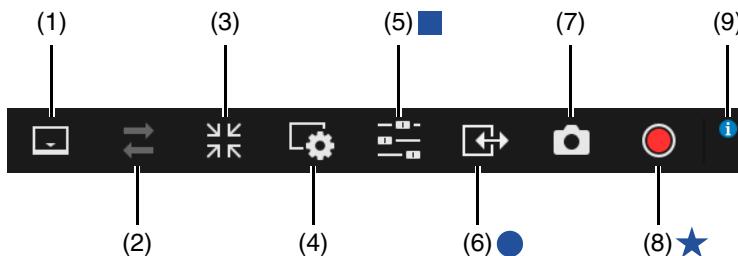
ビューワー右上の [全画面表示] ボタンをクリックすると、映像表示部がディスプレイ全体に表示されます。



メニューについて

全画面表示時は、カメラビューワー画面と同様にカメラの制御に必要なメニュー パネルが画面下部に表示されます。メニュー パネルの操作に必要な権限を次のマークで示しています。

	管理者権限
	特権力カメラ制御以上の権限
	一般力カメラ制御以上の権限
無印	映像配信以上の権限
	音声配信権限



(1) [メニュー領域表示切替] ボタン

メニューバーの表示/非表示を切り替えます。

(2) [再接続] ボタン

カメラに接続し直します。ビューウィーがカメラに接続していない場合に操作できます。

(3) [全画面表示終了] ボタン

映像表示部を通常表示に戻します。

(4) [映像と音声] メニュー

ビューウィーの映像表示サイズや音声の送受信を設定します。



(A) 映像サイズ

カメラからの受信映像サイズを設定します (P. 59)。

(B) H.264

H.264映像受信の有効/無効を選択します (P. 59)。

(C) 最大フレームレート

JPEG映像の最大フレームレートを選択します (P. 59)。

(D) 音声受信

R13, R11, M50, H65x, M641, H761, H751, M741

受信した音声の再生/停止、音量を設定します (P. 79)。

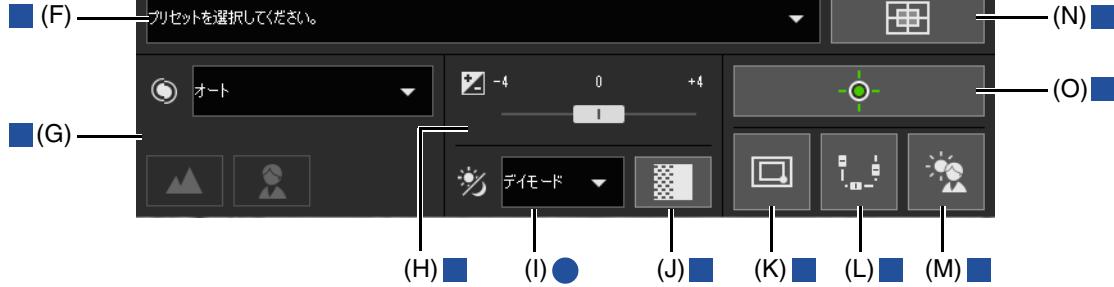
(E) 音声送信

R13, R11, M50, H65x, M641, H761, H751, M741

送信する音声の再生/停止、音量、音声の送信時間を設定します (P. 79)。

(5) [カメラ操作] メニュー

カメラの基本設定と操作を行います。



(F) プリセット

カメラにあらかじめ登録したプリセットを選択します (P. 70)。

(G) フォーカス

被写体に焦点を合わせる設定をします (P. 69)。

(H) 露出補正

被写体の明るさに合わせて、露出を補正します (P. 69)。

(I) デイナイト

カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します (P. 69)。

(J) 鮮明IRモード M50 H761

遠景のかすみや陽炎のゆらぎを軽減する、鮮明IRモードの有効/無効を選択します (P. 69)。

(K) エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え R1x M50

映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り替えます (P. 65)。

(L) パン/チルト/ズーム

ボタンをオン (紫) になると、パン/チルト/ズームスライダーが画面に表示され操作できます。

パンスライダーは画面下部に、チルトスライダーは画面左端に、ズームスライダーは画面右端に、それぞれ表示されます。

(M) 逆光補正

逆光補正の入/切を選択します (P. 70)。

(N) ホームポジション

カメラのアングルをホームポジションに移動します (P. 70)。

(O) カメラ制御権取得/解放

カメラ制御権を取得または解放します (P. 63)。

(6) [イベントと入出力] メニュー R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

外部デバイスの出力を操作します (P. 81)。



(7) スナップショット

クリックした瞬間の静止画を、スナップショットパネルを開いて表示します (P. 76)。

(8) メモリーカード録画

メモリーカードへの録画を開始または停止します (P. 77)。

(9) インフォメーション表示

情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージが表示されます (P. 58)。

カメラを操作する

カメラ制御権の取得やカメラアングル、フォーカスの設定など、カメラを使用するのに必要な操作や設定について説明します。

重要

この節で説明するカメラの操作や設定をするには、最初に説明する、カメラ制御権の取得が必要になります。

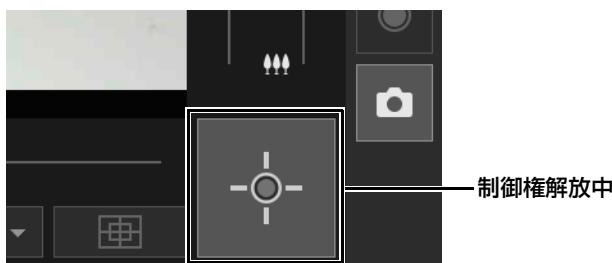
4

カメラビュー

カメラ制御権を取得する

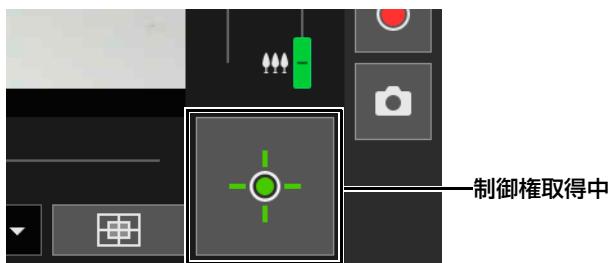
カメラを操作するには、ビューワーで制御権を取得する必要があります。

制御権を取得していない状態で、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックします。



制御権が取得され、ビューワー各部のボタンが使用できるようになります。

制御権の取得中は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンの中心部が黄緑になります。



■ カメラ制御権表示について

カメラ制御権の状態により、[カメラ制御権取得/解放] ボタンの表示は次のように変わります。

表示	制御権の状態	説明
	制御権解放中	カメラ制御権を取得していない状態です。
	制御権取得待ち	一般ユーザーが制御権の取得待ち状態に入った場合、残り待機時間がカウントダウンされます。
	制御権取得中	カメラ制御権を取得している状態です。
	制御権取得中 (制御時間カウント中)	一般ユーザーが制御権を取得後、他の一般ユーザーより優先的に制御権を保持できる時間がカウントダウンされます。

■ 重要

- 制御権を複数のユーザーで同時に取得することはできません。
- 登録ユーザーおよび一般ユーザーは、設定ページの [基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の設定において、[一般カメラ制御] がチェックされている場合に、[カメラ制御権取得/解放] ボタンが表示されます。
- 管理者は、登録ユーザーまたは一般ユーザーが制御権取得中でも制御権を奪うことができます。同様に登録ユーザーは、一般ユーザーが制御権取得中でも制御権を奪うことができます。
より上位の権限を持ったユーザーがカメラ制御権を保持できますが、その間、下位のユーザーはカメラ制御権を取得できません。閲覧が終わった後は必ず終了するか、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を解放してください。

パン・チルト・ズームを操作する

カメラのパン・チルト・ズームを操作して、カメラアングルを設定します。

■ メモ

- クリックやドラッグによるカメラ制御は、厳密な精度で制御されるものではありません。
- 管理者でビューウィーを使用すると、可視範囲制限を無視してカメラを操作できます。登録ユーザーまたは一般ユーザーでビューウィーを使用した場合は、可視範囲制限内のみで操作できます。 R1x M50 H76x

■ 映像表示部上のクリック、またはスライダーで操作する

クリックの操作

映像表示部上をクリックすると、クリックしたときのマウスポインターの位置が中心となるように、カメラアングルが移動します。1回のクリックで希望の位置が中心にならない場合は、繰り返し操作してください。

■ メモ

- ビューウィー PTZまたはデジタルPTZ使用中は、映像表示部のクリック操作はできません。 R1x M50
- ビューウィー PTZまたはデジタルPTZを開始すると、映像表示部のクリック操作ができるようになります。 H65x M64x H76x H751 M74x

スライダーでの操作

パンスライダーおよびチルトスライダーのつまみをドラッグすると、パン・チルトが移動します。

R1x M50 H65x M64x H751 M74x

ズームスライダーのつまみをドラッグすると、ズームが変化します。

スライダーのつまみのない部分をクリックしても、つまみが移動します。



メモ H65x M64x H751 M74x

ビューワー PTZまたはデジタルPTZを開始しないと、スライダーは操作できません。

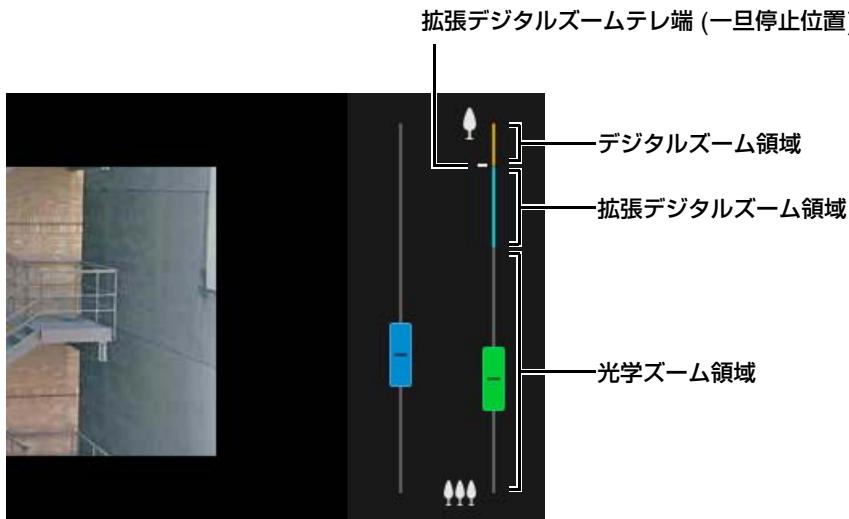
デジタルズーム、拡張デジタルズーム使用時のスライダー R1x M50 H76x

設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] > [デジタルズーム] を [使用する] (P. 106) に設定すると、ズームスライダーにデジタルズーム領域（オレンジ）が表示され、デジタルズーム操作が可能となります。

同様に、設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] > [拡張デジタルズーム] を [使用する] (P. 106) に設定すると、ズームスライダーに拡張デジタルズーム領域（青）が表示され、拡張デジタルズーム操作が可能となります。拡張デジタルズームは、受信映像サイズに応じて、画質の粗さが目立たない範囲でデジタルズームします。

メモ

- 拡張デジタルズームの倍率は、カメラ制御権を持っているユーザーが設定した映像サイズに制限されます。他のユーザーでも同倍率でデジタルズームされるため、受信映像サイズによっては映像劣化が発生することがあります。
- デジタルズーム領域と拡張デジタルズーム領域が存在する場合に、拡張デジタルズーム領域のテレ端を通過するズームイン操作を行う際は、拡張デジタルズーム領域のテレ端でいったん停止します。
- ズーム倍率（デジタルズーム倍率）は、インフォメーション表示に表示されます。
- デジタルズームは、ズーム倍率が高くなるに従い画質が低下します。



■ エリアズーム/ドラッグムーブで操作する R1x M50

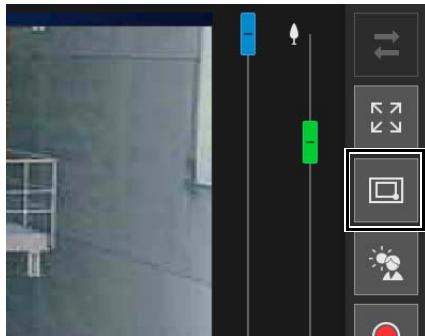
映像表示部上のドラッグ操作で、ズームイン/アウトやアングル移動ができます。

メモ

エリアズーム/ドラッグムーブとともに、ビューワー PTZまたはデジタルPTZ使用中は操作できません。

エリアズームでのズームイン/アウト

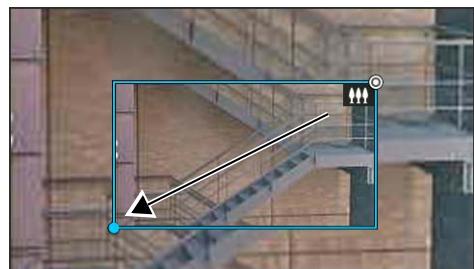
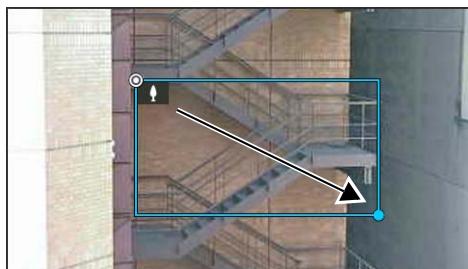
- [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、 (エリアズーム) にする



2 映像表示部で、ドラッグする

ズームインの場合は、左から右方向にズームインするエリアを枠線で指定します。

ズームアウトの場合は、右から左方向に映像表示部の中心に表示させたいエリアを枠線で囲みます。



エリアズーム操作中は、枠線内にアイコン(ズームイン: 、ズームアウト:)が表示されます。

枠線表示中にマウスの左ボタンを押したまま右ボタンをクリックすることで、エリアズームを中止できます。

3 マウスボタンを放す

左から右方向の場合、枠線で囲んだ部分が映像表示部全域に表示されます。

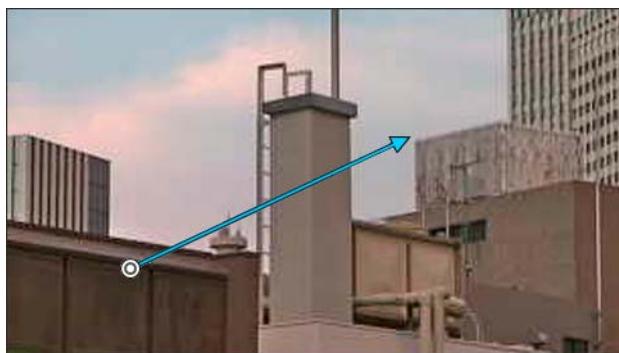
右から左方向の場合、枠線の中心が映像表示部の中心となるようにズームアウトします。

ドラッグムーブでのアングル移動

1 [エリアズーム/ドラッグムーブ切り替え] ボタンをクリックして、 (ドラッグムーブ) にする



2 映像表示部で、カメラアングルを移動したい方向にドラッグして矢印を表示する



矢印の方向にカメラアングルが移動します。

矢印の最大長は映像表示部の幅・高さの半分で、矢印を長くすると、移動速度が速くなります。

3 メモ

ドラッグムーブ中は、パン・チルトスライダーのつまみは移動しません。

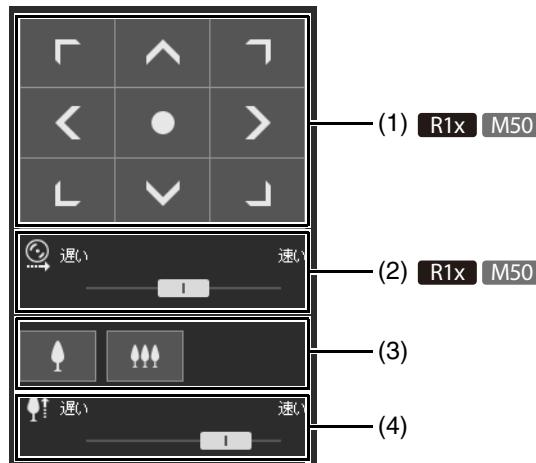
3 マウスボタンを放す

カメラが停止します。

■ [カメラ操作] メニューの [パン/チルト/ズーム] で操作する

R1x M50 H76x

[■] [カメラ操作] メニューを開いて、カメラのパン・チルト・ズームを操作します。



(1) [パン/チルト] R1x M50

各矢印の方向にアングルを移動します。押し続けると動作し、放すと停止します。

中心のボタンをクリックすると、カメラはパン/チルトそれぞれの可動範囲の中間位置に移動します。ただし、可視範囲制限が設定されていて (P. 128)、中間位置が可視範囲外になる場合は、可視範囲の端にカメラアングルが移動します。

(2) [パン/チルト速度] R1x M50

[パン/チルト] のボタン操作による動作速度を設定します。

(3) [ズーム]

(ズームイン) または (ズームアウト) ボタンを押してズーム操作をします。押し続けると動作し、放すと停止します。

(4) [ズーム速度]

[ズーム] のボタン操作による動作速度を設定します。

メモ

[パン/チルト速度]、[ズーム速度]の設定を変更しても、スライダーおよびパノラマ上でのパン・チルト・ズーム操作の速度は変更されません。

パノラマ表示パネルで操作する

R1x M50

パノラマ表示パネルの枠を操作することにより、カメラを操作できます。

パノラマ表示パネルにパノラマ画像を表示するには、パノラマ画像を作成してカメラに保存しておく必要があります(P. 123)。

1 [パノラマ表示] ボタンをクリックする



コントロール表示部にパノラマ表示パネルが表示されます。

2 パノラマ表示パネル上の枠を操作して、パン・チルト・ズームする

表示される枠は、現在カメラが撮影している範囲を示しています。



ドラッグで移動/ズーム変更

枠内でマウスボタンを押してドラッグすると、パン・チルトが移動します。

枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しい枠が描けます。その枠内を撮影するようにパン・チルト・ズームが移動します。

枠線をドラッグして枠のサイズを変更すると、枠内が撮影されるようにズーム倍率が変わります。

クリックで移動

枠の外側をクリックすると、クリックした場所が中心となるように枠が移動し、パン・チルトが移動します。

映像を調整する

[カメラ操作] メニューを開いて、フォーカス、露出補正、鮮明IRモード、ディナイトを操作します。

■ フォーカスを合わせる

被写体に焦点を合わせます。



[オート]

自動的にフォーカスを合わせます。

[マニュアル]

(遠) (近) ボタンを押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調整します。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

メモ

- フォーカス使用についての注意事項は、P. 113 の重要をご確認ください。
- フォーカスの合う範囲については、P. 113の表を参照してください。

■ 露出補正を設定する

映像の明暗を調節します。

映像を暗くしたい場合はマイナスの値へ、明るくしたい場合はプラスの値へスライダーを動かします。



重要

- 設定ページの [露出] (P. 114) が [マニュアル] のときは設定できません。
- 設定ページの [スマートシェード補正] (P. 116) が [オート] の場合は設定できません。

■ 鮮明IRモードを設定する

M50 H761

[鮮明IRモード] ボタンをクリックしてオン(紫)にすると、白黒映像になり、遠景のかすみや陽炎のゆらぎを軽減します。



オン状態



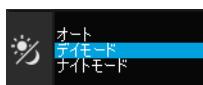
オン状態 (カメラ制御権解放中)



オフ状態

■ デイナイトを切り換える

カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します。



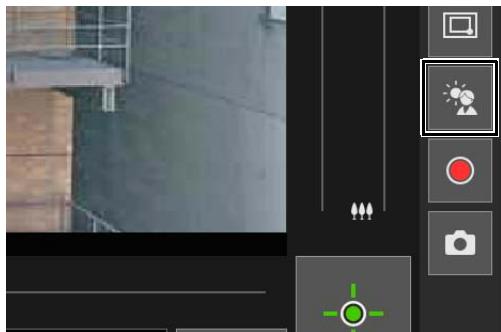
機能の詳細は、設定ページの「デイナイト」(P. 118) を参照してください。

重要

- ・デイナイトは管理者および特権制御権限を持った登録ユーザーが設定できます。
- ・鮮明IRモードがオン(紫)の場合、デイナイトは設定できません。M50 H761
- ・デイナイト使用についての注意事項は、P. 118 の重要をご確認ください。

逆光補正を使用する

映像が逆光で暗い場合、[逆光補正] ボタンをクリックすると、暗かった映像が明るくなります。



逆光補正中は、[逆光補正] ボタンがアクティブ(紫)に変わります。
もう一度ボタンをクリックすると解除されます。

重要

- ・設定ページの [スマートシェード補正] が [オート] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。
- ・設定ページの [露出] が [マニュアル] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。

メモ

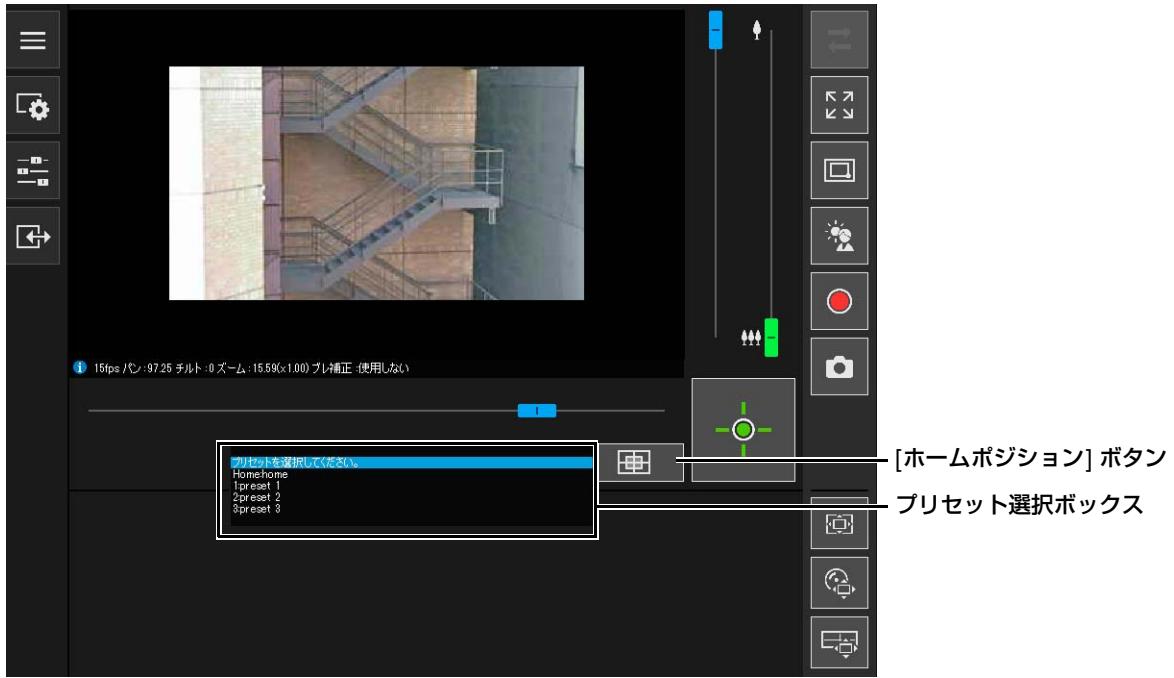
明るい部分の白飛びが気になる場合は、設定ページの [スマートシェード補正] を使用してください。

プリセット/ホームポジションを使用する

カメラにあらかじめ登録したプリセットやホームポジションにより、カメラを制御できます。

プリセット選択ボックスをクリックし、表示されたリストからプリセットを選択すると、選択したプリセットの登録内容に切り替わります。

また、[ホームポジション] ボタンのクリックで、カメラアングルがホームポジションの登録内容に切り替わります。



メモ

プリセットやホームポジションは、あらかじめ設定ページの [カメラ] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 131) で登録してください。登録したプリセットが、プリセット選択ボックスに表示されます。

ビューワー PTZとデジタルPTZ

ビューワー PTZとデジタルPTZは、どちらもデジタルズーム機能を利用した簡易的なパン・チルト・ズーム機能です。下記の相違点があります。

ビューワー PTZ	デジタルPTZ M50 H65x M64x H76x H751 M74x
カメラから配信された映像のうち、指定した部分をビューワー上で拡大して表示	撮影可能な全体画像のうち、切り出した映像のみを配信
受信データサイズ大	受信データサイズ小
カメラ制御権が必要	カメラ制御権が必要
ビューワーごとに独立してPTZ操作が可能	ビューワーごとの独立したPTZ操作が不可能（複数のビューワーが接続されている場合、他のビューワーでも同じ表示が適用される）
切り出しサイズは任意	切り出しサイズは5段階

映像の一部を拡大して表示する（ビューワー PTZ）

カメラ位置を固定したまま映像の一部を拡大（デジタルズーム）するには、ビューワー PTZを使用します。

カメラのパン・チルト・ズーム機能を使用しないため、インテリジェント機能の使用時など、カメラ位置を変更したくないときに活用できます。

■ 重要 R1x M50

ビューワー PTZの使用中は、映像表示部のクリック/ドラッグによるカメラ操作は行えません。

■ メモ

- ビューワー PTZによる拡大映像は、録画できません。
- ビューワー PTZ使用時は、全画面表示でも拡大映像が表示されます。

1 [ビューワー PTZ] ボタンをクリックする

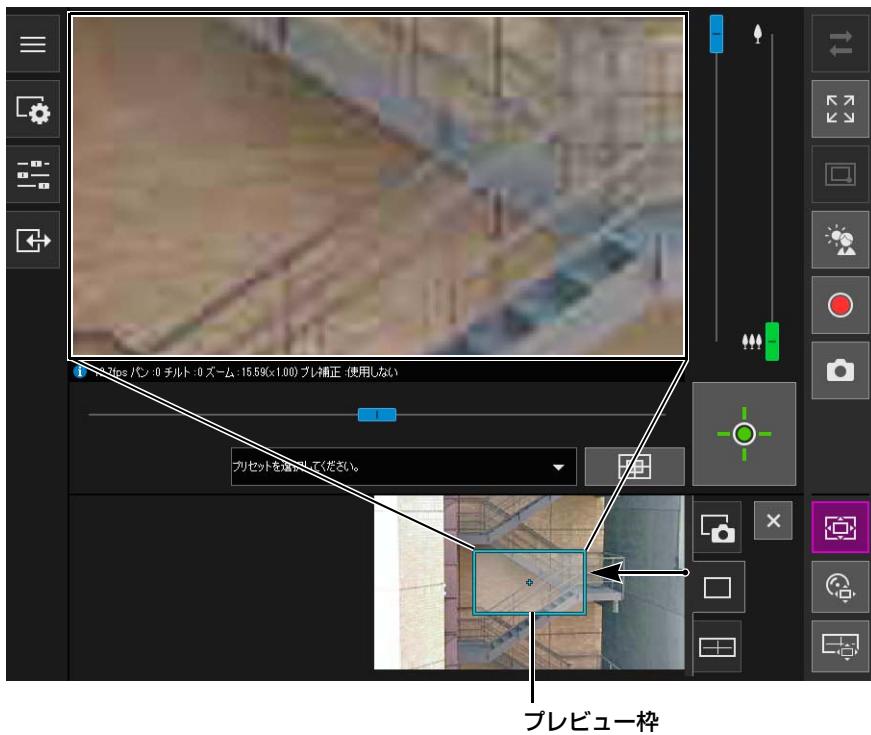


[ビューワー PTZ]ボタンがアクティブ（紫）に変わり、コントロール表示部にビューワー PTZパネルが表示されます。

初期状態では、映像全体をプレビュー枠（水色）が囲んでいます。

2 ビューワー PTZパネルで、プレビュー枠の枠線をドラッグして縮小する

縮小したプレビュー枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



3 拡大したい部分にプレビュー枠を移動、リサイズする

ドラッグで移動/サイズ変更

枠内でマウスボタンを押してドラッグすると、プレビュー枠が移動します。

枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しいプレビュー枠が描けます。

枠線をドラッグしてプレビュー枠のサイズを変更すると、拡大または縮小します。

クリックで移動

枠の外側をクリックすると、クリックした場所が中心となるようにプレビュー枠が移動します。

スライダーで移動/サイズ変更 H65x M64x H76x H751 M74x

映像表示部のパン・チルト・ズームスライダー操作で、プレビュー枠を移動できます。ズームスライダー操作で、プレビュー枠を拡大または縮小できます。

メモ

ビューウォー PTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

ビューウォー PTZを終了するには

以下の操作をすると、ビューウォー PTZが終了します。

- [ビューウォー PTZ] ボタンをクリックして、[ビューウォー PTZ] ボタンをOFFにする
- [デジタルPTZ] ボタンをクリックして、デジタルPTZを起動する M50 H65x M64x H76x H751 M74x

メモ

以下の操作をしても、[ビューウォー PTZ] ボタンがアクティブ（紫）の間はビューウォー PTZは終了せずに映像表示部の拡大表示が保持されます。

- コントロール表示部の「閉じる」ボタンをクリックして、ビューウォー PTZパネルを閉じる
- スナップショットタブまたはパノラマ表示タブ R1x M50 をクリックして、コントロール表示部のパネルを切り替える

映像の一部を切り出して表示する（デジタルPTZ）M50 H65x M64x H76x H751 M74x

デジタルPTZパネルを使用すると、カメラ映像の一部を映像表示部に切り出して表示できます。

メモ

H.264映像受信中にデジタルPTZを有効にすると、受信映像はJPEGに切り換わります。

デジタルPTZパネルで映像を切り出す

1 [デジタルPTZ] ボタンをクリックする



[デジタルPTZ] ボタンがアクティブ（紫）に変わり、コントロール表示部にデジタルPTZパネルが表示されます。

2 デジタルPTZパネル上のプレビュー枠を移動、サイズ変更する

プレビュー枠の操作方法はビューワーPTZと同じです（P. 72）。

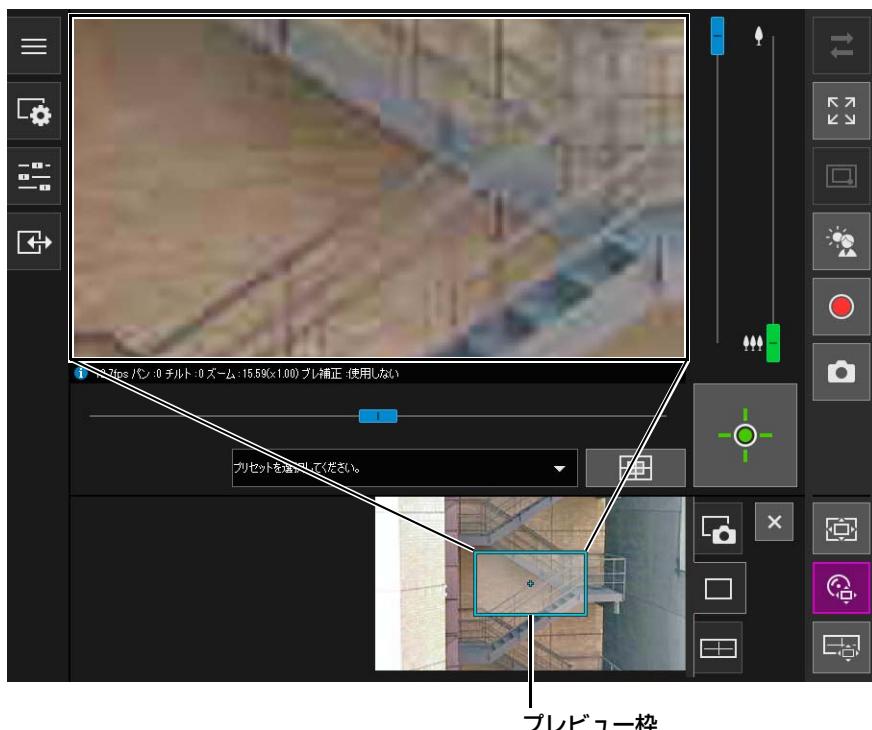
プレビュー枠のサイズは、5段階で変更できます。設定できるサイズは、設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定（P. 101）によって、次のように変わります。

- ・アスペクト比が16:9の場合：640x360、512x288、384x216、256x144、128x72
- ・アスペクト比が4:3の場合：640x480、512x384、384x288、256x192、128x96

メモ

プレビュー枠は段階的に移動します。細かい位置合わせはできません。

操作したプレビュー枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



重 要

M50 | H76x

スライダー操作やプリセットにより、カメラのアングルが変わっても、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠位置は固定です。

■ メモ

デジタルPTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

プリセット/ホームポジションを使用する **H65x M64x H76x H751 M74x**

登録されているプリセットやホームポジションを使用して、デジタルPTZの範囲を指定できます。

プリセットを選択すると、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠がプリセット位置に移動し、枠内の映像が映像表示部に表示されます。

■ メモ

プリセットは、あらかじめ設定ページの [カメラ] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 131) で登録してください。

デジタルPTZを終了するには

以下の操作をすると、デジタルPTZが終了します。

- [デジタルPTZ] ボタンをクリックして、[デジタルPTZ] ボタンをOFFにする
- [ビューワー PTZ] ボタンをクリックして、ビューワー PTZを起動する

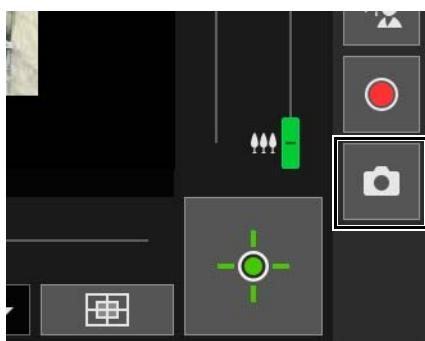
■ メモ

- 以下の操作をしても、[デジタルPTZ] ボタンがアクティブ（紫）の間はデジタルPTZは終了せずに継続されます。
 - コントロール表示部の [閉じる] ボタンをクリックして、デジタルPTZパネルを閉じる
 - スナップショットタブまたはパノラマ表示タブ **M50** をクリックして、コントロール表示部のパネルを切り替える

スナップショットを保存する

映像表示部で映像を確認しながら、スナップショットを取得します。

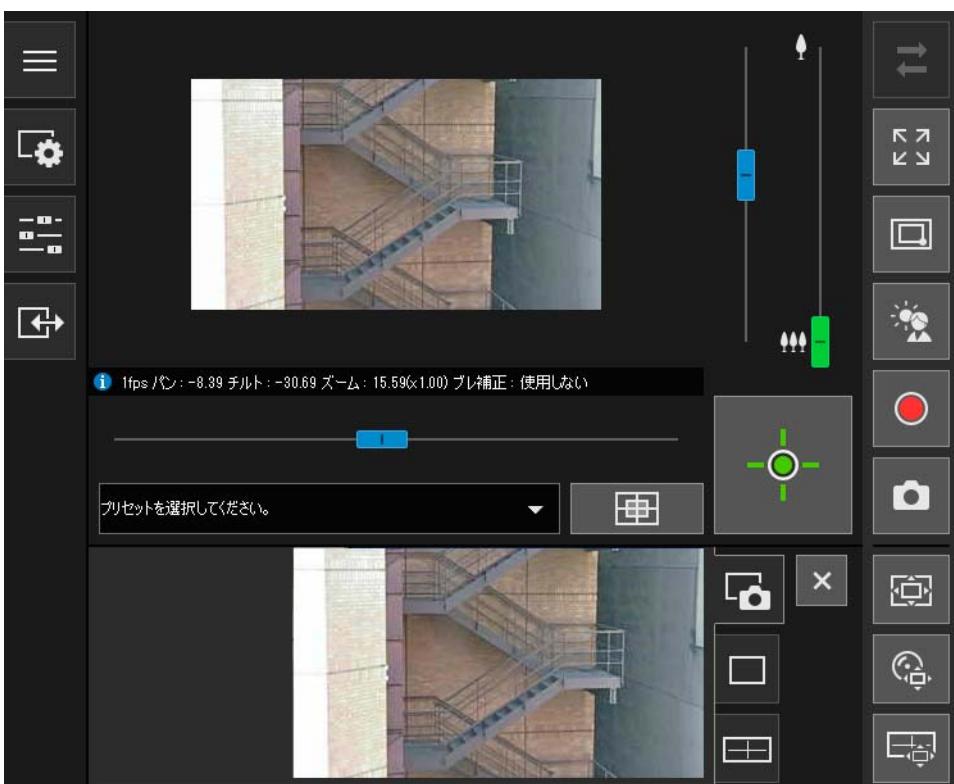
- 1 静止画を撮りたいタイミングで、[スナップショット] ボタンをクリックする



コントロール表示部にスナップショットパネルが開き、クリックした瞬間の静止画が表示されます。

この状態で [スナップショット] ボタンをクリックすると、スナップショットパネルに表示される映像が更新されます。

- 2 静止画を保存する場合は、スナップショットパネル上でマウスを右クリックする



- 3 メニューの [名前を付けて画像を保存] をクリックする

- 4 任意のファイル名を付けて保存する

メモ

- スナップショットはJPEGファイルで保存されます。
- 保存されるスナップショットのサイズは、受信映像サイズです。

メモリーカードに映像を記録する

4

カメラビューワー

映像表示部に表示中の映像を、カメラにセットしたメモリーカードに手動で録画します。

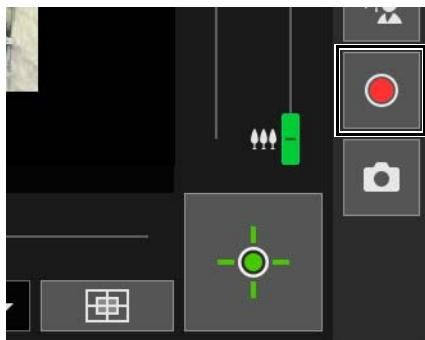
■ メモ

- 次の条件を満たしている場合に、手動録画できます。
 - カメラにセットしたメモリーカードがマウントされている
 - 設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] (P. 219) で、[動作設定] を [ログと映像を保存する] に設定している
- メモリーカードに録画される映像フォーマットと映像サイズは、設定ページの設定に従います。
 - 映像フォーマット : [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] の [映像フォーマット] (P. 220)
 - 映像サイズ : JPEG [基本] > [映像] > [JPEG] の [映像サイズ : アップロード / メモリーカード]
H.264 [基本] > [映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の [映像サイズ]

映像を手動録画する

1 カメラの制御権を取得していない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を取得する

2 [メモリーカード録画] ボタンをクリックする



録画中は、[メモリーカード録画] ボタンの表示が変わります。

	録画中
	録画中 (カメラ制御権解放中)
	録画していない状態 (カメラ制御権取得中)
	録画していない状態 (カメラ制御権解放中、または、カメラにメモリーカードをマウントしていない状態)

3 録画を停止するには、もう一度 [メモリーカード録画] ボタンをクリックする

■ 重 要

- メモリーカードへの手動録画は、録画開始から300秒が経過した時点で停止します。
- 手動録画中は、[設定ページ] の各設定を変更しないでください。録画が停止する場合があります。
- メモリーカード手動録画中に、制御権を解放したり、カメラの接続を切断しても、継続して録画されます。

録画した映像を確認する

メモリーカードに手動録画した映像は、録画映像ユーティリティで確認および再生できます。

詳細は、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

[映像と音声] メニューを開いて、カメラからの音声受信とビューワーからの音声送信、およびそれぞれの音量を設定します。

音声を受信する

4

カメラに接続したマイクから入力された音声を受信し、ビューワーで再生します。

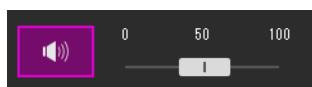
1 [映像と音声] メニューの [音声受信] ボタンをクリックする



音声受信が開始されます。

音声受信中は、[音声受信] ボタンがアクティブ(紫)に変わります。

2 [出力音量] のスライダーで適切な音量に調節する



メモ

- 音声を受信するには、マイクをカメラに接続し、設定ページの [サーバー] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] を [送信する] に設定する必要があります (P. 156)。
- アイコンがアクティブ(紫)の間は、[映像と音声] メニューを閉じても常に音声が受信されます。
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を使用する場合、[コントロールパネル] の [ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシサーバーを使用する] をチェック> [詳細設定] > [例外] に、カメラのIPアドレスを指定する必要があります。

音声を送信する

カメラビューワー

PCに接続した外部デバイスから入力した音声を、カメラに接続したアンプ付きスピーカーで出力できます。

1 [映像と音声] メニューの [音声データ送信時間] で、音声を送信する最大時間を選択する



2 [音声送信] ボタンをクリックする

音声送信が開始されます。

音声送信中は、[音声送信] ボタンのアイコンがアクティブ (紫) に変わります。



3 [入力音量] のスライダーで適切な音量に調節する

メモ

- 音声を送信するには、あらかじめ設定ページの [サーバー] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] を [受信する] に設定する必要があります (P. 156)。
- アイコンがアクティブ (紫) の間は、[映像と音声] メニューを閉じても常に音声が送信されます。
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を使用する場合、Internet Explorerの [インターネットオプション] > [接続] タブ> [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシ サーバーを使用する] をチェック> [詳細設定] > [例外] に、カメラの IPアドレスを指定する必要があります。

イベント検知の状態を確認する

図 [イベントと入出力] メニューで、外部デバイスの出力操作や外部デバイスの入力状態、インテリジェント機能の検知状態、連結イベントの発生状態を確認できます。

外部デバイス出力を操作する

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

4

カメラビュー

設定ページの [イベント] > [外部デバイス] (P. 165) で設定された、外部デバイスの出力を操作します。アイコンをクリックすると、アクティブ(紫)/インアクティブ(グレー)の状態を切り換えることができます。



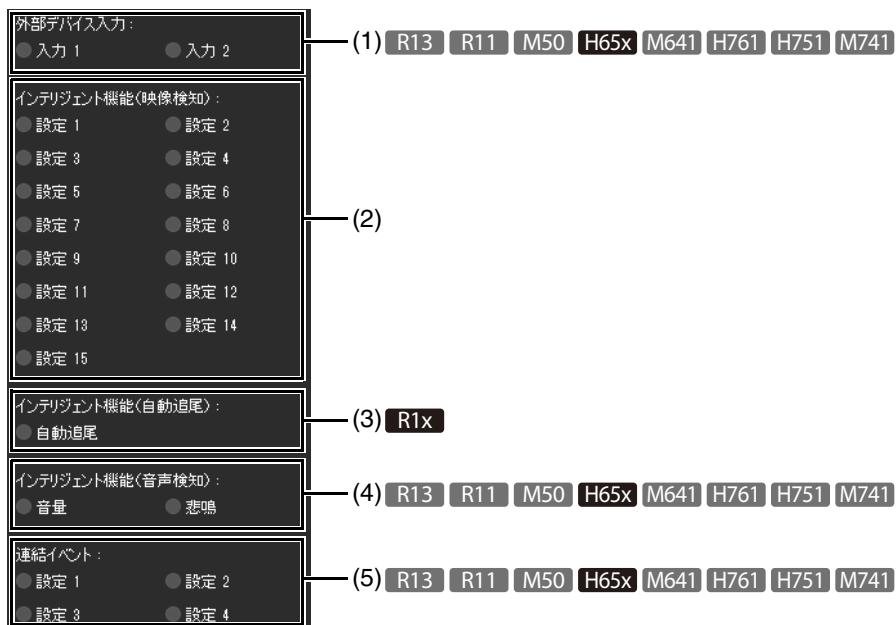
出力1：出力アクティブ状態

出力2：出力インアクティブ状態

メモ

外部デバイス出力を操作するには、カメラ制御権を取得する必要があります。

イベント検知の状態を確認する



(1) [外部デバイス入力] R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

設定ページの [イベント] > [外部デバイス] (P. 166) で設定された、外部デバイスの入力状態が表示されます。

外部デバイスによる接点入力信号を受けると、入力がアクティブとなりアイコンが緑色になります。

例：



入力1：入力インアクティブ状態

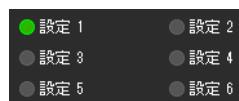
入力2：入力アクティブ 状態

(2) [インテリジェント機能(映像検知)]

設定ページの [イベント] > [インテリジェント機能] の映像検知 (P. 178) で設定された、映像検知の状態が、検知設定番号ごとに表示されます。インテリジェント機能(動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知、侵入検知)の検知設定で、検知あり状態になると、そのアイコンが緑色になります。

設定ページの [イベント] > [インテリジェント機能] (P. 183) の [検知設定名] に名前が入力されている場合は、[設定1] ~ [設定15] に、その名前が表示されます。

例:



設定1：映像検知状態 ON

他の設定：映像検知状態 OFF

目次

検知あり状態を示すアイコン表示は、最大で約5分間です（動体検知を除く）。

(3) [インテリジェント機能(自動追尾)] R1x

設定ページの [イベント] > [インテリジェント機能] の自動追尾 (P. 196) で設定された、自動追尾の状態が表示されます。検知あり状態になると、アイコンが緑色になります。

例:



自動追尾状態 ON

(4) [インテリジェント機能(音声検知)] R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

設定ページの [イベント] > [音声検知] (P. 168) で設定された、[音量検知] または [悲鳴検知] の状態が表示されます。検知あり状態になると、アイコンが緑色になります。

例:



音量：音量検知状態 ON

悲鳴：悲鳴検知状態 OFF

(5) [連結イベント] R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

設定ページの [イベント] > [連結イベント] (P. 204) で設定された、連結イベントの状態が表示されます。連結イベントありの状態になると、アイコンが緑色になります。

例:



設定2：連結イベント状態 ON

他の設定：連結イベント状態 OFF

5 章

設定ページ

設定ページでは、カメラを使用するのに必要なすべての設定を行います。カメラ運用開始前に、カメラの使用状況に合わせて設定ページで各種設定をしてください。

また、カメラのメンテナンスなど、運用中に行うメニューも用意されています。

設定ページの使いかた

設定ページを表示するまでの操作と、設定ページの共通操作について説明します。

■ メモ

- ・設定ページは、管理者のみ操作できます。
- ・事前にカメラマネジメントツールで管理者アカウントとネットワークの設定を行ってください (P. 36)。

設定ページにアクセスする

カメラマネジメントツールで設定したIPアドレス (P. 38) を、Webブラウザーに直接入力してカメラの設定ページを表示します。

■ メモ

設定ページは、カメラマネジメントツールからアクセスすることもできます。詳細は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

1 Webブラウザーを起動する

2 IPアドレスを入力し、Enterキーを押す

ユーザー認証の画面が表示されます。

3 管理者名と管理者パスワード (P. 36) を入力し、[OK] をクリックする

設定メニューが表示されます。

■ メモ

設定メニューの [基本] > [ビューワー] > [全般] > [デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定した場合は、ビューワーが表示されます (P. 104)。

■ 設定メニューについて



(1) [ビューワー] ボタン

カメラビューワーを起動します (P. 49)。

(2) 言語切り換えボタン

画面に表示する言語設定します。

(3) 設定メニュー

クリックすると、[メモリーカード]、[ユーザーページ]以外のメニューでは、サブメニュー(P. 89)が表示されます。サブメニューをクリックして、各設定ページに移動します。

重要

- 認証済みのWebページを表示したまま、別のウィンドウやタブを開いてカメラにアクセスすると、表示中のWebページの認証情報が破棄される場合があります。その場合は、再度認証情報を入力してください。
- セキュリティを確保するため、設定ページによる設定の完了後、およびカメラビューワーの使用後は、Web ブラウザーを終了してください。
- 1つのカメラに対しては、同時に複数の設定ページを開いて変更操作を行わないでください。

メモ R11 R10 M64x M74x

管理者パスワードを8文字以上に設定しても、設定メニューのタイトル右横に下記のメッセージが常に表示されます。
「管理者パスワードは8文字以上を推奨します。」

設定ページ共通の操作

設定ページの基本的な操作と、各設定ページで共通な操作について説明します。

メモ

Webブラウザーでダイアログを表示しない設定を有効にすると、設定ページの操作ができなくなる場合があります。その場合は、Web ブラウザーを終了し、再度起動してください。

■ 設定変更の適用について

各設定ページ内で設定を変更すると、設定ページ右上および右下に表示されている [適用] および [クリア] のグレーアウトが解除され、クリックできるようになります。



この状態で [適用] をクリックすると、変更した設定が適用されます。

[クリア] をクリックすると、変更する前の設定に戻ります。

■ 再起動が必要な設定変更

変更した設定を適用するために、カメラを再起動させる必要がある設定項目には、右端にオレンジの [再起動] 記号が付いています。



[再起動] 記号がある項目を変更すると、設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、[適用して再起動] に変わります。



[適用して再起動] をクリックすると、変更内容が適用され、カメラが再起動します。

[クリア] をクリックすると、変更する前の設定に戻ります。

重要

[適用] または [適用して再起動] をクリックせずに別の設定ページへ移動すると、変更内容が失われてしまいます。変更内容を適用するには、必ず [適用] または [適用して再起動] をクリックしてください。ただし、[カメラアングル] と [起動時設定] は変更内容を [適用] せずにページを移動した場合でも変更が保持されるため、設定を破棄したい場合は、[クリア] をクリックしてください。

■ 設定メニューに戻る

各設定ページから設定メニューに戻る場合は、右上に表示されている [設定メニュー] をクリックします。



📘 重要

Web ブラウザーの [戻る]・[進む] ボタンによる設定ページの移動は行わないでください。変更した設定が元に戻ってしまうことや、意図しない変更が適用されてしまう可能性があります。

■ ヘルプについて

設定項目先頭にある ⓘ [Help] をクリックすると、設定項目の詳細説明が表示されます。

■ 設定範囲や文字数の制限について

数値入力や文字入力を行う設定項目には、設定可能範囲や文字数の制限が表示されています。
表示されている範囲内で入力してください。

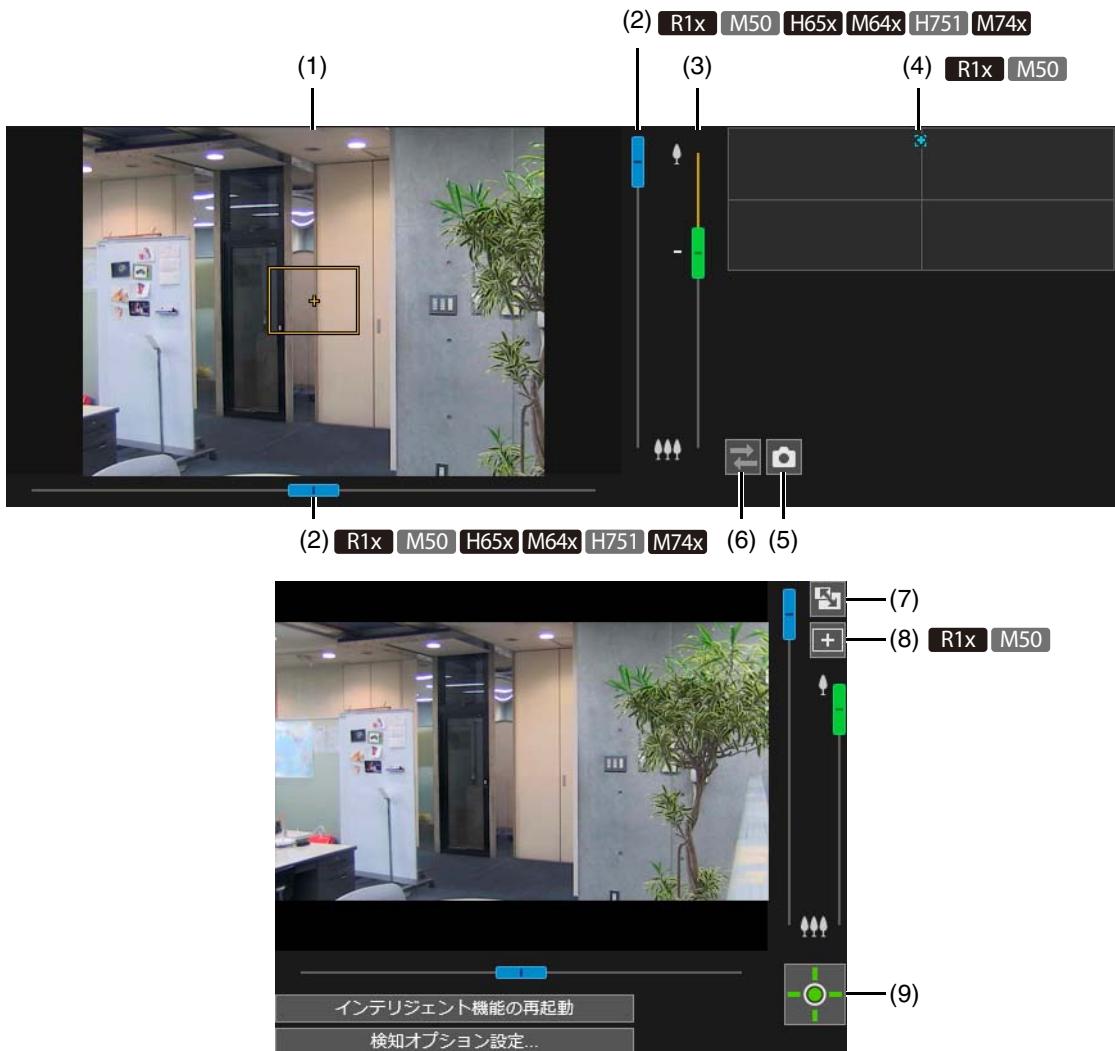


映像表示部の操作について

[起動時設定]、[プリセット]、[インテリジェント機能] など、一部の設定ページでは映像表示部を使って設定を行います。

🎥 メモ

- 設定ページによって、表示される項目が変わります。
- 設定ページで映像表示中は、他のユーザーはビューワーにアクセスできなくなります。また、ビューワーに管理者が接続中は、設定ページの映像表示ができなくなり、設定できません。



(1) 映像表示部

現在のカメラ映像が表示されます。映像表示部上のマウス操作で、領域などを設定します。映像表示部の操作はビューワーと同じです (P. 64)。

R1x M50

設定ページによっては、映像表示部上でカーソルが [+] のとき次の操作ができます。

- クリックした位置にカメラアングルをセンタリング (P. 64)
- エリアズーム操作 (P. 65)

(2) パン・チルトスライダー **R1x M50 H65x M64x H751 M74x**

映像表示部で行うカメラのパン・チルト操作は、ビューワーと同じです (P. 64)。

(3) ズームスライダー

映像表示部で行うカメラのズーム操作は、ビューワーと同じです (P. 64)。

(4) パノラマ画面/全体画面

カメラの可動範囲を全体に表示します。設定ページによっては、パノラマ画面上のマウス操作で、領域などを設定できます。

R1x M50

カメラにパノラマ画像が登録されている場合 (P. 123) は、パノラマ画像が表示されます。

(5) [スナップショット] ボタン

クリックした瞬間の静止画を、スナップショットウィンドウを開いて表示します (P. 76)。

(6) [再接続] ボタン

カメラに接続し直します。カメラに接続していない場合に操作できます。

(7) [画面サイズ切り換え] ボタン

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のサイズを大小で切り替えます。

(8) [マウス操作切り換え] ボタン R1x M50

ボタンをクリックし、ボタンが紫色のあいだ、マウスを使って映像表示部上でカメラのパン・チルト操作ができます。

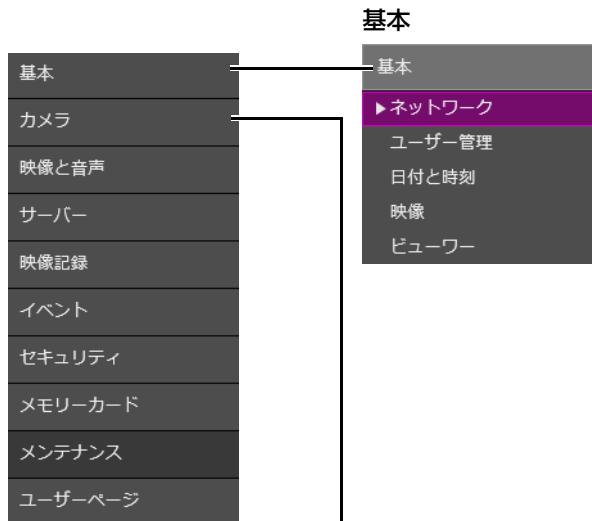
(9) [カメラ制御権取得/解放] ボタン

カメラ制御権 (P. 63) を取得または解放します。

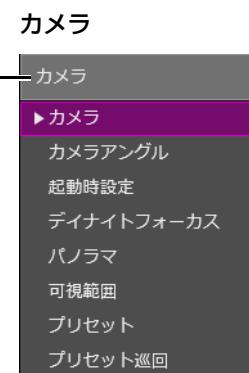
各設定ページについて

設定メニューの各項目の概要と、それぞれのサブメニューの一覧を紹介します。

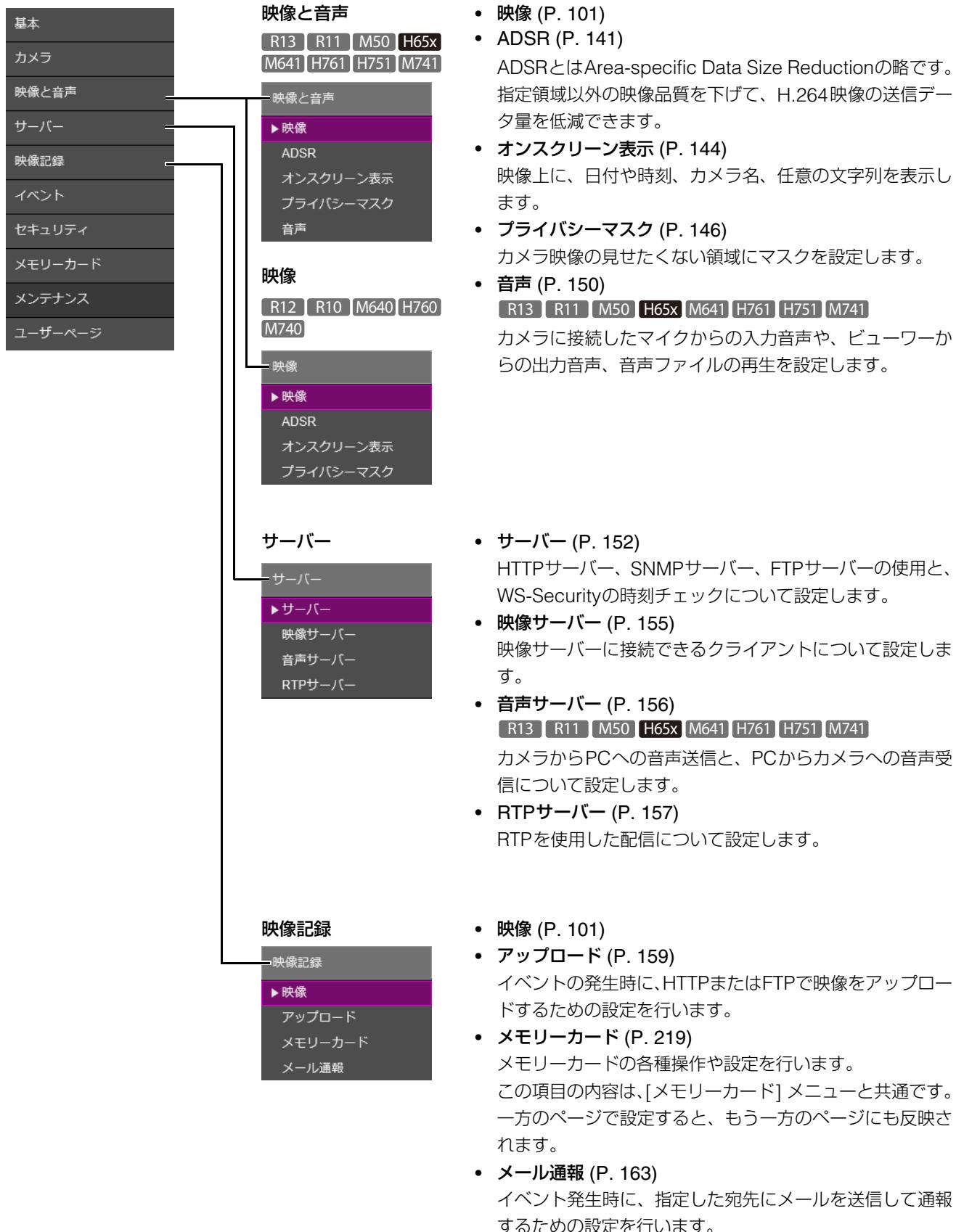
なお、[基本]、[映像と音声] または [映像]、[映像記録] の各メニューには、それぞれ [映像] サブメニューがありますが、機能はすべて共通です。どのメニューからの操作でも、機能を設定でき、すべての [映像] サブメニューに設定が反映されます。

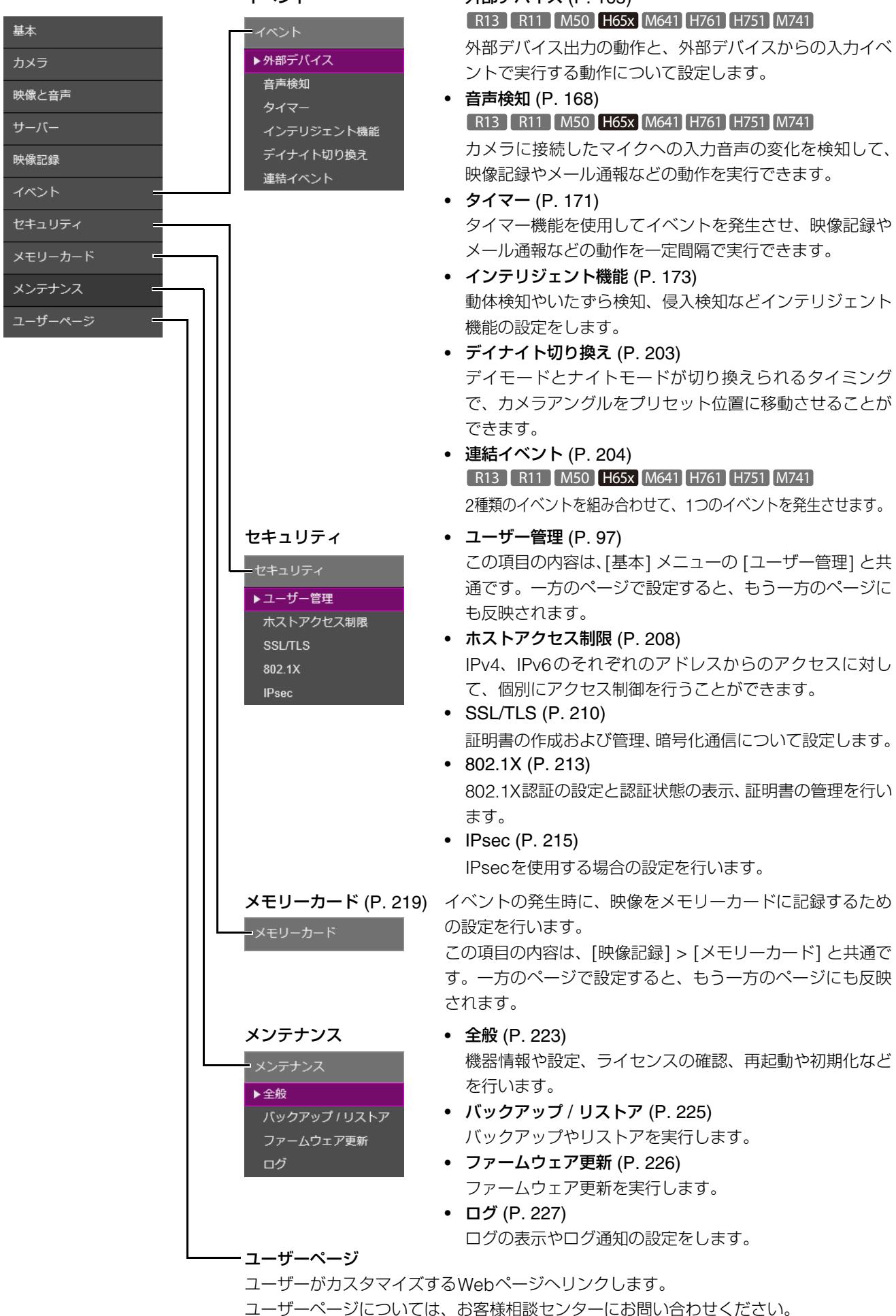


- **ネットワーク (P. 93)**
カメラを接続するネットワークについて設定します。
- **ユーザー管理 (P. 97)**
管理者のアカウント情報や登録ユーザーの追加・削除、操作権限を設定します。
この項目の内容は、[セキュリティ] > [ユーザー管理] と共通です。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。
- **日付と時刻 (P. 99)**
カメラの日付と時刻に関して設定します。
- **映像 (P. 101)**
カメラから送信する映像のサイズや品質など、映像の全般的な設定をします。
- **ビューワー (P. 104)**
ビューワーの起動、認証、表示に関する設定を行います。



- **カメラ (P. 106)**
カメラ名や外部入力/出力デバイス名の設定、およびカメラの動作、設置について設定します。
- **カメラアングル (P. 41) H651 M64x**
カメラの設置後、表示される映像を見ながらカメラアングルを設定します。
- **起動時設定 (P. 111)**
カメラ起動時の画質補正などの初期値を設定します。
- **デイナイトフォーカス (P. 120)**
デイナイト切り換え時のフォーカス位置を設定します。
- **パノラマ (P. 123) R1x M50**
パノラマ画像の作成・管理について設定します。
- **可視範囲 (P. 127) R1x M50 H76x**
カメラで撮影できる範囲を設定します。
- **プリセット (P. 131)**
一連の設定をプリセット登録します。
- **プリセット巡回 (P. 135)**
登録済みの複数のプリセットを自動で巡回するための設定を行います。





カメラのアナログビデオ出力が有効のとき、設定ページの次のサブメニューでは画面メッセージが表示されます。

- 映像、起動時設定、ディナイトフォーカス、プリセット、プリセット巡回、ADSR、プライバシーマスク、RTPサー
バー、アップロード、メモリーカード、インテリジェント機能



ビデオ出力は30分経過すると、自動的にカメラの再起動を行います。

再起動後はビデオ出力が無効になり、サブメニューの設定が可能です。

[再起動]

サブメニューの設定をするには、[実行] をクリックしてカメラを再起動します。

■ メモ

アナログビデオ出力の詳細については、『設置ガイド』を参照してください。

[基本] > [ネットワーク] ネットワークを設定する

カメラを接続するネットワークについて設定します。

ネットワーク	
LAN	
① LANインターフェース	オート
② 最大パケットサイズ 576~1500	1500
IPv4	
① IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定
② IPv4アドレス	192.168.1.1
③ サブネットマスク	255.255.255.0
④ IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	192.168.1.1
⑤ AutoIPの使用	使用する
⑥ IPv4アドレス (AutoIP)	192.168.1.100-204
IPv6	
① IPv6の使用	使用する
② 自動設定 (RA)	有効
③ 自動設定 (DHCPv6)	有効
④ IPv6アドレス (マニュアル設定)	
⑤ ブレイフィックス長 16~128	64
⑥ IPv6デフォルトゲートウェイアドレス	fe80::2E0:8A8B%en01-130/954
⑦ IPv6アドレス (自動設定)	

ここでは次の設定ができます。

- LAN
- IPv4
- IPv6
- DNS
- mDNS

DNS	
① ネームサーバーアドレス 1	
② ネームサーバーアドレス 2	
③ ネームサーバーアドレスの自動設定	DHCP / DHCPv6を使用する
④ ネームサーバーアドレス (DHCP)	
⑤ ネームサーバーアドレス (DHCPv6)	
⑥ ホスト名 83文字以内	
⑦ ホスト名のDDNS登録	登録しない
⑧ サーチドメイン 83文字以内	追加
⑨ サーチドメインリスト	<input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="▲"/> <input type="button" value="▼"/>
mDNS	
⑩ mDNSの使用	使用する

重要

ネットワークの接続に関わる設定を変更すると、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性があります。この場合、[適用] または [適用して再起動] をクリックすると、確認のダイアログが表示されます。変更結果を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。

設定変更によるカメラの再起動後、Webブラウザーからカメラに再接続できない場合、カメラに再接続するためのURIの候補があれば、メッセージとともに表示されます。表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

LAN

LANの通信方式と、カメラからの送信データサイズを設定します。

[LANインターフェース]

カメラを接続する機器のインターフェースに合わせて選択します。通常は [オート] を使用してください。

[最大パケットサイズ]

カメラが送信するパケットの最大サイズを入力します。通常は1500から変更する必要はありません。

IPv6を使用する場合は、1280以上に設定する必要があります。

ADSLをご利用の場合、この数値を少し下げる、送信効率が上がる場合があります。

IPv4

カメラへの接続にIPv4を使用する場合に設定します。IPv4のアドレスは、DHCPサーバーから自動で取得するか、手動で設定できます。

重 要

- IPv4をマニュアル設定する場合の [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。
- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] の設定のいずれかに誤りがある場合、ネットワーク経由でアクセスできなくなることがあります。この場合はカメラマネジメントツールを用いて、再度アドレスを設定してください (P. 38)。

[IPv4アドレス設定方式]

IPv4アドレスの設定方式を選択します。

[マニュアル設定] の場合は、[IPv4アドレス] に固定のIPv4アドレスを入力します。

[自動設定(DHCP)] の場合は、[IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] にDHCPサーバーから取得した値が自動的に設定されます。

重 要

IPv4アドレス設定を [自動設定(DHCP)] で使用する場合、DHCPサーバーとカメラの間にルーターがあるような環境では、IPv4アドレスが正しく割り振られない場合があります。その場合は、[マニュアル設定] を選択して固定のIPv4アドレスを設定してください。

[IPv4アドレス]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合、固定のIPv4アドレスを入力します。

127.0.0.1 のように 127. から始まるIPアドレスは設定できません。

[サブネットマスク]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合、ネットワークごとに指定されたサブネットマスク値を入力します。

[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合に入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

[AutoIPの使用]

AutoIPの使用の有無を選択します。

[IPv4アドレス(AutoIP)]

[AutoIPの使用] が [使用する] の場合、自動的に設定されたIPアドレスが表示されます。

IPv6

カメラへの接続にIPv6を使用する場合に設定します。IPv6のアドレスは、RAまたはDHCPv6サーバーから自動で取得するか、手動で設定できます。

重 要

IPv6を手動設定する場合の [IPv6アドレス(マニュアル設定)]、[プレフィックス長]、[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。

[IPv6の使用]

IPv6の使用の有無を選択します。

[自動設定(RA)]

RA (Router Advertisement、ルーターから自動的に送信されるネットワーク情報) を利用してアドレスを自動で設定する場合は、[有効] を選択します。

[自動設定(DHCPv6)]

DHCPv6を利用してアドレスを自動で設定する場合は、[有効] を選択します。

[IPv6アドレス(マニュアル設定)]

アドレスを手動で設定する場合、固定のIPv6アドレスを入力します。

[プレフィックス長]

[自動設定(RA)] が [無効] の場合、プレフィックス長を入力します。

[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス]

[自動設定(RA)] が [無効] の場合、デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

[IPv6アドレス(自動設定)]

[IPv6の使用] が [使用する] で、[自動設定(RA)] と [自動設定(DCHPv6)] が [有効] の場合、自動的に取得したアドレスが表示されます。

■ メモ

IPv6が使用できない環境では、IPv6を [使用する]、自動設定を [有効] に設定した場合、[IPv6アドレス(自動設定)] 表示欄にはリンクローカルアドレスのみが表示されます。

DNS

DNSサーバーのアドレスを設定します。DNSサーバーのアドレスは手動設定するか、DHCP/DCHPv6サーバーから自動で取得します。

[ネームサーバーアドレス1]、[ネームサーバーアドレス2]

登録したいネームサーバーアドレスを入力します。1つしか登録しない場合は、[ネームサーバーアドレス 2] は空欄のままにしてください。

■ メモ

[ネームサーバーアドレス 1] が使用できない場合は、[ネームサーバーアドレス 2] にアクセスします。ただし、[ネームサーバーアドレス 2] が事前に設定されていることが前提です。

[ネームサーバーアドレスの自動設定]

ネームサーバーアドレスを自動で設定する場合、使用するサーバーを選択します。

[DHCPを使用する] に設定する場合、[IPv4アドレス設定方式] を [自動設定(DHCP)] (P. 94) にしてください。

[DCHPv6を使用する] に設定する場合、[IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定(DCHPv6)] を [有効] (P. 94) にしてください。

[ネームサーバーアドレス(DHCP)]

[ネームサーバーアドレスの自動設定] が [DHCPを使用する] または [DCHP/DCHPv6を使用する] の場合、DHCPサーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

[ネームサーバーアドレス(DCHPv6)]

[ネームサーバーアドレスの自動設定] が [DCHPv6を使用する] または [DCHP/DCHPv6を使用する] の場合、DCHPv6サーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

[ホスト名]

カメラのホスト名を、ネームサーバーに半角英数字で登録できます。

Internet Explorer 9/10/11では、ホスト名に “_” (アンダースコア) を使用しないでください。

[ホスト名のDDNS登録]

[ホスト名] を入力して [登録する] を選択すると、ホスト名がネームサーバーに登録されます。

[IPv4アドレス設定方法] を [自動設定(DHCP)] (P. 94)にして運用する場合、ホスト名をDDNSへ登録すると便利です。あらかじめDNSサーバーに登録を行うための設定が必要です。DNSサーバーの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。

[サーチドメイン]

サーチドメインリストにドメイン名を追加する場合、ドメイン名を入力して [追加] をクリックします。

サーチドメインリストにドメイン名が指定されていると、アップロードなどのサーバー指定でドメイン名なしのホスト名を指定するだけで、ホスト名+ドメイン名の形で扱われます。

Internet Explorer 9/10/11では、ドメイン名に“_”(アンダースコア)を使用しないでください。

[サーチドメインリスト]

[サーチドメイン] で追加されたドメイン名が一覧表示されます。

DNSサーバーに対して、このリストのドメイン名の上から順に問い合わせが行われます。

右側の▲▼ボタンでドメイン名の並び順を変更することができます。

ドメイン名を削除する場合は、ドメイン名を選択して [削除] をクリックします。

mDNS

マルチキャストDNSの使用について設定します。mDNSを使用すると、カメラのIPアドレスとホスト名の情報を、ネットワーク上の他のホストに通知します。

[mDNSの使用]

mDNSの使用の有無を選択します。

[基本] > [ユーザー管理] アカウント、権限について設定する

管理者アカウントの変更、登録ユーザーの新規追加と、登録ユーザーおよび一般ユーザーの権限設定を行います。

ユーザーの権限については、「カメラビューワーのアクセス制限」(P. 52)を参照してください。

[ユーザー管理] は、[セキュリティ] > [ユーザー管理] と共通です。一方のページで設定すると、もう一方の [ユーザー管理] にも反映されます。

The screenshot shows the 'User Management' interface. It includes fields for 'Administrator Account' (Name: administrator, Password: *****, Confirmation: *****) and 'Registered User Account' (Name: [redacted], Password: [redacted]). There is also a 'User List' section with a 'Delete' button and up/down arrows. The 'User Permissions' section shows checkboxes for 'Special Camera Control' and 'General Camera Control' for both 'Registered User' and 'Normal User' roles.

ここでは次の設定ができます。

- 管理者アカウント
- 登録ユーザー アカウント
- ユーザー権限

5

操作ページ

管理者アカウント

管理者のアカウント情報を変更する場合に設定します。

重要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは定期的に変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。
- 管理者パスワードを忘れてしまった場合は、工場出荷設定に戻してください (P. 249)。ただし、カメラの管理者アカウント・ネットワーク情報・時刻情報も含めたすべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。

[管理者名]

管理者名を半角英数字と “-”、“_” のみ入力できます。

[パスワード]

管理者パスワードを半角英数字で入力します。

カメラビューワーなどが接続している場合は、接続を終了してからパスワードを変更してください。

[パスワード(確認用)]

上と同じパスワードを確認のため入力します。

登録ユーザー アカウント

登録ユーザーを追加します。

[ユーザー名]、[パスワード]

ユーザー名とパスワードを入力して [追加] をクリックすると、登録ユーザーが追加されます。

ユーザー名には、半角英数字と “-”、“_” のみ入力できます。

パスワードは、半角英数字で入力します。

最大50の登録ユーザーを追加できます。

[ユーザーリスト]

追加された登録ユーザーが一覧表示されます。

右側の▲▼ボタンでリストの並べ替えができます。

リストでユーザーを選択して、[削除] をクリックすると、登録ユーザーが削除されます。

ユーザー権限

登録ユーザーと一般ユーザーの権限を設定します。カメラビューウィーのアクセス制限を、この設定でかけることができます (P. 52)。

[特権カメラ制御]、[一般カメラ制御]、[映像配信]

[音声配信] R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

各ユーザーに付与する権限の項目をチェックします。

登録ユーザーは一般ユーザーよりも上位の権限となります。

[基本] > [日付と時刻] 日付/時刻を設定する

カメラの日付と時刻に関して設定します。

日付と時刻		適用	クリア
現在の日付と時刻			
● 日付 yyyy/mm/dd	2016/08/13		
● 時刻 hh:mm:ss	10:10:05		
設定			
● 設定方法	手動で設定する		
● 日付 yyyy/mm/dd	2016/08/13		
● 時刻 hh:mm:ss	10:10:05		
● タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京		
● サマータイム	自動調整しない		

ここでは次の設定ができます。

- 現在の日付と時刻
- 設定

5

設定ページ

現在の日付と時刻

カメラに設定されている日付と時刻が表示されます。

設定

カメラの日付と時刻の設定方法、タイムゾーン、サマータイムを設定します。

[設定方法]

日付と時刻の設定方法を選択します。

[手動で設定する]

[日付]、[時刻]で任意の日付と時刻を設定します。
時刻は24時間制で<時:分:秒>の順に入力します。

[NTPサーバーに合わせる]

表示される [NTPサーバーの自動設定] で、設定方法を選択します。

[使用しない]

[NTPサーバー] に、NTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。

[DHCPを使用する]

DHCPサーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。[NTPサーバー (DHCP)] には、取得したNTPサーバーのアドレスが表示されます。

設定するには、[ネットワーク] > [IPv4] > [IPv4アドレス設定方式] を [自動設定(DHCP)] にする必要があります (P. 94)。

[DHCPv6を使用する]

DHCPv6サーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。[NTPサーバー (DHCPv6)] には、取得したNTPサーバーのアドレスが表示されます。

設定するには、[ネットワーク] > [IPv6] > [IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定(DHCPv6)] を [有効] にする必要があります (P. 94)。

[DHCP/DHCPv6を使用する]

DHCPサーバーまたはDHCPv6サーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。
DHCPサーバー (IPv4) とDHCPv6サーバーの両方からNTPサーバーのアドレスが取得できる場合は、DHCPサーバー (IPv4)から取得したNTPサーバーのアドレスが使用されます。

[同期間隔 (分)]

設定したNTPサーバーへの問い合わせ間隔を入力します。

[最終同期時刻]

設定したNTPサーバーと最後に同期をした時刻が表示されます。

[このコンピューターに合わせる]

日付と時刻を、現在カメラにアクセスしているコンピューターに合わせます。[適用] をクリックした後は、[設定方法] が [手動で設定する] になります。

[タイムゾーン] は自動的に選択されませんので、必要に応じて別途設定を行ってください。

メモ

- NTPサーバーのIPアドレスが正しくないなど、NTPサーバーに接続できない場合は、[最終同期時刻] が更新されない、または、空欄となります。
- カメラの時刻とNTPサーバーの時刻の差が大きい場合は、同期に時間がかかります。

[タイムゾーン]

グリニッジ標準時との時差を選択します。

タイムゾーンを変更し [適用] すると、指定したタイムゾーンに合わせて、日付と時刻の表示が自動的に変更されます。

[サマータイム]

サマータイムを、タイムゾーンに合わせて自動調整するかしないかを選択します。

[基本] > [映像] 映像のサイズや品質を設定する

カメラから送信する、JPEG/H.264のそれぞれの映像サイズや品質など、映像の全般的な設定をします。

[映像] は、[映像と音声] よび [映像記録] にある [映像] と共にあります。いずれかのページで設定すると、他のすべての [映像] にも反映されます。

映像

① 映像サイズセット 1280x720 / 640x360 / 320x180

JPEG

① 映像品質 : 320x180 6
① 映像品質 : 640x360 6
① 映像品質 : 1280x720 6
① 映像品質 : デジタルPTZ 6
① 映像サイズ : 映像送信 1280x720
① 最大フレームレート : 映像送信 0.1~30 15.0
① 映像サイズ : アップロード / メモリーカード 320x180

ここでは次の設定ができます。

- 映像全般
- JPEG
- H.264(1)
- H.264(2)

H.264 (1)

① 映像サイズ 1280x720
① ビットレート制御 ビットレート制御する
① 目標ビットレート (kbps) 3072
① フレームレート (fps) 15
① Iフレーム間隔 (秒) 1

H.264 (2)

① H.264 (2) の使用 使用する
① 映像サイズ 320x180
① ビットレート制御 ビットレート制御する
① 目標ビットレート (kbps) 1024
① フレームレート (fps) 15
① Iフレーム間隔 (秒) 1

重要

- 映像サイズや映像品質、目標ビットレートを高めに設定すると、1フレームあたりのデータ容量が大きくなり、ネットワーク負荷が高くなることで、次の現象が起こることがあります。
 - JPEG : フレームレートが低下する場合があります
 - H.264 : 映像が一時的に途切れる場合があります
- H.264映像の場合、映像サイズを大きめに設定し、目標ビットレートを低めの設定にすると、ブロックノイズが目立つことがあります。
- 被写体の種類や、被写体の動きによってはデータ容量が大きくなる場合があります。フレームレートの低下などが長時間にわたって継続する場合は、映像サイズや映像品質を低く設定してください。
- 同梱のRM-Liteでの録画は、JPEG映像のみです。

映像全般

カメラで使用する映像サイズのセットを設定します。

ここで設定した映像サイズセットによって、[映像] サブメニューすべての設定項目と、設定ページにあるすべての [映像サイズ] で選択できるサイズセットが決まります。

また、各ビューワーで選択できる映像サイズおよび表示画面サイズも決まります。

[映像サイズセット]

映像サイズの各セットにより、系列およびアスペクト比が異なります。

R11 R10 M50 M64x M74x

[映像サイズセット]	系列	アスペクト比
[1280x720/640x360/320x180]	720p	16:9
[1280x960/640x480/320x240]	4:3	4:3

[映像サイズセット]	系列	アスペクト比
[1920x1080/960x540/480x270]	1080p	16:9
[1280x720/640x360/320x180]	720p	16:9
[1280x960/640x480/320x240]	4:3	4:3

重要

[映像サイズセット] の選択を変更して [適用して再起動] をクリックした場合、いったん接続が切断され、すべての映像サイズが変更されます。そのため、カメラに接続しているユーザーは、再接続を行う必要があります。

また、[映像サイズセット] の設定変更後は、次の設定を見直し、動作の確認を行ってください。

- ADSR (P. 143)
- プライバシーマスク (P. 146)
- インテリジェント機能 (P. 173)
- プリセット (P. 131)
- 可視範囲 (P. 128) R1x M50 H76x
- カメラアングル (P. 43) H651 M64x

JPEG

カメラから送信するJPEG映像の品質や映像サイズ、および、カメラの映像を記録する際の映像サイズを設定します。
ここで設定・選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

[映像品質]

カメラから送信する映像の品質を、映像サイズセットのサイズごとに選択します。

値が大きいほど高画質になります。

[映像品質：デジタルPTZ] M50 H65x M64x H76x H751 M74x

デジタルPTZでの映像品質を選択します。

[映像サイズ：映像送信]

ビューウィで映像サイズを指定しない場合に、カメラから送信するデフォルトの映像サイズを選択します。

[最大フレームレート：映像送信]

1秒間に送信する最大フレームレートを制限することにより、ビューウィの負荷を軽減します。最大30フレーム/秒まで設定できます。

[映像サイズ：アップロード/メモリーカード]

アップロード機能使用時 (P. 159)、またはメモリーカード記録時 (P. 219) の送信映像サイズを選択します。

映像をアップロードするかメモリーカードに記録するかは、[映像記録] > [アップロード] または [メモリーカード] > [映像記録動作] (P. 159)で設定します。

H.264(1)

カメラから送信するH.264(1)映像について設定します。

ここで選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

[映像サイズ]

カメラから送信する映像サイズを選択します。

[ビットレート制御]

映像のビットレートについて設定します。

[ビットレート制御する] を選択した場合は [目標ビットレート(kbps)] を、[ビットレート制御しない] を選択した場合は [映像品質] を設定してください。

[目標ビットレート(kbps)]

[ビットレート制御] が [ビットレート制御する] の場合、目標ビットレートを選択します。

[映像品質]

[ビットレート制御] が [ビットレート制御しない] の場合、映像の品質を選択します。

値が大きいほど高画質になります。

[フレームレート(fps)]

映像のフレームレートを選択します。

[フレーム間隔(秒)]

H.264映像にフレームを挿入する間隔 (秒) を選択します。

 **重要**

- [H.264(1)] または [H.264(2)] の映像を、メモリーカード記録およびアップロードに使う場合、設定が次のように制限されます。
 - [ビットレート制御] : [ビットレート制御する]のみ
 - [目標ビットレート(kbps)] : [3072]以下
 - [フレーム間隔(秒)] : [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかのみ
- H.264 映像を2ストリーム配信する場合、H.264(1)とH.264(2)の映像サイズを次の組み合わせで設定すると、フレームレートが最大 15 fpsに制限されます。それ以外の組み合わせの場合、フレームレートは30 fpsまで選択できます。

H.264(1)	H.264(2)
1920x1080	すべてのサイズ
すべてのサイズ	1920x1080
1280x960	1280x 960
1280x720	1280X720

H.264(2)

カメラから送信するH.264(2)映像について設定します。

ここで選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

[H.264(2)の使用]

H.264映像を2ストリーム送信する場合、[使用する] を選択します。

[映像サイズ]、[ビットレート制御]、[目標ビットレート(kbps)]、[映像品質]、[フレームレート(fps)]、[フレーム間隔(秒)]「H.264(1)」の各項目を参照してください。

[基本] > [ビューワー] ビューワーを設定する

ビューワーの起動、認証、表示に関する設定を行います。



ここでは次の設定ができます。

- 全般
- ビューワー設定

全般

[デフォルトページ]

カメラに接続したときに、最初に表示させるページを設定ページまたはビューワーのどちらかに設定します。

管理者以外のユーザーがビューワーを使用する場合は、[デフォルトページ] を [ビューワーを表示] に設定してください。

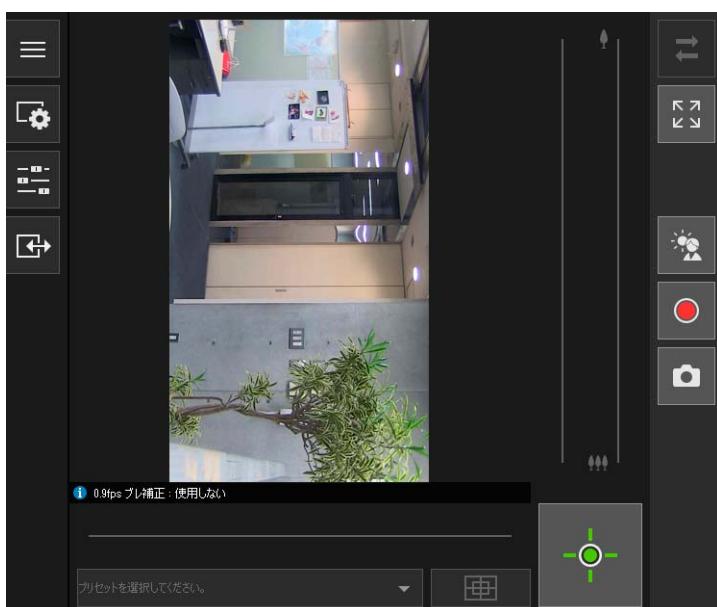
ビューワー設定

[ユーザー認証]

ビューワーに接続するときに、ユーザー認証画面を表示させるための設定です (P. 49)。[認証する] を選択すると、管理者または登録ユーザー (P. 97) のみが接続可能になります。

[映像表示の回転] H65x M64x H76x H751 M74x

[右へ90度] または [左へ90度] を選択すると、縦長の映像がカメラビューワーに表示されます。カメラを90度回転させて、縦長に撮影したい場合に使用します。



[右へ90度] に設定したときのカメラビューワーの映像

メモ

- 映像表示の回転は、ビューワー上での回転です。設定ページの映像表示部の映像は、回転しません。また、アップロードやメモリーカード記録の映像も、回転しません。
- 映像表示を回転すると、オンスクリーン表示も一緒に回転します。

[一般ユーザーでのH.264の使用]

一般ユーザーでH.264映像を受信するための設定です。[使用する] を選択すると、一般ユーザーでビューワーに接続した場合でも、[H.264] ボタンが表示されます (P. 55)。

[使用する] を選択すると、「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されます。契約書の条項に同意する場合は [はい] をクリックしてください。

重要

複数のPCでH.264映像を受信する場合は、H.264追加ユーザーライセンスが必要です (P. 22)。カメラに不特定多数のユーザーがアクセスする場合など、ライセンス管理ができない環境では、[使用しない] を選択してください。

[カメラ] > [カメラ] カメラの制御全般を設定する

カメラ名や外部入力/出力デバイス名の設定、およびカメラの動作、設置について設定します。

カメラ

カメラ名	適用	クリア
① カメラ名(半角英数字) 16文字以内	Camera	
① カメラ名(日本語) 16文字以内		
カメラ制御		
① デジタルズーム	使用しない	
① 拡張デジタルズーム	使用しない	
① 最大デジタルズーム倍率	5	
① ブレ補正	使用しない	
① スマートシェード補正強度(オート)	中	
① かすみ補正強度(オート)	中	
① 動き適応ノイズリダクション	使用しない	
① パン・チルト速度制御	ズーム位置に応じて制御	
ディナイト(オート設定時)		
① 切り換える明るさ	標準	
① 応答性(秒)	20	
鮮明IRモード		
① 赤外照明点灯時間	時刻指定	
① 点灯時刻 hh:mm	18:00	
① 消灯時刻 hh:mm	06:00	

ここでは次の設定ができます。

- カメラ名
- カメラ制御
- ディナイト(オート設定時)
- 鮮明IRモード
- 設置条件
- カメラ位置制御
- 外部入力デバイス1、2
- 外部出力デバイス1、2

設置条件

① LEDの点灯	点灯する
① 映像反転	反転しない
カメラ位置制御	
① プリセットに限定	限定しない
① 制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない
外部入力デバイス1	
① デバイス名(半角英数字) 16文字以内	
① デバイス名(日本語) 16文字以内	
外部入力デバイス2	
① デバイス名(半角英数字) 16文字以内	
① デバイス名(日本語) 16文字以内	
外部出力デバイス1	
① デバイス名(半角英数字) 16文字以内	
① デバイス名(日本語) 16文字以内	
外部出力デバイス2	
① デバイス名(半角英数字) 16文字以内	
① デバイス名(日本語) 16文字以内	

カメラ名

カメラ名を設定します。

[カメラ名(半角英数字)]/[カメラ名(日本語)]

任意のカメラ名を入力します。[カメラ名(半角英数字)]は必ず入力してください。

[カメラ名(日本語)]を入力した場合、RMビューワーには[カメラ名(日本語)]が優先して表示されます。

カメラ制御

映像を見やすくするための各種制御を設定します。

[デジタルズーム]

デジタルズームの使用の有無を選択します。

[使用する]を選択した場合、ズームスライダーに、デジタルズームを示す領域が表示されます(P. 65)。

デジタルズームは、光学ズームと異なり、ズーム倍率が高くなるに従って画質が低下します。

[拡張デジタルズーム] R1x M50 H76x

拡張デジタルズームの使用の有無を選択します。

映像サイズが小さいときに、最大サイズの解像度まで、映像の劣化を抑えたデジタルズームができます。

[使用する] を選択した場合、ビューウィーのズームスライダーに、拡張デジタルズームを示す領域と、拡張デジタルズームテレ端を示す横線（青）が表示されます（P. 65）。

[最大デジタルズーム倍率] R1x M50 H76x

デジタルズームの最大倍率を設定します。

[ブレ補正]

カメラの振動による映像のブレを軽減させる機能の使用の有無を選択します。

[On1] を選択してブレが残る場合は、[On2] を試してください。

ブレ補正を使用すると、使用しない場合と比べて画角が狭くなり、映像も粗くなります。異常ではありません。

重要

- ブレ補正は、被写体ブレには効果がありません。
- ブレ補正是、一定の範囲を超えた振動や、瞬間的な振動には対応できません。
- [On2] を選択した場合は、[640x480] 以下の映像受信サイズの選択をお勧めします。
- ブレ補正を使用する場合は、次の各「重要」を参照してください。
 - プライバシーマスクの「重要」（P. 148）
 - 可視範囲の「重要」（P. 128） R1x M50 H76x
 - ビューウィー使用時の「重要」（P. 58）
 - プリセットの「重要」（P. 131）

[スマートシェード補正強度(オート)]

[スマートシェード補正]（P. 116）を[オート]に設定した場合の、補正の強さを選択します。

- [弱]：ノイズが目立つ場合に選択
- [中]：オートモードで使用する場合の推奨設定（初期設定）
- [強]：暗部の視認性を上げたい場合に選択

[かすみ補正強度(オート)]

[かすみ補正]（P. 117）を[オート]に設定した場合の、補正の強さを選択します。

メモ

[かすみ補正]を[オート]に設定し、[かすみ補正強度(オート)]を[強]に設定すると、被写体にかすみがかかっていない状態では、明暗の差が強く出る場合があります。このような場合は、[かすみ補正強度(オート)]を[弱]に設定してください。

[赤外照明強度(オート)] H652 H761 H751 M741

[起動時設定]で[赤外照明の使用]（P. 118）を[デイナイト連動]に設定し、[露出]（P. 114）が[オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(シャッター優先)]、[オート(絞り優先)]の場合の、赤外照明の強度を選択します。

メモ H652 H761 H751 M741

- 映像の一部または全体が白っぽく表示される場合は、カメラの近くにある壁など（映像に表示されていない範囲も含む）から赤外照明が反射している可能性があります。このような場合は、カメラアングルを調整してください。
- 赤外照明使用時に被写体に生じる明暗の差が意図通りにならない（もう少し明るくしたい、暗くしたい）場合は、露出補正（P. 115）や測光方式（P. 115）を調整してください。

[動き適応ノイズリダクション]

[使用する]を選択した場合、動きに応じて、ノイズリダクションを自動的に調整します。動きが少ないシーンではノイズリダクションを強めデータサイズが小さくなります。

重要

被写体の大きさや動く速度によっては、意図した効果が得られない場合があります

[パン・チルト速度制御] R1x M50

パン・チルトの動作を制御するモードを選択します。

[ズーム位置に応じて制御]に設定した場合、パン・チルト速度は、テレ側では遅く、ワイド側では速くなります。

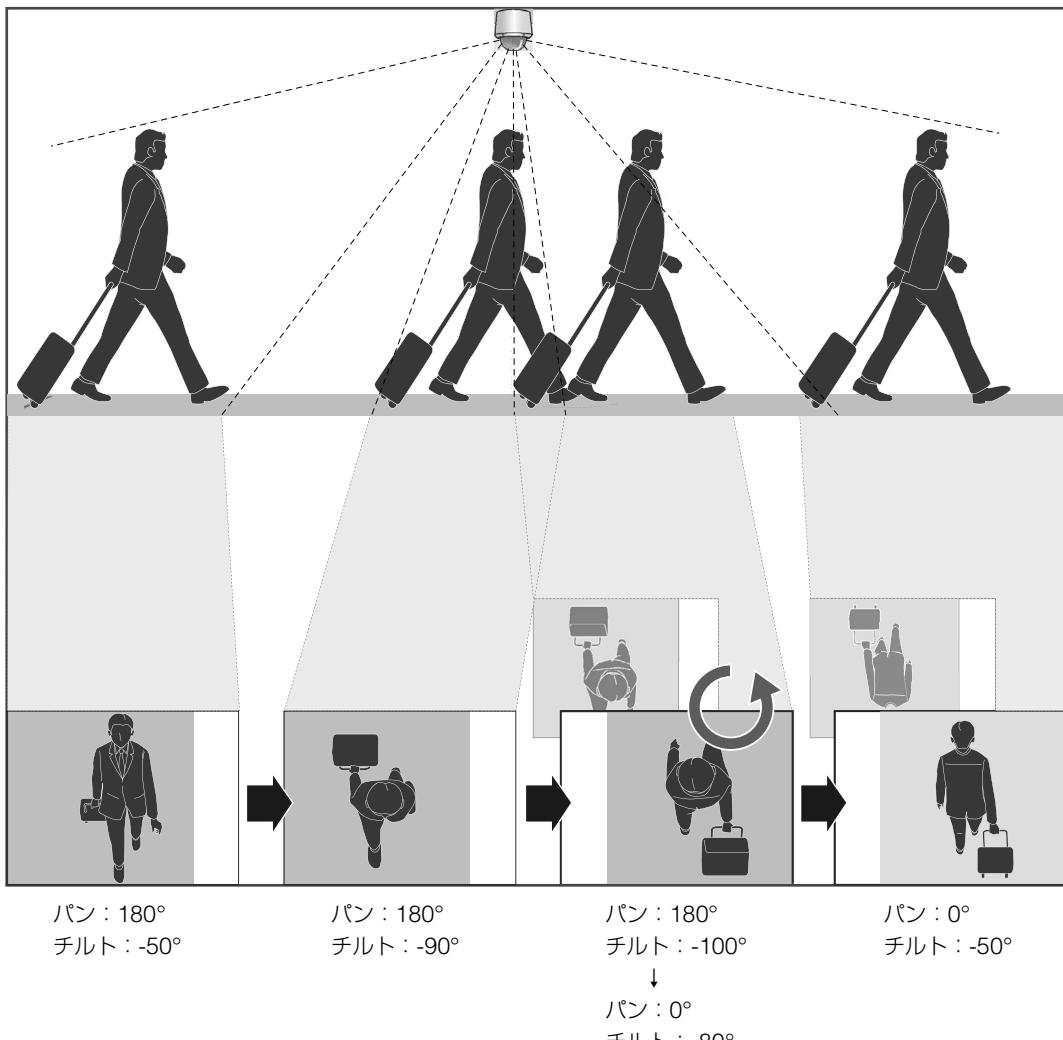
[オートフリップ] R1x

オートフリップ機能の使用の有無を選択します。

ビューワーの映像表示部でカメラのチルト操作(P. 64)をする際、オートフリップを使用すると、カメラのチルト角度が100°付近で、映像を反転表示させます。180°パンを行った場合と実質的に同じ動作となるため、映像反転と同時にパンチルトスライダーのつまみの位置が反転後のパンチルト位置に移動します。

■ メモ R1x

オートフリップを[有効]にすると、[可視範囲]の設定が一部無効になります(P. 128)。



カメラを天吊りした状態で、カメラの真下(チルト角度90°)を通る被写体を追う場合、チルト角度100°付近で映像反転させることで、被写体の天地が逆さにならずに表示されます。

デイナイト(オート設定時)

[デイナイト]を[オート]に設定している場合に、デイモード/ナイトモードを切り換える条件を設定します。

[切り換える明るさ]

[デイナイト]が、[オート]に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える明るさを設定します。できるだけカラーで撮影したい場合は[暗い]を選択してください。

ノイズ感を軽減したい場合は[明るい]を選択してください。ただし白黒に切り換えるタイミングが早くなります。

[応答性(秒)]

[デイナイト]が、[オート]に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える判断をするために要する秒数を選択します。選択した秒数の間、継続して[切り換える明るさ]で設定した明るさを超えるか、または下回ると、デイモード/ナイトモードを切り替えます。

カメラの前を光源が通過するなど、明るさの変化が頻繁な場合は、[30] や [60] を選択してください。明るさの変化が少ない場合は、[5]、[10] を選択してください。

鮮明IRモード

H761

[鮮明IRモード] を [使用する] (P. 117) に設定している場合に、赤外照明を点灯する時間帯を設定します。夜間など暗い時間帯に、強い光源などによるハレーションを軽減する効果が期待できます。

[赤外照明点灯時間]

赤外照明の点灯時間を [常時] または [時刻指定] から選択します。[時刻指定] にした場合、[点灯時刻] と [消灯時刻] で赤外照明の点灯/消灯時刻を設定します。

[点灯時刻]

赤外照明の点灯時刻を、24時間制で入力します。

[消灯時刻]

赤外照明の消灯時刻を、24時間制で入力します。

メモ

ハロゲン灯など、光源の種類によっては、効果がない場合があります。

設置条件

設置場所に合わせて、カメラの使用状態を設定します。

[LEDの点灯]

カメラの動作状態を表すLEDの点灯の有無を選択します。

[点灯する] に設定した場合は、電源投入時、再起動時、通常使用時にLEDが点灯します。

[消灯する] に設定した場合は、起動時にLEDが数秒間点灯後、消灯します。

いずれの設定でも、設定値初期化中はLEDが点滅します。

[映像反転]

映像表示を上下反転するかしないかを選択します。

天吊りで使用する場合や、机上に置いて使用する場合など、設置方法に応じて設定してください。

カメラ位置制御

ユーザーのカメラ制御制限や、制御権要求がない場合のカメラ動作について設定します。

[プリセットに限定]

管理者以外がカメラビューワーなどでカメラ制御をする場合のカメラアングルを、ホームポジションを含むプリセット位置に限定できます。

[制御権を持たない時の動作]

カメラの制御権を誰も取得していない場合のカメラの動作を選択します。

[ホームポジションへ移動する] を選択する場合は、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] > [プリセット登録] (P. 131)でカメラのホームポジションを設定しておく必要があります。

外部入力デバイス1、2

R13       

接続した外部入力デバイスを識別するため、デバイス名を入力します。

カメラには2つの外部入力デバイス端子があります。

[デバイス名(半角英数字)]/[デバイス名(日本語)]

外部入力端子に接続したデバイス名を入力します。

[デバイス名(日本語)] を入力した場合、RMビューワーやカメラビューウーの [イベントと入出力] メニューには [デバイス名(日本語)] が優先して表示されます。

外部出力デバイス1、2

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

接続した外部出力デバイスを識別するため、デバイス名を入力します。

カメラには2つの外部出力デバイス端子があります。

[デバイス名(半角英数字)]/[デバイス名(日本語)]

外部出力端子に接続したデバイス名を入力します。

[デバイス名(日本語)] を入力した場合、RMビューワーやカメラビューウーの [イベントと入出力] メニューには [デバイス名(日本語)] が優先して表示されます。

[カメラ] > [起動時設定] 映像設定の初期値を設定する

5

體験ページ

カメラ起動時の画質補正などの初期値を設定します。設定値を変更すると、[適用] をクリックしなくても、映像表示部やビューウィーに変更が即座に反映されます。

[起動時設定] にアクセスした段階で、現在のカメラの状態と、起動時設定として登録されている値が異なる場合は、現在のカメラの状態で起動時設定を表示するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

このメッセージで [OK] をクリックした場合、現在のカメラの状態で起動時設定が表示されます。[キャンセル] をクリックした場合は、現在のカメラの状態が破棄され、起動時設定として登録されている値が表示されます。



ここでは次の設定ができます。

- カメラ位置
- カメラ設定

カメラ設定	
● 簡単カメラ設定	種類を選択してください
● フォーカス	マニュアル
● ワンショットAF	実行
● フォーカス調整	遠 近
● 露出	オート
● AGCリミット	6
● シャッターリミット(低速)	1/30
● シャッターリミット(高速)	1/16000
● 露出補正	0
● 测光方式	中央部重点
● スピードシェード補正	使用しない
● ホワイトバランス	マニュアル
● ワンショットWB	実行
● Rゲイン 0~1023	282
● Bゲイン 0~1023	302
● ノイズリダクション	強
● シャープネス	3
● 色の濃さ	2
● かすみ補正	マニュアル
● かすみ補正レベル	4
● 鮮明IRモード	使用しない
● デイナイト	デイモード

カメラ位置

起動時のカメラ位置を設定します。

重 要 R1x M50 H76x

インテリジェント機能、プライバシーマスク、プリセット、ADSRの設定後にズームを変更した場合は、これらを再設定する必要があります。

メモ

カメラ設置後、[起動時設定] のズームスライダーでズーム位置を設定してください。H751 M74x

[パン・チルト・ズーム位置] R1x M50

現在のパン・チルト・ズーム位置を起動時設定に登録します。映像表示部や、パノラマ画面上の枠を操作することで、パン・チルト・ズームの操作ができます。

[登録しない] に設定すると、次回起動時は、電源OFF時のパン・チルト・ズーム位置が適用されます。

メモ M50

[デジタルPTZ位置] が [登録しない] の場合、映像表示部でエリアズーム (P. 65) によるパン・チルト・ズーム操作ができます。

[ズーム位置] [H76x]

現在のズーム位置を起動時設定に登録します。[登録しない]に設定すると、次回起動時は、電源OFF時のズーム位置が適用されます。

[デジタルPTZ位置] M50 H65x M64x H76x H751 M74x

現在のデジタルPTZ位置を起動時設定に登録します。

[登録する]を選択すると、映像表示部に黄色い枠が表示されます。枠を操作して起動時のデジタルPTZ切り出し位置を指定します。

目次 Mモード M50 H65x M64x H76x H751 M74x

起動時のデジタルPTZ切り出し枠(黄色)は、段階的なサイズでの設定になります。設定できるサイズは、ビューワーの[デジタルPTZ]と同じです(P. 74)。

カメラ設定

起動時のカメラの各種設定項目を設定します。

[簡単カメラ設定]

選択した種類に応じて、[カメラ設定]の各項目に推奨値が一括で表示されます(推奨値が変わる項目および値は次の表のとおり)。必要に応じて、各項目を推奨値から変更して、[適用]することもできます。

種類	動き優先	深度優先	高感度	データサイズ低減	標準設定
利用撮影シーン	動きのある被写体に対して、ブレを抑制する	近くから遠くまでの広い範囲でピントを合わせる	暗い被写体に対して、感度を上げて明るくする	低照度時のデータサイズを抑制する	シーン設定を解除して、工場出荷設定に戻す
[露出]	オート(シャッター優先)	オート(絞り優先)	オート	オート	オート
[AGCリミット]	6	6	6	4	6
[シャッターリミット(低速)]	-	1/30(秒)	1/8(秒)	1/8(秒)	1/30(秒)
[シャッターリミット(高速)]	-	1/16000(秒)	1/16000(秒)	1/16000(秒)	1/16000(秒)
[シャッタースピード]	1/1000(秒)	-	-	-	-
[スマートシェード補正]	使用しない	使用しない	使用しない	使用しない	使用しない
[ノイズリダクション]	弱	標準	強	強	標準
[シャープネス]	3	6	3	3	3
[色の濃さ]	4	4	4	2	4
[かすみ補正]	使用しない	使用しない	使用しない	使用しない	使用しない

重要

[簡単カメラ設定]では、次の留意点があります。

– [動き優先]: 適正に露出を保てる範囲が狭くなります。

[デイナイト]を[オート]に設定しても、ナイトモードにならない場合があります。

蛍光灯などの影響によりフリッカーが発生する場合があります。

– [深度優先]: 適正に露出を保てる範囲が狭くなります。

[デイナイト]を[オート]に設定しても、ナイトモードにならない場合があります。

– [高感度]: 暗いシーンでは、動きのある被写体に残像が出やすくなります。

– [データサイズ低減]: 暗いシーンでは、動きのある被写体に残像が出やすくなります。

[フォーカス]

フォーカスを選択します。

[オート]

自動的にフォーカスを合わせます。

[マニュアル]

[フォーカス調整] の [遠]、[近] ボタンを押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調整します。[ワンショットAF] の [実行] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後に、マニュアルモードになります。

次の手順で適切なフォーカス調整が行えます。

- [露出] の [オート(絞り優先)] を選択し、絞りのスライダーを右端まで動かして、絞りを開放にします。被写界深度が浅くなり、適切なフォーカス調整が行えます。
- [フォーカス調整] の [遠]、[近] ボタンを押し続ける、または [ワンショットAF] の [実行] をクリックしてフォーカスを調整します。
- 調整が終わったら、適正な [露出] に変更してください。

メモ H651 M64x

[フォーカス調整] は、[カメラアングル] > [カメラ設定] で行うことをお勧めします (P. 45)。

[無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカスを固定したままにできます。

重 要

- 設定したフォーカスは、ほかのユーザーにも適用されます。
- 照明によっては、[デイモード] と [ナイトモード] の切り換え時にフォーカスが合わない場合があります。デイナイト切り換え時のフォーカスは、[カメラ] > [デイナイトフォーカス] で設定できます。
- [露出] で、[マニュアル]を選択してシャッタースピードを [1/1秒] に設定すると、[オート] ではフォーカスが合いません。その場合は、[マニュアル] でフォーカスを合わせてください。
- フォーカスを [マニュアル] で設定すると、フォーカスが固定されたままになるので注意ください。
- 室内から窓ガラス越しに屋外を撮影するような条件では、ガラス面に塵や水滴が付着していると、ガラス面にフォーカスが合ってしまう場合があります。ガラス面とカメラをなるべく短い距離で設置してご使用ください。

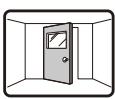
メモ

- 次のような被写体は、[オート] ではフォーカスが合いにくいことがあります。

フォーカスが合いにくい被写体



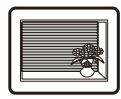
白い壁など明暗の差がないもの



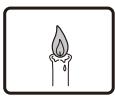
斜めになっているもの



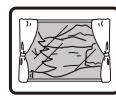
強い光が反射しているもの



斜め線や横縞のみのもの



炎や煙など実体のないもの



ガラス越しのもの



動きが速いもの



暗いところや夜景



遠くと近くに同時にある

- カメラの再起動後は、フォーカスが合っているか確認することをお勧めします。
- [デイナイト] の設定により、フォーカスの合う範囲(目安)は次の表のようになります。

フォーカス	デイナイト設定			
	デイモード		ナイトモード	
	ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端
オート/マニュアル R1x	0.3 m ~ ∞	2.0 m ~ ∞	1.0 m ~ ∞	2.0 m ~ ∞

フォーカス	デイナイト設定			
	デイモード		ナイトモード	
	ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端
オート/マニュアル M50	3.0 m ~ ∞	5.0 m ~ ∞	3.0 m ~ ∞	5.0 m ~ ∞
オート/マニュアル H65x M64x H751 M74x	0.3 m ~ ∞		0.3 m ~ ∞	
オート/マニュアル H76x	0.3 m ~ ∞	1.0 m ~ ∞	1.0 m ~ ∞	1.5 m ~ ∞
無限遠固定	無限遠近傍*			

* 外部機器による赤外照明を使用すると、フォーカスが合わなくなる場合があります。

[カメラ] > [デイナイトフォーカス] > [光源に応じた補正の実行] を使用することで、赤外照明の波長によってフォーカスを合わせることができます (P. 120)。H65x M64x H751 M74x

[ワンショットAF]

[フォーカス] が [マニュアル] の場合に使用します。[実行] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後、マニュアルモードになります。

[フォーカス調整]

[フォーカス] が [マニュアル] の場合に、[遠] および [近] を押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調節します。

[露出]

露出モードを選択します。

メモ

[デイナイト] を [オート] にしている場合、[露出] は [オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(シャッター優先)]、[オート(絞り優先)] のいずれかを選択してください。

[オート]

自動的に露出を制御します。

[オート(フリッカーレス)]

使用環境の明るさに応じて、シャッタースピードを自動で調節します。蛍光灯などの影響による画面の輝度むらを低減します。

[オート(シャッター優先)]

指定した [シャッタースピード] に応じて、絞り、ゲインを自動で調節します。

[オート(絞り優先)]

指定した [絞り] に応じて、ゲイン、シャッタースピードを自動で調節します。

[マニュアル]

[シャッタースピード]、[絞り]、[ゲイン] を手動で設定します。

[スマートシェード補正] が [オート] の場合は設定できません。

[AGCリミット]

低照度時にゲインを上げて映像を明るくするAGC(オートゲインコントロール)の上限値を選択します。

数値が大きいほど感度が高くなりますが、映像のノイズが増えます。

重 要

- [AGCリミット] は、[露出] を [マニュアル] または [オート(フリッカーレス)] にした場合、機能しません。
- [AGCリミット] を設定すると、最低被写体照度が変わることがあります。

[シャッターリミット(低速)]

[露出] が [オート]、[オート(フリッカーレス)] または [オート(絞り優先)] の場合に、シャッタースピードの下限を選択できます。

[シャッターリミット(高速)]

[露出] が [オート]、[オート(フリックカーレス)] または [オート(絞り優先)] の場合に、シャッタースピードの上限を選択できます。

[シャッタースピード]

[露出] が [オート(シャッター優先)] または [マニュアル] の場合、シャッタースピードを固定できます。

メモ

- シャッタースピードを低速にするほど、動きのある被写体では残像が発生します。
- 動きのある被写体を撮影する場合、速いシャッタースピードを選択することで像ブレを少なくできます。

[露出] の設定により、シャッタースピードの選択範囲は次の表のようになります。

[露出]	[シャッターリミット(低速)]	[シャッターリミット(高速)]	[シャッタースピード]
[オート]	1/2 ~ 1/16000(秒)	1/2 ~ 1/16000(秒)*	-
[オート(フリックカーレス)]	1/2 ~ 1/50(秒)	1/100 ~ 1/16000(秒)	-
[オート(シャッター優先)]	-	-	1/2 ~ 1/16000(秒)
[オート(絞り優先)]	1/2 ~ 1/16000(秒)	1/2 ~ 1/16000(秒)*	-
[マニュアル]	-	-	1/1 ~ 1/16000(秒)

* [シャッターリミット(低速)] より遅い速度は選択できません。

重要

- 信号機や電光掲示板などを撮影した場合、映像が点滅して表示されることがあります。この場合、露出を [オート(シャッター優先)] に設定して、1/100より低速のシャッタースピードを選択すると、現象が緩和される場合があります。
- シャッタースピードを低速にすると、インテリジェント機能が正しく検知できない場合があります。撮影シーンと目的に合わせて選択してください。

[絞り]

[露出] が [オート(絞り優先)]、[マニュアル] の場合、絞りを設定します。

スライダーを左に動かすほど絞りが絞られ、映像は暗くなります。右に動かすほど絞りが開かれ、映像は明るくなります。

[ゲイン]

[露出] が [マニュアル] の場合、明るさに対する感度を設定します。

スライダーを左に動かすほど映像が暗くなり、右に動かすほど明るくなります。

[露出補正]

[露出] が [マニュアル] 以外の場合、露出の補正值を選択して、映像の明暗を調節できます。

重要

[スマートシェード補正] が [オート] の場合は設定できません。

[測光方式]

[露出] が [マニュアル] 以外の場合、測光方式を選択できます。

[中央部重点]

画面中央部に重点をおきながら、画面全体を測光します。

画面周辺に多少明暗があっても、中央付近の被写体は適正な露出が得られます。

被写体が画面中央付近の場合に使用してください。

[平均]

画面全体を平均して測光します。

画面内の明暗差が大きい撮影環境でも、安定した露出が得られます。

車の通過、人の出入りがあるシーンなどで露出を安定させたい場合に使用してください。

[スポット]

画面中央部を測光する方式です。

画面周辺の明暗に左右されることなく、画面中央部の被写体は適正な露出が得られます。

被写体にスポット光が当たっている場合や、逆光の場合などで画面中央部に露出を合わせたいときに使用してください。

[スマートシェード補正]

背景が明るくて被写体が見にくい場合に、明るい部分はそのままで、暗い部分を明るく補正して見やすくします。

逆光補正 (P. 70) とは異なり、明るい部分の白飛びを抑え、暗い部分の黒つぶれを補正します。

重要

- [露出] が [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は [オート] に設定できません。
- [かすみ補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は使用できません。

[マニュアル]

[スマートシェード補正レベル] で、補正の強さを設定します。

[オート]

スマートシェード補正機能と露出補正機能を併用し、白飛びや黒つぶれのない映像に自動制御します。

[スマートシェード補正レベル]

[スマートシェード補正] が [マニュアル] の場合、補正の強弱を設定します。

メモ

- [スマートシェード補正] を [オート] または [マニュアル] に設定すると、映像のデータサイズが大きくなります。
- [スマートシェード補正] を [マニュアル] にし、補正強度を強めに設定すると、画面ノイズが増える場合があります。ノイズが気になる場合は、補正強度を弱めに設定してください。

[ホワイトバランス]

自然な色合いの映像になるように、光源に応じたホワイトバランスを選択します。

重要

- 単一色の被写体や低照度時、ナトリウム灯や水銀灯、一部の蛍光灯を使用する環境下では、[オート] で適切な色合いに調節できないことがあります。
- [オート] の状態で、水銀灯光源下で画面が緑色を帯びる場合は、[水銀灯] を選択してください。また、[水銀灯] を選択しても水銀灯光源下で画面が適切な色にならない場合は、[マニュアル] を選択して、[ワンショットWB] を使用してください。
- 光源選択は代表的な特性に合わせていますので、お使いの光源によっては、適切な色合いにならない場合があります。その場合は [マニュアル] を選択して、[ワンショットWB] を使用してください。

[オート]

自動的にホワイトバランスを調節します。

[マニュアル]

[ワンショットWB]、[Rゲイン]、[Bゲイン] を操作して、マニュアルでホワイトバランスを設定します。

[蛍光灯 昼光色] (約6,100K～約6,600K)

昼光色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 白色] (約4,100K～約5,000K)

昼白色蛍光灯、白色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 暖色] (約2,500K～約3,000K)

暖色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[水銀灯] (約4,300K)

水銀灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ナトリウム灯] (約2,000K)

オレンジ色のナトリウム灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ハロゲン灯] (約2,700K～約3,200K)

ハロゲン灯、白熱電球のもとで撮影する場合に選択してください。

[ワンショットWB]

[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、ホワイトバランスを光源に強制的に合わせて固定します。

設定方法例：

白い被写体 (白い紙など) を光源で照らし、被写体を画面いっぱいに撮影した状態で [実行] をクリックします。

[Rゲイン]

[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、Redのゲイン値を設定します。

[Bゲイン]

[ホワイトバランス] が [マニュアル] の場合、Blueのゲイン値を設定します。

重 要

- [鮮明IRモード] が [使用する] の場合、[ホワイトバランス] の設定は変更できません。 M50 H761
- [デイナイト] が [ナイトモード] になっている場合 ([オート] に設定されていて、ナイトモードと判定されている場合を含む) は、ホワイトバランス機能は使用できません。
- 屋外での昼夜連続撮影など、光源が徐々に変化する場所で、変化が少ない被写体を撮影する場合、適切な色合いにならないことがあります。この場合は [ワンショットWB] を実行するなど撮影される映像に変化を与えると適切な色になります。

[ノイズリダクション]

ノイズリダクションのレベルを選択します。主に低照度時に効果が高くなります。

[強] にするとノイズリダクションの効果が高くなりますが、動いている被写体の残像が見えやすくなります。

[弱] にするとノイズリダクションの効果が低くなり、解像感が高くなりますが、映像のファイルサイズが増えます。

[シャープネス]

シャープネスのレベルを選択します。

[強] にするほどシャープな映像になり、[弱] にするほどソフトな映像になります。

[強] にするほど映像のファイルサイズが増えます。

[色の濃さ]

色の濃さを選択します。

[かすみ補正]

被写体にかすみがかかったような場合に、被写体を見やすいように映像のコントラストを補正します。

[マニュアル]

[かすみ補正レベル] で補正の強さを設定します。

[オート]

自動的にかすみ補正を行います。[かすみ補正強度 (オート)] で、補正の強さを選択します (P. 107)。

重 要

- [スマートシェード補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[かすみ補正] は使用できません。

メ モ

- [かすみ補正] を [オート] または [マニュアル] に設定すると、映像のデータサイズが大きくなる場合があります。
- [かすみ補正] を使用して、映像に明暗の差が強く出る場合は、[かすみ補正] を [マニュアル] にし、[かすみ補正レベル] を弱く設定してください。

[かすみ補正レベル]

[かすみ補正] が [マニュアル] の場合、補正の強弱を設定します。

[鮮明IRモード] M50 H761

赤外光を利用して、遠景のかすみや陽炎のゆらぎを軽減し、映像を鮮明化する効果があります。

[使用する] を選択すると白黒映像になります。

重要 M50 H761

- 赤外光による撮影を行うため次のような映像になる場合があります。事前に有効性を確認したうえでご利用ください。
 - 赤色が白く映る
 - 植物の葉が白く映る
 - 水面が黒く映る
- 天候により効果が異なる場合があります。
- 低照度性能が低下するため暗いシーンではナイトモードをご使用ください。

メモ H761

[カメラ] > [鮮明IRモード] (P. 109) で、赤外照明の点灯時間を設定できます。

[デイナイト]

設置環境の明るさに応じて撮影モードを選択します。

[オート]

明るさに応じて自動的にデイモードとナイトモードを切り替えます。

[デイモード]

通常のカラー映像を撮影します。

[ナイトモード]

赤外線カットフィルターを外して撮影感度を上げます。映像は白黒になります。

重要

- [鮮明IRモード] が [使用する] の場合、[デイナイト] は設定できません。M50 H761
- [オート] でご使用の場合は、事前に十分な運用テストを行い、有効性を確認したうえでご利用ください。
- [オート] でご使用の場合は、[露出] の設定を、[オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(シャッター優先)]、[オート(絞り優先)] のいずれかにしてください。ただし、[オート(シャッター優先)] のときはシャッタースピードによって、また、[オート(絞り優先)] のときは絞りの設定によって、[デイナイト] を [オート] に設定してもナイトモードにならない場合があります。
- [デイモード] または [ナイトモード] に設定したままビューウーを終了させると、設定ページで[デイナイト] が [オート] に設定されている場合、[デイモード] または [ナイトモード] の状態が続きます。
オートデイナイトを有効にするには、[デイナイト] を [オート] に設定してからビューウーを終了してください。
- [オート] でご使用の場合、デイモード/ナイトモードの切り替えの間、赤外線カットフィルターが数回往復動作することがあります。その間、パン・チルト・ズームおよびマニュアルフォーカスは操作できません。
- ナイトモード時に外部機器による赤外照明を使用する場合、ナイトモードに変わる前に赤外照明が点灯するように運用してください。

[赤外照明の使用] H652 H761 H751 M741

[デイナイト] に連動した赤外照明の使用を選択します。

[デイナイト連動]

赤外照明をデイナイトと連動します。ナイトモード時に赤外照明を照射します。

[使用しない]

赤外照明を使用しません。

重要 H761

[鮮明IRモード] が [使用する] の場合、[赤外照明の使用] は設定できません。

メモ

- 映像の一部または全体が白っぽく表示される場合は、カメラの近くにある壁など（映像に表示されていない範囲も含む）から赤外照明が反射している可能性があります。このような場合は、カメラアングルを調整してください。H652 H761 H751 M741

- サンシェードカバー(オプション)と赤外照明を使用する場合、レンズの角度によっては、[デイナイト]>[オート]によるデイナイトの切り替えができない場合があります。そのときは、レンズの角度を調整するか(『設置ガイド』参照)、[タイマー]による[デイナイト切り替え](P. 172)を設定してください。[H652]
- 赤外照明の照射距離は、ご使用の電源により変わります(『付録 主な仕様』参照)。

[赤外照明レベル] [H652] [H761] [H751] [M741]

[赤外照明の使用]で[デイナイト連動]を選択した場合、赤外照明の強さを設定します。

重要

[赤外照明レベル]は、[露出]が[マニュアル]の場合のみ設定できます。

[カメラ] > [ディナイトフォーカス] ディナイトフォーカス

ディナイト切り換え時のフォーカス位置を設定します。蛍光灯などの通常照明と赤外照明では波長が異なるため、フォーカス位置も変更する必要があります。



ここでは次の設定ができます。

- ディナイトフォーカス
- カメラ制御

重要

[ディナイトフォーカス] を使用しても、ナイトモード時は、光源の変化（赤外照明に太陽光が加わるなど）により、フォーカスが合わない場合があります。

メモ

[ディナイトフォーカス] は、次の条件を満たしている場合に設定できます。

- [フォーカス] (P. 112) が [マニュアル] の場合
- [鮮明IRモード] (P. 117) が [使用しない] の場合 M50 H761

ディナイトフォーカス

[ディナイトフォーカス制御]

ディナイト切り換え時のフォーカス制御方法を選択します。

[ワンショットAFの実行]

ディナイト切り換え時にワンショットAFが実行されます。

重要

[ワンショットAFの実行] 使用時は、ディナイト切り換え時の被写体にフォーカスが合うため、人物が横切るなどした場合は目的の被写体にフォーカスが合わないことがあります。

[登録したフォーカス位置への制御]

ディナイト切り換え時に、あらかじめ登録しておいた [ディモードフォーカス位置] または [ナイトモードフォーカス位置] にフォーカスを合わせます。詳しくは後述の「フォーカス位置を登録する」を参照してください。

[制御しない] R1x M50 H76x

ディナイト切り換え時、ディモード、ナイトモードともに蛍光灯の照明環境で、あらかじめ設定されたフォーカス位置に自動的に合わせます。

[光源に応じた補正の実行] H65x M64x H751 M74x

ナイトモード切り換え時に、光源に応じたフォーカス位置に調整されます。

[光源] H65x M64x H751 M74x

[光源に応じた補正の実行] を選択した場合、その光源を選択します。

[蛍光灯]

蛍光灯、LED照明、ナトリウム灯、水銀灯のもとで撮影する場合に選択します。

[ハロゲン灯]

ハロゲン灯、白熱電球のもとで撮影する場合に選択します。

[赤外照明 (740nm)]

赤外照明(波長が740 nm)のもとで撮影する場合に選択します。

[赤外照明 (850nm)]

赤外照明(波長が850 nm)のもとで撮影する場合に選択します。

[赤外照明 (940nm)]

赤外照明(波長が940 nm)のもとで撮影する場合に選択します。

■ フォーカス位置を登録する

[デイナイトフォーカス制御] の [登録したフォーカス位置への制御] を選択した場合、フォーカス位置を登録します。

1 [カメラ制御] の [デイナイト] で [デイモード] を選択する

2 デイモードの照明条件下にし、映像表示部を見ながら [カメラ制御] の [ワンショットAF] や [フォーカス調整] を使って適切なフォーカス位置に調節する

3 [デイモードフォーカス位置] の [登録] をクリックする

[デイモードフォーカス位置] が [登録済み] と表示されます。

4 [カメラ制御] の [デイナイト] で [ナイトモード] に変更する

5 2、3と同様の手順でナイトモードの照明条件下的フォーカス位置を登録する

6 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

メモ

- [適用] をクリックせずに、[登録したフォーカス位置への制御] 以外の項目を選択すると、フォーカス位置が [未登録] に戻ります。
- 設定したフォーカス位置をやり直す場合は、[クリア] をクリックします。設定した内容を破棄して、カメラに保存されている設定内容に戻ります。
- デイナイトを設定した場合のフォーカスの合う範囲は、(P. 113) を参照してください。

カメラ制御

デイナイトフォーカス制御時の、カメラのフォーカス調整およびデイナイトの撮影モードを設定します。

[ワンショットAF]

[デイナイトフォーカス制御] で [登録したフォーカス位置への制御] を選択した場合に使用できます。[実行] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後、マニュアルモードになります。

[フォーカス調整]

[デイナイトフォーカス制御] で [登録したフォーカス位置への制御] を選択した場合に使用できます。[遠]、[近] をクリックしてフォーカスを調節します。

[デイナイト]

カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します。

[オート]

明るさに応じて自動的にデイモードとナイトモードを切り替えます。

[デイモード]

通常のカラー映像を撮影します。

[ナイトモード]

赤外線カットフィルターを外して撮影感度を上げます。映像は白黒になります。

[カメラ] > [パノラマ] パノラマ画像を作成する

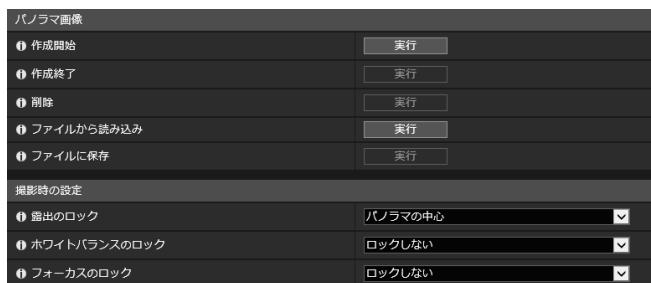
R1x M50

カメラが撮影可能な全領域を撮影する、パノラマ画像を作成できます。
作成したパノラマ画像は、ビューワーや設定ページの一部で表示されます。



ここでは次の設定ができます。

- ・パノラマ作成範囲
- ・パノラマ画像
- ・撮影時の設定



5

操作ページ

重要

- ・[プライバシーマスク]でプライバシーマスクの設定を変更した場合、パノラマ画像に新しいプライバシーマスク設定を反映させるため、パノラマ画像の再作成をお勧めします。
- ・カメラの設置方法の設定を変更した場合は、パノラマ画像を撮影し直してください。

パノラマ画像を作成する

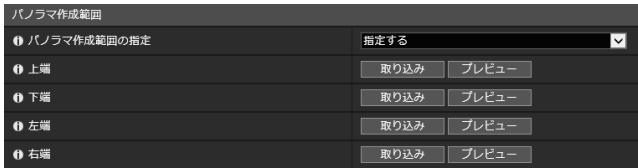
パノラマ画像を撮影後、[適用] してカメラに保存することで、ビューワーやプライバシーマスクなどに使用できるようになります。

メモ

- ・パノラマ画像の撮影中は、一時的にブレ補正機能が解除されます。
- ・パノラマ画像の作成中は、次のユーザーの接続は切断されます。
 - 管理者以外のユーザー
 - RTPで接続していないユーザー
- ・[映像] > [JPEG] > [最大フレームレート：映像送信] (P. 102) の値を小さく設定すると、パノラマ撮影が遅くなります。

1 [パノラマ作成範囲] を設定する

パノラマ作成する範囲を設定します。パノラマ作成時間が短縮できます。



[パノラマ作成範囲の指定]

[指定する] を選択すると、撮影可能な領域内で範囲指定したパノラマ画像を作成します。[指定しない] を選択すると、撮影可能な全領域でパノラマ画像を作成します。

[指定しない] を選択した場合は、手順3に進みます。

2 映像表示部を使って、作成範囲を設定する

映像表示部を使ってカメラアングルを操作し、その位置を取り込んで、パノラマ作成範囲を指定します。



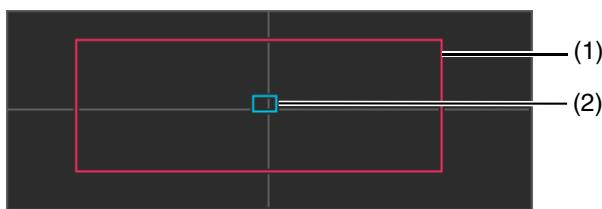
[上端]/[下端]/[左端]/[右端]

映像表示部を使って、設定したい上端・下端・左端・右端のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。

各位置で [取り込み] をクリックすると、パノラマ作成範囲枠に反映されます。

[上端]/[下端]/[左端]/[右端] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在のパノラマ作成範囲枠の上端・下端・左端・右端の各位置にプレビュー枠が移動し、映像表示部に表示されます。

パノラマ画面には、2種類の枠が表示されます。



(1) パノラマ作成範囲枠 (赤色枠)

パノラマ画像の撮影範囲を示しています。パノラマ作成範囲枠をドラッグして、パノラマ画像の撮影範囲を設定することもできます。

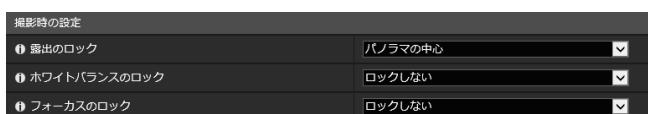
メモ

変形させたパノラマ作成範囲枠の外にプレビュー枠が位置された場合、カメラ位置はパノラマ作成範囲枠内に移動します。

(2) プレビュー枠 (青色枠)

映像表示部に表示されている現在位置を示しています。

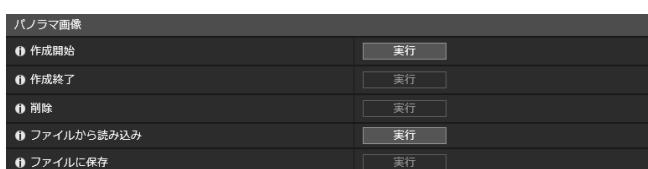
3 必要に応じて、[撮影時の設定] を設定する



設定の詳細は、「撮影時の設定」(P. 126) を参照してください。

[撮影時の設定] は、パノラマ撮影開始時に適用され、パノラマ撮影終了後には撮影前の設定に戻ります。

4 [作成開始] の [実行] をクリックする



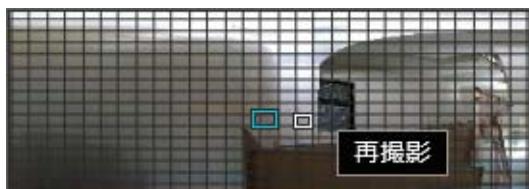
撮影が開始され、パノラマ画像が作成されます。

途中で撮影を中止したい場合は、[キャンセル] をクリックします。

部分的に撮り直すには：

作成されたパノラマ画像に、格子枠が表示されます。

撮り直したい部分にマウスポインターを合わせ右クリックし、[再撮影] を選択すると、その部分のみ再撮影されます。



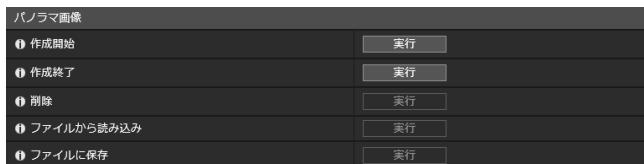
パノラマ画像上で右クリックし「再撮影」を選択すると、その個所を再撮影します。

パノラマ画像全体を撮り直すには：

再度 [作成開始] の [実行] をクリックします。

5 [作成終了] の [実行] をクリックする

この時点ではまだ、作成した画像はカメラに保存されていません。



6 [適用] をクリックする

パノラマ画像がカメラに保存され、他の設定に反映されます。

■ パノラマ画像をカメラから削除する

カメラに保存されているパノラマ画像を削除します。

1 [削除] の [実行] をクリックする

表示されているパノラマ画像がクリアされます。

2 [適用] をクリックする

確認のメッセージが表示されます。

3 [OK] をクリックする

カメラに保存されたパノラマ画像が削除されます。

パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルを開く

撮影したパノラマ画像を画像ファイルとして保存したり、画像ファイルをパノラマ画像として開いたりできます。扱える画像ファイルはJPEG形式のみです。

画像ファイルとして保存する

1 パノラマ画像作成終了後に、[ファイルに保存] の [実行] をクリックする

2 表示されたダイアログで、保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力する

3 [保存] をクリックする

指定した場所に、画像ファイルが保存されます。

画像ファイルを開く

1 [ファイルから読み込み] の [実行] をクリックする

2 表示されたダイアログで、使用する画像ファイルを選択し、[開く]をクリックする

パノラマ画像が表示されます。

撮影時の設定

これらの設定は、パノラマ撮影開始時に適用され、パノラマ撮影終了後は撮影前の設定に戻ります。

[露出のロック]

選択した設定の位置で自動調節した露出値に固定して撮影します。

[ホワイトバランスのロック]

選択した設定の位置で自動調節したホワイトバランス値に固定して撮影します。

[フォーカスのロック]

画面全体を、選択した設定の位置で自動調節したフォーカスに固定して撮影します。

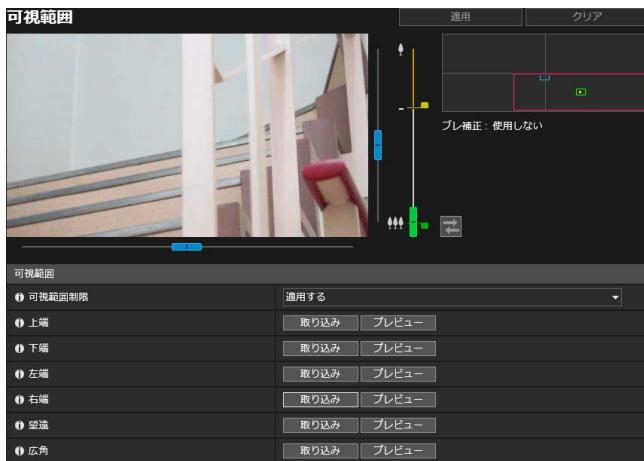
[カメラ] > [可視範囲]

可視範囲を設定する

R1x M50 H76x

カメラで撮影できる範囲を設定します。

ライブ映像公開などで、ズームや一部の視野に制限をかけたいようなケースに使用できます。

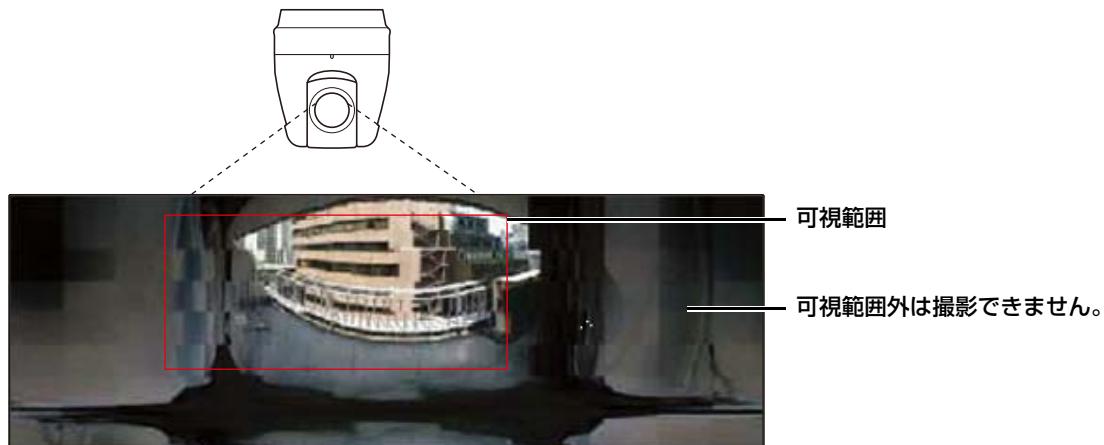


ここでは次の設定ができます。

- 可視範囲

5

設定ページ



可視範囲設定の適用範囲

可視範囲による制限は次の場合に適用されます。

- 登録ユーザーまたは一般ユーザー権限でカメラビューワーにアクセスした場合
- RM-Liteでアクセスした場合
- プリセットの設定、およびプリセットへの移動を行う機能

メモ

可視範囲を設定していても、可視範囲の境界付近にカメラを制御した場合、一瞬可視範囲外が映り込むことがあります。

可視範囲を設定する

可視範囲を設定後、[適用] することで、カメラビューウィーの撮影範囲が制限されるようになります。

重要

- カメラの設置方法の設定を変更した場合は、可視範囲設定を見直してください。
- 設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] を変更した場合は、可視範囲を見直してください。
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] > [デジタルズーム] および [ブレ補正] を変更した場合は、可視範囲設定を再度確認してください。

1 [可視範囲制限] で [適用する] を選択する

メモ

可視範囲設定を解除する場合は、[適用しない] を選択して、[適用] をクリックします。

2 映像表示部やパノラマ画面/全体画面上の枠を使って、可視範囲を設定する

映像表示部やパノラマ画面上/全体画面の枠を使ってカメラアングルを操作し、その位置を取り込んで、可視範囲を指定します。



[上端]/[下端]/[左端]/[右端] R1x M50

映像表示部を使って、設定したい上端・下端・左端・右端のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。

各位置で [取り込み] をクリックすると、パン・チルトプレビュー枠に反映されます。

[上端]/[下端]/[左端]/[右端] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在のパン・チルトプレビュー枠の上端・下端・左端・右端の各位置にプレビュー枠が移動し、映像表示部に表示されます。

メモ R1x

次の場合、可視範囲が設定できない旨のメッセージと (警告アイコン) が表示され、可視範囲が設定できなくなります。

- [左端]/[右端]: [カメラ] > [カメラ制御] > [オートフリップ] (P. 107) が [有効] の場合
- [上端]: [カメラ] > [カメラ制御] > [オートフリップ] (P. 107) が [有効] であり、かつ、[カメラ] > [設置条件] > [映像反転] (P. 109) が [反転する] の場合
- [下端]: [カメラ] > [カメラ制御] > [オートフリップ] (P. 107) が [有効] であり、かつ、[カメラ] > [設置条件] > [映像反転] (P. 109) が [反転しない] の場合

上下左右端を設定するには、[カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] > [オートフリップ] (P. 107) を [無効] にします。

[望遠]/[広角]

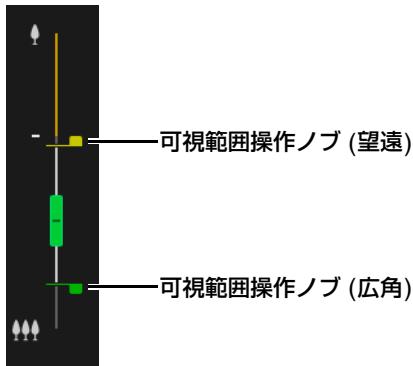
映像表示部やパノラマ画面上の枠を使って、設定したい望遠・広角のそれぞれの位置にカメラアングルを操作します。

各位置で [取り込み] をクリックすると、望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠に反映されます。

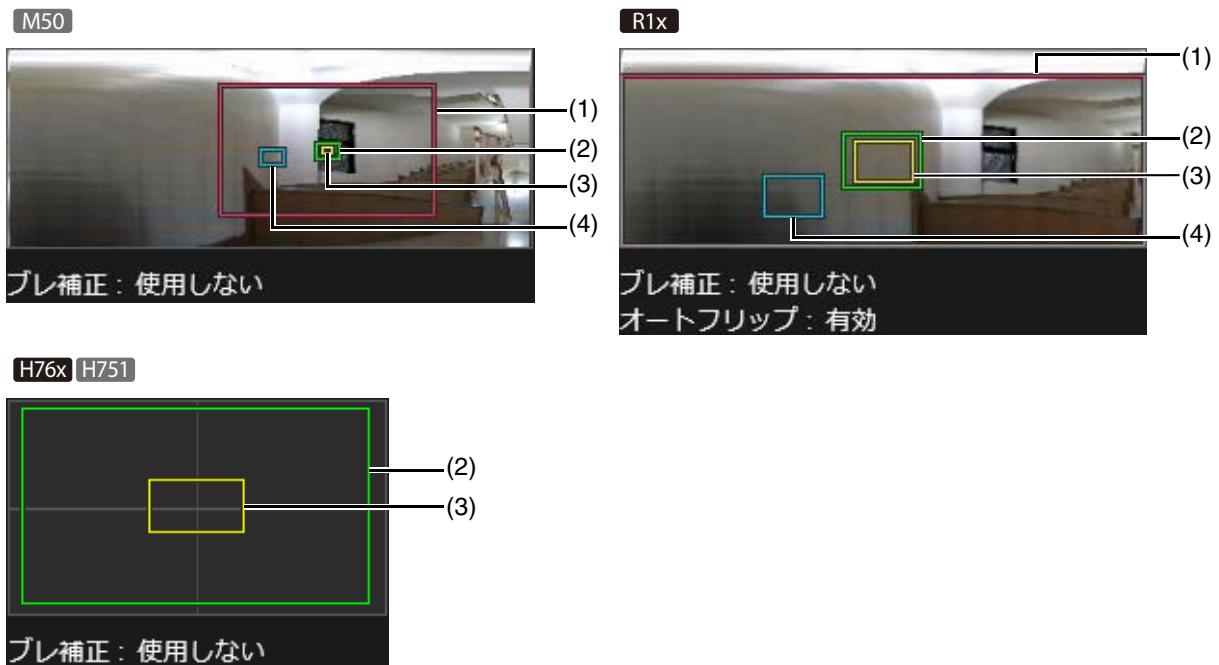
[望遠]/[広角] の各 [プレビュー] をクリックすると、現在の望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠の望遠・広角端の範囲にプレビュー枠が変形し、映像表示部に表示されます。

ズームスライダーにある可視範囲操作ノブを直接上下に移動させることでも、望遠・広角端の範囲を設定できます。この場合も、現在の望遠プレビュー枠/広角プレビュー枠の望遠・広角端の範囲に各プレビュー枠が変形し、映像表示部に表示されます。

望遠ノブを上端、広角ノブを下端までドラッグした場合は、それぞれの端の可視範囲制限は無効（制限なし）となります。



パノラマ画面に表示される枠をドラッグして変形させ、可視範囲を設定します。



(1) パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠) R1x M50

カメラが上・下・左・右に動ける範囲を表します。パン・チルトプレビュー枠をドラッグして、可視範囲を直接変更できます。

パン・チルトプレビュー枠をパノラマ領域の外枠までドラッグした場合は、それぞれの端の可視範囲制限は無効（制限なし）になります。

メモ R1x

[カメラ] > [カメラ制御] > [オートフリップ] (P. 107) が [有効] の場合、パン・チルトプレビュー枠で設定できない辺は灰色になり、変更できません。オートフリップと可視範囲設定の関係については、P. 128のメモを参照してください。

(2) 広角プレビュー枠 (緑色枠)

広角プレビュー枠をドラッグして、広角の制限範囲を直接変更できますが、縦横比は変えられません。

広角プレビュー枠は、パン・チルトプレビュー枠内で設定できます。R1x M50

(3) 望遠プレビュー枠 (黄色枠)

望遠プレビュー枠をドラッグして、望遠の制限範囲を直接変更できますが、縦横比は変えられません。

望遠プレビュー枠は、広角プレビュー枠内で設定できます。

(4) プレビュー枠 (青色枠) R1x M50

映像表示部に表示されている現在位置を示しています。

■メモ

- 变形させたパン・チルトプレビュー枠(赤色枠)の外にプレビュー枠(青色枠)が位置された場合、カメラ位置は可視範囲内に移動します。R1x M50
- 広角・望遠プレビュー枠の範囲を変更すると、プレビュー枠の広角・望遠端も変更されます。

3 [適用] をクリックする

設定値がカメラに保存されます。

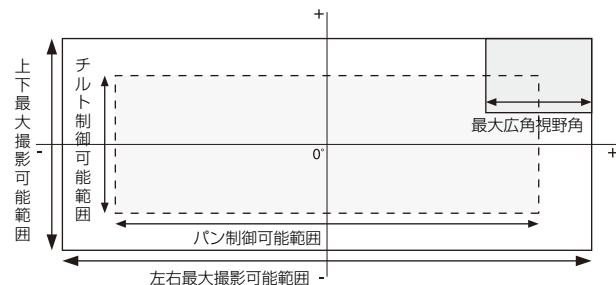


■重要 R1x M50

パノラマ画面は実際の映像と若干異なる場合があります。可視範囲設定を行ったのち、必ずカメラビューワーで可視範囲設定が正しく反映されているかを確認してください。可視範囲設定の映像表示部には可視範囲制限が適用されません。

■メモ R1x M50

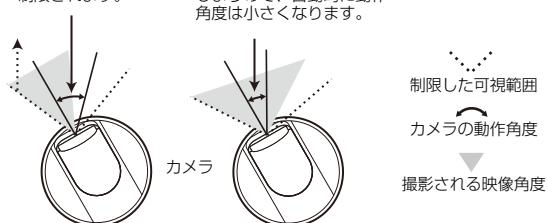
- 制御可能範囲と撮影可能範囲は次のようにになっています。



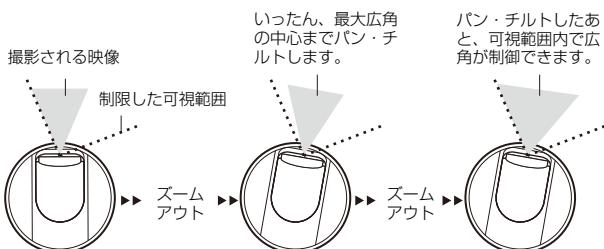
- パンおよびチルトの範囲はズーム倍率(視野角)によって変わります。

可視範囲を設定すると、自動的にカメラの動作角度が制限されます。

広角にした場合、カメラの動作角度がそのままだと、可視範囲を超えて撮像してしまうので、自動的に動作角度は小さくなります。



- ズームを広角側に制御することで可視範囲を超える場合は、カメラはいったん、ワイド端が可視範囲内に収まる位置までパン・チルトします。その後、可視範囲内で広角側の制御が可能となります。



- 可視範囲を狭くするとそれに伴ってズームの範囲も狭くなることがあります。

[カメラ] > [プリセット] プリセットを登録する

カメラアングルや、露出などのカメラ設定、デイナイト切り換えなどをプリセット登録しておくことで、ビューワーなどから簡単にプリセットを呼び出し、登録した設定が実行できます。



ここでは次の設定ができます。

- カメラ設定
- プリセット登録

The screenshot shows the 'Preset List' section of the camera configuration. It displays a table with columns for '番号' (Number), 'プリセット名' (Preset Name), '登録数: 1 / 65' (Registered: 1 / 65), and '登録' (Register). A row for 'Home' is selected, highlighted in purple. Below the table are sections for 'パン・チルト・ズーム位置' (Pan-Tilt-Zoom Position), 'カメラ設定' (Camera Settings), and 'ビューワーでの使用' (Use in Viewer).

重要

- インテリジェント機能に使用するカメラ位置を、プリセットとして登録しておくことを強く推奨します。R1x M50 H76x
- デジタルズーム領域で登録したプリセットを使用すると、登録時のカメラ位置を高い精度で再現できない場合があります。そのため、プリセット巡回やインテリジェント機能では、光学ズーム領域で登録したプリセットの使用を推奨します。R1x M50 H76x
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ] > [設置条件] > [映像反転] (P. 109) を変更した場合は、プリセットを設定し直してください。
- 設定ページの [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] (P. 101) を変更した場合は、プリセットの設定を見直してください。
- プリセット設定を行った後、設定ページの [カメラ] > [カメラ制御] > [プレ補正] (P. 107) の設定を変更すると、設定時の画角と操作時の画角が一致しなくなります。[プレ補正] の設定を変更した場合は、プリセット設定を再度確認してください。

■ プリセットの利用

プリセットには、ビューワーの操作時に、登録したカメラアングルや、露出などのカメラ設定をすぐに実行させるだけでなく、次のような使用方法があります。

- デイモード/ナイトモードの切り換え時に、プリセット登録した設定内容を実行できます (P. 203)。
- 複数のプリセットを、設定した時間に決まった順序で、自動的に巡回できます (プリセット巡回) (P. 135)。
- インテリジェント機能の使用時に、監視位置をプリセット登録したカメラアングルに固定できます (P. 178)。

R1x M50 H76x

プリセットを登録する

カメラアングルやカメラ設定をプリセットとして登録できます。

登録できるプリセット数は次のとおりです。

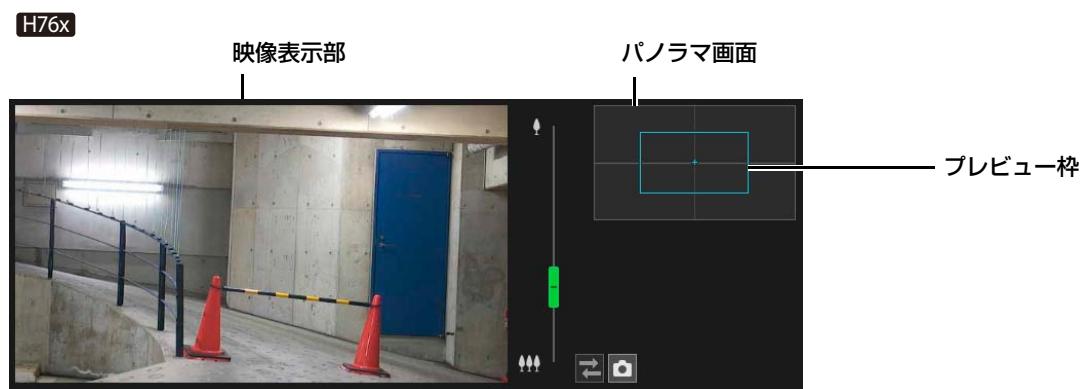
- 最大257個 (ホームポジション含む) R1x
- 最大65個 (ホームポジション含む) M50
- 最大21個 (ホームポジション含む) H65x M64x H76x H751 M74x

1 映像表示部を操作して、プリセットとして登録したい角度を設定する

次の画面からでもカメラ角度を操作できます。

パノラマ画面 R1x M50 H76x

デジタルPTZパネル H65x M64x H751 M74x



2 必要に応じて[カメラ設定]をクリックして開き、各項目を設定する

プリセットに適用する項目を設定します。各項目の説明は、「カメラ設定」(P. 112) を参照してください。

3 プリセット登録の項目を設定する



[パン・チルト・ズーム位置] [R1x M50]/[ズーム位置] [H76x]/[デジタルPTZ位置] [H65x M64x H751 M74x]
現在のカメラアングルをプリセットとして登録する場合は、[登録する] を選択します。

メモ

プリセットリストで、[Home] (ホームポジション) を選択した場合は、[パン・チルト・ズーム位置]/[ズーム位置]/[デジタルPTZ位置] は必ず登録されます。

[カメラ設定]

現在の [カメラ設定] をプリセットとして登録する場合は、[登録する] を選択します。

[プリセット名 (半角英数字)]/[プリセット名 (日本語)]

プリセット名を入力します。[プリセット名(半角英数字)] は必ず入力してください。

[プリセット名(日本語)] を入力した場合、ビューワーや設定ページのプリセットリストには、[プリセット名(日本語)] が優先して表示されます。

[ビューワーでの使用]

[使用する] を選択すると、プリセットがカメラビューワーで使用できるようになります。

4 [登録] をクリックする

メモ [R1x M50 H76x]

プリセットの位置が可視範囲外にある場合は、左に (警告アイコン) が表示されます。

5 複数のプリセットを登録する場合は、1~4を繰り返す

6 [適用] をクリックする

プリセットがカメラに保存されます。

メモ

設定した内容を破棄して、カメラに保存されている設定内容に戻す場合は、[クリア] をクリックします。ただし、プリセットリストに [登録] しただけのプリセットは、すべて破棄されますのでご注意ください。

■ プリセットを削除する

プリセットリストから、削除するプリセットを選択し、[削除] をクリックします。[適用] をクリックすると、プリセットがカメラから削除されます。ただし、[Home] (ホームポジション) は削除できません。

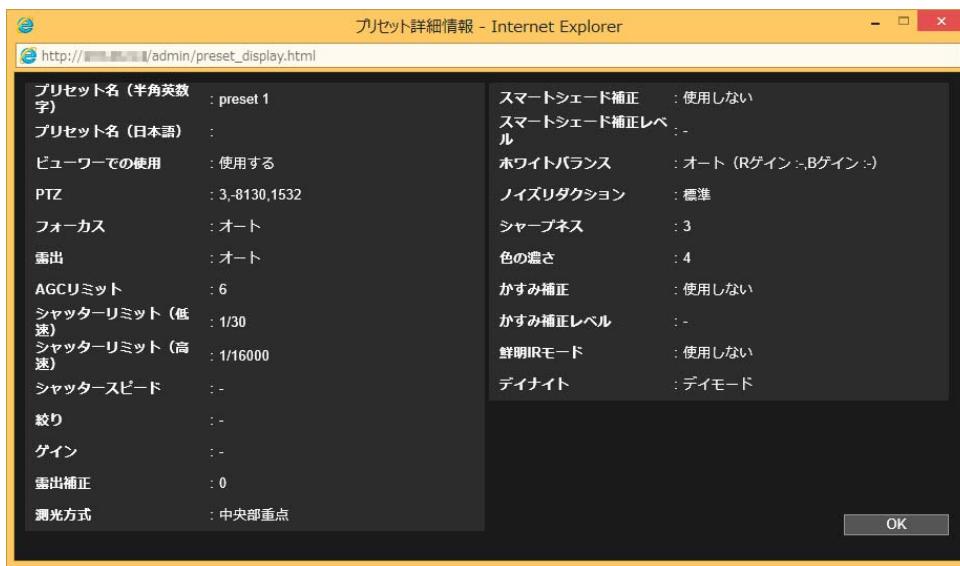
■ プリセットをプレビューする

プリセットリストからプリセットを選択した後、[プレビュー] をクリックします。映像表示部にプリセットの設定が反映されます。

■ プリセットの詳細情報を確認する

カメラに登録されているプリセットの情報を表示します。

プリセッットリストから、詳細情報を確認するプリセットを選択し、[詳細情報を表示] をクリックします。



詳細情報を確認した後、[OK] をクリックします。

[カメラ] > [プリセット巡回] プリセット巡回ルートを設定する

登録済みの複数のプリセットを自動で巡回して、監視を行うことができます。

プリセット巡回

プリセット巡回

頻繁にパン・チルトを行う設定にした場合、パン・チルト駆動部の耐用年数が短くなる可能性があります。

ルート一覧

ルート名	有効条件	時間帯 hh:mm-hh:mm	反転
route 1	ビューウォー接続中	指定しない	しない
route 2	使用しない	指定しない	しない
route 3	使用しない	指定しない	しない
route 4	使用しない	指定しない	しない
route 5	使用しない	指定しない	しない

● 有効条件 ビューウォー接続中

● ルート名（半角英数字） 64文字以内

● ルート名（日本語） 64文字以内

● 時間帯の指定 指定しない

● ルートの反転 反転しない

適用 クリア

ここでは次の設定ができます。

- ルート一覧
- 巡回ルート編集

route 1 巡回ルート編集 登録数: 0 / 60

番号	プリセット名	移動速度 (PT,Z)	静止時間 (秒)	操作
				追加 削除 プレビュー



● 移動速度 (PT) 20 (速い)

● 移動速度 (Z) 8 (速い)

● 静止時間 (秒) 0-3600 0

【重 要】 R1x M50

- プリセット巡回で頻繁にパン・チルトを行う設定にした場合、パン・チルト駆動部の耐用年数が短くなる可能性があります。特に、常温（温度：約 23°C、湿度：約 60%）以外の環境では常温に比べさらに短縮される場合があります。
各巡回地点の静止時間を長めに設定する、またはプリセット巡回の時間帯を指定し動作時間を減らすなどにより、パン・チルトの頻度を減らすことができます。
- プリセット巡回を使用する場合は、インテリジェント機能を使用しないでください。

【メモ】

- カメラビューウォーで制御権が取得されているとき、または設定ページで映像表示をしているときは、プリセット巡回は行われません。
- RM-Liteで制御権が取得されているときは、プリセット巡回は行われません。

画面構成について

カメラ機種の種別により、登録できる巡回ルート数、1ルート内で巡回できるプリセット数、また巡回条件が違うため、画面構成も次のようにになります。

R1x M50

ルート一覧

ルート名	有効条件	時間帯 hh:mm-hh:mm	反転
route 1	ビューワー接続中	指定しない	しない
route 2	使用しない	指定しない	する
route 3	使用しない	指定しない	しない
route 4	使用しない	指定しない	しない
route 5	使用しない	指定しない	しない

(1)

① 有効条件 ビューワー接続中
 ② ルート名（半角英数字） 64文字以内
 ③ ルート名（日本語） 64文字以内
 ④ 時間帯の指定 指定しない
 ⑤ ルートの反転 反転しない

(2)

route 1 巡回ルート編集 登録数: 4 / 64

番号	プリセット名	移動速度 (PT,Z)	静止時間 (秒)	操作
Home	home	20.8	10	追加 削除 プレビュー
2	preset 2	20.8	10	
2	preset 2	20.8	10	
3	preset 3	20.8	10	

(3)

(4)

(5)

⑥ 移動速度 (PT) 20 (速い)
 ⑦ 移動速度 (Z) 8 (速い)
 ⑧ 静止時間 (秒) 0-3600 10

H76x

ルート一覧

ルート名	有効条件	時間帯 hh:mm-hh:mm	反転
route 1	ビューワー接続中	指定しない	しない
route 2	使用しない	指定しない	する
route 3	使用しない	指定しない	しない
route 4	使用しない	指定しない	しない
route 5	使用しない	指定しない	しない

(1)

① 有効条件 ビューワー接続中
 ② ルート名（半角英数字） 64文字以内
 ③ ルート名（日本語） 64文字以内
 ④ 時間帯の指定 指定しない
 ⑤ ルートの反転 反転しない

(2)

route 1 巡回ルート編集 登録数: 4 / 20

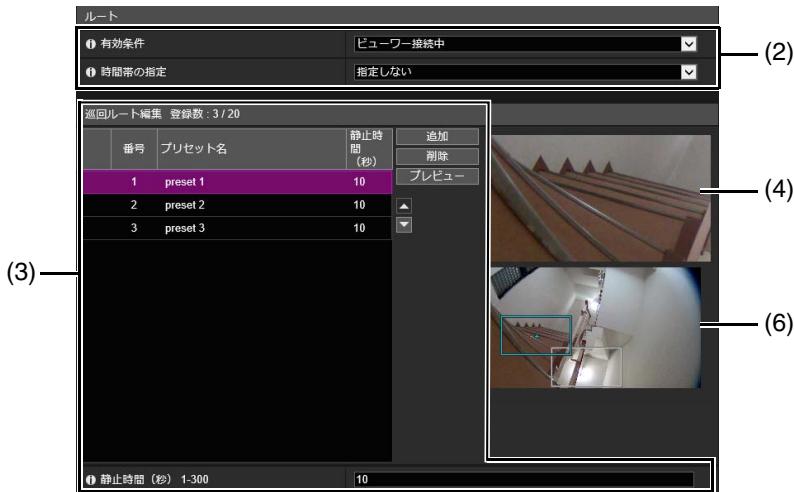
番号	プリセット名	移動速度 (Z)	静止時間 (秒)	操作
Home	home	8	10	追加 削除 プレビュー
1	preset 1	8	10	
2	preset 2	8	10	
3	preset 3	8	10	

(3)

(4)

(5)

⑥ 移動速度 (Z) 8 (速い)
 ⑦ 静止時間 (秒) 0-3600 10



(1) [ルート一覧] リスト R1x M50 H76x

プリセット巡回ルートの一覧です。設定した巡回条件が表示されます。5個の巡回ルートを設定できます。

(2) 巡回条件の設定

巡回ルート名と巡回する場合の条件を設定します (P. 138)。

(3) [巡回ルート編集]

巡回するプリセットが一覧表示されます。一覧の上から順に巡回します。

プリセットの並び順を変えたり、プリセット位置に停止する時間などを設定することができます。

(4) 映像表示部

カメラの現在の映像を表示します。

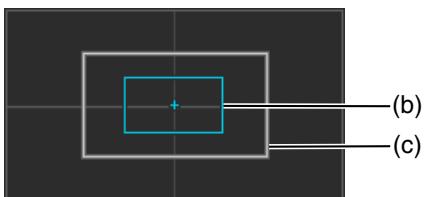
(5) パノラマ画面 R1x M50 H76x

カメラに登録されているパノラマ画像が表示されます。

R1x M50



H76x



(a) パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠) R1x M50

カメラが上・下・左・右に動ける範囲を表します。可視範囲が設定されている場合 (P. 127) に表示されます。

(b) プレビュー枠 (青色枠)

映像表示部に現在のカメラアングルを表します。

(c) プリセットプレビュー枠 (白色枠)

現在選択中のプリセット・ホームポジションを表します。

(6) デジタルPTZパネル H65x M64x H751 M74x

[プリセット巡回] を起動したときにカメラが取得する全体映像が表示されます。



(b) プレビュー枠 (青色枠)

映像表示部に現在切り出している位置を表します。

(c) プリセットプレビュー枠 (白色枠)

現在選択中のプリセット・ホームポジションを表します。

巡回ルートの設定

登録できる巡回ルート数と、1ルート内で巡回できるプリセット数は、次のとおりです。

- 最大5ルート、1ルート内最大64プリセット R1x M50
- 最大5ルート、1ルート内最大20プリセット H76x
- 1ルート、ルート内最大20プリセット H65x M64x H751 M74x

メモ R1x M50 H76x

登録した巡回ルートで有効条件や時間帯が競合する場合は、[ルート一覧] のリスト上位にあるルートが優先されます。

1 [ルート一覧]リストで、設定する巡回ルートを選択する R1x M50 H76x

2 巡回ルートの名前と動作について設定する

① 有効条件	ビューウー接続中
② ルート名（半角英数字）	64文字以内
③ ルート名（日本語）	64文字以内
④ 時間帯の指定	指定する
⑤ 開始時刻 hh:mm	00:00
⑥ 終了時刻 hh:mm	00:00
⑦ ルートの反転	反転しない

[有効条件]

プリセット巡回が作動する条件を選択します。

[使用しない]

プリセット巡回は作動しません。

[ビューウー接続中]

ビューウーでカメラに接続しているときに作動します。

[常時]

プリセット巡回は常に作動します。

メモ

[使用しない] を選択しているとき、以降のプリセット巡回ルートの設定はできません。

[ルート名(半角英数字)]/[ルート名(日本語)] R1x M50 H76x

巡回ルート名を入力します。

[ルート名(日本語)] を入力した場合、[ルート一覧] には、[ルート名(日本語)] が優先して表示されます。

[時間帯の指定]

決まった時刻に巡回を行う場合は、[指定する] を選択し、巡回の開始時刻と終了時刻を設定します。

[有効条件] に [ビューウォー接続中] が選択されている場合、巡回の開始時刻にビューウォーがカメラに接続されているときにプリセット巡回は作動します。[有効条件] に [常時] を設定している場合、プリセット巡回は常に作動します。

[ルートの反転] R1x M50 H76x

[反転する] を選択すると、[巡回ルート編集] のプリセット巡回順が逆になります。

3 [巡回ルート編集] の [追加] をクリックする

4 [プリセット一覧] で、巡回させるプリセットをチェックする

プリセットは複数指定できます。



メモ R1x M50 H76x

プリセットの位置が可視範囲外にある場合は、左に ! (警告アイコン)が表示されます。

5 [追加] をクリックする

[巡回ルート編集] にプリセットが追加されます。

[巡回ルート編集] で、プリセットを選択し、[▲] または [▼] をクリックすると、リストの順番が移動します。

[巡回ルート編集] で、プリセットを選択し、[削除] をクリックすると、プリセットが削除されます。

[プリセット一覧] または [巡回ルート編集] リスト上のプリセット名を選択し、[プレビュー] をクリックすると、プリセットの設定が、映像表示部で確認できます。

メモ

すでに [巡回ルート編集] にプリセットが追加されている場合、[プリセット一覧] リストからプリセットを追加すると、[巡回ルート編集] で選択しているプリセットの下に追加されます。

6 プリセットの移動速度と停止時間を設定する

[巡回ルート編集] で、設定するプリセットを選択し、巡回動作を設定します。

● 移動速度 (PT)	20 (速い)
● 移動速度 (Z)	8 (速い)
● 静止時間 (秒) 0-3600	0

[移動速度(PT)] R1x M50

次のプリセットへ移動する間の、カメラのパン・チルト速度を選択します。

[移動速度(Z)] R1x M50 H76x

次のプリセットへ移動する間の、カメラのズーム速度を選択します。

[静止時間(秒)]

プリセット位置にカメラが停止している時間を入力します。

メモ R1x M50 H76x

移動速度は、プリセット間を移動中の映像を流し見する場合は遅めの数値を、プリセット位置の映像のみを素早く切り換えて見る場合は速めの数値を選択してください。

7 [適用] をクリックする

ルートの設定が完了したら、[適用] をクリックしてください。カメラに設定値が保存されます。

メモ

設定したルートをやり直す場合は、[クリア] をクリックします。カメラに保存されている設定内容に戻ります。ただし、[巡回ルート編集] に [追加] しただけのプリセットは、すべて破棄されますのでご注意ください。

[映像と音声] > [ADSR] 映像品質を部分的に下げてデータ量を低減する

H.264映像を送信する場合、天井や空など被写体がない部分の映像品質を下げて送信データ量を低減できます。
ADSRとはArea-specific Data Size Reduction の略です。



ここでは次の設定ができます。

- 指定領域
- ADSR

5

設定ページ

重要

映像のシーンや指定領域の設定によっては、低減効果が得られない場合があります。事前に低減効果を確認してからご使用ください。

メモ

- 指定領域の画質は、[映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の [ビットレート制御] の設定によって異なります。
 - [ビットレート制御する] の場合：目標ビットレートになるようシーンに応じて画質を調整します。
 - [ビットレート制御しない] の場合：[映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の設定が保持されます。
- 指定領域外の画質は、[データ量低減レベル]に応じて低下します。

R1x M50 H76x

- 指定領域は、カメラのパン・チルト・ズーム動作 (H76x H751 はズームのみ) を行っても、カメラの動きに追従して移動します。
- 指定領域は、可視範囲設定内のみ設定可能です。

指定領域

映像品質を落とさない領域を指定します。

指定領域は、最大8箇所、異なる色の枠線で設定できます。

重要

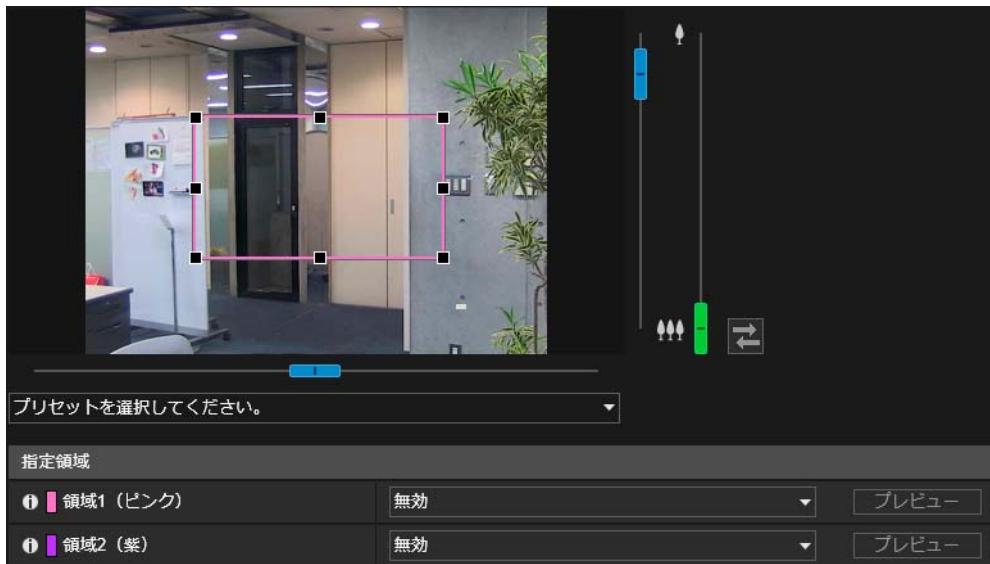
- [カメラ] > [設置条件] で [映像反転] の設定を変更した場合、指定領域設定を見直してください。
- [映像] > [映像全般] で [映像サイズセット] を変更した場合は、指定領域設定を見直してください。

R1x M50 H76x

- 指定領域は大きめに設定してください。
- ズーム位置によっては、指定領域が若干ずれることができます。
- 指定領域は光学ズーム領域でのみ設定できます。デジタルズーム領域 (P. 65) では設定できません。

1 指定領域の枠線に使用する色の領域を [有効] にする

映像表示部に指定領域の枠線が表示されます。



2 指定領域を設定する

映像表示部で次のように操作して、指定領域を設定します。

- 枠線内をドラッグして、領域を移動
- 枠線の8箇所の■をドラッグして、サイズを変更
- カメラアングルを変更する場合は、次のいずれかの方法で操作 **R1x M50 H76x**
スライダーでパン・チルト・ズームを操作 (**H76x** ズームのみ)
プリセット選択ボックスでプリセットを選択

3 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

メモ

ADSRの設定が反映された映像は、カメラビューワーで確認できます。指定領域外は、データ量軽減効果により映像が粗くなります。

[プレビュー] **R1x M50**

設定した指定領域の [プレビュー] をクリックすると、指定領域の位置にカメラが移動します。

 メモ **R1x M50 H76x**

領域枠を操作する前にカメラアングルを変更すると、領域枠が非表示になる場合があります。領域枠を再表示させるには、対象の指定領域の [プレビュー] をクリックするか、領域枠が完全に表示される位置へカメラアングルをスライダーで移動してください。

ADSR

[指定領域] 外のデータ量低減について設定します。

[H.264(1)で使用]

H.264(1)映像で、[指定領域]外の映像品質を下げる場合は、[使用する]に設定します。

[H.264(2)で使用]

H.264(2)映像で、[指定領域]外の映像品質を下げる場合は、[使用する]に設定します。

[データ量低減レベル]

[指定領域] 外のデータ量軽減レベルを設定します。[弱]を選択すると、データ量低減効果が低くなります。[強]を選択すると、データ量低減効果が高くなります。

[映像と音声] > [オンスクリーン表示] 映像上に日時やテキストを表示する

映像上に、日付や時刻、カメラ名、任意の文字列を表示します。



ここでは次の設定ができます。

- オンスクリーン表示

重要

オンスクリーン表示される時刻は、高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、参考情報としてご活用ください。

メモ

- 映像品質の設定によっては、オンスクリーン表示が判読しづらくなる場合があります。実際の映像をご確認のうえ、設定してください。
- デジタルPTZで、水平方向のサイズが384 pixel以下の切り出し映像には、オンスクリーン表示されません。
M50 M65x M64x H76x H751 M74x
- [テキスト表示] と [日付表示] [時刻表示] を同じ行に並べると、文字列が途切れる場合があります。文字列が重なった場合、[テキスト表示位置] を [右上] または [右下] に設定したものが優先して表示されます。
- 映像サイズやテキスト表示の文字数、表示位置によっては、すべての文字列が表示されないことがあります。映像サイズ、オンスクリーン表示の設定変更を行った場合は、表示内容を確認してください。

オンスクリーン表示

[日付表示]

映像上に日付を表示するかを選択します。

[日付表示位置]

日付を表示する映像上の位置を選択します。

[日付表示フォーマット]

年/月/日の並び順を選択します。

[時刻表示]

映像上に時刻を表示するかを選択します。

[時刻表示位置]

時刻を表示する映像上の位置を選択します。

[テキスト表示]

映像上に表示する文字列を選択します。

[指定文字列を表示する]

下記の [テキスト文字列]、または [テキスト文字列 (日本語)] に入力した文字列が表示されます。

[カメラ名を表示する]

[カメラ名 (半角英数字)] (P. 106) に入力したカメラ名が表示されます。

[テキスト表示位置]

テキスト文字を表示する映像上の位置を選択します。

[テキスト文字列]

[テキスト表示] が [指定文字列を表示する] の場合、映像上に表示する文字列を半角英数字で入力します。

[テキスト文字列 (日本語)]

[テキスト表示] が [指定文字列を表示する] で、言語選択が日本語の場合、映像上に表示する文字列を日本語で入力します。

[テキスト文字列 (日本語)] を表示するには、[テキスト文字列] を空欄にしてください。

 メモ

「¥」記号は「₩」記号で表示されます。

[文字の色]

文字の色を8色の中から選択します。

[背景の色]

文字の背景の色を8色の中から選択します。

[文字と背景の濃さ]

文字と背景の濃さ (塗りつぶし、透明、半透明) の組み合わせを選択します。

[映像と音声] > [プライバシーマスク] プライバシーマスクを設定する

カメラ映像の任意の領域にマスクをかけることができます。カメラの映像を確認しながら、8箇所までマスクを設定できます。

カメラのパン・チルト・ズーム動作を行った場合でも、プライバシーマスク領域はカメラ画像に追従します。



ここでは次の設定ができます。

- プライバシーマスク
- マスク領域
- プライバシーマスク全般

重要

- プライバシーマスクは、カメラから配信されるすべての画像（ライブ映像、アップロード画像、録画映像、メモリーカードに記録される画像）に適用されます。
- 次の場合は、プライバシーマスク機能は動作しません。
 - 電源投入直後のカメラ起動時
 - カメラアングル設定のカメラ映像 **H651 M64x**
 - パノラマ画像作成中 **R1x M50**
- プライバシーマスク領域もインテリジェント機能の検知対象となります。[インテリジェント機能] 設定ページでは、検知された物体の輪郭枠などがマスク上に表示され、被写体の動きが分かることがあります。

プライバシーマスクを登録する

マウス操作でプライバシーマスク領域の位置とサイズを設定し、設定をカメラに保存します。

1 映像表示部に、マスク領域を追加したい部分の映像を表示する **R1x M50 H76x**

スライダーを使ってカメラアングルを操作します。

R1x M50

◀ [マウス操作切り替え] ボタンをクリックして、ボタンが紫色のあいだ、次の操作ができます。

- 映像表示部上でクリックした位置にカメラアングルをセンタリング
- エリアズーム操作 (P. 65)

R1x M50 H76x

プリセット選択ボックスでプリセットを選択してカメラアングルを変更

⌚ メモ R1x M50

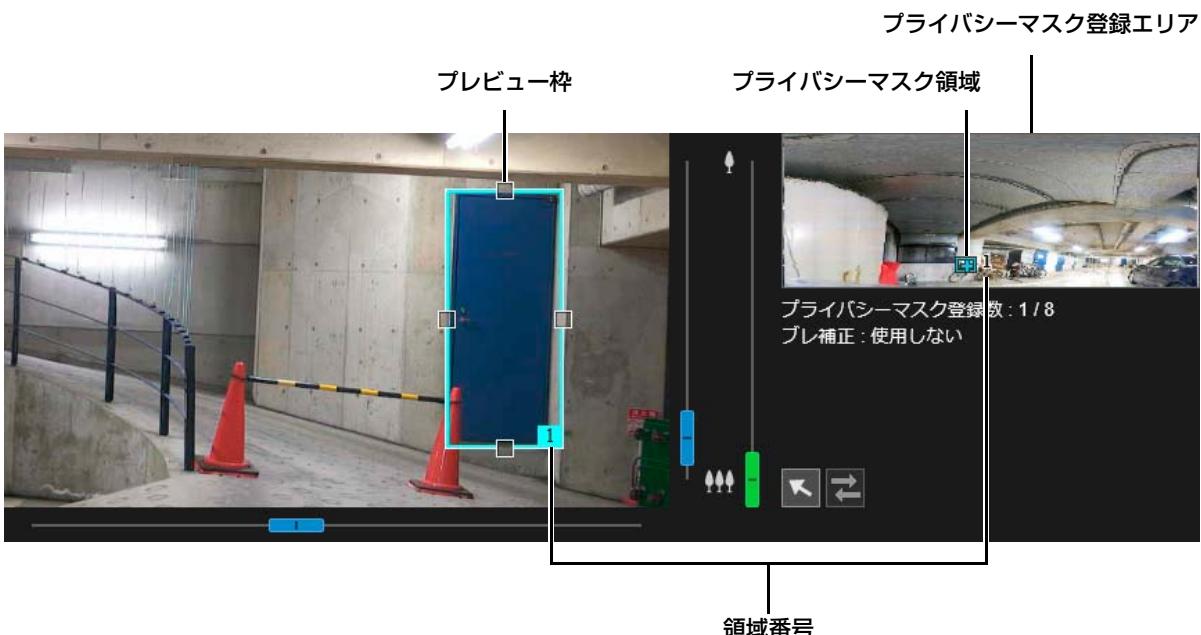
[マウス操作切り替え] ボタンが紫色のあいだは、映像表示部にプレビュー枠表は示されません。

R1x M50



2 [マスク領域の追加] の [追加] をクリックする

映像表示部に領域番号が付いたプレビュー枠が表示され、プライバシーマスク登録エリアにも対応する番号のプライバシーマスク領域が表示されます。



3 映像表示部で、プレビュー枠の位置とサイズを設定する

映像表示部に表示されているプレビュー枠をドラッグして、隠したい部分に移動します。

プレビュー枠の四辺の□をドラッグして、サイズを変更します。



重 要 R1x M50 H76x

プライバシーマスク領域は、隠したい領域より大きめに設定してください。

4 [マスク領域] を [有効] に設定する

プライバシーマスク領域の設定が有効になります。

[マスク領域] を [無効] に設定すると、プライバシーマスク領域を削除せずに、一時的に無効にできます。このとき、プライバシーマスク登録エリアのプライバシーマスク領域は斜線入りの枠表示になります。

5 必要に応じて [色] で、プライバシーマスク領域の色を変更する

ここで選択した色は、すべてのプレビュー枠とプライバシーマスク領域に反映されます。

6 別のプライバシーマスク領域を追加する場合は、1~5を繰り返す

最大8個のプライバシーマスクを保存できます。

7 [適用] をクリックする

プライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

保存したプライバシーマスク領域は、映像表示部とプライバシーマスク登録エリアに表示されます。

■ 重要

- [基本] > [映像] > [映像全般] > [映像サイズセット] を変更した場合は、プライバシーマスク設定を見直してください。
- [カメラ] > [カメラ] > [設置条件] > [映像反転] の設定を変更した場合、プライバシーマスクの位置を設定し直す必要があります。
- [カメラ] > [カメラ] > [カメラ制御] > [ブレ補正] を変更してから、プライバシーマスクを再設定する場合は、すべてのプライバシーマスクの位置と大きさを再設定してください。
- [パノラマ] でパノラマ画像を保存したあとでプライバシーマスクの設定を変更した場合は、[パノラマ] でパノラマ画像を作成し直してください (P. 123)。R1x M50

R1x M50 H76x

- プライバシーマスクの登録後は、カメラのパン・チルト・ズームを実際に動かして、カメラアングルが変わっても隠したい領域が見えないことを確認してください。
- ズーム位置によっては、プライバシーマスクが指定位置から若干ずれることがあります。

プライバシーマスクを変更/削除する

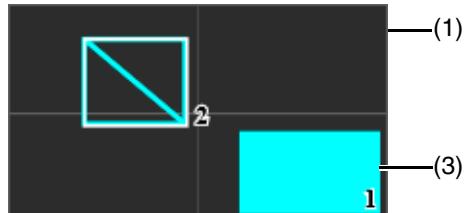
■ プライバシーマスク登録エリアについて

カメラが撮影可能な全領域中のプライバシーマスク領域の位置が表示されます。

R1x M50



H65x M64x H76x H751 M74x



(1) カメラが撮影可能な全領域

物理的に撮影可能な領域を表します。

R1x M50

カメラにパノラマ画像が登録されている場合、ここに表示されます。

(2) 可視範囲制限領域 R1x M50

可視範囲 (P. 127) を設定した場合に、可視範囲制限エリアがグレーで表示されます。

(3) プライバシーマスク領域

[マスク領域] が [有効] (P. 147) に設定されているプライバシーマスク領域は、枠内が塗りつぶされて表示されます。

[マスク領域] が [無効] (P. 147) に設定されているプライバシーマスク領域は枠内に斜線が表示されます。

(4) プレビュー枠 R1x M50

映像表示部に表示されている現在のカメラ位置です。

■ 位置・サイズを変更する

プライバシーマスクの選択方法

プライバシーマスク領域の選択には、次の方法があります。

- プライバシーマスク登録エリアで、選択したいプライバシーマスク領域をクリックする
- 表示したいマスク領域の [プレビュー] をクリックする
- 映像表示部に表示されているプライバシーマスク領域をクリックする

1 変更したいプライバシーマスク領域を選択する

2 プライバシーマスク領域の位置・サイズを変更する

プレビュー枠をドラッグして移動したり、プレビュー枠の四辺の□をドラッグしてサイズを変更します。

3 [適用] をクリックする

変更したプライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

■ カメラから削除する

削除したいプライバシーマスクの [マスク領域] の [削除] をクリックした後、[適用] をクリックします。

選択したプライバシーマスク領域が、カメラから削除されます。

[映像と音声] > [音声] 音声の入出力について設定する

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

カメラに接続したマイクからの入力音声や、ビューワーからの出力音声について設定します。また、イベント発生時に出力する再生音のファイルを登録します。



ここでは次の設定ができます。

- 音声全般
- 再生音ファイル登録1~3

重 要

- 最大30 クライアントに対して、映像と音声を配信できます。ただし、配信するクライアントが多い場合やSSL/TLS通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり、音声が途切れたりする場合があります。
- 映像と音声は、同期しないことがあります。
- 音量検知 (P. 168)、悲鳴検知 (P. 169) を設定した後に、[入力音量] や [エコーキャンセラー] の設定を変更した場合は、検知設定を見直してください。
- 使用するPCの性能やネットワーク環境によっては、音声が途切れることがあります。
- ウイルス対策ソフトウェアをご使用の場合、音声が途切れることがあります。
- LANケーブルの抜き差しなどで、通信が一時的に途切れると、音声が切断されます。その場合は、ビューワーから再接続してください。
- 使用するマイクの特性で、音量・音質などが変化する場合があります。
- カメラに接続するスピーカーは、アンプ付きのものを使用してください (『設置ガイド』参照)。

音声全般

入出力音声の音量やエコー除去、マイクの種類を設定します。

[入力音量]

カメラに接続したマイクから入力する音量を入力します。

[サーバー] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] (P. 156) が [送信する] の場合に適用されます。

[出力音量]

カメラに接続したスピーカーにビューワーから出力する音量を入力します。

[サーバー] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] (P. 156) が [受信する] の場合に適用されます。

[エコーキャンセラー]

マイクとスピーカーの間で発生するエコーを防ぐエコーキャンセラーの使用の有無を選択します。

[サーバー] > [音声サーバー] (P. 156) が次のように設定されている場合に、適用されます。

- [カメラからの音声送信] が [送信する]
- [ビューワーからの音声受信] が [受信する]

重 要

エコーキャンセラーを使用すると、音質や音量に影響を及ぼす可能性があります。設置環境や使用方法に合わせ、必要に応じて使用してください。

[音声入力モード]

カメラに接続しているマイクの種類を選択します。

注意	
 指示	マイクを使用する場合、マイクの仕様に合わせて、[音声入力モード]で [ライン・イン] と [マイク・イン] を切り換えてください。
	間違えて使用した場合、カメラやマイクの故障の原因になりますので、正しく設定してください。

再生音ファイル登録1～3

イベント発生時に再生する音声ファイルを、3つまで登録できます。

メ モ

再生音は、[イベント] > [外部デバイス] > [外部デバイス入力](P. 166)、または [イベント] > [インテリジェント機能] の [イベント]タブ(P. 201)で音声再生を設定する際に使用されます。

[参照ファイル]

登録する音声ファイルを指定し、[追加] をクリックします。

登録できる音声ファイルには、次の条件があります。

- 再生時間：20秒以内
 - ファイル形式：「.wav」(μ-law PCM 8bit。サンプリング周波数8000Hz、モノラル)
音声ファイルのサンプルが、セットアップCD-ROMのSOUNDフォルダに収録されています。
- 空欄のまま [適用] をクリックした場合、カメラに登録した再生音は削除されます。
[追加] した音声ファイルを削除するには、削除したい再生音名の横にある [削除] をクリックします。

[再生音名]

登録する音声ファイルに名前を入力します。

再生音名は、必ず設定してください。

[サーバー] > [サーバー] HTTP、SNMP、FTPの各サーバーについて設定する

HTTPサーバー、SNMPサーバー、FTPサーバーの使用と、WS-Securityの時刻チェックについて設定します。

HTTPサーバー	再起動	適用	クリア
● 認証方式	Digest認証		
● HTTPポート番号 80,1024~65535	80		
● HTTPSポート番号 443,1024~65535	443		
SNMPサーバー			
● SNMPv1, v2cの使用	使用する		
● SNMPv3の使用	使用する		
● 管理者連絡先 31文字以内			
● 管理用の機器名 31文字以内	VB		
● 設置場所 31文字以内			
SNMPv1, v2cサーバー			
● コミュニティ名 31文字以内	community name		
SNMPv3サーバー			
● ユーザー名 31文字以内	user name		
● セキュリティレベル	認証あり、暗号化あり		
● 認証アルゴリズム	MD5		
● 認証パスワード 8~31文字	*****		
● 暗号化アルゴリズム	DES		
● 暗号化パスワード 8~31文字	*****		

ここでは次の設定ができます。

- HTTPサーバー
- SNMPサーバー
- SNMPv1, v2cサーバー
- SNMPv3サーバー
- FTPサーバー
- WS-Security

FTPサーバー			
● FTPサーバーの使用	使用する		
● ユーザー名 5~16文字	username		
● パスワード 8~31文字	*****		
WS-Security			
● 認証時の時刻チェック	チェックする		

HTTPサーバー

認証方式やHTTPポート番号について設定します。

重要

[HTTPポート番号] または [HTTPSポート番号] の設定を変更した際、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性がある場合は、確認のダイアログが表示されます。変更した設定を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。

カメラの再起動後、Webブラウザーからカメラに再接続できない場合、メッセージとともに、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。

表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

[認証方式]

HTTPサーバーで使用する認証方式を選択します。

[HTTP ポート番号]

HTTPポート番号を入力します。

通常は、[80] (工場出荷設定) を使用してください。

[HTTPSポート番号]

HTTPSポート番号を入力します。

通常は、[443] (工場出荷設定) を使用してください。

SNMPサーバー

SNMPの使用に必要な設定を行います。

メモ

- SNMPマネージャーから参照するカメラの情報は、読み取り専用です。
- SNMP MIB2 (RFC1213対応) がサポートされているSNMPマネージャーをお使いください。

[SNMPv1, v2cの使用]

[使用する] を選択すると、SNMPv1, v2cを使用して、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

[SNMPv3の使用]

[使用する] を選択すると、SNMPv3を使用して、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

[管理者連絡先]

カメラの管理者連絡先(メールアドレスなど)を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

[管理用の機器名称]

カメラの管理用機器名称を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

空白にした場合、カメラの機種名が使用されます。

[設置場所]

カメラの設置場所の情報を入力します。設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

SNMPv1, v2cサーバー

[コミュニティ名]

[SNMPv1, v2cの使用]で[使用する]を選択した場合、SNMPv1とv2cで使用するコミュニティ名を入力します。工場出荷設定は空値です。

SNMPv3サーバー

[ユーザー名]

[SNMPv3の使用]で[使用する]を選択した場合、SNMPv3で使用するユーザー名を設定します。

[セキュリティレベル]

SNMPv3で使用するセキュリティレベルを選択します。

[認証アルゴリズム]

[セキュリティレベル]で、[認証あり、暗号化なし]または[認証あり、暗号化あり]を選択した場合、認証アルゴリズムを選択します。

[認証パスワード]

[セキュリティレベル]で、[認証あり、暗号化なし]または[認証あり、暗号化あり]を選択した場合、認証パスワードを設定します。

[暗号化アルゴリズム]

[セキュリティレベル]で、[認証あり、暗号化あり]を選択した場合、暗号アルゴリズムを選択します。

[暗号化パスワード]

[セキュリティレベル]で、[認証あり、暗号化あり]を選択した場合、暗号化パスワードを設定します。

FTPサーバー

[FTPサーバーの使用]

FTPサーバーを使用するための設定です。

[ユーザー名]

FTP接続を許可するユーザー名を設定します。

[パスワード]

FTP接続を許可するユーザーのパスワードを設定します。



重

要

- FTPソフトウェアを使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。
- ユーザー名を変更する際は、必ずパスワードも一緒に変更してください。
- システムで使用しているユーザー名と同一のユーザー名を設定すると、「ユーザー名が不正です。」とメッセージが表示されます。その場合は、別のユーザー名を設定してください。

WS-Security

[認証時の時刻チェック]

クライアントから送信されたデータの時刻情報をチェックするかを選択します。

[サーバー] > [映像サーバー] 映像配信について設定する

映像サーバーに接続できるクライアントについて設定します。

映像サーバー		適用	クリア
映像サーバー			
● 最大クライアント数 0~30	30		
● 最大制御権待ち数 0~30	30		
● 最大接続時間(秒) 0~65535	0		
● カメラ制御時間(秒) 1~3800	20		

ここでは次の設定ができます。

- 映像サーバー

5

映像ペー
ジ

映像サーバー

[最大クライアント数]

カメラに同時に接続できるクライアント数の最大値を入力します。

[0] にすると、管理者以外の接続が禁止されます。



重 要

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

配信するクライアントが多い場合やSSL/TLS通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり、音声が途切れたりする場合があります。

[最大制御権待ち数]

カメラビューワーからのカメラ制御権要求に対して、カメラ制御権待ちとして受け付けるクライアント数の最大値を入力します。

[0] にすると、管理者以外のカメラ制御権待ちは禁止されます。

[最大接続時間(秒)]

個々のクライアントがカメラに接続できる最大時間を秒単位で入力します。

[0] にすると、接続時間は無制限となります。

[カメラ制御時間(秒)]

カメラビューワーがカメラ制御権を保持できる最大時間を入力します。

[サーバー] > [音声サーバー] 音声の送受信について設定する

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

カメラからPCへの音声送信と、PCからカメラへの音声受信について設定します。

音声サーバー	
音声サーバー	
● カメラからの音声送信	送信しない
● 無音検出	検出しない
● ビューウーからの音声受信	受信しない

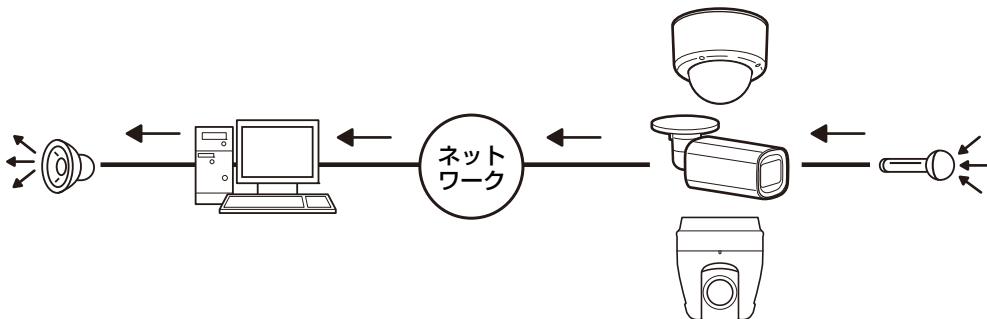
ここでは次の設定ができます。

- 音声サーバー

音声サーバー

[カメラからの音声送信]

カメラに接続したマイクからの音声を、ビューウーに送信するか選択します。



[無音検出]

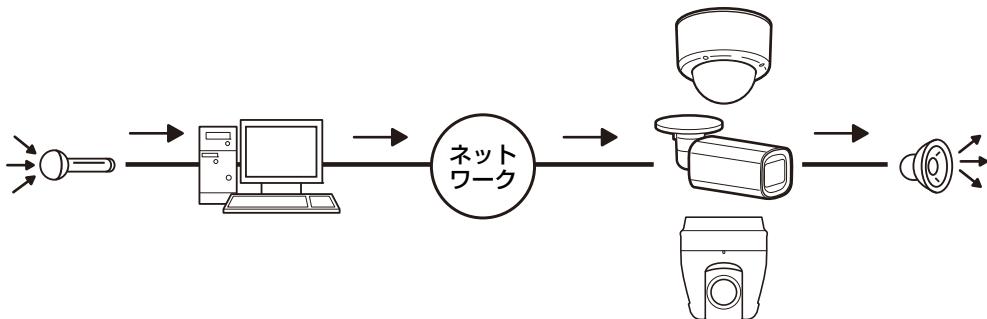
マイクからの音声について無音を検出するか選択します。

[検出する] に設定すると、カメラからの音声入力がなくなった場合に、音声データの送信を一時的に停止します。これにより、使用するネットワークの負荷を減らすことができます。

[ビューウーからの音声受信]

カメラビューウーやRMビューウーからの音声を受信するか選択します。

受信した音声は、カメラにアンプ付きスピーカーを接続して出力できます。



[サーバー] > [RTPサーバー] RTPの使用について設定する

RTPを使用した映像および音声配信について設定します。

RTPサーバー	
RTPサーバー	
● RTPの使用	使用する
● RTSP認証方式	Digest認証
● RTSPポート番号	554,1024~85535
音声マルチキャスト	
● マルチキャストアドレス	0.0.0.0
● マルチキャストポート番号	0,1024~85534(偶数)
● マルチキャストTTL	0~255
RTPストリーム1	
● 映像サイズ	320x180 JPEG
● フレームレート	1~30
● マルチキャストアドレス	0.0.0.0
● マルチキャストポート番号	0,1024~85534(偶数)
● マルチキャストTTL	0~255
● 音声送信	使用しない

ここでは次の設定ができます。

- RTPサーバー
- 音声マルチキャスト
- RTPストリーム1~5

5

設定ページ

RTPサーバー

RTPの使用、RTSPの認証方式とポート番号について設定します。

[RTPの使用]

RTPを使用の有無を選択します。

[RTSP認証方式]

RTSPの認証方式を選択します。RTSPの認証方式はHTTPサーバーの認証方式とは独立して設定されるため、それぞれの認証方式について設定する必要があります。

[RTSPポート番号]

RTSPポート番号を入力します。

通常は、[554] (工場出荷設定) を使用してください。

音声マルチキャスト

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

音声送信のマルチキャストについて設定します。

[マルチキャストアドレス]

音声送信のマルチキャストアドレスを、次のように入力します。

IPv4 : 224.0.0.0~239.255.255.255の範囲

IPv6 : ff00::/8 で始まるアドレス

マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0]、IPv6では [::0(:)] に設定します。

[マルチキャストポート番号]

音声送信のマルチキャストポート番号を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

[マルチキャストTTL]

マルチキャスト配信の有効範囲を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

マルチキャスト配信の有効範囲を表すTTL (Time To Live) は、ルーターを越えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを越えて配信することはできません。

例えば、TTLを[1]に設定すると、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを越えて配信することはできません。

RTPストリーム1～5

RTPストリーム1～5セッションのRTPストリーム配信について、ストリームごとに設定します。

[映像サイズ]

RTPストリームの映像フォーマット (JPEGまたはH.264) と映像サイズを選択します。

JPEGの映像サイズは、設定している [映像サイズセット] (P. 101)によって異なります。

H.264の映像サイズは、[映像] (P. 102)の [H.264(1)]、[H.264(2)] のそれぞれの設定が使用されます。

なお、[H.264(2)] を複数のRTPストリームには設定できません。

[フレームレート]

RTPストリームがJPEGの場合、フレームレートを入力します。

H.264の場合は設定できません。[映像] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の [フレームレート] の設定が使用されます。

[マルチキャストアドレス]

RTPストリームのマルチキャストアドレスを、次のように入力します。

IPv4 : 224.0.0.0～239.255.255.255の範囲

IPv6 : ff00::/8で始まるアドレス

マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では[0.0.0.0]、IPv6では[:0(:)]に入力します。

[マルチキャストポート番号]

RTPストリームのマルチキャストポート番号を入力します。

[0]にすると、マルチキャストは無効になります。

[マルチキャストTTL]

RTPストリームのマルチキャスト配信の有効範囲を入力します。

[0]にすると、マルチキャストは無効になります。

マルチキャスト配信の有効範囲を表すTTL (Time ToLive) は、ルーターを越えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを越えて配信することはできません。

例えば、TTLを[1]に設定すると、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを越えて配信することはできません。

[音声送信]

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

RTPストリームの音声送信を使用するか選択します。

メモ

- RTPストリームのURL

rtsp://IPアドレス:ポート番号/rtpstream/config1(～5)=rlulm

[=rlulm] は省略できます。指定する場合にはいずれか1つを指定してください。

r: RTP over TCPを要求

u: RTP over UDPを要求

m: multicastを要求

例: RTPストリーム1をRTP over TCPで要求

rtsp://192.168.100.1:554/rtpstream/config1=r

注意: 実際の動作はRTPクライアントアプリケーションに依存するため、必ずしも指定の方式で送信されるわけではありません。

- H.264の場合、ビットレート制御、映像品質は、[映像] (P. 102) での各設定が使用されます。
- [基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [映像配信] および [音声配信] は、RTPには反映されません。
- プロキシサーバーやファイアウォールを使用している環境では、RTPストリームの映像が表示されないことがあります。この場合は、システム管理者にお問い合わせください。
- RTP over UDPでストリーム配信中のクライアントにホストアクセス制限が適用された場合は、配信停止まで数秒から数十秒時間がかかる場合があります。
- [サーバー] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] の設定にかかわらず、音声のRTP配信は行われます。

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

[映像記録] > [アップロード] HTTPやFTPでのアップロードについて設定する

5

設定ページ

イベントの発生時に、HTTPまたはFTPで映像をアップロードするための設定を行います。

アップロードに使用するHTTPサーバーまたはFTPサーバーについては、[サーバー] > [サーバー] (P. 152) で設定してください。

アップロード	
映像記録設定	
● 映像記録動作	アップロード
アップロード全般	
● アップロードの動作	HTTPでアップロード
● 映像フォーマット	JPEG
● フレームレート 1~10	1
● イベント前バッファ(枚数) 0~100	0
● イベント後バッファ(枚数) 0~100	0
HTTPアップロード	
● 通知内容	HTTPで通知のみ行う
● URI 256文字以内	http://192.168.1.100:80
● ユーザー名 31文字以内	
● パスワード 31文字以内	*****
● プロキシサーバー 63文字以内	
● プロキシポート番号 1~65535	80
● プロキシユーザー名 31文字以内	
● プロキシパスワード 31文字以内	*****
● パラメーター (query string) 127文字以内	
● HTTPアップロードテスト	実行

ここでは次の設定ができます。

- 映像記録設定
- アップロード全般
- HTTPでアップロード
- FTPでアップロード

FTPアップロード	
● 通知内容	映像をFTPする
● FTPサーバー 83文字以内	192.168.1.100
● ユーザー名 31文字以内	administrator
● パスワード 63文字以内	*****
● PASVモード	使用する
● ファイルアップロードバス 256文字以内	
● ファイル名記録方式	年月日時分秒ms
● FTPアップロードテスト	実行

重要

- アップロード機能またはメモリーカード記録を使用するには、各イベントに応じて次の設定が必要になります。
 - [イベント] > [タイマー] での [映像記録] の設定
 - [イベント] > [外部デバイス]、[音声検知]、[連結イベント] での [映像記録] の設定 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741
 - インテリジェント機能の [イベント] タブの設定 (P. 201)
- アップロード実行中またはメモリーカード記録中は、[設定ページ] の各設定を変更しないでください。動作が停止する場合があります。
- HTTPまたはFTPでのアップロードと、テキストと映像によるメール通報を両方使用する場合は、[映像] > [JPEG] > [映像サイズ：アップロード/メモリーカード] (P. 102) を小さいサイズに設定してください。
- HTTPアップロードは、SSL/TLSには対応しません。
- アップロードやメール通報を連続して行うよう設定した場合、映像の大きさ、サーバーまでのネットワークの状況により、映像やメールが送りきれなくなる可能性があります。その場合は、ログ (P. 227) にメッセージが表示されます。
- HTTPまたはFTPでのアップロード、メール通報先にWindows系OSを設定する場合、IPsec通信は対応しません。

映像記録設定

イベント発生時に、カメラからの映像を、HTTPまたはFTPでアップロードするか、メモリーカードに記録するかを設定します。

この項目は、[メモリーカード] サブメニュー (P. 219) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。

[映像記録動作]

映像をアップロードする場合、[アップロード] を選択します。

アップロード全般

アップロードの方法と、アップロードする映像のフォーマットについて設定します。

[アップロードの動作]

HTTPでアップロードするか、FTPでアップロードするかを選択します。

[映像フォーマット]

アップロードする映像のフォーマットを選択します。

アップロードされる映像サイズと映像品質は、[映像] (P. 101) の設定に従います。

重要

- H.264(1) またはH.264(2) を設定するには、[映像] > [H.264(1)] (P. 102)、[H.264(2)] (P. 103) で次のように設定する必要があります。
 - [ビットレート制御] : [ビットレート制御する]
 - [目標ビットレート(kbps)] : [3072] 以下
 - [フレーム間隔(秒)] : [0.5]、[1]、[1.5] のいずれか
- [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] > [映像フォーマット] (P. 220) と異なるH.264は設定できません。

[フレームレート]

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合、アップロードする映像の最大フレームレートを入力します。

[イベント前バッファ(枚数)] (JPEGの場合) / [イベント前バッファ(秒)] (H.264の場合)

イベント発生前に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] または [H.264(2)] の場合は秒数の最大値を入力します。

[イベント後バッファ(枚数)] (JPEGの場合) / [イベント後バッファ(秒)] (H.264の場合)

イベント発生後に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] または [H.264(2)] の場合は秒数の最大値を入力します。

重要

- 映像バッファの最大容量は、約56MBです。映像サイズを大きく設定していると、フレームレート、イベント前バッファ、イベント後バッファが、設定通りに実行できない場合があります。
- 設定通りバッファが実行できない場合、ログ (P. 227) にメッセージが表示されます。ログにメッセージが表示されていないことを確認して、使用してください。

メモ

アップロードの設定により、サーバーまたはネットワークの負荷が高くなると、映像のフレームレートが低下する場合があります。このような場合は、次の設定を見直して、アップロードされるデータのサイズを小さくしたり、頻度を下げたりしてください。

- [JPEG] の [映像サイズ：アップロード/メモリーカード] を小さなサイズにする (P. 102)。
- [イベント前バッファ]、[イベント後バッファ] の枚数または秒数を少なくする。
- [音量検知イベント] 有効時、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[ONイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 168)。
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741
- インテリジェント機能の [イベント] タブで、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[検知あり状態時の動作] のいずれかを無効にする (P. 201)。
- [外部デバイス入力イベント] 有効時、[アクティブライトイベント時の動作]、[インアクティブライトイベント時の動作]、[アクティブライトイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 166)。
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741
- [タイマーイベント] 有効時、[繰り返し間隔] を長くする (P. 171)。

HTTPアップロード

[アップロードの動作] を [HTTPでアップロード] に設定した場合、HTTPのアップロード機能を設定します。

HTTPアップロードは、ネットワークカメラのイベントに応じてHTTPによる通知、あるいはHTTPによる画像を送信する機能です。

HTTPアップロード機能や設定の詳細については、お客様相談センターにお問い合わせください。

[通報内容]

HTTPアップロードを行う場合に、イベント情報のみを通知するか、通知とともに映像ファイルを添付するかを選択します。

[URI]

アップロードするHTTPサーバーのURIを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]

認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

Digest認証には、対応していません。

[プロキシサーバー]

プロキシサーバーを使用する場合、プロキシサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[プロキシポート番号]

プロキシサーバーを使用する場合、プロキシサーバーのポート番号を入力します。

[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード]

プロキシサーバーでユーザー名とパスワードを使用する場合に入力します。

Digest認証には、対応していません。

[パラメーター(query string)]

リクエストパラメーターを入力します。

「%」文字によるパラメーター記述が可能です(P. 230)。

[HTTPアップロードテスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。

JPEG 1枚のみアップロードされますが、このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、

[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

**重要**

[プロキシサーバー]、[プロキシポート番号]、[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード] は、プロキシサーバー経由で接続する場合にのみ入力してください。

FTPアップロード

[アップロードの動作] を [FTPでアップロード] に設定した場合、FTPのアップロード機能を設定します。

[通報内容]

[映像をFTPする] に設定されます。

[FTPサーバー]

FTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]

認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[PASVモード]

FTPサーバーに接続する際に、PASVモードを使用するかを選択します。

[ファイルアップロードパス]

映像ファイルのアップロード先のパス名(ディレクトリ名)を入力します。

[ファイル名記録方式]

アップロードファイルの命名規則を選択します。

[年月日時分秒ms]

“{年}{月}{日}{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg”というファイル名で映像をアップロードします。

(例: 20160123112122000.jpg)

[年月日ディレクトリ/時分秒ms]

“{年}{月}{日}”という名前のサブディレクトリを作成した上で“{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg”というファイル名で映像をアップロードします。

(例: 20160123/112122000.jpg)

[ループ]

0000.から[最大ループ数]の設定値を上限として、順番に付けた番号をファイル名としてアップロードします（例：0000.jpg、0001.jpg）。最大ループ数まで達したら、0000に戻ります。

すでに存在するファイル名でアップロードを行った場合の動作は、使用するFTPサーバーによって次のように異なるため、設定前にFTPサーバーの仕様を確認する必要があります。

- 同じファイル名は上書きされる
- 自動的に別のファイル名が付加される
- エラーとなる

[最大ループ数]

[ファイル名記録方式] を [ループ] にした場合、最大ループ値を入力します。

[ユーザー設定]

[作成サブディレクトリ名] と [作成ファイル名] で指定されたファイル名で映像をアップロードします。

[作成サブディレクトリ名]、[作成ファイル名]

[ファイル名記録方式] を [ユーザー設定] にした場合、作成するサブディレクトリ名および作成ファイル名を入力します。入力には、「%」文字によるパラメーター記述が可能です（P. 230）。

[FTPアップロードテスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。

JPEG 1枚のみアップロードされますが、このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

[映像記録] > [メール通報] メールでの通報を設定する

イベント発生時に、指定した宛先にメールを送信して通報するための設定を行います。

メール通報		適用	クリア
メール通報			
① 通報内容	テキストのみ		
② メール設定のコピー	実行		
③ メールサーバー 63文字以内			
④ メールポート番号 1~65535	25		
⑤ 差出人メールアドレス (From) 63文字以内			
⑥ 宛先メールアドレス (To) 63文字以内			
⑦ メール認証方式	POP before SMTP		
⑧ ユーザー名 31文字以内	admin		
⑨ パスワード 31文字以内	*****		
⑩ POPサーバー 63文字以内			
⑪ 表題 31文字以内			
⑫ 本文 265文字以内			
⑬ メール通報テスト	実行		

ここでは次の設定ができます。

- メール通報

5

設定ページ

メール通報

メール通報に使用するメールサーバーと、送信するメールの内容を設定します。

[通報内容]

テキストとは、[表題] と [本文] です。

[テキストと映像] に設定すると、イベント直前に取得した画像データ (JPEG形式) を1枚添付します。

[メール設定のコピー]

[メンテナンス] > [ログ] > [ログ通知] (P. 227) で使用しているメール設定をコピーします。ただし、[パスワード] はコピーされません。

[メールサーバー]

SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[メールポート番号]

SMTPサーバーのポート番号を入力します。

[差出人メールアドレス(From)]

メール発信するアドレスを入力します。

[宛先メールアドレス(To)]

メール受信するアドレスを入力します。

[メール認証方式]

送信先SMTPサーバーに合わせて、認証方式を選択します。

[ユーザー名]、[パスワード]、[POPサーバー]

メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]

メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[表題]

メール送信時の表題を半角英数字で入力します。

[本文]

メール送信時の本文（テキスト）を、半角英数字で入力します。
テキストには「%」文字によるパラメーター記述が可能です（P. 230）。

[メール通報テスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してメール通報テストを行います。
このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

[イベント] > [外部デバイス] 外部デバイスからの入力があった場合の動作を設定する

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

5

外部デバイスペーパー

外部デバイス出力の動作と、外部デバイスからの入力イベントで実行する動作について設定します。

外部デバイス	
外部デバイス出力 1	
● 動作モード	ノーマルオープン
● アクティブ出力の形式	連続
● バルスの出力時間 (秒)	1 ~ 120
外部デバイス出力 2	
● 動作モード	ノーマルオープン
● アクティブ出力の形式	連続
● バルスの出力時間 (秒)	1 ~ 120
外部デバイス入力	
● 外部デバイス入力イベント	使用する

ここでは次の設定ができます。

- 外部デバイス出力1、2
- 外部デバイス入力
- 外部デバイス入力1、2

外部デバイス入力 1	
● 動作モード	ノーマルオープン
● アクティブイベント時の動作	有効
● インアクティブイベント時の動作	無効
● アクティブイベント中の動作	無効
● プリセット	指定しない
● 映像記録	実行しない
● メール通報	実行しない
● アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
● インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
● アクティブイベント時の音声再生	再生する
● インアクティブイベント時の音声再生	再生しない
● 再生音	Sample
● 音量	50
● デイナイト切り換え	無効

外部デバイス出力1、2

外部デバイスへの出力動作について設定します。

カメラには2つの外部デバイス出力があり、それぞれの出力ごとに設定できます。

メモ

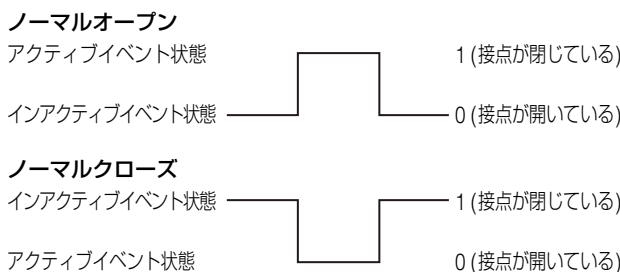
外部デバイスへの出力は、カメラビューワーの [外部デバイス出力] (P. 81) でアクティブ/インアクティブを切り換えることができます。

[動作モード]

出力端子の接点が、通常時にオーブンかクローズかを選択します。

[ノーマルオープン] に設定すると、出力端子の接点が閉じた場合にアクティブイベントが発生し、開いた場合にインアクティブイベントが発生します。

[ノーマルクローズ] に設定すると、出力端子の接点が開いた場合にアクティブイベントが発生し、閉じた場合にインアクティブイベントが発生します。



[アクティブ出力の形式]

外部デバイス出力がアクティブの状態になったときの出力形式を選択します。

[パルスの出力時間(秒)]

[アクティブ出力の形式] が [パルス] の場合、出力を維持する時間 (秒) を入力します。

重要

[アクティブ出力の形式] を [パルス] に設定してタイマーを使用する場合 (P. 171) は、タイマーの開始時刻に1回のみ接点出力が制御されます。

外部デバイス入力

[外部デバイス入力イベント]

接続されたセンサーなどの外部デバイスからの入力を、イベントとして使用するかを選択します。

外部デバイス入力1、2

外部デバイス入力イベントがあった場合の動作について設定します。

カメラには2つの外部デバイス入力があり、それぞれの入力ごとに設定できます。

この項目は、[外部デバイス入力イベント] で [使用する] を選択した場合に設定できます。

メモ

外部デバイス入力イベントがあった場合は、カメラビューワーの [イベントと入出力] メニューにアイコンで表示されます (P. 81)。

[動作モード]

接続されている外部機器からの入力信号に合わせて、回線状態を選択します。

[ノーマルオープン] に設定すると、外部機器の接点が閉じた場合にアクティブイベントが発生し、開いた場合にインアクティブイベントが発生します。

[ノーマルクローズ] に設定すると、外部機器の接点が開いた場合にアクティブイベントが発生し、閉じた場合にインアクティブイベントが発生します。

[アクティブイベント時の動作]

アクティブイベント時の動作を選択します。

[有効] に設定すると、イベント発生 (アクティブイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[インアクティブイベント時の動作]

インアクティブイベント時の動作を選択します。

[有効] に設定すると、イベント終了 (インアクティブイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[アクティブイベント中の動作]

アクティブイベントが継続している間の動作を選択します。[アクティブイベント時の動作] が [有効] の場合のみ設定できます。

[有効] に設定すると、アクティブイベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット]

プリセットを指定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 131) で設定しておく必要があります。

重要

カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によってプリセット移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 159) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、外部デバイス入力イベント発生時に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 163) を設定しておく必要があります。

[アクティビイベント時の外部デバイス出力]

アクティビイベント時の外部デバイス出力 (1または2) の動作を選択します。

[インアクティビイベント時の外部デバイス出力]

インアクティビイベント時の外部デバイス出力 (1または2) の動作を選択します。

[アクティビイベント時の音声再生]

[再生する] を選択すると、外部デバイス入力のアクティビイベント時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

[インアクティビイベント時の音声再生]

[再生する] を選択すると、外部デバイス入力のインアクティビイベント時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

[再生音]

[アクティビイベント時の音声再生] または [インアクティビイベント時の音声再生] が [再生する] の場合、再生音を選択します。

再生音は、あらかじめ [映像と音声] > [音声] の再生音ファイル登録1~3 (P. 151) で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を入力します。

[デイナイト切り換え]

外部デバイス入力イベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。

[デイモードに切り換え] に設定すると、アクティビイベント発生時にデイモード、インアクティビイベント時にナイトモードに切り換えます。

[ナイトモードに切り換え] に設定すると、アクティビイベント時にナイトモード、インアクティビイベント時にデイモードに切り換えます。

 **重要**

- [カメラ] > [起動時設定] > [デイナイト] が [オート] に設定されている場合 (P. 118)、外部デバイス入力イベント発生時に [デイナイト切り換え] は実行されません。
- カメラビューウィンドウなどでカメラ制御権取得中に [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り換えられた場合、カメラ制御権は解放されます。

[イベント] > [音声検知]

異常な音声入力があった場合の動作を設定する

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

カメラに接続したマイクから、大きな音や悲鳴が入力された場合、または入力されるはずの音声が途絶えた場合に、映像記録やメール通報などの動作を実行できます。

音声検知	
<input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="クリア"/>	
音量検知	
❶ 音量検知イベント	使用する
❷ 検知条件	基準音量レベル以上
❸ 基準音量レベル 1~100	50
❹ 現在の音量レベル	0 50 100
❺ 検知条件の継続時間(秒) 0~10	0
❻ ONイベント時の動作	有効
❼ OFFイベント時の動作	無効
❽ ONイベント中の動作	無効
❾ ブリセット	指定しない
❿ 映像記録	実行しない
⓫ メール通報	実行しない
⓬ ONイベント時の外部デバイス出力	無効
⓭ OFFイベント時の外部デバイス出力	無効

ここでは次の設定ができます。

- 音量検知
- 悲鳴検知

悲鳴検知	
❶ 悲鳴検知イベント	使用する
❷ ONイベント時の動作	有効
❸ ブリセット	指定しない
❹ 映像記録	実行しない
❽ メール通報	実行しない
❽ ONイベント時の外部デバイス出力	無効

重要

音声検知の注意事項については、「安全にお使いいただくために」の「カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意」(P. 8)を参照してください。

メモ

音声検知の状態は、カメラビューワーの [イベントと入出力] メニューで確認できます (P. 82)。

音量検知

入力音声の音量が基準値を上回った、または下回ったことを検知して、音量検知イベントを発生します。

音量検知イベントを発生させる条件や、イベントによって実行する動作を設定します。

重要

イベントによる音声ファイル再生時とビューワーからの音声送信時は、一時的に音量検知機能が無効になります。

[音量検知イベント]

音量検知イベントを使用するかを選択します。

[検知条件]

音量検知イベントを発生する条件を選択します。

[基準音量レベル]

検知の基準となる音量レベルを入力します。

基準音量レベルは、[現在の音量レベル] で確認しながら実際にテストを行ったうえで設定してください。

[現在の音量レベル]

現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。

[基準音量レベル] で設定したレベルには赤色の目印が表示され、[基準音量レベル] より低いレベルは青色、[基準音量レベル] 以上のレベルは赤色で表示されます。

[検知条件の継続時間(秒)]

音量検知条件を満たした状態が継続時間以上続いた場合に、ONイベントが発生します。

[ONイベント時の動作]

[有効] に設定すると、音量検知イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[OFFイベント時の動作]

[有効] に設定すると、音量検知イベント終了 (OFFイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[ONイベント中の動作]

ONイベントが継続している間の動作を選択します。[ONイベント時の動作] が [有効] の場合に設定できます。

[有効] に設定すると、音量検知イベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] R13 R11 M50 H761

プリセットを指定すると、音量検知イベント発生時に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 131) で設定しておく必要があります。



重要 R13 R11 M50 H761

カメラビューアーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によって音量検知イベント時の動作でカメラがプリセット位置に移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

音量検知イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、音量検知イベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 159) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

音量検知イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、音量検知イベント発生時に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 163) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]

ONイベント時の外部デバイス出力 (1または2) の動作を選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力]

OFFイベント時の外部デバイス出力 (1または2) の動作を選択します。

悲鳴検知

人が発する異常音 (悲鳴・叫び声など) を検知して、悲鳴検知イベントを発生します。

また、悲鳴検知イベントによって実行する動作を設定できます。



重要

- 悲鳴検知は、比較的静かな環境下での異常音を検知する機能です。騒がしい環境下では、検知しにくくなる場合があります。
- 悲鳴検知は、言語的な意味を認識して判定するものではありません。
- 過大な悲鳴が入力されると、検知しにくくなる場合があります。
- 悲鳴の継続時間が短いと、検知しにくくなる場合があります。
- 同一の音声をくり返し何度も入力すると、一時的に悲鳴が検知しにくくなる場合があります。

[悲鳴検知イベント]

悲鳴検知イベントを使用するかを選択します。

[ONイベント時の動作]

[有効] に設定すると、悲鳴検知イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] R13 R11 M50 H761

プリセットを指定すると、悲鳴検知イベント発生時に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 131) で設定しておく必要があります。

重 要 R13 R11 M50 H761

カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によって悲鳴検知イベント時の動作でプリセットが実行された場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

悲鳴検知イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、悲鳴検知イベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 159) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

悲鳴検知イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、悲鳴検知イベント発生時にメール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 163) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]

ONイベント時の外部デバイス出力 (1または2) の動作を選択します。

[イベント] > [タイマー] 指定時刻に実行する動作を設定する

タイマー機能を使用してイベントを発生させ、映像記録やメール通報などの動作を一定間隔で実行できます。設定できるタイマーは、次の2種類です。

- 指定した時刻から24時間連続
- 指定した時間内のみ

いずれの場合も、タイマーアイベントを繰り返し発生させる間隔を設定できます。

タイマー		適用	クリア
タイマー 1			
① タイマーアイベント	使用する	▼	
② 24時間連続設定	無効	▼	
③ 開始時刻 hh:mm	00:00	▼	
④ 終了時刻 hh:mm	00:00	▼	
⑤ 繰り返し間隔	なし	▼	
動作			
⑥ 開始時刻のプリセット	指定しない	▼	
⑦ 映像記録	実行しない	▼	
⑧ メール通報	実行しない	▼	
⑨ 外部デバイス出力	無効	▼	
⑩ デナイト切り替え	無効	▼	

ここでは次の設定ができます。

- タイマー 1~4
- 動作

タイマー 2		
① タイマーアイベント	使用しない	▼
タイマー 3		
① タイマーアイベント	使用しない	▼
タイマー 4		
① タイマーアイベント	使用しない	▼

5

操作ページ

タイマー 1~4

タイマーアイベントは、4つまで登録できます。

[タイマーアイベント]

タイマーアイベントを使用するかを選択します。

[24時間連続設定]

[有効] に設定すると、[開始時刻] から24時間連続で、[繰り返し間隔] の間隔でタイマーアイベントを繰り返します。

[有効] にした場合、動作は [映像記録] のみ実行できます。

[開始時刻]

タイマーアイベントの開始時刻を、24時間制で入力します。開始時刻にタイマーアイベントが発生します。

[終了時刻]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーアイベントの終了時刻を、24時間制で入力します。

[繰り返し間隔]

タイマーアイベントを繰り返す間隔を選択します。選択した間隔ごとに、タイマーアイベントが発生します。

動作

タイマーアイベント発生時の動作を設定します。

[開始時刻のプリセット] R1x M50 H76x

[24時間連続設定] が [無効] の場合、プリセットを指定すると、[開始時刻] で設定した時刻に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 131)で設定しておく必要があります。



重要 R1x M50 H76x

カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[開始時刻のプリセット] の指定によってカメラアングルが移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

タイマーアイベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、タイマーイベント発生時に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 159) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、タイマーイベント発生時に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 163) を設定しておく必要があります。

[外部デバイス出力] R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーの [開始時刻] および [終了時刻] に、外部デバイス出力 (1または2) の動作を選択します。

[繰り返し間隔] には対応しません。

[デイナイト切り換え]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。[タイマー 1] でのみ設定できます。

[デイモードに切り換え] に設定すると、[開始時刻] にデイモード、[終了時刻] にナイトモードになります。

[ナイトモードに切り換え] に設定すると、[開始時刻] にナイトモード、[終了時刻] にデイモードになります。

[繰り返し間隔] には対応しません。

重要

- [開始時刻] と [終了時刻] を設定し、[開始時刻のプリセット] でプリセットを選択した場合、デイナイトは [カメラ] > [プリセット] > [カメラ設定] の [デイナイト] (P. 131) の設定が優先されます。したがって、[デイナイト切り換え] で [デイモードに切り換え] または [ナイトモードに切り換え] に設定していても、[プリセット] の [カメラ設定] がその逆の設定の場合、[デイナイト切り換え] の設定は無効になります。 R1x M50 H76x
- [カメラ] > [起動時設定] > [デイナイト] が [オート] に設定されている場合 (P. 118)、タイマーイベント発生時に [デイナイト切り換え] は実行されません。
- カメラビューワーなどでカメラ制御権取得中に [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り換えられた場合、カメラ制御権は解放されます。

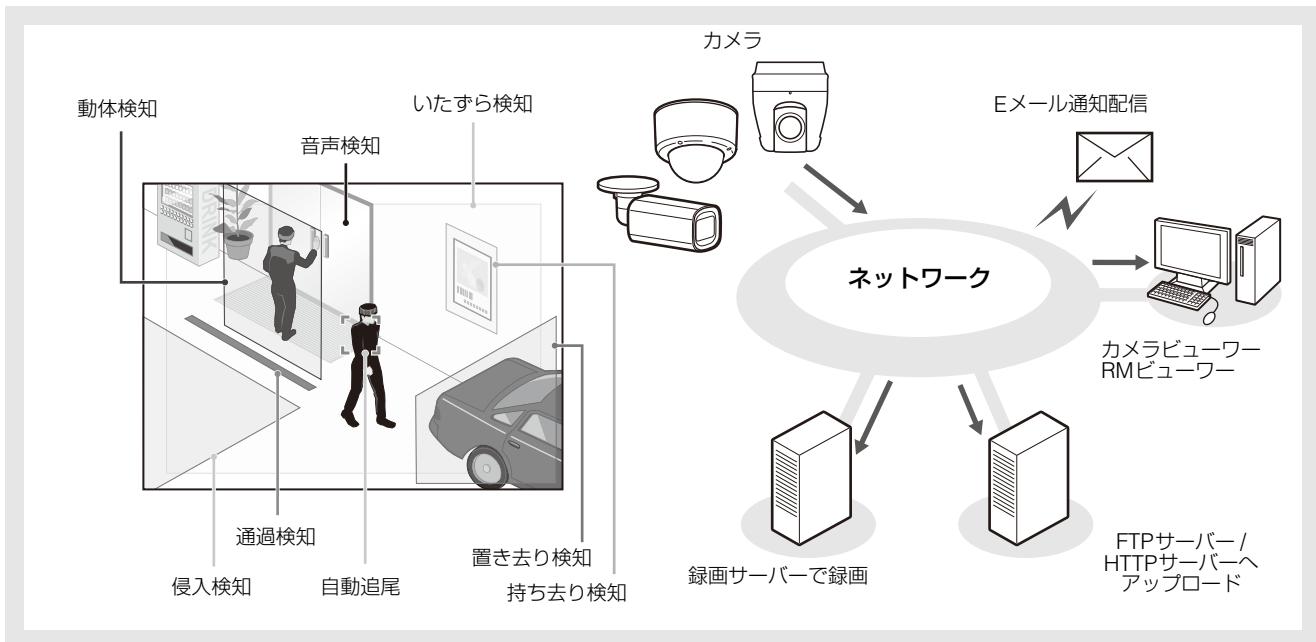
[イベント] > [インテリジェント機能] —概要—

インテリジェント機能とは

インテリジェント機能は、被写体が動くことで映像に変化があった場合に、映像の録画やメール通知、音声の再生などのイベントを開始する機能です。

インテリジェント機能には、次の動作モードがあります。

- ・映像検知
- ・自動追尾 R1x
- ・音声検知 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741



カメラご利用上の注意事項

インテリジェント機能は高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、使用しないことをお勧めします。インテリジェント機能の動作の結果生じた事故、損害などについて、弊社では一切の責任を負いかねます。

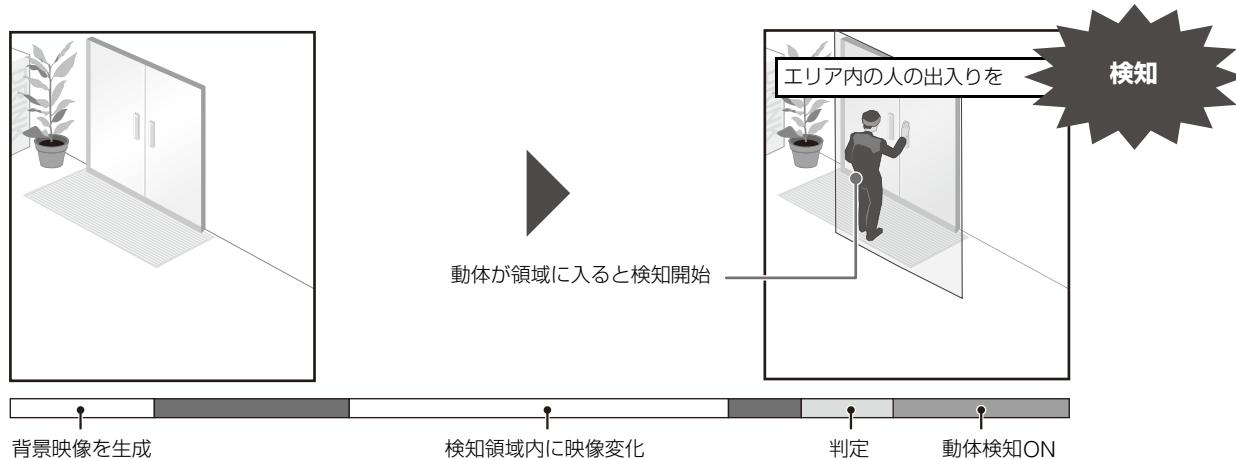
■ 映像検知とは

設定した検知領域内の映像の変化を検知します。6つの検知種別があり、目的に合わせて設定できます。

動体検知

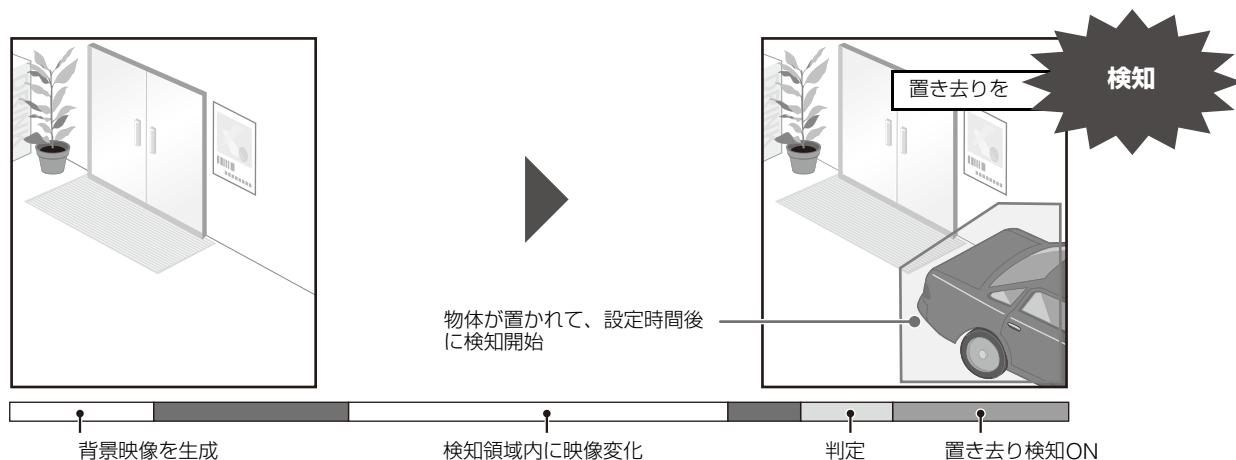
動いている物体を検知します。来訪者や不審者の検知に利用できます。

検知領域内に動く物体が入っている間、動体検知になります。



置き去り検知

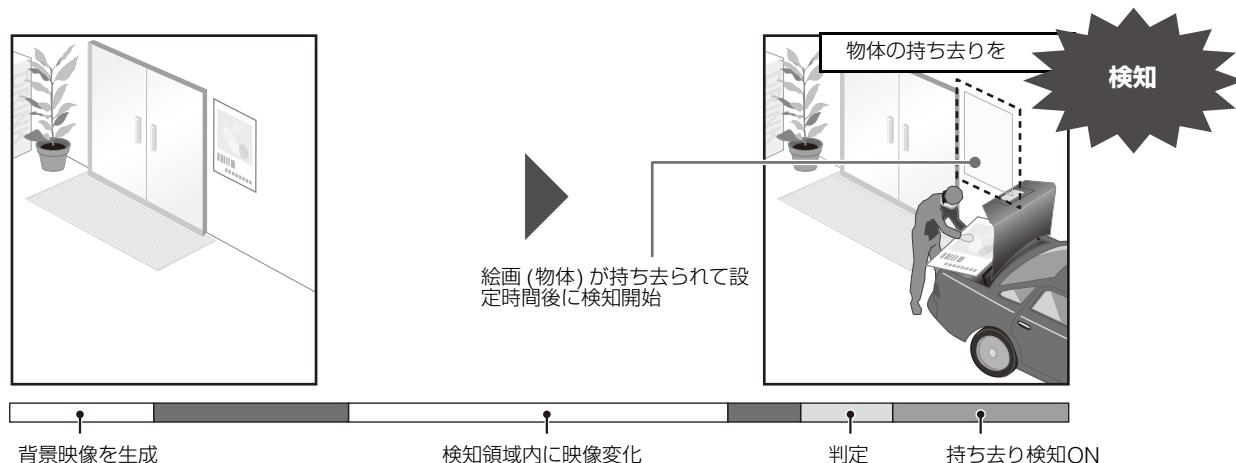
持ち込まれた物体が、一定時間以上置かれたままであることを検知します。置き去りにされた不審物の検知に利用できます。検知領域内に物体が置かれ、そのまま判定時間を経過すると、置き去りと判定します。



持ち去り検知

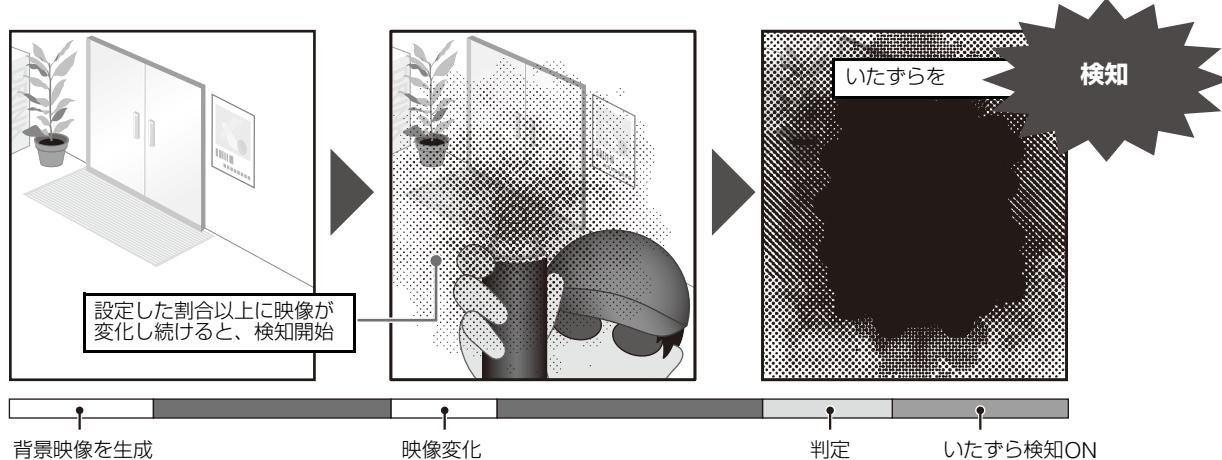
物体が持ち去られたことを検知します。貴重品などの持ち去り行為の検知に利用できます。

検知領域内の物体が持ち去られ、そのまま判定時間を経過すると、持ち去りと判定します。



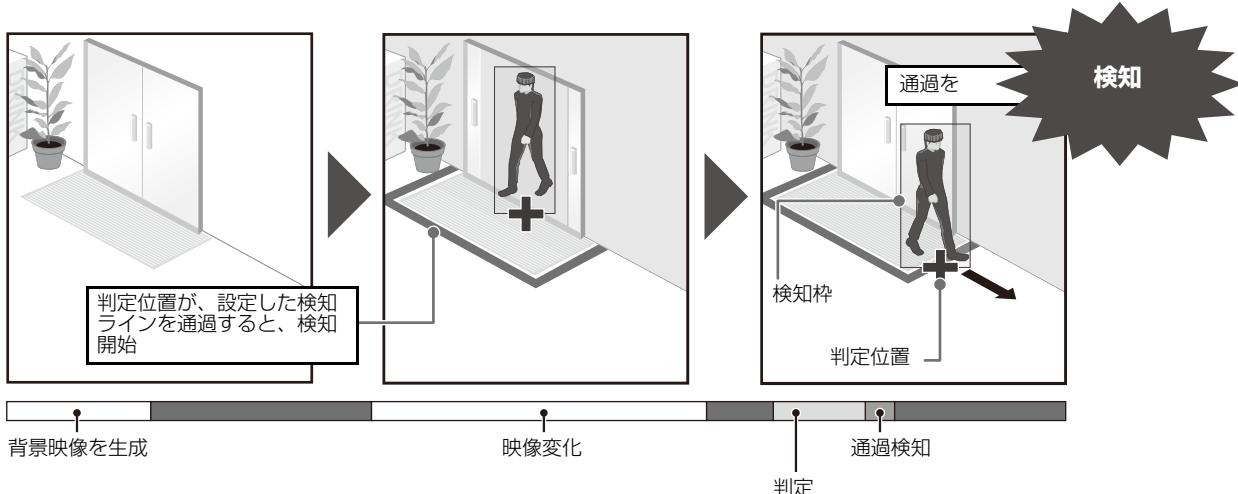
いたずら検知

撮影が妨げられたことを検知します。カメラの向きを変えたり、スプレーなどで映像表示を妨害したりする行為の検知に利用できます。設定した割合より広い領域が物体などで変化し続けると、いたずらと判定します。



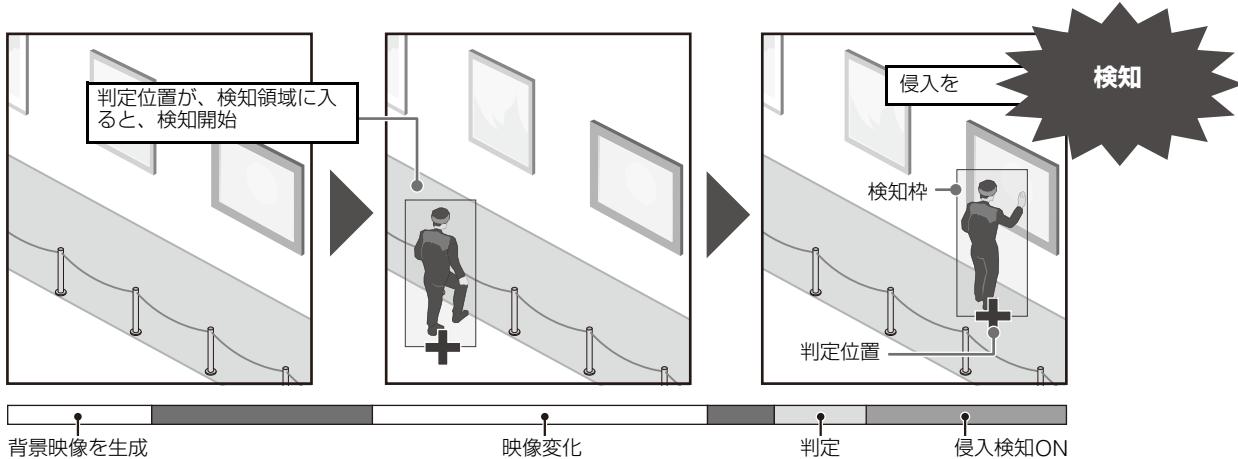
通過検知

人や動いている物体が、指定されたラインを越えたことを検知します。
物体の検知枠上の判定位置が検知ラインを越えると、通過と判定します。



侵入検知

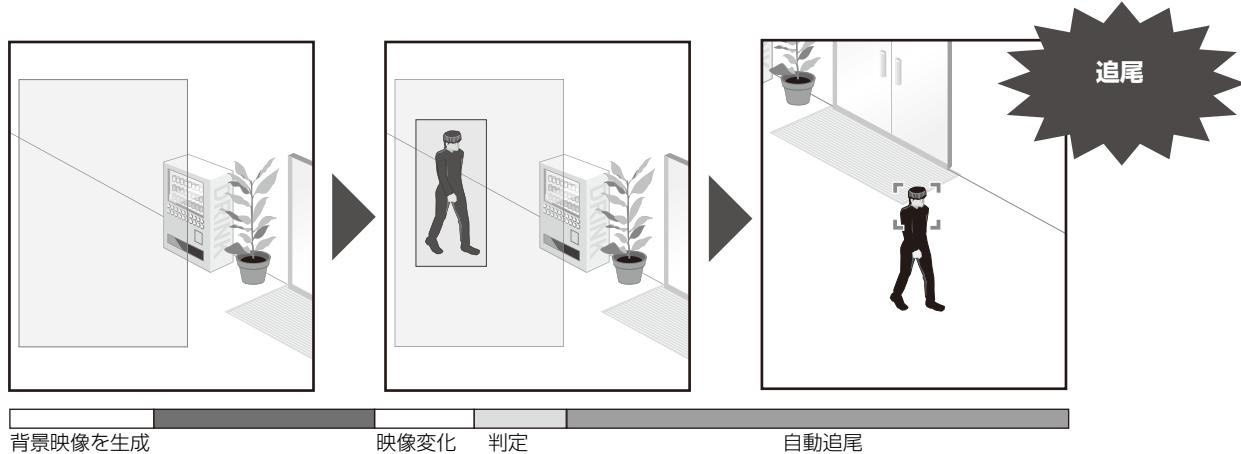
人や動いている物体が指定領域内に入ったことを検知します。美術館などの立ち入り禁止の柵を乗り越えて侵入する行為の検知に利用できます。物体の検知枠上の判定位置が検知領域に入り、判定時間を経過すると、侵入と判定します。



■ 自動追尾とは

R1x

検知領域内で動く物体を検知すると、検知した物体をカメラが自動で追尾します。不審者などの行動を監視できます。



■ 音声検知とは

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

カメラに入力される音声を検知する機能です。2つの検知種別があります。

[インテリジェント機能] ではなく、[イベント] > [音声検知] (P. 168) で設定します。

[音量検知]：音量レベルが、設定した基準値以上または以下になったことを検知します。

[悲鳴検知]：人の悲鳴や叫び声を検知します。

インテリジェント機能の設定・運用上の注意

- インテリジェント機能を設定するにあたっては、実際にテストを行い、正しく検知/追尾できるか確認してください。
- 画面全体に急激な明暗の変化が発生した場合、最長5分間、意図通りに検知されないことがあります。追尾の場合は、変化が発生した直後に影響を受けます。
- インテリジェント機能の再起動中は、検知/追尾が実行されません。
- インテリジェント機能の設定中や動作中にカメラを操作した場合は、[インテリジェント機能の再起動中です。しばらくお待ちください。] と表示され、インテリジェント機能が再起動します。
- デイモード/ナイトモードの切り換えが行われると、[インテリジェント機能の再起動中です。しばらくお待ちください。] と表示され、インテリジェント機能が再起動します。
- 設定ページの [基本] > [映像] > [映像全般] で [映像サイズセット] を変更した場合は、必ずプリセット位置の設定 (R1x M50 H76x) と、インテリジェント機能の設定を変更し、動作の確認を行ってください。設定によっては、インテリジェント機能が動作しない場合があります。

R1x M50 H76x

- ズーム倍率を高くしてテレ側に設定している場合は、意図通りに検知できないことがあります。
- カメラ操作で画角を変更した場合や、カメラ位置を固定しているプリセットやホームポジションを変更した場合は、インテリジェント機能設定を見直してください。
- カメラ位置固定時で、[検知設定] の [状態] に [有効] な検知設定がある場合、特権カメラ制御権を持たないユーザーが接続したビューワー、およびRMビューワーでは制御権が取得できなくなります。また、プリセット巡回も実行されなくなります。
- デジタルズーム領域で登録したプリセットを使用すると、登録時のカメラ位置を高い精度で再現できない場合があります。そのため、インテリジェント機能では、光学ズーム領域で登録したプリセットの使用を推奨します。

■ 苦手被写体

次の被写体は、検知/追尾されなかつたり、誤って検知/追尾されたりする場合があります。

- 背景との、明るさや色の違いが少ない物体および部分は、検知/追尾されない場合があります。

- 画面上の小さな物体や変化は、検知/追尾されない場合があります。
- 画面全体や一部の明るさの変化が検知/追尾される場合があります。
- 複数の物体が重なると、検知状態が変化する場合があります。特に、通過が検知できなくなる場合や、検知のタイミングが異なる場合があります。
- 画面内に動体の数が多い場合は、正しく検知/追尾されないことがあります。

R13 R12

- 画面上の動きの少ない物体は、追尾されない場合があります。
- カメラの真下付近にある物体は、追尾が遅れる場合があります。
- 光の反射や照明などで画面の一部が明るい場合、正しく追尾されないことがあります。

R1x M50 H76x

プリセットを登録しておく

あらかじめカメラのアングルをプリセット登録しておき、映像検知の使用時はカメラをプリセット位置に固定することを強く推奨します。また、対象となる物体が大きく撮影される画角をお勧めします。
プリセットの登録については、「[カメラ] > [プリセット] プリセットを登録する」(P. 131) を参照してください。

R1x

インテリジェント機能の動作モードを選択する

映像検知と自動追尾は、同時には使用できません。どちらを使用するかは、インテリジェント機能の設定ページで選択します。



動作モードを変更しても、[適用] した設定値は保存されています。

1 [映像検知] または [自動追尾] を選択する



重要

[映像検知] と [自動追尾] は排他です。選択した動作モードのみが機能し、もう一方の設定は無効になります。

また、[適用] をクリックせずにもう一方の動作モードへ移動すると、変更内容が失われてしまいます。変更内容を保存するには、必ず [適用] をクリックしてください。

2 表示されたメッセージを読み、[OK] または [キャンセル] をクリックする

選択中の動作モードが紫色になります。

3 選択した動作モードを設定する

[映像検知] の場合、「インテリジェント機能 - 映像検知 -」(P. 178) を参照して、映像検知設定を行ってください。
[自動追尾] の場合、「インテリジェント機能 - 自動追尾 -」(P. 196) を参照して、自動追尾設定を行ってください。

[イベント] > [インテリジェント機能] —映像検知—

映像検知では、検知したい種別を選び、映像変化に対し、検知する領域などを、映像で確認しながら設定します。また、変化を検知したときにどのような動作（メールで知らせる、映像を録画する、カメラに接続したスピーカーから音声を出すなど）を行うかを設定します。



ここでは次の設定ができます。

- 動作モード
- 検知設定 (リスト)
- 非検知設定 (リスト)
- 表示オプション
- カメラ位置設定
- 検知設定 (詳細)
- 非検知設定 (詳細)

映像検知設定の流れ

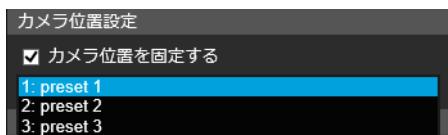
映像の検知をする領域と、必要に応じて検知をしない領域（非検知領域）をそれぞれ設定します。

■ 検知領域を設定する

検知領域の基本的な設定方法は、次のとおりです。検知種別ごとの詳しい設定は、「検知条件の設定 ([検知条件] タブ)」(P. 182) を参照してください。

1 [カメラ位置設定] の [カメラ位置を固定する] をチェックし、プリセットを選択する R1x M50 H76x

プリセットの設定方法については、「プリセットを登録する」(P. 131) を参照してください。

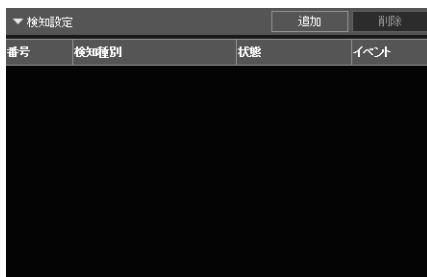


メモ

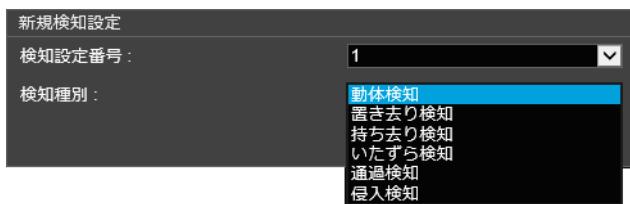
選択できるプリセットは、次の条件を満たしたものです。

- 可視範囲内に設定されている
- [プリセット登録] で、パン・チルト・ズーム値が設定されている（空ではない）(P. 133) R1x M50
- [プリセット登録] で、ズーム値が設定されている（空ではない）(P. 133) H76x

2 [検知設定] の [追加] をクリックする



3 追加する検知設定に付ける [検知設定番号] (1~15) と、[検知種別] を選択する



メモ

検知設定は、最大15個登録できます。

4 [OK] をクリックする

[検知設定] に追加した検知設定が表示され、[この検知設定を有効にする] がチェックされます。



メモ

- 検知設定を無効にするには、[この検知設定を有効にする] のチェックを外します。
- 必要に応じて、[検知設定名]を入力します。(P. 183)
- 検知設定を削除するには、削除したい検知設定を選択して検知設定 (リスト) の [削除] をクリックします。

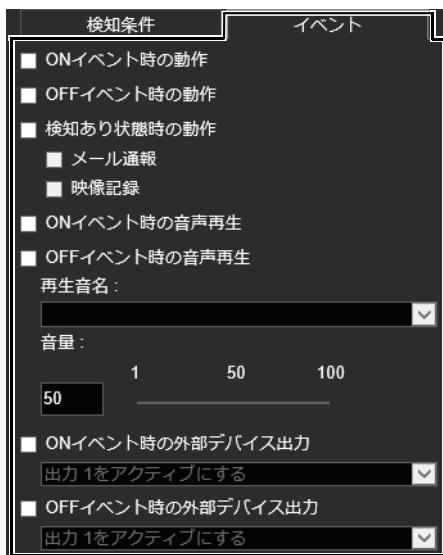
5 検知条件を設定する

映像表示部や [検知条件] タブで設定します (P. 182)。検知条件は、検知種別によって異なります。



6 イベントを設定する

映像検知したときの動作を [イベント] タブで設定します (P. 201)。



7 複数の検知設定を登録する場合は、2~6を繰り返す

8 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。



設定をやり直す場合は、適用前に [クリア] をクリックします。設定した内容を破棄して、カメラに保存されている設定内容に戻します。ただし、検知設定領域に [追加] しただけの検知設定は、すべて破棄されますのでご注意ください。

9 検知結果を確認する

設定した検知設定の検知状況は、映像表示部や [検知設定] の [イベント] 列、または、カメラビューアーの [イベントと入出力] メニュー (P. 81) で確認できます。

■ 非検知領域を設定する

誤検知や検知漏れを防ぐために、変化を検知しない領域を設定します。

■ 重要

- ・非検知設定で設定した非検知領域は、すべての検知設定に反映されます。
- ・検知設定の領域と非検知設定の領域が重なる場合は、非検知設定が優先されます。

1 [非検知設定] をクリックし、非検知設定一覧を表示する



2 [追加] をクリックする



[非検知設定] に追加した非検知設定が表示され、[非検知領域を有効にする] がチェックされます。



■ メモ

- ・非検知設定は、最大5個登録できます。
- ・非検知設定を無効にするには、[非検知領域を有効にする] のチェックを外します。
- ・非検知設定を削除するには、削除したい非検知設定を選択して非検知設定 (リスト) の [削除] をクリックします。

3 映像表示部で非検知領域を設定する

マウスをクリックして多角形を作成します。作成方法については、「[多角形] での設定方法」(P. 183) を参照してください。



メモ

- 最大32頂点の多角形の領域を作成できます。直線のみの非検知領域は、設定できません。
- 設定した非検知領域をやり直す場合は、[領域のクリア] をクリックします。
- 必要に応じて、[非検知領域名(半角英数字)]、[非検知領域名(日本語)]を入力します。
- 非検知領域は映像表示部に黒で表示されます。表示色は選べません。

4 複数の非検知領域を設定する場合は、2~3を繰り返す

5 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

メモ

設定した内容を破棄して、カメラに保存されている設定内容に戻す場合は、[クリア] をクリックします。ただし、非検知設定領域に [追加] しただけの検知設定は、すべて破棄されますのでご注意ください。

6 検知結果を確認する

設定した非検知検知設定の状態は、映像表示部や [非検知設定] の [状態] 列で確認できます。

[非検知領域を有効にする] のチェックが外れている場合は、[非検知設定] の [状態] 列が [無効] となり、映像表示部に非検知領域が表示されません。

重要

- 検知設定と非検知設定との領域で、意図しない重なりとなっていないか、映像表示部で必ず確認してください。
- 検知設定の領域と非検知設定の領域を近接して設定すると、正しく検知されない場合があります。

検知条件を設定する ([検知条件] タブ)

検知条件を、検知種別ごとに映像表示部で操作、確認しながら設定します。

重要

検知条件の設定は、できる限り実際の運用に近い状態で設定することをお勧めします。

各検知種別で共通の設定



(1) [検知設定名(半角英数字64文字以内)][検知設定名(日本語64文字以内)]

検知設定名を入力します。[検知設定名(半角英数字64文字以内)] は必ず入力してください。

[検知設定名(日本語64文字以内)] を入力した場合、検知設定名の表示は [検知設定名(日本語64文字以内)] が優先されます。

(2) [領域の形状]

検知領域を、四角形で設定するか、自由な形状の多角形で設定するか選択します。

メモ

いたずら検知の [領域の形状] は選択できません。

[四角形] での設定方法

映像表示部に表示される四角形を、移動・リサイズ・変形して、検知領域を設定します。



領域をドラッグして移動、頂点をドラッグしてリサイズできます。

[多角形] での設定方法

映像表示部でクリックした場所に多角形の頂点が設定されます。

順番に頂点を設定し、最初の頂点をもう一度クリックするか、最後の頂点でダブルクリックすると、多角形の検知領域が設定されます。



領域をドラッグして移動、頂点をドラッグして変形できます。

最大32頂点の多角形の領域を指定できます。

メモ

検知領域を設定した後に、形状を変更すると、設定されていた領域が削除され、新しい形状の設定開始に変わります。

[領域のクリア]

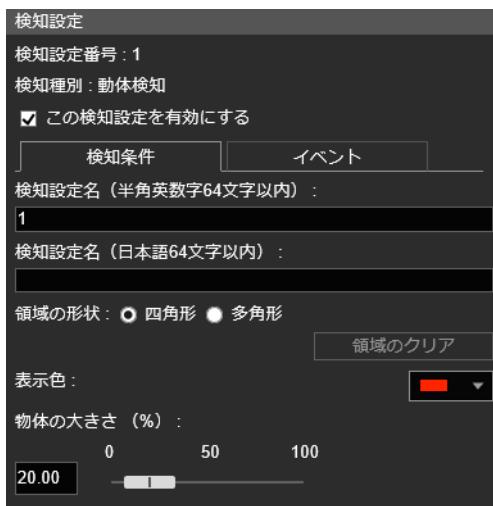
[多角形] で設定した検知領域を削除します。

(3) [表示色]

検知領域と検知ラインの表示色を選択します。

■ 動体検知の設定方法

動いている物体を検知したい領域を、検知領域に設定します。



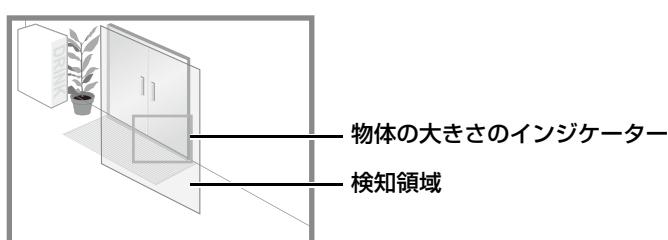
1 [四角形] または [多角形] を選択する

2 映像表示部で、動く物体を検知したい領域を描画する (P. 183)

3 [物体の大きさ(%)] で、検知する物体の大きさを設定する

手順2で設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体が動けば動体検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。

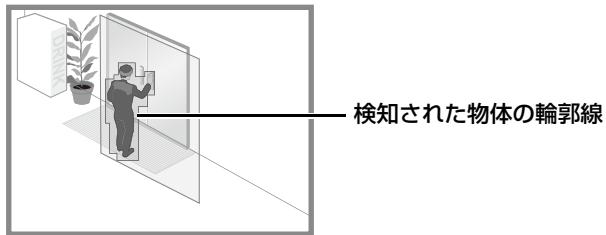


動体検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] より動体が小さい場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[物体の大きさ(%)] より動体が大きい場合は、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

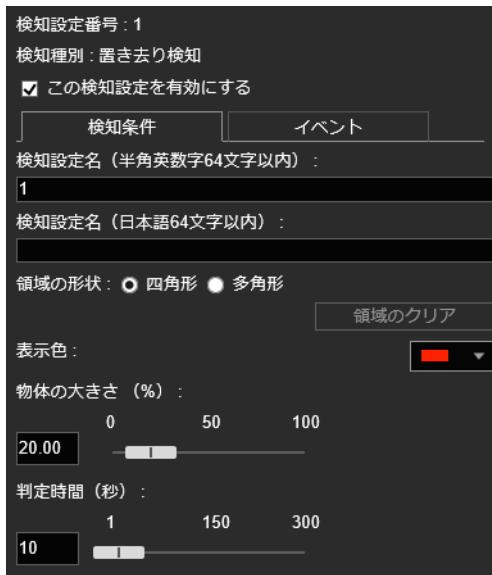


メモ

動体検知の検知領域内で置き去りまたは持ち去りが行われると、動体検知は「検知あり」状態になります。

置き去り検知の設定方法

物体が置かれたことを検知したい領域を、検知領域に設定します。



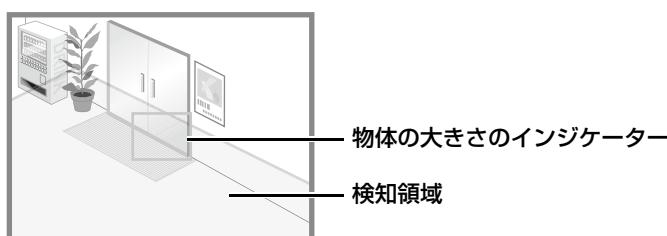
1 [四角形] または [多角形] を選択する

2 映像表示部で、置き去りにされた物体を検知したい領域を描画する (P. 183)

3 [物体の大きさ(%)] で、検知する物体の大きさを設定する

手順2で設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体が置き去りにされると置き去り検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



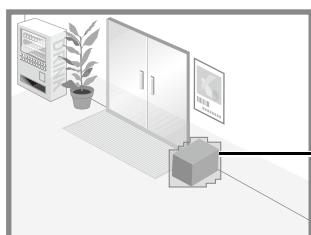
4 [判定時間(秒)] で、物体が置かれてから置き去り検知と判定するまでの経過時間を設定する

置き去り検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] を満たさない場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] の両方を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



置き去り検知された物体の輪郭線

持ち去り検知の設定方法

持ち去りを検知したい物体を検知領域に設定します。持ち去り検知の設定は次の方法があります。

- 持ち去りを検知する領域を大まかに設定する
- 持ち去りを検知したい物体の輪郭を指定する

いずれかの設定方法で、意図したとおりに検知できない場合は、もう一方の設定方法をご使用ください。

持ち去りを検知する領域を大まかに設定する

検知設定番号 : 1
検知種別 : 持ち去り検知
 この検知設定を有効にする

検知条件 イベント

検知設定名（半角英数字64文字以内） :
1

検知設定名（日本語64文字以内） :

領域の形状 : 四角形 多角形 領域のクリア

表示色 : ▾

物体の大きさ（%） :
0 50 100
0.00

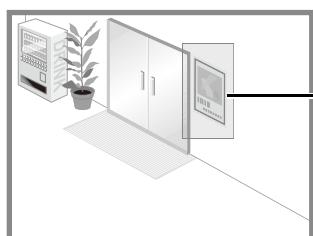
判定時間（秒） :
1 150 300
3

輪郭を指定して検知する

[輪郭を指定して検知する] のチェックは外したまま、次の設定をしてください。

1 [四角形] または [多角形] を選択する

2 映像表示部で、持ち去られたくない物体の領域を大まかに描画する(P. 183)



設定した検知領域

3 [物体の大きさ(%)] で、検知する物体の大きさを設定する

手順2で設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体が持ち去られると持ち去り検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。

持ち去られた物体が、[物体の大きさ (%)] の設定値を超えた場合、持ち去り検知対象となります。

4 [判定時間(秒)] で、物体が持ち去られてから持ち去り検知と判定するまでの経過時間を設定する

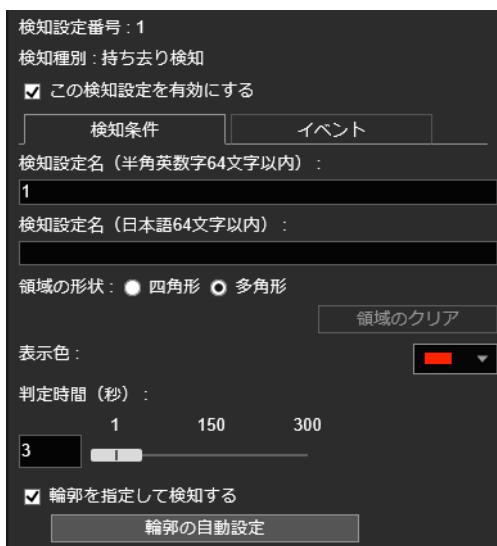
5 [適用] をクリックする

重 要

- 次の場合、持ち去り検知と判定されない場合があります
 - 細長い物体が持ち去られた場合
 - 同じ物体が連続して置かれている一部が持ち去られた場合
 - 同一形状のものが重なって置かれている一部が持ち去られた場合
- 検知領域内で対象物以外でも映像が変化すると、持ち去り検知と判定される場合があります。

持ち去りを検知したい物体の輪郭を指定する

1 [輪郭を指定して検知する]をチェックする



2 [四角形] または [多角形] を選択する

3 映像表示部で、持ち去られたくない物体の輪郭に沿って領域を描画する (P. 183) または次の手順で輪郭を自動設定する

持ち去りを検知したい物体を、いったん映像表示部の外へ出す



[インテリジェント機能の再起動] (P. 202) をクリックする

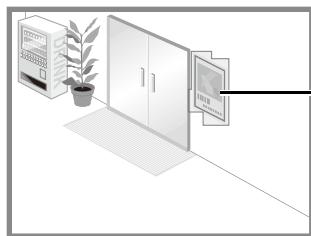
背景画像が生成されます。

▼
持ち去りを検知したい物体を元の位置に戻す

▼
[輪郭の自動設定] をクリックする

物体の輪郭線が最大32頂点の多角形で描画されます。

複数の物体を検出した場合は、面積が最も大きい物体の輪郭線が描画されます。



設定された検知領域

▼
再度 [インテリジェント機能の再起動] をクリックする

重要

検知領域は、対象物の外形に沿って正確に設定してください。対象物の影や隣接する物体の影響で、対象物が実際より大きな物体として認識され、持ち去りを検知できない場合があります。その場合は、対象物と認識された輪郭に沿って、検知領域を再設定してください。

4 「持ち去りを検知する領域を大まかに設定する」の手順4~5 (P. 187) を操作する

持ち去り検知の検知状態

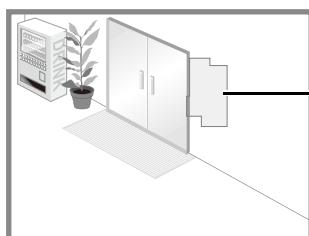
動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] と [判定時間(秒)] を設定した場合は、次のとおりです。

- [物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] を満たさない場合、輪郭線は白の線で表示されます。
- [物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] の両方を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。

[輪郭を指定して検知する] で持ち去り検知を設定した場合は、次のとおりです。

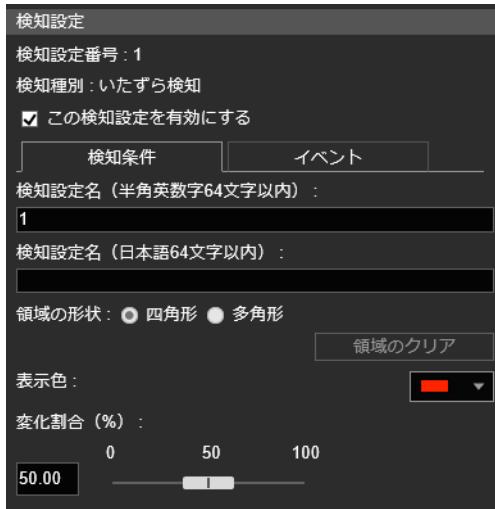
- [判定時間(秒)] に達しない場合、輪郭線は白の線で表示されます。
- [判定時間(秒)] を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



持ち去り検知された物体の輪郭線

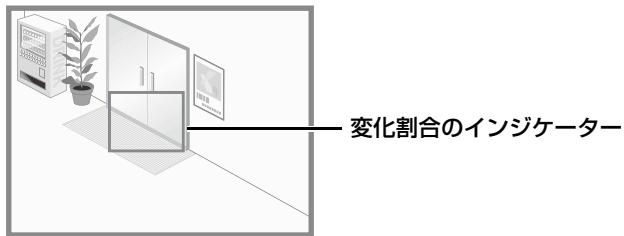
■ いたずら検知の設定方法

[いたずら検知] の場合、映像表示部全体が検知領域になります。領域は変更できません。



[変化割合(%)] で、映像表示部全体に対し、どの程度の割合の画面変化があると、いたずら検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、映像表示部全体に占める割合を表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、確認しながら設定してください。

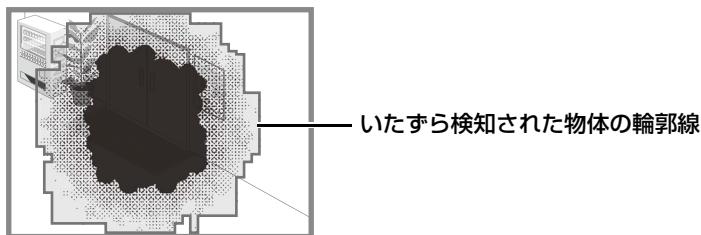


いたずら検知の検知状態

動きが検出された物体に、輪郭線が表示されます。

[変化割合(%)] 未満の大きさの場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[変化割合(%)] 以上の面積で映像が妨げられた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



メモ

いたずら検知の変化割合を変更した直後、および他の検知設定からいたずら検知が設定された検知設定に切り換えた直後の3秒間は、検知あり状態なりません。

通過検知の設定方法

動体が通過する検知ラインを、その通過する方向と物体の判定位置で設定します。



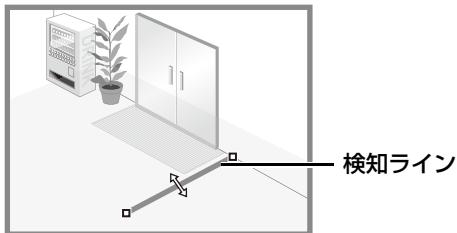
1 次の手順で、映像表示部に通過検知ラインを設定する

映像表示部で、検知ラインの始点とする位置をクリックする

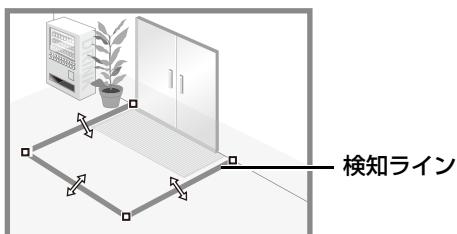


別の場所をクリックする

始点と次にクリックした点の間に検知ラインが設定されます。



折れ線の検知ラインを設定する場合は、折れ線の頂点を順番にクリックする



最大32頂点の折れ線で検知ラインを設定できます。



すでに設定したいずれかの頂点をクリックする

検知ラインが確定されます。

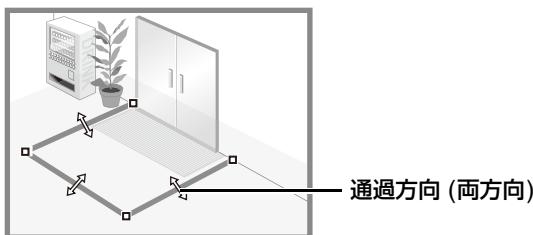
メモ

- 検知ラインを確定した後でも、各頂点をドラッグして検知ラインの形状を変更したり、頂点間のラインをドラッグして検知ライン全体を移動したりできます。
- [ラインのクリア] をクリックすると、検知ラインはクリアされます。

2 [通過方向] で、検知ラインに対して動体が通過する方向を選択する

選択した通過方向と同じ方向で動体が検知ラインを越えたときに、「通過した」と検知されます。

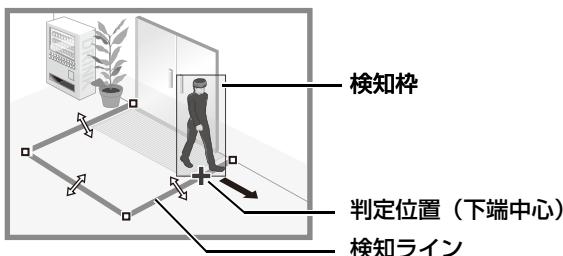
選択した通過方向は、映像表示部の検知ライン上にプレビュー表示されます。



3 [判定位置] で、動体が検知ラインを通過する際に、動体のどの位置で通過と判定するかを選択する

ここで選択した判定位置が検知ラインを越えたときに、「通過した」と検知されます。

判定位置は、動体の検知枠に十字の記号で表示されます。

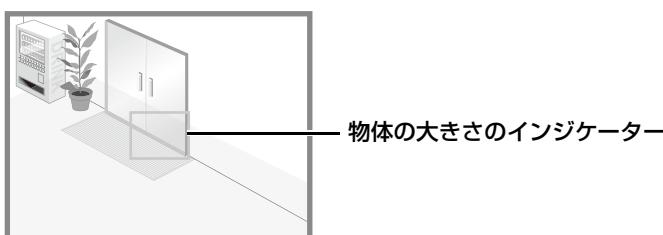


4 [物体の大きさ(%)] で、検知する動体の大きさを設定する

画面全体に対する、動体の大きさの割合を設定します。

動体が、[物体の大きさ(%)] の設定値を超えた場合、通過検知対象となります。

数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



メモ

通過検知の [物体の大きさ(%)] で指定できる割合は、30%までです。

通過検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、白い輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] を満たした動体の [判定位置] が、[通過方向] の方向で検知ラインを通過したとき、輪郭線が検知ラインと同じ色で表示され、「検知あり」状態となります。

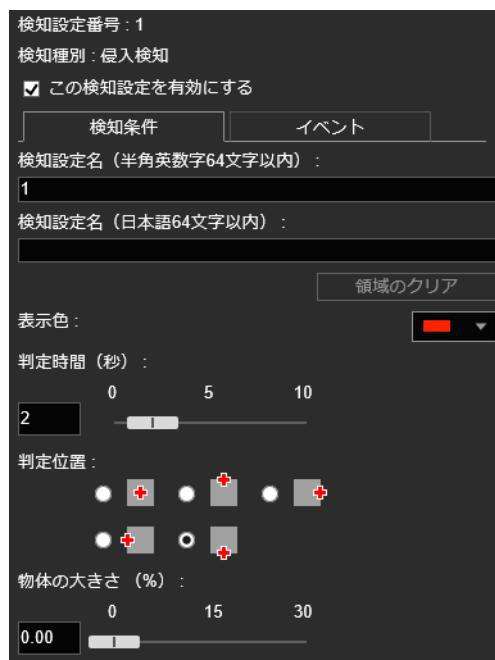
通過検知イベントが通知されるのは、通過の瞬間だけです。イベント時の動作を設定する際はご注意ください。

重 要

通過検知の設定後は、検知テストを行って、動体の検知枠が継続して表示されることを確認してください。

■ 侵入検知の設定方法

侵入を検知したい領域を、検知領域に設定します。

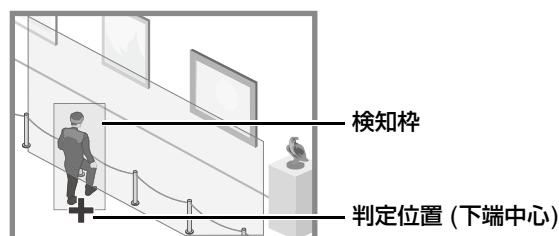


1 映像表示部で、侵入する動体を検知したい領域を描画する (P. 183)

2 [判定時間(秒)] で、動体が侵入してから侵入検知と判定するまでの経過時間を設定する

3 [判定位置] で、動体が検知領域に侵入する際に、動体のどの位置で侵入と判定するかを選択する

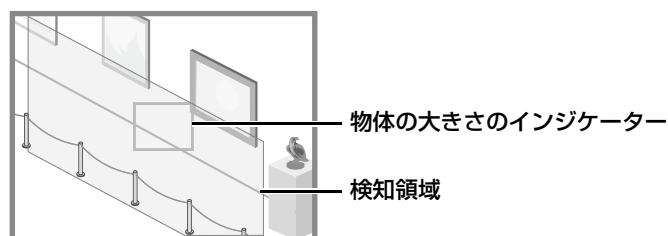
判定位置は、動体の検知枠に十字の記号で表示されます。



4 [物体の大きさ(%)] で、検知する動体の大きさを設定する

画面全体に対する、動体の大きさの割合を設定します。

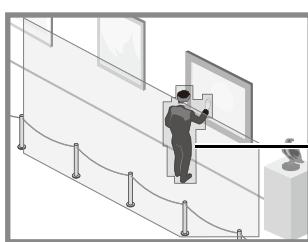
数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



侵入検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] を満たした動体の [判定位置] が検知領域に入り、[判定時間(秒)] を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



検知された物体の輪郭線

重要

侵入検知の設定後は、検知テストを行って、動体の検知枠が継続して表示されることを確認してください。

「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)

被写体の変化を検知した際の動作を設定します。

設定内容については、「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ) (P. 201) を参照してください。

イベントの状態を確認する

インテリジェント機能 (動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知、侵入検知) の検知設定で、検知あり状態になると、その行のイベントアイコンが緑色になります。

映像検知の検知状態は、カメラビューワーの [イベントと入出力] メニューでも確認できます (P. 81)。

▼ 検知設定		追加	削除
番号	検知種別	状態	イベント
1	■ 動体検知	有効	●
2	■ 動体検知	有効	●
3	■ 通過検知	有効	●

番号1：映像検知状態 ON

番号2、3：映像検知状態 OFF

検知領域/検知ライン、非検知領域、検知結果の表示を設定する (表示オプション)

検知領域/検知ライン、非検知領域、検知結果の、映像表示部への表示について設定します。

表示オプション
検知領域 / 検知ライン :
選択中の検知設定のみ
非検知領域 :
有効な非検知領域のみ
検知結果 :
選択中の検知設定のみ

[検知領域/検知ライン] と [検知結果] のいずれも、次の設定値を選択できます。

[選択中の検知設定のみ]

検知設定 (リスト) で選択している検知設定の検知領域 / 検知ラインまたは検知結果のみ表示します。

[すべての検知設定]

検知設定(リスト)のすべての検知設定の検知領域/検知ラインまたは検知結果を表示します。

[同じ検知種別の検知設定]

検知設定(リスト)で選択している検知設定と同じ種別の検知設定の検知領域/検知ライン、または検知結果を表示します。

[表示しない]

すべての検知領域/検知ラインまたは検知結果を表示しません。

[非検知領域]は、次の設定値を選択できます。

[選択中の非検知領域のみ]

非検知設定(リスト)で選択している非検知設定の非検知領域のみ表示します。

[すべての非検知領域]

非検知設定(リスト)のすべての非検知設定の非検知領域を表示します。

[有効な非検知領域のみ]

非検知設定(リスト)で[状態]が[有効]の非検知設定の非検知領域のみ表示します。

[表示しない]

すべての非検知領域を表示しません。

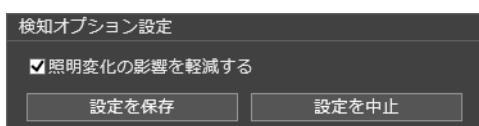
照明変化の影響を軽減する(検知オプション設定)

室内照明の点灯・消灯など、画面全体の照明が急激に変化する場合、インテリジェント機能が動かないことがあります。検知オプションの設定を変更することで、この現象を軽減することができます。

1 [検知オプション設定]をクリックする



2 [照明変化の影響を軽減する]をチェックする



3 [設定を保存]をクリックする

設定が保存され、インテリジェント機能が再起動されます。

■ 重要

- インテリジェント機能の再起動には数十秒かかります。再起動中は、検知が実行されません。
- [照明変化の影響を軽減する]を設定しても、ご使用の環境によっては正しく働くことがあります。また急激な明暗の変化が連続する場合も同様です。実際に検知テストを行い、正しく働くかご確認ください。

右クリックメニューについて

映像表示部、検知設定(リスト)、非検知設定(リスト)上で右クリックすると、メニューが表示され、次の機能が使用できます。右クリック時に使用できない機能は、グレー表示されます。

[検知領域/検知ラインをコピー]

設定中の検知設定の検知領域/検知ラインを、クリップボードにコピーします。

[検知領域/検知ラインを貼り付け]

クリップボードにコピーされている検知領域/検知ラインを、設定中の検知設定に貼り付けます。いたずら検知には貼り付けられません。

検知ラインは、コピー元と貼り付け先がどちらも通過検知の場合のみ可能です。

[検知領域/検知ラインをクリア]

設定中の検知設定の検知領域/検知ラインを削除します。領域の形状が四角形の場合、または、いたずら検知の検知領域は、削除できません。

[検知条件の設定値をコピー]

設定中の検知設定の検知条件を、クリップボードにコピーします。なお、検知設定名および表示色はコピーされません。

[検知条件の設定値を貼り付け]

クリップボードにコピーされている検知条件を、設定中の検知設定に貼り付けます。コピー元と貼り付け先の検知種別が同一の場合のみ可能です。

[イベントの設定値をコピー]

設定中の検知設定のイベント設定を、クリップボードにコピーします。

[イベントの設定値を貼り付け]

クリップボードにコピーされているイベント設定を、設定中の検知設定に貼り付けます。

[非検知領域をコピー]

設定した非検知設定の非検知領域を、クリップボードにコピーします。

[非検知領域を貼り付け]

クリップボードにコピーされている非検知領域を、設定中の非検知設定に貼り付けます。

[非検知領域をクリア]

設定中の非検知設定の非検知領域を削除します。

[イベント] > [インテリジェント機能] —自動追尾—

R1x

自動追尾では、動体を検知する領域などを、映像で確認しながら設定します。検知した動体は、映像表示部の中央付近に表示されるようにカメラ制御します。また、検知時に、どのような動作（メールで知らせる、映像を録画する、カメラに接続したスピーカーから音声を出力するなど）を行うかも設定できます。



ここでは次の設定ができます。

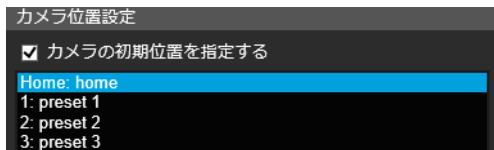
- 動作モード
- 表示オプション
- カメラ位置設定

自動追尾を設定する

自動追尾の設定方法は、次のとおりです。

- 1 自動追尾を設定するために、カメラの制御権を取得する (P. 63)
- 2 必要に応じて [カメラ位置設定] の [カメラの初期位置を指定する] をチェックし、プリセットを選択する

プリセットの設定方法については、「プリセットを登録する」(P. 131) を参照してください。



[カメラの初期位置を指定する] をチェックすると、選択したプリセット位置にカメラアングルが移動します。また、自動追尾終了後も選択されているプリセット位置にカメラアングルが移動します。

重 要

[カメラの初期位置を指定する] をチェックし、自動追尾が特定の位置から開始されるように設定することを推奨します。

メ モ

選択できるプリセットは、次の条件を満たしたものです。

- 可視範囲内に設定されている
- [プリセット登録] で、パン・チルト・ズーム値が設定されている（空ではない）(P. 132)

3 映像表示部で、検知領域を設定する

検知領域は、四角形で設定します(P. 183)。

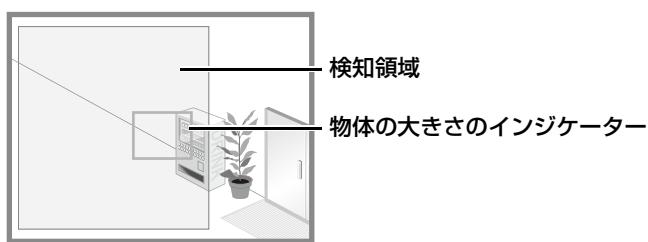


4 [追尾条件] タブの [物体の大きさ(%)] で、検知する動体の大きさを設定する



画面全体に対する、動体の大きさの割合を設定します。

数値またはスライダーを変更したり、検知領域を変更したりすると、物体の大きさを表すインジケーターが、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



5 自動追尾を続ける時間を設定する場合は、[追尾継続時間を設定する] をチェックし、[追尾継続時間(秒)] で時間を設定する

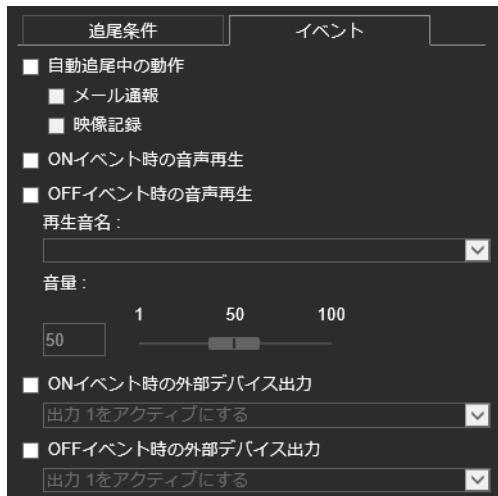
動体を検知してから指定の時間、カメラは動体を自動追尾します。

6 追尾中の動体を自動的にズームする場合は、[追尾中の自動ズームを有効にする] をチェックする

チェックした場合、動体をズームインして自動追尾します。

7 [イベント] タブで、検知時の動作を設定する

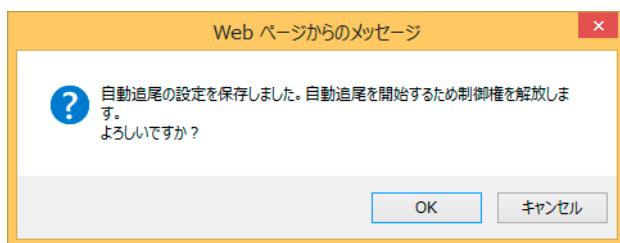
設定内容については、「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ) (P. 201) を参照してください。



8 [適用] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

9 表示されたメッセージで、[OK] をクリックする



制御権を取得したままだと、カメラは自動追尾を行いません。

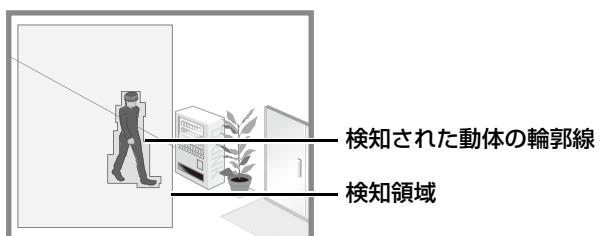
カメラが動体を自動追尾するには、制御権を解放する必要があります。

自動追尾の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] より動体が小さい場合、輪郭線は白の線で表示されます。

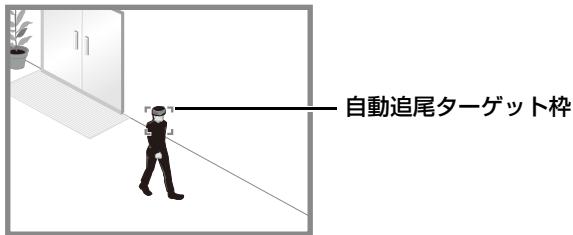
[物体の大きさ(%)] より動体が大きい場合は、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



「検知あり」状態になると自動追尾が開始され、追尾中のターゲットに矩形枠が表示されます。

自動追尾中は、ターゲットが常に画面中央に表示されるように、パン・チルト・ズームを制御します。

また、[追尾中の自動ズームを有効にする] をチェックした場合、ターゲットをズームインして自動追尾します。



自動追尾では、最初に検知した動体の追尾を優先します。追尾中に [追尾開始条件] を満たした動体がほかにあっても検知しません。

重要

- 自動追尾の設定後はテストを行い、対象が意図通りに追尾されるかを確認してください。
- 自動追尾では、動体を個別に認識しているわけではありません。そのため、2つの物体がすれ違う場合や動体が多数ある場合は、目的の対象を追尾できないことがあります。
- 動体が複数ある場合は、画面中心から近くで大きい動体を優先して追尾を継続します。
- プライバシーマスクが設定されている領域も、自動追尾の検知対象となります。
- カメラビューワーなどで制御権が取得されているとき、または設定ページで映像表示をしているときは、カメラは被写体を追尾しません。カメラが自動追尾を行うには、カメラ制御権を解放する必要があります。
- 追尾中は、プリセット巡回は開始されません。
- 可視範囲を超えた追尾はできません。

メモ

自動追尾の検知状態は、カメラビューワーの [イベントと入出力] メニューでも確認できます (P. 82)。

自動追尾の打ち切りについて

次の場合は、自動追尾が打ち切られます。

- カメラビューワーなどで制御権を取得した、または設定ページで映像表示をした
- 外部デバイス入力、音量検知によるイベント発生によりプリセットが移動した R13 R11
- パノラマ画像の撮影を開始した
- [メンテナンス] > [全般] > [表示と実行] > [駆動系リフレッシュ] を実行した R13 R11
- 設定した [追尾継続時間] が経過した
- 動体を見失って追尾を継続できない (例: 追尾対象の動きがなくなった、追尾対象が別の物体の陰に隠れた、追尾対象が小さくなり過ぎた、追尾対象の動きに追従できずに対象が画面外に出たなど)
- インテリジェント機能が再起動した

追尾が打ち切られると、追尾OFFイベントが発生し、カメラが初期位置に戻ります ([カメラの初期位置を指定する] をチェックしている場合)。カメラ制御権を奪われた場合は、カメラ制御権が解放された後に移動します。

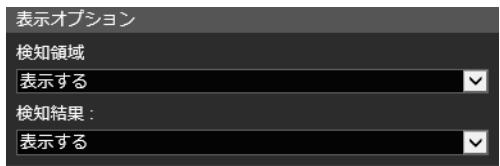
初期位置に戻った後に、自動追尾の検知が再開されます。

自動追尾を無効化するには

インテリジェント機能の [動作モード] で [映像検知] を選択する (P. 177)と、自動追尾が無効になります。

検知領域、検知結果の表示を設定する (表示オプション)

検知領域、検知結果の、映像表示部への表示について設定します。



[検知領域] と [検知結果] のいずれも、[表示する] / [表示しない] を選択できます。
[検知領域] は制御権を取得しているときのみ表示可能です。

[イベント] > [インテリジェント機能] —共通操作—

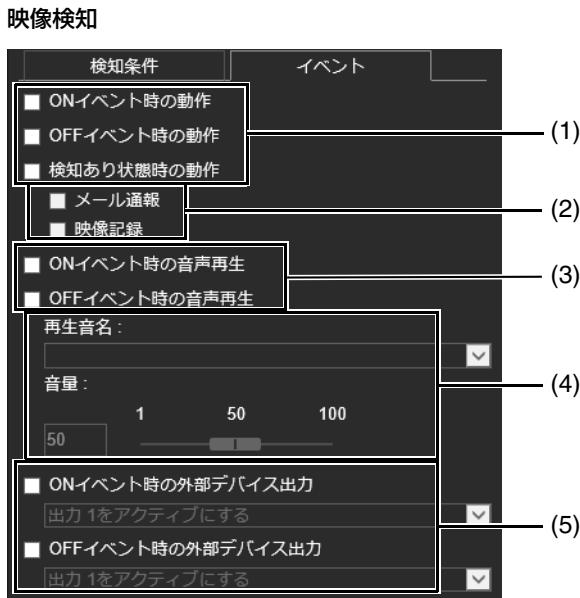
映像検知と自動追尾の両方に共通している機能について説明します。

「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)

被写体の変化を検知した際の動作を設定します。

5

映像検知
自動追尾



(1) 動作のタイミングの指定 (複数指定可能)

[ONイベント時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態になったとき、(2)で設定した処理を行います。

[OFFイベント時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態が終了したとき、(2)で設定した処理を行います。

[検知あり状態時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態が続く間、(2)で設定した処理を行います。

[自動追尾中の動作] R1x

チェックすると、動体を自動追尾している間、(2)で設定した処理を行います。

(2) イベント時の動作の指定 (複数指定可能)

[メール通報]

チェックすると、(1)で設定したタイミングでメール通報を行います。あらかじめ、設定ページの [映像記録] > [メール通報] を設定しておく必要があります (P. 163)。

[映像記録]

チェックすると、(1)で指定したタイミングで映像記録を行います。あらかじめ、設定ページの [映像記録] > [アップロード] (P. 159) または [メモリーカード] > [映像記録設定] (P. 219) を設定しておく必要があります。

(3) 音声再生のタイミングの指定 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

[ONイベント時の音声再生]

チェックすると、「検知あり」の状態になったとき、(4)で設定した音声を再生します。

[OFFイベント時の音声再生]

チェックすると、「検知あり」の状態が終了したとき、(4)で設定した音声を再生します。

(4) 再生音の設定 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

[再生音名]

再生する音声を選択します。再生音は、あらかじめ、設定ページの [映像と音声] > [音声] の再生音ファイル登録1～3(P. 151)で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を設定します。

(5) 外部デバイス出力の動作 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

[ONイベント時の外部デバイス出力]

「検知あり」の状態になったときに、外部デバイスへの出力を開始または停止する場合にチェックし、出力先(出力1または2)と動作(アクティブまたはインアクティブ)を選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力]

「検知あり」の状態が終了したときに、外部デバイスへの出力を開始または停止する場合にチェックを入れ、出力先(出力1または2)と動作(アクティブまたはインアクティブ)を選択します。

インテリジェント機能を再起動する

設定中に背景の映像が変化してしまったときや、設定どおりの検知結果にならない場合は、インテリジェント機能を再起動してください。

1 カメラの制御権を取得していない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして取得する

2 [インテリジェント機能の再起動] をクリックする

インテリジェント機能の再起動

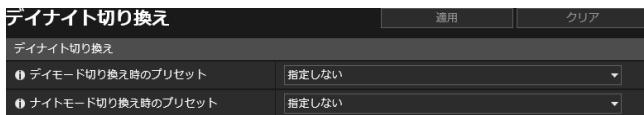


重 要

インテリジェント機能の再起動には数十秒かかります。再起動中は、検知が実行されません。

[イベント] > [デイナイト切り換え] デイナイト切り換え時にプリセットを実行する

イベントによるデイナイト切り換えが行われるタイミングで、あらかじめ登録したプリセットを実行し、カメラアングルや画質設定などを切り換えることができます。



ここでは次の設定ができます。

- デイナイト切り換え

5

デイナイト切り換え

[デイモード切り換え時のプリセット]

デイモードに変わったタイミングで、指定したプリセットを実行します。

[ナイトモード切り換え時のプリセット]

ナイトモードに変わったタイミングで、指定したプリセットを実行します。

重要

カメラビューワーなどでカメラ制御権が取得されている場合、[デイモード切り換え時のプリセット]、[ナイトモード切り換え時のプリセット]は実行されません。

メモ

- あらかじめ、[カメラ] > [プリセット] (P. 131) で、プリセットを設定しておく必要があります。
- イベントによるデイナイト切り換えのタイミングは、[外部デバイス入力] R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741 (P. 166)、[タイマー] (P. 171) の各 [デイナイト切り換え] で設定できます。

[イベント] > [連結イベント] イベントを組み合わせて使用する

R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741

2種類のイベントを組み合わせて、1つのイベントを発生させます。イベントの連結方法には、AND/ORが選択できます。
連結イベント発生時の動作に、映像記録やメール通報などを設定できます。

連結イベント		適用	クリア
連結イベント 1			
● 連結イベント	使用する		
● イベント連結方法	AND		
● イベント順序	指定しない		
● イベント間隔(秒) 0~∞	2		
イベント 1			
● イベント種別	外部デバイス入力		
● 外部デバイス入力	入力1		
● 外部デバイス入力状態	アクティブ		
イベント 2			
● イベント種別	インテリジェント機能		
● インテリジェント機能	設定1		
● インテリジェント機能状態	ON		

ここでは次の設定ができます。

- 連結イベント1~4
- イベント1~2
- 動作

動作	
● ONイベント時の動作	有効
● OFFイベント時の動作	無効
● ONイベント中の動作	無効
● 映像記録	実行しない
● メール通報	実行しない
● ONイベント時の外部デバイス出力	無効
● OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
● ONイベント時の音声再生	再生する
● OFFイベント時の音声再生	再生しない
● 再生音	Sample
● 音量	50

メモ

連結イベントの状態は、カメラビューワーの[イベントと入出力]メニューで確認できます(P. 82)。

連結イベント1~4

連結イベントは、4つまで登録できます。

組み合わせられるイベントは、[音量検知]、[悲鳴検知]、[外部デバイス入力]、[タイマー]、[インテリジェント機能]です。

[連結イベント]

連結イベントを使用するかを選択します。

[イベント連結方法]

イベントの組み合わせ条件を選択します。

[AND] : [イベント1] と [イベント2] で選択したイベント種別が両方発生すると、新たな連結イベントを発生させます。
この場合、[イベント順序] と [イベント間隔] を設定します。

[OR] : [イベント1] と [イベント2] で選択したイベント種別のいずれかが発生すると、新たな連結イベントを発生させます。

[イベント順序]

[イベント連結方法] が [AND] の場合、2つのイベントの発生順序を選択できます。

[指定しない] に設定した場合は、順序は考慮されません。

[イベント間隔(秒)]

[イベント連結方法] が [AND] の場合、2つのイベントの発生間隔を入力します。

1つ目のイベントが発生してから、指定時間(秒)以内に2つ目のイベントが発生した場合、新たな連結イベントが発生します。

■ イベント 1、2

連結する2つのイベントを指定します。設定内容はどちらも同じです。

[イベント種別]

組み合わせるイベントの種別を選択します。

[音量検知]/[悲鳴検知]

[音量検知状態] または [悲鳴検知状態] で、ONイベント、OFFイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

[外部デバイス入力]

[外部入力デバイス] で使用する外部デバイス入力1または2を選択し、[外部デバイス入力状態] でアクティブイベント、インアクティブイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

[タイマー]

[タイマー] で、使用するタイマーイベントの番号を選択します。

[インテリジェント機能]

[インテリジェント機能] で使用するインテリジェント機能の検知設定番号 (P. 179) を選択し、[インテリジェント機能状態] でONイベント、OFFイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

メモ

[イベント1] と [イベント2] の両方に同じイベント種別を指定することはできません。ただし、[外部デバイス入力] は [入力1] と [入力2] の組み合わせで指定可能、[タイマー] は [タイマー1] ~ [タイマー4] の組み合わせで指定可能です。

■ 動作

連結イベント発生時の動作を設定します。

[ONイベント時の動作]

[有効] に設定すると、連結イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット] R13 R11 M50 H761、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[OFFイベント時の動作]

[有効] に設定すると、連結イベント終了 (OFFイベント) 時に、[プリセット] R13 R11 M50 H761、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[ONイベント中の動作]

ONイベントが継続している間の動作を選択します。

[有効] に設定すると、連結イベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] R13 R11 M50 H761

プリセットを指定すると、連結イベントが発生した場合に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ [カメラ] > [プリセット] (P. 131) で設定しておく必要があります。

メモ R13 R11 M50 H761

[プリセット] は、[イベント種別] に [インテリジェント機能] が含まれる場合は設定できません。

[映像記録]

連結イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、連結イベントが発生した場合に、[映像記録] > [アップロード] > [映像記録動作] (P. 159) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

連結イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、連結イベントが発生した場合に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 163) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]

ONイベント時の外部デバイス出力 (1または2) の状態を選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力]

OFFイベント時の外部デバイス出力(1または2)の状態を選択します。

[ONイベント時の音声再生]

[再生する]に設定すると、連結イベント発生時に、[再生音]で指定した音声を再生します。

[OFFイベント時の音声再生]

[再生する]に設定すると、連結イベント終了時に、[再生音]で指定した音声を再生します。



メモ

[ONイベント時の音声再生]および[OFFイベント時の音声再生]は、[イベント1]、[イベント2]の[イベント種別]に[外部デバイス入力]および[インテリジェント機能]が選択されている場合のみ設定できます。

[再生音]

[ONイベント時の音声再生]または[OFFイベント時の音声再生]が[再生する]の場合、再生音を選択します。

再生音は、あらかじめ[映像と音声]>[音声]の再生音ファイル登録1~3(P. 151)で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を入力します。

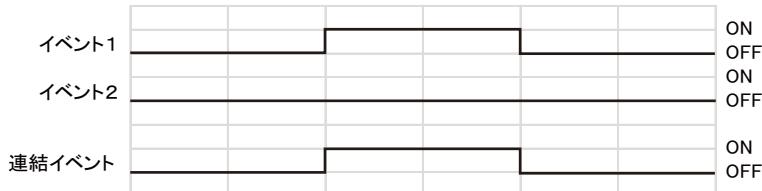
連結イベントの動作例

イベント1とイベント2のON/OFFの組み合わせによる、連結イベントの状態の例を示します。

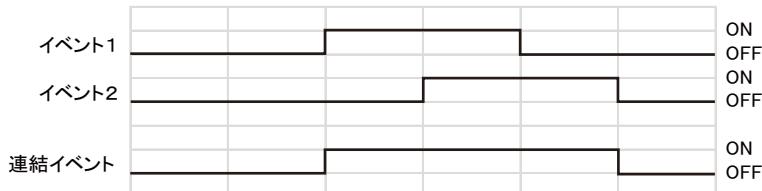
なお、下記の例では、[イベント間隔]が4秒、図中のセル1マスを1秒としています。

■ [イベント連結方法]が[OR]の場合

片方のイベントのみがON



両方のイベントがON

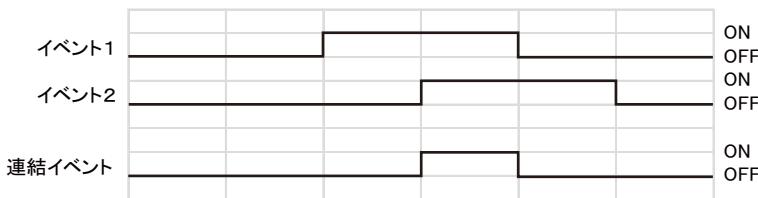


■ [イベント連結方法]が[AND]、[イベント順序]が順序ありの場合

[イベント順序]が[イベント1->2]に設定されている場合の例を示します。

[イベント順序]が[指定しない]で[イベント連結方法]が[AND]の場合は、イベント1とイベント2が逆になってしまっても例のとおりの連結イベントになります。

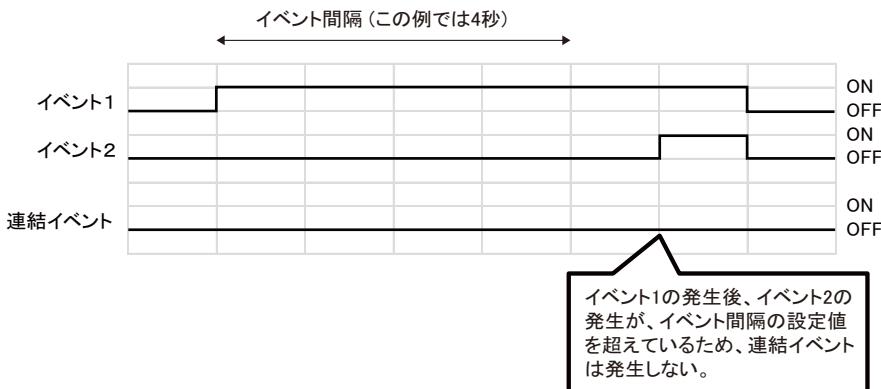
イベント発生順序が 1→2のケース



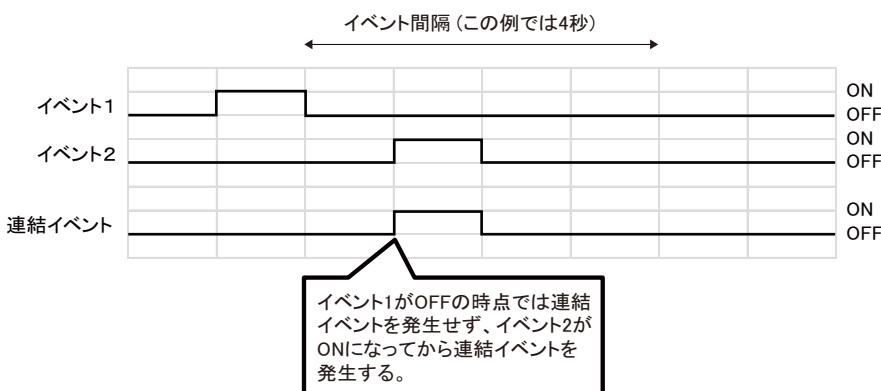
イベント発生順序が 2→1→2のケース



イベント2の発生がイベント間隔の設定値 ([4]秒) を超えた場合



イベント1の各種状態が [OFF] に設定されていて、イベント2がONになるケース



片方のイベントがON/OFFを繰り返すケース



[セキュリティ] > [ホストアクセス制限] アクセス制限を設定する

IPv4、IPv6のそれぞれのアドレスからのアクセスに対して、個別にアクセス制御を行うことができます。

ホストアクセス制限		
IPv4ホストアクセス制限		適用
● ホストアクセス制限の適用		適用する
● デフォルトポリシー		アクセスを許可する
01:	_____ / 32	許可
02:	_____ / 32	許可
03:	_____ / 32	許可
04:	_____ / 32	許可
05:	_____ / 32	許可
06:	_____ / 32	許可
07:	_____ / 32	許可
08:	_____ / 32	許可
09:	_____ / 32	許可
10:	_____ / 32	許可
11:	_____ / 32	許可
12:	_____ / 32	許可
13:	_____ / 32	許可
14:	_____ / 32	許可
15:	_____ / 32	許可
16:	_____ / 32	許可
17:	_____ / 32	許可
18:	_____ / 32	許可
19:	_____ / 32	許可
20:	_____ / 32	許可

ここでは次の設定ができます。

- IPv4ホストアクセス制限
- IPv6ホストアクセス制限

IPv6ホストアクセス制限		
● ホストアクセス制限の適用		適用する
● デフォルトポリシー		アクセスを許可する
01:	_____ / 128	許可
02:	_____ / 128	許可
03:	_____ / 128	許可
04:	_____ / 128	許可
05:	_____ / 128	許可
06:	_____ / 128	許可
07:	_____ / 128	許可
08:	_____ / 128	許可
09:	_____ / 128	許可
10:	_____ / 128	許可
11:	_____ / 128	許可
12:	_____ / 128	許可
13:	_____ / 128	許可
14:	_____ / 128	許可
15:	_____ / 128	許可
16:	_____ / 128	許可
17:	_____ / 128	許可
18:	_____ / 128	許可
19:	_____ / 128	許可
20:	_____ / 128	許可

重要

- HTTP接続でプロキシサーバー経由のアクセスを禁止するには、プロキシサーバーのアドレスを設定する必要があります。
- 誤ったホスト制限設定を行うと、設定ページへのアクセス自体が禁止され、工場出荷設定に戻す以外に復旧する手段がなくなることがありますので、ご注意ください。

メモ

同じアドレスが設定された場合、リスト上位の設定が適用されます。

IPv4ホストアクセス制限

IPv4のアクセスを許可するホストと禁止するホストを指定します。

[ホストアクセス制限の適用]

IPv4ホストアクセス制限を適用するかを選択します。

[デフォルトポリシー]

[ネットワークアドレス/サブネット] に指定していないIPv4アドレスからのアクセスを許可するか、禁止するかを選択します。

[ネットワークアドレス/サブネット]

IPv4のネットワークアドレスをリストに入力し、それぞれアドレスについて、アクセスの [許可] または [禁止] を選択します。

サブネットを指定することで、ネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。

[禁止] に設定すると、すべてのポートに対するアクセスが禁止されます。

IPv6ホストアクセス制限

IPv6のアクセスを許可するホストと禁止するホストを指定します。

[ホストアクセス制限の適用]

IPv6ホストアクセス制限を適用するかを選択します。

[デフォルトポリシー]

[プレフィックス/プレフィックス長] に指定していないIPv6アドレスからのアクセスを許可するか、禁止するかを選択します。

[プレフィックス/プレフィックス長]

IPv6のネットワークアドレス(プレフィックス)をリストに入力し、それぞれアドレスについて、アクセスの [許可] または [禁止] を選択します。

プレフィックス長を指定することで、ネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。

[禁止] に設定すると、すべてのポートに対するアクセスが禁止されます。

[セキュリティ] > [SSL/TLS] HTTP通信の暗号化を設定する

証明書の作成および管理、暗号化通信について設定します。

SSL/TLS

① 自己証明書の作成 実行
② 証明書の状態 インストールされていません
③ 国名 (C) 2文字
④ 都道府県名 (ST) 128文字以内
⑤ 市区町村名 (L) 128文字以内
⑥ 組織名 (O) 64文字以内
⑦ 組織単位名 (OU) 64文字以内
⑧ 一般名 (CN) 64文字以内
⑨ 有効期間開始日 yyyy/mm/dd
⑩ 有効期間終了日 yyyy/mm/dd

ここでは次の設定ができます。

- 証明書
- 証明書の管理
- 暗号化通信

証明書の管理

① 証明書署名要求の生成 実行
② 証明書署名要求の表示 実行
③ サーバー証明書のインストール 参照... 実行
④ 中間層の証明書のインストール 参照... 実行
⑤ サーバー証明書の削除 実行
⑥ 中間層の証明書の削除 実行
⑦ サーバー証明書内容の表示 実行
⑧ 自己CA証明書の表示 実行
⑨ バックアップ 実行
⑩ リストア 参照... 実行

暗号化通信

⑪ HTTPS接続ポリシー HTTP

証明書

SSL/TLS証明書を作成します。



重要

自己証明書は、完全なセキュリティが確保されていなくても問題ない動作テストなどの場合に使用してください。システム運用時には、CA局から発行される証明書を取得し、インストールすることを推奨します。

[自己証明書の作成]

以降の各項目を入力し、[適用] 後に [実行] をクリックすると、自己証明書を作成します。

表示されるメッセージに従って、再起動してください。作成された証明書は、再起動後に有効になります。



メモ

証明書の作成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

[証明書の状態]

証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[国名(C)]

ISO3166-1 alpha-2 の国名コードを入力します。

[都道府県名(ST)]、[市区町村名(L)]、[組織名(O)]、[組織単位名(OU)]、[一般名(CN)]

都道府県名、市区町村名、組織名、組織単位名、一般名を半角英数字 (スペースまたは印字可能文字) で入力します。

一般名 (必須) には、FQDN形式のホスト名などを設定します。

[有効期間開始日]、[有効期間終了日]

作成する証明書の有効期間を設定します (自己証明書の作成時は必須)。

証明書の管理

SSL/TLS証明書を管理します。

[証明書署名要求の生成]

[実行] をクリックすると、サーバー秘密鍵を作成し、証明書署名要求を生成します。

処理が終わると、別ウィンドウに証明書署名要求が表示されます。

メモ

証明書署名要求の生成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

[証明書署名要求の表示]

[実行] をクリックすると、証明書署名要求の内容が表示されます。

[サーバー証明書のインストール]

サーバー証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

[中間層の証明書のインストール]

中間層の証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

メモ

中間層証明書とともにクロスルート証明書もインストールする場合は、あらかじめクロスルート証明書と中間層証明書をテキストエディターなどで1つのファイルに連結し、中間層証明書としてインストールしてください。

[サーバー証明書の削除]

[実行] をクリックすると、サーバー証明書を削除します。

ただし、SSL/TLS通信を行う設定になっていると証明書の削除はできないため、[HTTPS接続ポリシー] を [HTTP] に設定してから実行してください。

削除は、再起動後に有効になります。

[中間層の証明書の削除]

[実行] をクリックすると、中間層証明書とともにクロスルート証明書を削除します。

ただし、SSL/TLS通信を行う設定になっていると証明書の削除はできないため、[HTTPS接続ポリシー] を [HTTP] に設定してから実行してください。

削除は、再起動後に有効になります。

[サーバー証明書内容の表示]

[実行] をクリックすると、サーバー証明書の内容が表示されます。

[自己CA証明書の表示]

SSL/TLS通信のテストなどの目的で使用しますが、通常は使用しません。

[バックアップ]

[実行] をクリックすると、証明書と秘密鍵をバックアップします。[HTTPS接続ポリシー] を、[HTTPS] または [HTTP と HTTPS] に設定し、SSL/TLS通信している場合のみ実行できます。

[リストア]

バックアップされている証明書と秘密鍵をインストールします。

[参照] でバックアップファイルを指定し、[実行] をクリックします。[HTTPS接続ポリシー] を、[HTTPS] または [HTTP と HTTPS] に設定し、SSL/TLS通信している場合のみ実行できます。

リストアした証明書は、再起動後に有効になります。

暗号化通信

暗号化通信の使用について設定します。

[HTTPS接続ポリシー]

HTTPS接続によるSSL/TLS通信の使用について設定します。

SSL/TLS通信を行わないときは [HTTP] を選択します。

SSL/TLS通信を行うときは [HTTPS] または [HTTP と HTTPS] を選択します。再起動後にSSL/TLSを使用した接続が可能となります。

[HTTPS] を選択したときは、HTTP アクセス時にもHTTPSにリダイレクトされ、SSL/TLS通信が行われます。

重要

- ここでSSL/TLS通信を行う設定をしても、証明書をインストールしていないと、SSL/TLS通信は行われません。
- SSL/TLS通信時は、映像配信性能が低下します。また、[HTTPS] に設定した場合、RMとは接続できません。

メモ

- SSL/TLS鍵生成には数分かかる場合があります。
- カメラにインストールされる証明書の種類によっては、Web ブラウザーが証明書を受け入れるかどうかのダイアログを表示することができないため、接続できないことがあります。この場合は、CA局の証明書をWebブラウザーに登録してください。

[セキュリティ] > [802.1X] ネットワークポートの認証について設定する

802.1X認証の設定と認証状態の表示、証明書の管理を行います。

802.1X	
802.1X認証	
● 802.1X認証の使用	選択
● 認証の状態	停止
認証方式	
● 認証方式	EAP-TLS
● ユーザー名	83文字以内
証明書情報	
● CA証明書の状態	インストールされていません
● クライアント証明書の状態	インストールされていません
● クライアント秘密鍵の状態	インストールされていません
証明書の管理	
● CA証明書のインストール	参照... 実行
● クライアント証明書のインストール	参照... 実行
● クライアント秘密鍵のインストール	参照... 実行
● クライアント秘密鍵のパスワード	1~234文字
● 証明書の削除	実行

ここでは次の設定ができます。

- 802.1X認証
- 認証方式
- 証明書情報
- 証明書の管理

5

設定ページ

802.1X認証

802.1X認証の使用の有無と状態の表示を行います。

[802.1X認証の使用]

802.1X認証の使用の有無を選択します。

[認証の状態]

802.1X認証の状態を表示します。[認証済み]、[未認証]、[停止] の3つの状態があります。

認証方式

802.1X認証で使用する認証方式を設定します。

[認証方式]

802.1X認証で使用する認証方式を [EAP-MD5]、[EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] から選択します。

[ユーザー名]

認証に使用するユーザー名を入力します。

[パスワード]

認証に必要なパスワードを入力します。

[認証方式] が [EAP-MD5]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

■ 証明書情報

[認証方式] が [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

[CA証明書の状態]

CA証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、CA証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[クライアント証明書の状態]

クライアント証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません]と表示され、クライアント証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[認証方式]が[EAP-TLS]の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵の状態]

クライアント秘密鍵がインストールされていない場合は、[インストールされていません]と表示され、クライアント秘密鍵をインストールした場合は、[インストールされています]と表示されます。

[認証方式]が[EAP-TLS]の場合にのみ表示されます。

■ 証明書の管理

[認証方式]が[EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP]の場合にのみ表示されます。

重要

- 証明書のインストール時に、すでにCA証明書、クライアント証明書、またはクライアント秘密鍵が存在する場合は破棄され、新たにインストールされます。
- インストールする証明書または秘密鍵のフォーマットが不正な場合はエラーとなります。
- クライアント証明書とクライアント秘密鍵はインストール時にペアチェックを行い、一致しない場合はエラーとなります。
- 802.1Xで使用する証明書と秘密鍵は、SSL/TLSでの証明書インストール状況にかかわらず、別な物としてインストールを行う必要があります。

[CA証明書のインストール]

CA証明書をインストールします。

[参照]でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行]をクリックします。

[クライアント証明書のインストール]

クライアント証明書をインストールします。

[参照]でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行]をクリックします。

[認証方式]が[EAP-TLS]の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵のインストール]

クライアント秘密鍵をインストールします。

[参照]でインストールする秘密鍵ファイルを指定し、[実行]をクリックします。

[認証方式]が[EAP-TLS]の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵のパスワード]

クライアント秘密鍵のパスワードを入力します。

クライアント秘密鍵にパスワードが設定されている場合にのみ必要です。

[認証方式]が[EAP-TLS]の場合にのみ表示されます。

[証明書の削除]

インストールされているCA証明書、クライアント証明書、クライアント秘密鍵をすべて削除します。

[認証方式]が[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP]の場合、「CA証明書」しか表示されませんが、クライアント証明書およびクライアント秘密鍵がインストールされていれば、それらも削除されます。

[セキュリティ] > [IPsec] IPsecを設定する

IPsecを使用する場合の設定を行います。

IPsec		○: 再起動	適用して再起動	クリア
IPsec設定方法				
● IPsec設定方法	自動鍵交換			
自動鍵交換の設定				
● IPsec SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES	▼	□	
● IPsec SA 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96	▼	□	
● IPsec SA 有効期間(分)	10~1440	480	▼	□
● ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES	▼	□	
● ISAKMP SA 認証アルゴリズム	SHA1	▼	□	
● DHグループ	グループ14->グループ5->グループ2	▼	□	
● ISAKMP SA 有効期間(分)	10~1440	480	▼	□

ここでは次の設定ができます。

- IPsec設定方法
- 自動鍵交換の設定
- IPsecセット1~5

IPsec設定方法				
● IPsec設定方法	手動設定			
IPsec セット 1				
● IPsecセットの使用	IPv4で使用する			
● IPsec動作モード	トンネルモード			
● 接続先IPv4アドレス	192.168.1.100	192.168.1.100	192.168.1.100	192.168.1.100
● 送信元IPv4アドレス	192.168.1.100	192.168.1.100	192.168.1.100	192.168.1.100
● IPsecプロトコル	ESPとAH			
● セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	192.168.1.100	192.168.1.100	192.168.1.100	192.168.1.100
● 接続先のサブネットマスク長	1~32	16	16	16
● SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES			
● SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96			
● SA ESP 密钥(送信)	04459819097935037353			
● SA ESP 認証密钥(送信)	0148530			
● SA ESP SPI(送信)	2000			
● SA ESP 密钥(受信)	0922825			
● SA ESP 認証密钥(受信)	706639081			
● SA ESP SPI(受信)	4000			
● SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96			
● SA AH 認証密钥(送信)	5000			
● SA AH SPI(送信)	7000			
● SA AH 認証密钥(受信)	6000			
● SA AH SPI(受信)	4000			

重要

- カメラをIPsecで運用するためには、あらかじめ通信相手やネットワークの設定が必要です。これらの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。
- IPsecで接続するには、カメラのIPアドレスをマニュアル設定してください。
接続元IPv4アドレスでは、[基本] > [ネットワーク] > [IPv4] の [IPv4アドレス設定方式] を [マニュアル設定] にして設定したIPv4アドレスを使用してください。
接続元IPv6アドレスでは、[基本] > [ネットワーク] > [IPv6] の [IPv6アドレス(マニュアル設定)] で設定したIPv6アドレスを使用してください。
- IPsecの設定を変更したとき、起動中のWebブラウザーからカメラに接続できなくなる可能性がある場合は、確認のダイアログが表示されます。変更結果を適用するときは、[OK] をクリックしてください。
カメラの再起動後、Webブラウザーからカメラに再接続できない場合、メッセージとともに、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。
表示されたURIでカメラに接続できないときは、システム管理者にお問い合わせください。

メモ

IPsec使用時は、映像配信性能が低下します。

IPsec設定方法

[IPsec設定方法]

IPsecを使用する場合の鍵の交換方法を選択します。

自動鍵交換の設定

[IPsec SA 暗号化アルゴリズム]

IPsec SAの暗号化アルゴリズムを選択します。

設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な暗号化アルゴリズムが選択されます。

[IPsec SA 認証アルゴリズム]

IPsec SAの認証アルゴリズムを選択します。

設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な認証アルゴリズムが選択されます。

[IPsec SA 有効期間(分)]

IPsec SAの有効時間を入力します。

[ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム]

自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA暗号化アルゴリズムを選択します。

[ISAKMP SA 認証アルゴリズム]

自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA認証アルゴリズムを選択します。

[DHグループ]

自動鍵交換プロトコルIKEによる鍵交換で使用する、DHアルゴリズムで使用する鍵生成情報を選択します。グループ番号が大きいほど、セキュリティ強度が高くなります。

[ISAKMP SA 有効期間(分)]

ISAKMP SAの有効時間を入力します。

IPsecセット1～5

自動鍵交換または手動設定で、最大5つの通信相手のIPsecを設定できます。

■ 自動鍵交換



重要

自動鍵交換を使用した通信中にカメラの再起動を行うと、再起動後、接続エラーが発生する場合があります。その場合は、再度接続を行ってください。



メモ

自動鍵交換を使用すると、カメラとの通信が開始するまでに、5～10秒程度かかります。

[IPsecセットの使用]

IPsec設定セットをIPv4とIPv6のどちらで使用するか、または使用しないかを選択します。

[IPsec動作モード]

IPsecの動作モードを選択します。

[接続先IPv4アドレス]、[接続先IPv6アドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[送信元IPv4アドレス]、[送信元IPv6アドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[IPsecプロトコル]

使用するIPsecプロトコルを選択します。

[ESP]を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。

[AH]を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。

[ESPとAH]を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

[セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス]、[セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス]
[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを入力します。

[接続先のサブネットマスク長]、[接続先のプレフィックス長]

[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合に、サブネットマスク長 (IPv4) またはプレフィックス長 (IPv6) を入力します。

[IKE事前共有鍵]

IKE (自動鍵交換) で使用する事前共有鍵を入力します。

手動設定

[IPsecセットの使用]

IPsec設定セットをIPv4とIPv6のどちらで使用するか、または使用しないかを選択します。

[IPsec動作モード]

IPsecの動作モードを選択します。

[接続先IPv4アドレス]、[接続先IPv6アドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[送信元IPv4アドレス]、[送信元IPv6アドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[IPsecプロトコル]

使用するIPsecプロトコルを選択します。

[ESP] を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。

[AH] を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。

[ESPとAH] を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

[セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス]、[セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス]

[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを入力します。

[接続先のサブネットマスク長]、[接続先のプレフィックス長]

[IPsec動作モード] を [トンネルモード] に設定した場合に、サブネットマスク長 (IPv4) またはプレフィックス長 (IPv6) を入力します。

[IPsecプロトコル] で “ESP” を含む設定にした場合

[SA ESP 暗号化アルゴリズム]

ESPの暗号化アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている暗号化アルゴリズムに合わせて選択します。

通常は [AES] または [3DES] での運用をお勧めします。

[SA ESP 認証アルゴリズム]

ESPの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムに合わせて選択します。

[ESP] のみを使用する場合、[認証なし] は選択できません。

[SA ESP 暗号鍵 (送信)]

送信用SAの暗号鍵を入力します。

[SA ESP 暗号化アルゴリズム] が [AES] の場合は128bit、[3DES] の場合は192bit、[DES] の場合は64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

[SA ESP 認証鍵 (送信)]

送信用SAの認証鍵を入力します。

[SA ESP 認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

[SA ESP SPI (送信)]

送信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

[SA ESP 暗号鍵 (受信)]

受信用SAの暗号鍵を入力します。

[SA ESP 暗号化アルゴリズム] が [AES] の場合は128bit、[3DES] の場合は192bit、[DES] の場合は64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

[SA ESP 認証鍵 (受信)]

受信用SAの認証鍵を入力します。

[SA ESP 認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

[SA ESP SPI (受信)]

受信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

設定値はSAを識別するためのID番号として使用されるので、受信用のSPIとして、他のESPのSPIと同じ値を指定しないようにご注意ください。

[IPsecプロトコル] で “AH” を含む設定にした場合

[SA AH 認証アルゴリズム]

AHの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムに合わせて選択します。

[SA AH 認証鍵 (送信)]

送信用SAの認証鍵を入力します。

[SA AH 認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。

[SA AH SPI (送信)]

送信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

[SA AH 認証鍵 (受信)]

受信用SAの認証鍵を入力します。

[SA AH 認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。

[SA AH SPI (受信)]

受信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

設定値はSAを識別するためのID番号として使用されるので、受信用のSPIとして、他のAHのSPIと同じ値を指定しないようにご注意ください。

[メモリーカード]

メモリーカードの操作と情報の表示を行う

カメラにセットしたメモリーカードに、映像を記録するための設定を行います。また、メモリーカードの状態を見ることができます。

[メモリーカード] は、[映像記録] > [メモリーカード] と共にあります。一方のページで設定すると、もう一方のページにも反映されます。

メモリーカード

映像記録設定	
● 映像記録動作	メモリーカードに記録
メモリーカードの操作	
● マウント / アンマウント	アンマウント実行
● 動作設定	ログと映像を保存する
● 映像フォーマット	JPEG
● イベント前バッファ（枚数） 0~100	0
● イベント後バッファ（枚数） 0~100	0
● 映像の上書き	無効
● 映像の自動削除	有効
● 保存日数 1~90	30
● 削除時刻 hh:mm	00:00
● 映像管理情報の再作成	実行
● フォーマット	実行

ここでは次の設定ができます。

- 映像記録設定
- メモリーカードの操作
- メモリーカードの情報

メモリーカードの情報	
● メモリーカードの認識	マウントされています
● メモリーカードの操作状態	操作可能
● 映像管理情報の状態	正常
● 映像保存	保存可
● メモリーカード容量	62848900KB (5.9GB)
● 使用容量	6174160KB (5.8GB)

5

操作ページ

重要

メモリーカードに記録された情報内容は、「個人情報」に該当する場合があります。カメラが廃棄、譲渡、修理などで第三者に渡る場合には、その取り扱いに十分にご注意ください。

メモ

- メモリーカードの映像は、録画映像ユーティリティを使用して見たり、管理することができます。録画映像ユーティリティの操作やダウンロードしたデータについては、『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。
- メモリーカードに大量の映像ファイルを記録すると、録画映像ユーティリティで映像一覧を表示する際に、ファイル数に比例して時間がかかるようになります。[映像の自動削除] で保存期間を短く設定したり、録画映像ユーティリティで定期的に手動で削除するなど、不要な映像ファイルはできる限り削除するようにしてください。
また、メモリーカードに記録する映像フォーマットにH.264を指定すると、JPEGで記録するときよりも映像ファイル数を抑えることができます。
- 使用できるメモリーカードは、次のとおりです。
 - SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード R1x M50 H76x H751
 - microSDメモリーカード、microSDHCメモリーカード、microSDXCメモリーカード H65x M64x
- メモリーカードの出し入れの操作は、『設置ガイド』を参照してください。
- カメラで初めて使用するメモリーカードは、カメラにセットした後、最初にフォーマットしてください (P. 221)。

映像記録設定

カメラからの映像を、メモリーカードに記録するか、HTTPまたはFTPでアップロードするかを設定します。

この項目は、[映像記録] > [アップロード] (P. 159) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。

[映像記録動作]

メモリーカードに記録する場合、[メモリーカードに記録] を選択します。

メモリーカードの操作

メモリーカードの状態 (アンマウント/マウント) によって、設定項目が変わります。

重 要

カメラの電源を切る場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウント処理を行ってください。アンマウントしていない場合、管理ファイル異常となることや、メモリーカードへのアクセスができなくなることがあります。

カメラマネジメントツール (P. 20) を使用すると、複数カメラのメモリーカードを一括してマウント/アンマウントの処理が行えます。

メモリーカードをカードスロットにセットすると、自動的にマウントされます。また、起動時にカメラにメモリーカードがセットされている場合も、自動的にマウントされます。

[マウント/アンマウント]

[アンマウント実行] をクリックすると、メモリーカードがアンマウント状態になります。

カメラの電源を切る場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウントしてください。

同様に、メモリーカードをセットした状態で [マウント実行] をクリックすると、メモリーカードがマウント状態になります。

[動作設定]

メモリーカードに保存するデータを選択します。

[ログと映像を保存する] に設定した場合、次のデータが自動的に保存されます。

- ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像 (JPEGのみ)
- HTTP/FTPアップロードに失敗した映像
- カメラビューワーからのユーザーによる手動記録映像
- [外部デバイス入力]、[音声検知]、[インテリジェント機能] によるイベント発生時の記録映像
- タイマーによる記録映像
- ログ
- ONVIFによる記録映像

メモリーカード

メモリーカードの空き領域がなくなった場合、新しいファイルは保存されません。[映像の上書き] を [有効] にすると、古い映像を削除し、新しい映像を保存することができます (P. 221)。

[映像フォーマット]

メモリーカードに記録する映像フォーマットを選択します。

[映像記録動作]を、[メモリーカードに記録] に設定した場合、ここで設定されたフォーマットで映像が記録されます。

記録される映像のサイズと映像品質は、[映像] (P. 101) の設定に従います。

重 要

• [H.264(1)] または H.264(2) を設定するには、[映像] > [H.264(1)] (P. 102)、H.264(2) (P. 103) で次のように設定する必要があります。

- [ピットレート制御] : [ピットレート制御する]
- [目標ピットレート(kbps)] : [3072]以下
- [フレーム間隔(秒)] : [0.5]、[1]、[1.5] のいずれか

• [映像記録] > [アップロード] > [アップロード全般] > [映像フォーマット] (P. 160) と異なる H.264 は設定できません。

メモリーカード

• [JPEG] に設定した場合、アップロードエラー発生時に JPEG で記録される映像のフレームレートは常に 1 fps となります。

• ネットワークに異常が発生したために配信できなかった録画ストリームの映像は、[映像フォーマット] の設定にかかわらず JPEG で保存されます (フレームレートは 1fps 固定です)。

[イベント前バッファ (枚数)] (JPEGの場合) / [イベント前バッファ (秒)] (H.264の場合)

イベント発生前に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] または [H.264(2)] の場合は秒数の最大値を入力します。

ただし、状況によっては、設定した枚数または秒数で保存できない場合があります。

[イベント後バッファ (枚数)] (JPEGの場合) / [イベント後バッファ (秒)] (H.264の場合)

イベント発生後に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] または [H.264(2)] の場合は秒数の最大値を入力します。

ただし、状況によっては、設定した枚数または秒数で保存できない場合があります。

[映像の上書き]

イベント発生時にメモリーカードに映像を記録する際、メモリーカードの空き容量がなくなった場合に、映像の上書き保存を許可するかを選択します。

[有効] を選択すると、イベント、タイマー、ONVIFによる記録映像は古いファイルから上書きされます。

[無効] にしている場合は、不要になった映像を録画映像ユーティリティで削除してください。操作方法は『録画映像ユーティリティ 使用説明書』を参照してください。

[映像の自動削除]

保存日数を過ぎた映像を、自動的にメモリーカードから削除するか選択します。

[有効] に設定した場合、[保存日数] と [削除時刻] を設定します。

[保存日数]

映像をメモリーカードに保存する日数を入力します。

[削除時刻]

保存日数を過ぎた映像を削除する時刻を入力します。

[映像管理情報の再作成]

[実行] をクリックすると、メモリーカード内に作成されている記録映像の管理ファイルを再作成します。

再作成中は、メモリーカードにアクセスできません。また、映像配信やアップロードなどの処理は、再作成中に実行しないことをお勧めします。

なお、映像管理情報の再作成は、該当するファイル数が多いほど時間がかかるため、場合によって数時間かかることがあります。

[フォーマット]

[実行] をクリックすると、メモリーカードをフォーマットします。

フォーマットすると、メモリーカード内のすべてのファイルとディレクトリが削除されます。

メモ

フォーマットは、クリックフォーマットで行われます。

メモリーカードの情報

カメラにセットされているメモリーカードの現在の状態や、容量に関する情報が表示されます。

[メモリーカードの認識]

現在のメモリーカードの状態が表示されます。

[メモリーカードの操作状態]

メモリーカードの操作の状態を表示します。

[操作可能]：各種操作が可能な状態。

[映像管理情報を再作成中]：映像管理情報の再作成が行われています。他の操作はできません。

[映像削除中]：映像を削除しています。他の操作はできません。

[映像管理情報の状態]

映像管理情報の状態を表示します。

[正常]：映像管理情報は正常です。

[映像管理情報の再作成が必要]：記録映像の管理ファイルが壊れているか、保存されている映像と管理ファイルとの整合性がとれない状態です。

[映像管理情報の再作成] の [実行] をクリックして、管理ファイルを再作成する必要があります。

[映像管理情報の再作成] を実行しても復旧しない場合は、[フォーマット] (P. 221) が必要です。

[映像保存]

メモリーカードへの映像の保存が可能かを表示します。

[保存不可] の場合は、次の理由が考えられます。

- メモリーカードがマウントされていない
- 映像管理ファイルが壊れている
- 書き込み禁止状態になっている
- [映像の上書き] が [無効] になっていて、メモリーカードの保存容量がいっぱいである

[メモリーカード容量]

メモリーカードの容量が表示されます。

[使用容量]

メモリーカードの使用容量が表示されます。

[メンテナンス] > [全般] カメラの機器情報の表示やメンテナンスを行う

ファームウェアバージョンなどのカメラ情報の確認や、カメラのシステムのメンテナンスを行えます。

The screenshot shows the 'General' maintenance page with the following sections:

- 機器情報**: Displays camera details: Model Name (VB-R13VE), Firmware Version (Farmware Version), Serial Number, Build Number, and MAC Address.
- 表示と実行**: Includes buttons for viewing current settings (表示), viewing license (表示), restarting (再起動), and performing a refresh (駆動系リフレッシュ).
- 初期化**: Includes buttons for network settings (保持する) and restoring to factory defaults (初期設定に戻す).

ここでは次の設定ができます。

- 機器情報
- 表示と実行
- 初期化

5

設定ページ

機器情報

[機種名]、[ファームウェアバージョン]、[シリアル番号]、[ビルド番号]、[MACアドレス]
カメラの各情報が表示されます。

メモ

VB-H761LVE-H、VB-H751LE-H、VB-M741LE-Hの [機種名] は、それぞれVB-H761LVE、VB-H751LE、VB-M741LEと表示されます。

表示と実行

カメラの設定やライセンスの表示、および、再起動をします。

[現在の設定を見る]

設定ページの現在の各設定を一覧表示します。

[ライセンスを見る]

第三者ソフトウェアのライセンス情報を一覧表示します。

[再起動]

カメラを再起動します。

[駆動系リフレッシュ] R1x

駆動系リフレッシュの実行は、左右に2周ずつパン動作を行い、完了すると実行前のカメラアングルに戻ります。長期間繰り返しパンチルト動作を行うと、パン動作と連動して映像や音声に問題が生じることがあります。その際、駆動系リフレッシュを実行すると改善される場合があります。

メモ R1x

駆動系リフレッシュの動作中は、次のユーザーの接続は切断されます。

- 管理者以外のユーザー
- RTPで接続していないユーザー

初期化

カメラの初期化をします。

注意



- [初期設定に戻す] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。
- 一度 [OK] をクリックすると、初期設定に戻す処理は中断できません。

[ネットワーク設定]

[保持する] に設定した場合、次の設定を残して初期化します。

- 管理者名
- パスワード
- ネットワーク設定
- タイムゾーン
- 証明書
- 秘密鍵

[保持しない] に設定した場合、上記設定も含めて初期化します。

管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください (P. 35)。

[初期設定に戻す]

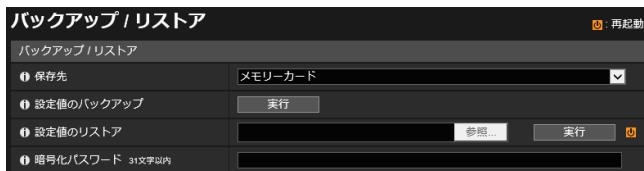
再起動後、[ネットワーク設定] の選択に従って、初期設定に戻します。

メモ

- [初期設定に戻す] の[実行] をクリックする前に、現在の各設定値をバックアップすることをお勧めします。
- リセットスイッチを使用して工場出荷設定に戻すことができますが、カメラの日付と時刻を除くすべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください (P. 249)。

[メンテナンス] > [バックアップ/リストア] カメラの設定値を保存/復元する

カメラのすべての設定値を保存/復元します。



ここでは次の設定ができます。

- バックアップ/リストア

5

バックアップ/リストア

バックアップとリストアに関する設定をします。

注意



[設定値のバックアップ] または [設定値のリストア] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に動作しなくなる場合があります。

[保存先]

バックアップ時のカメラの設定値の保存先を選択します。

[設定値のバックアップ]

日付と時刻以外のすべての設定値をバックアップします。管理者アカウント、SSL/TLS、802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてバックアップを行います。

[設定値のリストア]

日付と時刻以外のすべての設定値を、[設定値のバックアップ] で作成したバックアップファイルからリストアします。

[保存先] で [PC] を選択した場合は、[参照] をクリックしてバックアップファイルを指定します。

管理者アカウント、IPアドレス、SSL/TLSおよび802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてリストアします。

リストア後、カメラは再起動します。

重要

- 別のカメラのバックアップファイルからリストアした場合、ネットワーク上でアドレスが衝突したり、異なる管理者パスワードに上書きされ、カメラに接続できなくなるなどの問題が発生する可能性がありますのでご注意ください。
- 設定値をリストアするときは、リストアするカメラより新しいファームウェアバージョンで作成したバックアップファイルを使用しないでください。

[暗号化パスワード]

バックアップおよびリストア時に使用するパスワードを設定します。バックアップデータそのものを暗号化するためのパスワードです。

暗号化されたバックアップデータからリストアするときは、バックアップ時に設定したパスワードを入力します。

メモ

バックアップ時に設定されたパスワードとリストア時に設定されたパスワードが一致しない場合は、リストア処理は行われません。

[メンテナンス] > [ファームウェア更新] カメラのファームウェアを更新する

ファームウェアの更新を行います。



ここでは次の設定ができます。

- ファームウェア更新

機器情報

[機種名]、[ファームウェアバージョン]

カメラの情報が表示されます。



メモ

VB-H761LVE-H、VB-H751LE-H、VB-M741LE-Hの [機種名] は、それぞれVB-H761LVE、VB-H751LE、VB-M741LEと表示されます。

ファームウェア更新

ファームウェア更新に関する設定をします。

注意



[ファームウェア更新] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に動作しなくなる場合があります。

[初期設定に戻す]

ファームウェアの更新時に初期設定に戻します。

[戻す] に設定した場合、次の設定を残して初期化します。

- 管理者名
- パスワード
- ネットワーク設定
- タイムゾーン
- 証明書
- 秘密鍵

[ファームウェア更新]

[参照] をクリックして、更新用のファームウェアファイルを指定し、[実行] をクリックします。確認メッセージが表示されるので、[OK] をクリックするとファームウェア更新が始まります。

ファームウェアの更新後、カメラは再起動します。

[メンテナンス] > [ログ] カメラのログ情報を確認/通知する

カメラの動作や接続の履歴を確認したり、ログメッセージのメール送信を設定します。

The screenshot shows the 'Log' configuration interface. It includes sections for 'Log Display' (with a 'View Log' button) and 'Log Notification'. Under 'Log Notification', there are fields for 'Notification Use' (set to 'Use'), 'Notification Level' (set to 'Error'), and a 'Copy Mail Settings' button. Other fields include 'Mail Server' (localhost), 'Port Number' (25), 'From Address' (camera address), 'To Address' (camera address), 'Authentication Method' (POP before SMTP), 'Username' (username), 'Password' (*****), and 'POP Server' (popserver). A 'Subject' field and a 'Log Test' button are also present.

ここでは次の設定ができます。

- ログ表示
- ログ通知

5

設定ページ

ログ表示

カメラの動作および接続の履歴を表示します。

[ログを見る]

[表示] をクリックすると、カメラ起動時からのログメッセージが表示されます。

ログメッセージについては、「ログメッセージ一覧」(P. 235) を参照してください。

ログ通知

ログ通知に使用するメールサーバーとメールアドレスを設定します。

[ログ通知の使用]

[使用する] を選択すると、ログ通知に関する以下の設定項目が表示されます。

[通知レベル]

ログの通知レベルを選択します。

ログメッセージのレベルは「カメラのログメッセージ」(P. 235) を参照してください。

[メール設定のコピー]

[映像記録] > [メール通報] (P. 163) で使用しているメール設定をコピーします。ただし、[パスワード] はコピーされません。

[メールサーバー]

SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[メールポート番号]

SMTPサーバーのポート番号を入力します (工場出荷設定は [25])。

[差出人メールアドレス (From)]

メール発信するアドレスを入力します。

[宛先メールアドレス (To)]

メール受信するアドレスを入力します。

[メール認証方式]

送信先SMTPサーバーに合わせて、認証方式を選択します。

[ユーザー名]、[パスワード]、[POPサーバー]

メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[表題]

メール送信時の表題を半角英数字で入力します。

[ログ通知テスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してログ通知テストを行います。

[メール認証方式] が [なし] 以外の場合、[パスワード] を入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

6 章

付録

カメラの機能に関する補足事項と、カメラの使用時にトラブルが発生した場合やメッセージなどが表示された場合の対処方法を説明します。また、カメラを工場出荷時の設定にリセットする方法も説明します。

修飾子について

設定項目によっては、修飾子‘% 文字’によるパラメーター記述が可能です。

修飾子	意味	記入される文字列の内容
%n	撮影理由(番号)	0(テスト) 1(外部デバイス入力1) 2(外部デバイス入力2) 33(タイマー1) 34(タイマー2) 35(タイマー3) 36(タイマー4) 145(音量検知) 146(悲鳴検知) 160(自動追尾) 161(インテリジェント機能検知設定1) 162(インテリジェント機能検知設定2) 163(インテリジェント機能検知設定3) 164(インテリジェント機能検知設定4) 165(インテリジェント機能検知設定5) 166(インテリジェント機能検知設定6) 167(インテリジェント機能検知設定7) 168(インテリジェント機能検知設定8) 169(インテリジェント機能検知設定9) 170(インテリジェント機能検知設定10) 171(インテリジェント機能検知設定11) 172(インテリジェント機能検知設定12) 173(インテリジェント機能検知設定13) 174(インテリジェント機能検知設定14) 175(インテリジェント機能検知設定15) 201(連結イベント1) 202(連結イベント2) 203(連結イベント3) 204(連結イベント4)
%N	撮影理由(文字列)	<外部デバイス入力名(半角英数字)> インテリジェント機能検知設定名(半角英数字) NULL (空白文字/インターバルタイマー・テストの場合)
%O	撮影理由(ON/OFF)	OFF ON
%X	画像の幅	横方向の画素数
%Y	画像の高さ	縦方向の画素数
%C	カメラ番号	1
%D	カメラ名	[カメラ名(半角英数字)] の設定値
%P	パン位置	R13 R12 -180.00 ~ 180.00 R11 R10 M50 -179.99 ~ 180.00 H65x M64x H76x H751 M74x 0
%T	チルト位置	R13 R12 -180.00 ~ 180.00 R11 R10 M50 -179.99 ~ 180.00 H65x M64x H76x H751 M74x 0
%Z	ズーム位置	0.01 ~ 300.00
%R	ローテーション位置	0
%V	カメラサーバー	VB-R13VE/VB-R13/VB-R12VE/VB-M50B/VB-H652LVE/VB-H651VE/VB-H651V/ VB-H761LVE/VB-H760VE/VB-H751LE
%y	撮影時刻の年	2001 ~ 2031
%m	撮影時刻の月	01 ~ 12
%d	撮影時刻の日	01 ~ 31
%w	撮影時刻の週日	0 ~ 6(日曜～土曜に対応)
%H	撮影時刻の時	00 ~ 23
%M	撮影時刻の分	00 ~ 59
%S	撮影時刻の秒	00 ~ 59
%s	撮影時刻のミリ秒	000 ~ 999
%z	撮影時刻のタイムゾーン	-1200 ~ +1300
%a	撮影時刻の週日名	Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat
%b	撮影時刻の月名	Jan Feb Mar Apr May Jun Jul Aug Sep Oct Nov Dec
%h	ホスト名	

メモ

- 不整合があれば実行時エラーとなります。
- 未定義の文字については、'%'が削除されます。

■ 利用可能な修飾子について

各設定項目で利用可能な修飾子は、次のとおりです。

【HTTPアップロード】(P. 160)

[パラメーター (query string)]

すべての修飾子が利用可能です。

【FTPアップロード】(P. 161)

[作成サブディレクトリ名]

利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%h、%n のみです。

[作成ファイル名]

利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%M、%S、%s、%n のみです。

【メール通報】(P. 163)

[本文]

すべての修飾子が利用可能です。

トラブルシューティング

販売店やお客様相談センターに連絡する前に、次のことを確認してください。ログメッセージが表示されている場合は、ログメッセージ一覧の内容と対策を参考にしてください。

メモ

カメラマネジメントツール、録画映像ユーティリティ、モバイルカメラビューアーのトラブルシューティングについては、各使用説明書を参照してください。

問題	対処方法
カメラが起動しない	<ul style="list-style-type: none">PoE対応ハブをご使用の場合、LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。ACアダプター(オプション)をご使用の場合、ACアダプターが正しく接続されているか確認してください。電源を入れ直してください(『設置ガイド』参照)。
カメラに接続できない	<ul style="list-style-type: none">LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。カメラのネットワークが正しく設定されているか確認してください。特にIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスについては利用しているネットワークで使用可能な設定か確認してください。IPアドレスの変更を行った場合には、カメラが再起動するまで有効になりません。Webブラウザーに入力しているURI(カメラのIPアドレス)が正しいか確認してください(P. 38)。設定ページの[セキュリティ] > [ホストアクセス制限](P. 208)で、アクセスが禁止されたPCから接続していないか確認してください。設定ページの[セキュリティ] > [802.1X](P. 213)で、使用する認証方式や、[ユーザー名]、[パスワード]、証明書の組み合わせが、接続するネットワークルールに合っているか、システム管理者に確認してください。
カメラビューアーが起動できない	<ul style="list-style-type: none">「ご使用のWebブラウザーには対応していません。」と表示される場合は、Internet Explorer 9以降、もしくはChromeの弊社動作確認済みバージョンをご使用ください。「JavaScriptが使用できないか無効化されています。」と表示される場合は、[コントロールパネル]の[ネットワークとインターネット] > [インターネットオプション] > [セキュリティ] > [レベルのカスタマイズ]をクリックし、[アクティブスクリプト]を[有効にする]に設定してください。登録ユーザーおよび一般ユーザーがカメラビューアーを使用するには、設定ページで次の設定をしてください。<ul style="list-style-type: none">[基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限]で一般ユーザー/登録ユーザーに[一般カメラ制御]もしくは[映像配信]を付与する[基本] > [ビューアー] > [全般] > [デフォルトページ]を[ビューアーを表示]に設定する一般ユーザーも使用できるようにするには、[基本] > [ビューアー] > [ビューアー設定] > [ユーザー認証]で[認証しない]に設定する
カメラビューアーで一部機能が使用できない	<ul style="list-style-type: none">「カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして追加する」(P. 32)の手順に従い、[セキュリティ]設定で、このWebサイトを[信頼済みサイト]に追加してください。Internet Explorer以外のWebブラウザーをお使いの場合、もしくは、Internet Explorerで、Canon Network Camera Addon Moduleが正しくインストールされていない場合は、次の機能を使用できません。<ul style="list-style-type: none">音声の受信/送信 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741H.264映像の受信/再生

問題	対処方法
映像が表示されない	<ul style="list-style-type: none"> カメラに同時にアクセスできるビューワーの数は、設定ページの [サーバー] > [映像サーバー] の [最大クライアント数] の設定で制限されます (最大30まで指定可能)。制限を超えた場合には映像が表示されずにメッセージが表示されます。 登録ユーザーや一般ユーザーで [映像配信] の権限が付与されていない場合は、映像を表示できません。管理者に問い合わせて、設定ページの [基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [映像配信] を付与してもらうようにしてください。 64-bit OSでInternet Explorer 10または11を使用している場合、信頼済みサイトに追加し拡張保護モードを有効にすると、H.264映像は受信および再生できないことがあります。その場合は、信頼済みサイトに追加し、信頼済みサイトの保護モードを無効にしてください。
音声が利用できない R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	<ul style="list-style-type: none"> 音声が利用できない場合は、設定ページの [サーバー] > [音声サーバー] の設定を確認していただくとともに、PC のサウンドとオーディオデバイスの設定もご確認ください。 カメラビューワーを管理者権限で使用する場合、RMビューワーなどの管理者権限で音声を使用するビューワーがカメラに接続していないか確認してください。 登録ユーザーや一般ユーザーで [音声配信] の権限が付与されていない場合は、音声を利用できません。管理者に問い合わせて、設定ページの [基本] > [ユーザー管理] > [ユーザー権限] の [音声配信] を付与してもらうようにしてください。 64-bit OSでInternet Explorer 10または11を使用している場合、拡張保護モードを有効にすると、音声が受信および送信できないことがあります。その場合は、信頼済みサイトに追加し、信頼済みサイトの保護モードを無効にしてください。
カメラ制御ができない	<ul style="list-style-type: none"> カメラビューワーに管理者として接続すると、カメラ制御権を占有します。登録ユーザーまたは一般ユーザーとして接続すると、管理者がカメラ制御権を解放しない限り、カメラ制御ができません (P. 52)。管理者に相談してください。
ビューワーの接続が切れる	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークやPCに異常がないか確認してください。 PCを再起動し、接続してください。 パノラマ画像の作成中は、登録ユーザーまたは一般ユーザーからの接続は切断されます。R1x M50
管理者パスワードを忘ってしまった	<ul style="list-style-type: none"> リセットスイッチ (P. 249) を用いて、カメラの日付と時刻以外のすべての設定を初期化できます。初期化後は、カメラマネジメントツールを使って、管理者アカウントを再登録してください。また、ネットワーク設定も初期化されますので、IPアドレスやサブネットマスクなどの再設定も必要です。
アップロードできない	<ul style="list-style-type: none"> 設定ページの [映像記録] > [アップロード] でのアップロード先の設定と、[イベント] メニューでのイベントに対するアップロード動作の両方の設定が、正しくされているか確認してください。 適用済みのアップロード先の設定は、設定ページの [映像記録] > [アップロード] にある、各サーバーのアップロードテスト (P. 159) を実行することで、動作確認できます。 [メンテナンス] > [ログ] > [ログ表示] の [ログを見る] やサーバー側のログを見て、詳細な動作環境を確認してください。[ログを見る]について、「ログメッセージ一覧」の「アップローダーエラー」(P. 238)、「アップローダー警告」(P. 241)、「アップローダー通知」(P. 245)を参照してください。また、P. 159の「重要」も参照してください。 サーバー側の設定については、システム管理者にお問い合わせください。

問題	対処方法
メモリーカードに映像を記録できない	<ul style="list-style-type: none"> 設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの情報] (P. 221) を確認してください。 メモリーカードの空き容量が不足していて、かつ、設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] > [映像の上書き] (P. 221) が [無効] になっている場合は、映像を記録できません。[映像の上書き] を [有効] にするか、不要になった映像を録画映像ユーティリティで削除してください。 イベント発生時にメモリーカードに記録する場合は、設定ページの [メモリーカード] > [映像記録設定] で、[映像記録動作] の設定を確認してください。 [映像記録動作] が [アップロード] になっている場合は、[メモリーカードに記録] に変更してください。 ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像、またはHTTP/FTPアップロードに失敗した映像がメモリーカードに記録されていない場合は、設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] で、[動作設定] の設定を確認してください。[動作設定] が [ログを保存する] になっている場合は、[ログと映像を保存する] に変更してください。 手動でメモリーカードに記録するときは、カメラ制御権を取得してください。
ファイルが保存できない	<ul style="list-style-type: none"> OSが、一部のフォルダへの保存を禁止しているため、ファイルの保存に失敗する場合があります。[ドキュメント] や [ピクチャ] など、ほかのフォルダを指定してください。

ログメッセージ一覧

カメラのログメッセージ

設定ページの [メンテナンス] > [ログ] > [ログ表示] の [ログを見る] (P. 227) で表示されるログメッセージの一覧です。ログメッセージは、次のように分類されています。

分類	レベル	コード	障害の程度
crit	エラー	4xx	ソフトレベルの異常 (タスク動作停止)
err	エラー	3xx	動作に支障のある異常 (動作継続)
warning	警告	2xx	動作に支障のない異常
notice	警告	1xx	システム外部の異常
info	情報	0xx	正常動作に関する情報

■ メモ

約2時間ログに記録される内容がない場合は、メッセージエリアに "-- MARK --" と記録されます。

エラーログ

■ システムエラー

S302 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update system settings (S302)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーが発生した。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S310 イベントサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work event [%1][%2][%3] (S310)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	イベントサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S303 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update files of system settings (S303)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーが発生した。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S311 外部入出力サービスの動作エラー [err]

内容	cannot work extio [%1][%2][%3] (S311)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	外部入出力デバイスサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S307 設定値の保存エラー [err]

内容	(vbadmin.c XXX) Can't update system settings (S307)
意味	設定プロトコルで設定値を保存する際にエラーが発生した。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S312 タイマーサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work timer [%1][%2][%3] (S312)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	タイマーサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S411 外部入出力サービスの初期化工ラー [crit]

内容	extio initialization error [%1][%2] (S411)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	外部入出力デバイスサービスの初期化工ラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S320 PAN/TILT動作エラー [err]

内容	%1 error occurred. [%2] (S320)
%1	PAN TILT
%2	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時にエラーを検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。 接触などの問題がない場合は故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S412 タイマーサービスの初期化工ラー [crit]

内容	timer initialization error [%1][%2] (S412)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	タイマーサービスの初期化工ラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S330 ファンの故障 [err]

内容	fan [%1] is stopped. (S330)
%1	ファン番号
意味	ファンが回転しない、もしくは著しい回転数低下を検知。
対策	再起動で復旧しなければファン故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S413 タイマーサービスのランタイムエラー [crit]

内容	timer working error [%1] (S413)
%1	エラー番号
意味	タイマーサービス動作中にエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S331 ヒーターの故障 [err]

内容	HEATER [%1] failure (S331)
%1	ヒーター番号
意味	ヒーター制御時に異常を検出した。
対策	ヒーターユニットを取り付けた場合は接続不良の可能性があるため、接続を確認する。再起動後も再度検出される場合、ヒーターの故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S410 イベントサービスの初期化工ラー [crit]

内容	event initialization error [%1][%2] (S410)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	イベントサービスの初期化工ラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S420 外部接点制御デバイスの故障 [crit]

内容	external io controller is broken.(S420)
意味	外部接点制御デバイスの故障。
対策	外部接点制御デバイスのファームウェアアップデートが必要。ファームウェアアップデート後も検出される場合、故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S430 温度センサーの故障 [crit]

内容	cannot get temperature (S430)
意味	温度センサーから温度を取得できない。
対策	再起動で復旧しなければ基板故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ オーディオサーバーエラー

B301 オーディオデバイス異常 [err]

内容	cannot use audio device for %1[%2:%3] (B301)
%1	送受信種別 (rx tx)
%2	エラー処理 (open write flush)
%3	エラー番号
意味	オーディオデバイスの異常を検出した。
対策	自動的に復旧しなければ、販売店へ連絡が必要。

B402 オーディオサーバー初期化失敗 [err]

内容	wvaudio initialization error [%1] (B402)
%1	エラー番号
意味	オーディオサーバーの初期化に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

B403 設定変更失敗 [err]

内容	cannot set config [%1:%2] (B403)
%1	エラー番号
%2	エラー番号
意味	設定値の更新に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ ビデオエラー

V300 ビデオ入力のエラー [err]

内容	video %1 warning - %2 (V300)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力がカメラの動作に支障のある異常を検出した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V320 インテリジェントサービスの内部エラー [err]

内容	cannot work intelligent [%1][%2][%3]. (V320)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	インテリジェントサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V321 インテリジェントサービス仮設定モードエラー [err]

内容	pseudo mode setting fail. (V321)
意味	インテリジェントサービスの仮設定モードの設定変更に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V400 ビデオ入力の初期化エラー [crit]

内容	video %1 initialization failure - %2(%3) (V400)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力の初期化に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V401 ビデオ入力のコマンドエラー [crit]

内容	video %1 command error - %2(%3) (V401)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力のコマンド処理に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V402 ビデオ入力停止 [crit]

内容	video %1 stalled (V402)
%1	ビデオ番号
意味	ビデオ入力からの映像が停止したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V403 ビデオ入力のエラー [crit]

内容	video %1 fatal error - %2 (V403)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧不可能なエラーを検出したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V420 インテリジェントサービスの起動失敗 [crit]

内容	intelligent initialization error [%1][%2]. (V420)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの初期化に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V421 インテリジェントサービスのエラー [crit]

内容	intelligent working error [%1][%2]. (V421)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの動作中に復旧不可能なエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アップローダーエラー

A470 アップローダー初期化失敗 [crit]

内容	uploader initialization failure - %1 (A470)
%1	エラー番号
意味	アップローダーの初期化が失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ メモリーカードエラー

M301 メモリーカード制御モジュールのエラー [err]

内容	%1 process failure (M301)
%1	マウント (mount) またはアンマウント (umount)
意味	マウント、アンマウント処理に失敗した。

M302 不正ファイルを削除できない [err]

内容	Invalid file (%1) can not remove. (M302)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルを削除できなかった。

M303 ディレクトリの処理ができない [err]

内容	Can not open directory(%1)(M303)
%1	ディレクトリ名
意味	処理すべきディレクトリを開くことができない

M304 管理情報再作成に失敗した [err]

内容	Fail updating management file(%1)(M304)
%1	管理情報識別番号
意味	管理情報再作成処理に失敗した。

M305 映像ファイルの書き込み時にエラーが発生 [err]

内容	write error %1 (%2) (M305)
%1	映像ファイルパス
%2	エラー理由
意味	映像ファイルの書き込み時にエラーが発生した。

M400 メモリーカードの初期化に失敗 [crit]

内容	Fail SD card initialization(%1).(M400)
%1	カード初期化NG (det)、電源制御NG (proc)
意味	メモリーカードの初期化に失敗した。

■ ONVIFエラー (RTP)

R301 配信間通信エラー [err]

内容	message queue open error. %1 (R301)
%1	エラー発生モジュール RTP_CTRL_QUEUE RTP_DATA_QUEUE VIDEO_CTRL_QUEUE VIDEO_DATA_QUEUE AUDIO_CTRL_QUEUE AUDIO_DATA_QUEUE EVENT_CTRL_QUEUE RECVQ_META SENDQ_MEDIA
意味	モジュール間通信のエラー。
対策	複数回連続で出力され、かつ再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

R302 設定値取得失敗 [err]

内容	cannot get parameter: %1 (R302)
%1	user_account : ユーザーアカウント IP_address : 本機のIPアドレス profile_media_configuration : MediaConfigurationの情報 RTSP_port_number : RTSPのポート番号
意味	設定値取得失敗。

R303 メタデータ配信初期化失敗 [err]

内容	metadata initialization error (R303)
意味	メタデータ配信初期化失敗。

R304 クライアント異常終了 [err]

内容	delete session from some kind of error: client_IP=%1, session_ID=%2 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	セッションID
意味	クライアント異常終了。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	connection reset by peer: client_IP=%1 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
意味	クライアントから切断された。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	RTP/HTTP connection closed by client (R304)
意味	クライアントから切断された。

R305 RTSP処理内で異常発生 [err]

内容	RTSP Error: error_code=500: Internal Server Error (R305)
意味	RTSP処理内で異常発生。

警告ログ

■ システム警告

S220 PAN/TILT動作警告 [warning]

内容	%1 warning detected. [%2] (S220)
%1	PAN TILT
%2	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時に異常を検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。

S230 ファン回転数の低下 [warning]

内容	fan [%1] speed is too slow. (S230)
%1	ファン番号
意味	ファンの回転数低下を検知。 頻発するようであれば、販売店へ連絡が必要。

S231 ヒーターユニットを使用できない [warning]

内容	A 24 V AC power source is not supplied to the heater unit. (S231)
意味	ヒーターユニットは取り付けられているが、AC 24 V は給電されていない。
対策	ヒーターユニットを使用するのに必要な AC 24 V 電源が給電されていない。電源種類、電源の接続を確認する。

■ HTTPサーバー警告

H143 ユーザー名の指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) get_password failed, IP:%1 (H143)
%1	IPアドレス
意味	ユーザー認証で未知のユーザーが指定された。なお、Internet Explorer / Microsoft Edge以外のWebブラウザを使用している場合は、通常操作においても本ログメッセージが表示されることがある。

H144 パスワードの指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) password doesn't match for %1 username%2, IP:%3 (H144)
%1	URL XSS脆弱性対策実施 (ftpd 同等の処理)
%2	ユーザー名
%3	IPアドレス
意味	ユーザー認証で誤ったパスワードが指定された。

H201 タイムアウトによる切断 [warning]

内容	a request for %1 timed out after writing %d seconds (H201)
%1	リクエストURI
%d	360 (タイムアウト時間)
意味	HTTPサーバーのタイムアウト(360秒)により切断された。

■ wvhttp警告

W101 不正ユーザー名 [notice]

内容	user <ユーザー名> not found (W101)
意味	登録されていないユーザーによるアクセス。

W102 不正パスワード [notice]

内容	user <ユーザー名> password mismatch (W102)
意味	パスワードが不正。

W130 バッファの回復 [notice]

内容	stream buffer recovered (W130)
意味	録画ストリームの映像バッファが回復した。

W201 不正なパノラマ画像[warning]

内容	corrupt panorama image - ignored (W201)
意味	パノラマ画像の情報取得に失敗した。

W230 バッファオーバーフロー [warning]

内容	stream buffer overflowed (W230)
意味	録画ストリームの映像バッファがオーバーフローし、映像が破棄された。

■ オーディオサーバー警告

B101 異常リクエストの受信 [notice]

内容	%1 unusual request[%2] (B101)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	異常種別 (400 404)
意味	コマンドエラー (400)、パラメータエラー (404) により、リクエストを拒否した。

B102 クライアントの接続拒否 [notice]

内容	%1 request denied[%2] (B102)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	拒否種別 (41 43 ...)
意味	認証エラー (41)、時間指定エラー (42)、リソース不足 (43)、非対応コードック指定 (45)、非許容ユーザーレベル指定 (47)、クライアント数制限 (49)、動作モード (4a) により、クライアントの接続を拒否した。
対策	41：接続時のユーザー名、パスワード、もしくはユーザーリストを確認する。 42：接続時のplaytime、もしくは最大接続時間設定を確認する。 43：再接続または再起動する。 45：対応しているクライアントソフトを用いる。 47：接続時のuserlevelを確認する。 49：クライアント数設定を確認する。 4a：オーディオサーバーを使用する設定になっているか確認する。

B103 クライアントの強制切断 [notice]

内容	%1 access denied[%2] (B103)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	拒否種別 (41 42 4a)
意味	開始時は接続が許可されていたが、設定変更によってアクセス禁止となったため、強制的に切断された（拒否種別はB102と同じ）。

C211 カメラ制御コマンドのオーバーフロー [warning]

内容	command queue overflowed (C211)
意味	カメラ制御コマンドのキューがオーバーフローし、コマンドの一部が破棄された。
対策	カメラ制御コマンドを送信する間隔を長めに(200msec)とってください。

B201 イベント通知失敗 [warning]

内容	cannot notify %1 event [%2] (B201)
%1	イベント種別 (ald)
%2	エラー番号
意味	イベントの通知に失敗した。

B202 イベント受信失敗 [warning]

内容	cannot recv event [%1] (B202)
%1	エラー番号
意味	イベントの受信に失敗した。

B203 オーディオメッセージ送信失敗 [warning]

内容	audio message send error %1 [%2] (B203)
%1	メッセージ種別
%2	エラー番号
意味	オーディオメッセージの送信に失敗した。

B204 オーディオメッセージ受信失敗 [warning]

内容	audio message recv error [%1:%2] (B204)
%1	エラー通番
%2	エラー要因
意味	オーディオメッセージの受信に失敗した。

■ カメラアプリケーション警告

C201 デイナイト切り換えの警告 [warning]

内容	Can't switch Day/Night mode, because current mode is Auto.(C201)
意味	デイナイト切り換えができなかった。
対策	デイナイトモードをマニュアルにする。

■ ビデオ警告

V200 ビデオ入力の警告 [warning]

内容	video %1 warning - %2 (V200)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧可能な異常を検出した。
対策	画像サイズ、映像品質を変更し、JPEG画像1枚あたりのデータを小さくする。

■ アップローダー警告

A120 アップロード送信先の名前解決失敗 [notice]

内容	uploader cannot resolve the server name (A120)
意味	アップロード送信先の名前解決に失敗。

A121 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect to the server (A121)
意味	アップロード送信先への接続に失敗。

A122 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect to the server (A122)
意味	A120、A121以外の原因で、アップロード送信先への接続に失敗。

A134 アップロードの設定値不正（FTP/HTTPモード）[notice]

内容	ftp/http mode invalid. uploader set <none> forcibly (A134)
意味	アップロード方式の設定値不正。アップロードしない、に強制的にセットした。

A135 アップロードの設定値不正 (FTPのPORT/PASVモード) [notice]

内容	ftp port/pasv mode invalid. uploader set <pasv> forcibly (A135)
意味	FTPアップロードにおけるPORT/PASVモードの設定値不正。PASVモード、に強制的にセットした。

A136 アップロードの設定値不正 (HTTPの通知のみ/画像付きモード) [notice]

内容	http notice/image mode invalid. uploader set <image> forcibly (A136)
意味	HTTPアップロードにおける通知のみ/画像付きモードの設定値不正。画像付きモード、に強制的にセットした。

A137 アップロードの設定値不正 (メール通知) [notice]

内容	mode invalid. uploader set <none> forcibly (A137)
意味	メール通知の設定値不正。メール通知しない、に強制的にセットした。

A138 アップロードの設定値不正 (メール通知の認証方式) [notice]

内容	authentication mode invalid. uploader set <smtp auth> forcibly (A138)
意味	メール通知の認証方式の設定値不正。SMTP_AUTH、に強制的にセットした。

A274 アップロード用イベントバッファあふれ [warning]

内容	event queue is full (A274)
意味	アップロード用イベントバッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。

A275 アップロード用映像バッファあふれ [warning]

内容	buffer queue is full (A275)
意味	アップロード用映像バッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。また、アップロード用の画質、映像サイズ、フレームレートを調整する。

■ メモリーカード警告

M201 メモリーカードの書き込み禁止 [warning]

内容	Readonly filesystem (M201)
意味	書き込み禁止のメモリーカードが挿入された。

M203 メモリーカード容量不足 [warning]

内容	There is not available space (M203)
意味	メモリーカードの使用可能容量が不足している。

M204 不正ファイルの削除 [warning]

内容	Invalid file (%1) was removed. (M204)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルの削除を行った。

M205 管理情報ファイルのチェック [warning]

内容	%1 checking management file (M205)
%1	Start Finish
意味	アンマウントせずにメモリーカードを抜かれた可能性がある。管理情報ファイルのチェックを開始/終了する。

M206 不正な管理情報を削除した [warning]

内容	Invalid db information(%1)(%2) was removed(M206)
%1	不正情報のあった管理情報ファイル名
%2	不正情報のID
意味	不正な管理情報を削除した。

M207 アンマウント操作なしでのメモリーカード抜け [warning]

内容	Memory card was pulled before unmount. (M207)
意味	メモリーカードがマウント状態のときにカード抜けが発生した。

■ ONVIF警告 (RTP)

R101 RTPセッションタイムアウト [notice]

内容	session timeout: session ID=%1 (R101)
%1	セッションID
意味	RTPセッションタイムアウトが発生。

R102 情報取得失敗(RTPペイロードサイズ) [notice]

内容	cannot get parameter: RTP_payload_size (R102)
意味	情報取得失敗(RTPペイロードサイズ)。

R102 情報取得失敗(IPアドレス) [notice]

内容	cannot get parameter: IP_address (R102)
意味	情報取得失敗(IPアドレス)。

通知ログ

■ システム通知

S001 システムの起動 [info]

内容	starting paramd (S001)
意味	パラメーター管理モジュールの起動。

S002 システムの設定変更 [info]

内容	Updated system settings. (S002)
意味	再起動なしの設定変更があった。

S010 イベントサービスの起動 [info]

内容	starting event (S010)
意味	イベントサービスの起動

S011 イベントサービスの停止 [info]

内容	shutdown event (S011)
意味	イベントサービスの停止

S012 外部デバイスサービスの起動 [info]

内容	starting extio (S012)
意味	外部デバイス入出力サービスの起動

R103 RTSP認証失敗 [notice]

内容	RTSP authorization error (R103)
意味	RTSP認証失敗。

R107 RTSP接続の失敗 [notice]

内容	RTSP Error: error_code=%d: Service Unavailable (R107)
%d	400: RTSPオプションの指定が不正な値。 401: RTSP認証失敗または認証情報の不備。 457: RTSPの再生時間指定の値が不正。 501: 非対応のRTSPオプションが指定された。 503: リソースの不足でサービスの提供に失敗。 RTPの最大接続数を超えた場合など。
意味	RTSP接続に失敗。

S013 外部デバイスサービスの停止 [info]

内容	shutdown extio (S013)
意味	外部デバイス入出力サービスの停止

S014 タイマーサービスの起動 [info]

内容	starting timer (S014)
意味	タイマーサービスの起動

S015 タイマーサービスの停止 [info]

内容	shutdown timer (S015)
意味	タイマーサービスの停止

S017 QTimerサービスの起動または停止 [info]

内容	%1 QTimer (S017)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	QTimerの起動と停止

S030 ヒーターユニットの検出 [info]

内容	The heater unit is detected. (S030)
意味	ヒーターユニットが取り付けられている。

S070 証明書の変更 [info]

内容	%1: succeeded to %2 certificate (S070)
%1	sslまたは802.1X
%2	作成(generate) インストール(load) 削除(delete) リストア(restore)
意味	証明書の作成/インストール/削除/リストアを行った。

■ オーディオサーバー通知

B001 オーディオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 audio. (B001)
%1	starting stopping
意味	オーディオサーバーが起動/停止した。

■ wvhttp通知

W001 システムの起動と停止 [info]

内容	%1 webview (W001)
%1	起動 (starting)または停止 (stopping)
意味	wvhttpサーバー (webview)の起動と停止。

W030 WebView Livescopeクライアントの開始と終了 [info]

内容	%1%2 host=<ホスト>, user=<ユーザー>, prio=<優先度> (W030)
%1	W : WebViewセッション、V : セッションレスビデオクライアント、N : セッションレスイベントクライアント。
%2	+ : 接続、- : 切断
意味	カメラサーバクライアントの接続と切断。

W031 映像データ送信量 [info]

内容	%1= host=<ホスト>, user=<ユーザー>, video=<jpglh264>:<フレーム数> (W031)
1%	W : WebViewセッション、V : セッションレスビデオクライアント
意味	クライアント切断時に、クライアントに送信した総データ量をフレーム数で表示。

W040 外部メモリへの退避 [info]

内容	%1 the image storing - %2 (W040)
%1	起動 (starting) または停止(stopping)
%2	開始・終了原因
意味	録画ストリームの外部メモリへの退避が開始または終了した。

B011 オーディオクライアントの開始 [info]

内容	[%1] %2 connected n=%3 (B011)
%1	クライアント種別(send recv)
%2	クライアントホストのIPアドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントが接続した。

B012 オーディオクライアントの終了 [info]

内容	[%1] %2 closed n=%3 (B012)
%1	クライアント種別(send recv)
%2	クライアントホストのIPアドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントとの接続が切れた。

■ カメラアプリケーション通知

C001 カメラ制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 camerad (C001)
%1	starting stopping
意味	カメラ制御モジュールが起動/停止した。

C002 カメラアプリケーションの起動と停止 [info]

内容	starting cameraappl (C002)
意味	カメラアプリケーションが起動した。

■ ビデオ通知

V001 ビデオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 video (V001)
%1	起動 (starting) または停止(stopping)
意味	ビデオサーバーの起動と停止。

V020 インテリジェントサービスの起動 [info]

内容	starting intelligent. (V020)
意味	インテリジェントサービスの起動

V021 インテリジェントサービスの停止 [info]

内容	shutdown intelligent. (V021)
意味	インテリジェントサービスの停止

■ アップローダー通知

A004 アップローダーの起動と停止 [info]

内容	%1 uploader (A004)
%1	起動 (starting) または停止(stopping)
意味	アップローダー (uploader) の起動と停止。

A040 アップロード回数 (MAIL) [info]

内容	uploader mail: normal=%1 test=%2 (A040)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A041 アップロード回数 (FTP) [info]

内容	uploader ftp: normal=%1 test=%2 (A041)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A042 アップロード回数 (HTTP) [info]

内容	uploader http: normal=%1 test=%2 (A042)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

■ メモリーカード通知

M001 メモリーカード制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 sdctrl (M001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	メモリーカード制御モジュール (sdctrl) の起動と停止。

M002 有効な管理情報を追加した [info]

内容	Valid db information(%1)(%2)(%3) was inserted(M002)
%1	有効な情報を追加する管理情報ファイル名
%2	有効な情報のディレクトリ番号
%3	有効な情報のファイル番号
意味	有効な映像ファイルと思われるため管理情報に追加した。

M003 管理情報再作成を開始/終了した [info]

内容	%1 updating management file(%2)(M003)
%1	Start Finish
%2	管理情報識別番号
意味	管理情報再作成処理が終了した。

■ ONVIF通知 (RTP)

R001 RTP配信モジュールの起動 [info]

内容	starting media_plane (R001)
意味	RTP配信モジュールの起動。

R002 RTP配信モジュールの停止 [info]

内容	stopping media_plane (R002)
意味	RTP配信モジュールの停止。

R003 RTSPのPLAY受信 [info]

内容	PLAY received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6,BC=%7) (R003)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	PLAYを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのPLAY受信。

R006 マルチキャスト停止 [info]

内容	stop multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5,BC=%6) (R006)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTOPを要求されたProfile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト停止。

R004 RTSPのTEARDOWN受信 [info]

内容	TEARDOWN received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6,BC=%7) (R004)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	TEARDOWNを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのTEARDOWN受信。

R005 マルチキャスト開始 [info]

内容	start multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5,BC=%6) (R005)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTARTを要求されたProfile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト開始。

ビューワーメッセージ一覧

インフォメーション表示に表示されるメッセージ

カメラビューワーのインフォメーション表示に表示されるメッセージには、次の3つの分類があります。

アイコン	分類	説明
	情報メッセージ	各種ボタン、プルダウンなどのヘルプ用メッセージ、フレームレート情報などを表示します。
	警告メッセージ	カメラの制御権が取得できない場合や音声セッションが切断された場合など、ユーザーへの注意を促すメッセージを表示します。
	エラーメッセージ	ビューワー上でシステムエラーが発生した場合に表示されます。

■ 警告メッセージ

メッセージ	説明
ただいま混雑しています。	接続制限数を超えてる
カメラ制御権を取得できません。	管理者が占有しているなどの理由で制御権要求が拒否された
カメラに接続していません。	カメラに接続していないのにカメラ操作しようとした
カメラ制御権を取得してください。	カメラ制御権がないのにカメラ操作しようとした
既に他のユーザーが管理者接続しています。	管理者が既に接続している
オーディオデバイスがありません。 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	PCのオーディオデバイスがない場合や無効化されていた場合に [音声受信] ボタン、または [音声送信] ボタンがクリックされた
メモリーカードの容量が不足しています。	メモリーカードの空き容量が不足した状態で手動録画した
メモリーカードへの録画が許可されていません。	[メモリーカードの操作] の [動作設定] が [ログと映像を保存する] に設定されていないことが原因で、メモリーカードへの録画に失敗した
デジタルPTZおよびビューワー PTZを終了しないとカメラを操作できません。 M50	デジタルPTZまたはビューワー PTZがONの状態で映像表示部をクリックした
ビューワー PTZを終了しないとカメラを操作できません。 R1x H65x M64x H76x H751 M74x	ビューワー PTZがONの状態で映像表示部をクリックした
デジタルPTZまたはビューワー PTZを開始してください。 H65x M64x H76x H751 M74x	デジタルPTZおよびビューワー PTZがOFFの状態で、パンチルトスライダーまたはズームスライダー、映像表示部をクリックした
制御権取得待ち状態です。	一般ユーザーが制御権の取得待ち状態に入った場合
映像管理情報を再作成中です。	メモリーカードの映像管理情報が再作成中の場合
ユーザー認証に失敗しました。	ユーザー認証に失敗した、または、登録ユーザー接続時に、[ユーザー権限] で登録ユーザーの [音声配信] を外してから [音声送信] ボタンをクリックした
ActiveXプラグインの初期化に失敗しました。	カメラビューワー起動後、ActiveXプラグインがインストールされていない場合、10秒間インストールされるのを待つが、10秒経過してもプラグインがインストールされなかった
JavaScriptが使用できないか無効化されています。	WebブラウザーのJavaScriptが使用できなかった

メッセージ	説明
音声送受信の開始または終了処理中です。 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	音声送受信開始、終了処理中に音声送受信開始、終了を行おうとした
無限遠固定モードが設定されているため、操作できません。	[フォーカス] が [無限遠固定] のときに、フォーカスを操作しようとした
マニュアルモードが設定されているため、操作できません。	[露出] が [マニュアル] のとき、または [スマートシェード補正] が [オート] のときに、[逆光補正] ボタン、もしくは露出補正を操作しようとした
映像受信権限がありません。	映像受信権限がないユーザーでカメラに接続しようとした
鮮明IRモードが有効になっているため、操作できません。M50 H761	[鮮明IRモード] がONの状態で、デイナイトを操作しようとした
音声受信が制限されています。 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	[サーバー] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] が [送信しない] に設定されている状態で、[音声受信] ボタンをクリックした
音声送信が制限されています。 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	[サーバー] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] が [受信しない] に設定されている状態で、[音声送信] ボタンをクリックした
ご使用のWebブラウザには対応していません。	動作環境がサポート外のWebブラウザーでカメラビューアーを起動した
ActiveXが無効になってます。	Webブラウザー設定でActiveXの利用が無効化されている、またはセキュリティ設定でActiveXからシステムの機能にアクセスできない場合
スマートシェード補正がオートになっているため、操作できません。	[スマートシェード補正] が [オート] のときに、[逆光補正] ボタンを操作しようとした

工場出荷設定に戻す

設定値を忘れてしまったなどで、カメラを一から設定し直したい場合は、いったん工場出荷設定に戻してください。

工場出荷設定に戻す前に、[設定ページ] > [メンテナンス] > [バックアップ/リストア] を使用して、バックアップファイルを作成しておくことをお勧めします (P. 225)。

重要

工場出荷設定に戻すと、管理者アカウントも初期化されるため、カメラに接続できなくなります。カメラマネジメントツールを使って、初期設定を行ってください (P. 35)。

メモ

- 設定値のバックアップは、カメラマネジメントツールでもできます。カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- 工場出荷の設定値についてはP. 253を参照してください。

6

目
録

Web ブラウザーから初期設定に戻す

設定ページの [メンテナンス] > [全般] > [初期化] > [ネットワーク設定] > [保持しない] で戻します(P. 223)。

本体リセットスイッチで工場出荷設定に戻す

カメラのIPアドレスや管理用パスワードが不明であったり忘れてしまった場合は、ネットワーク経由での操作ができません。この場合は、カメラを初期化します。

前準備として、カメラをリセットできる状態にしてください。

カメラのリセットスイッチや再起動スイッチを押せる状態にするには、ドームケースやカバーなどを外す必要があります。詳しくは、カメラに同梱の『設置ガイド』を参照してください。

R13 (VB-R13VE) R12 R11 (VB-R11VE) R10 M50 H651 M64x H76x M74x H751

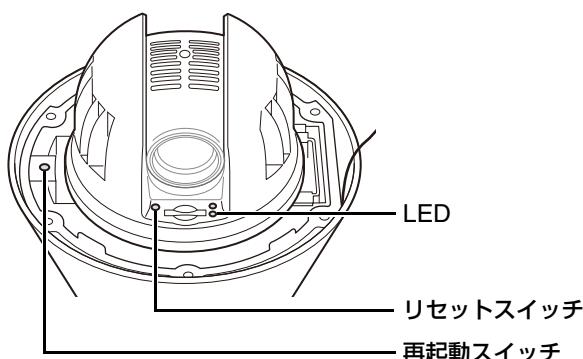
1 リセットスイッチを押しながら、先端の細いもので再起動スイッチを押す

2 リセットスイッチは押したまま、3秒以上経過してから再起動スイッチを離す

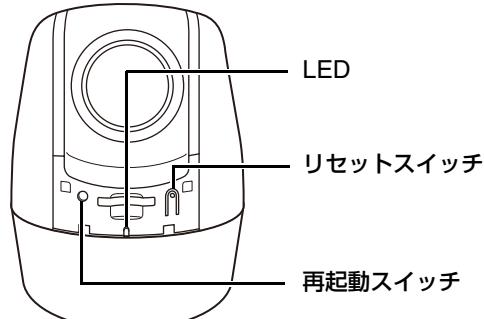
3 LED (青色) が点滅したら、リセットスイッチを離す

点滅が終わったら、リセット完了です。

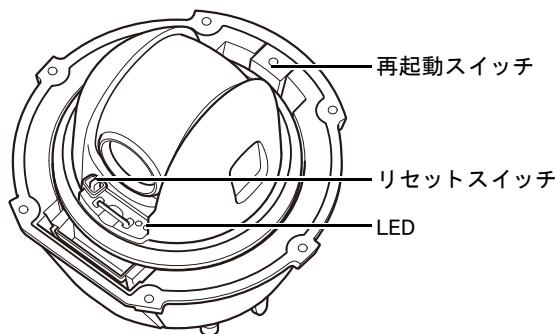
VB-R13VE/VB-R12VE



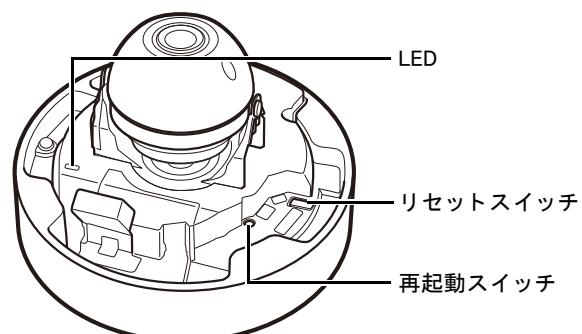
VB-M50B



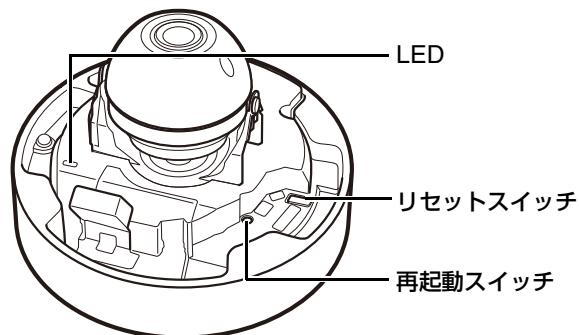
VB-R11VE/VB-R10VE



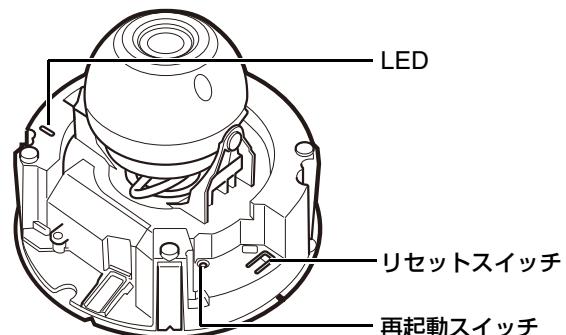
VB-M641VE/VB-M640VE



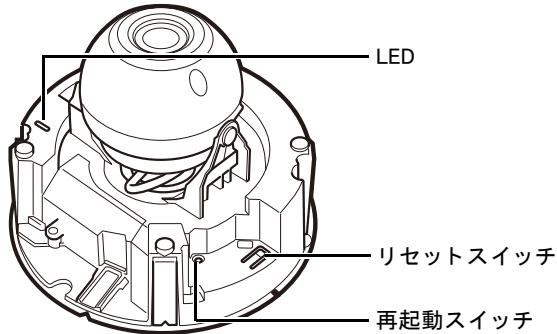
VB-H651VE



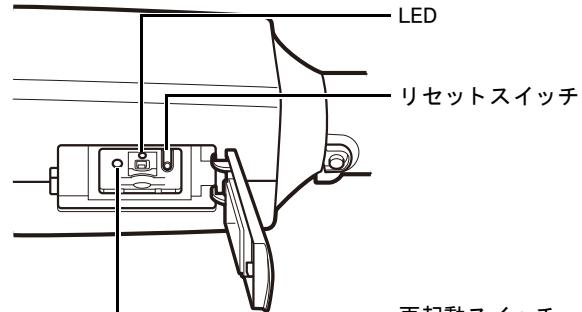
VB-H651V



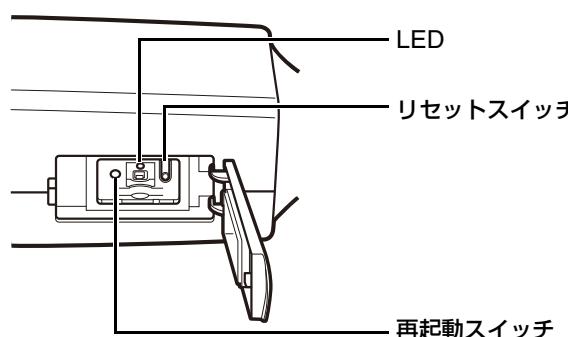
VB-M641V/VB-M640V



VB-M741LE-H/VB-M741LE/VB-M740E



VB-H761LVE-H/VB-H761LVE/VB-H760VE/VB-H751LE-H/VB-H751LE

**R13 (VB-R13)****1 カメラの電源を切る**

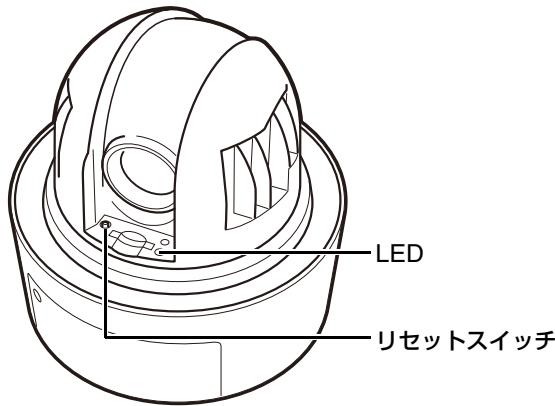
カメラには電源スイッチがありません。電源の入/切は、電源ケーブルの抜き差しで行います。

2 リセットスイッチを押したまま電源ケーブルを差して電源を入れ、5秒以上押し続ける

LEDが点滅します。

3 リセットスイッチを離す

LEDの点滅が終わったら、リセット完了です。



R11 (VB-R11)

1 カメラの電源を切る

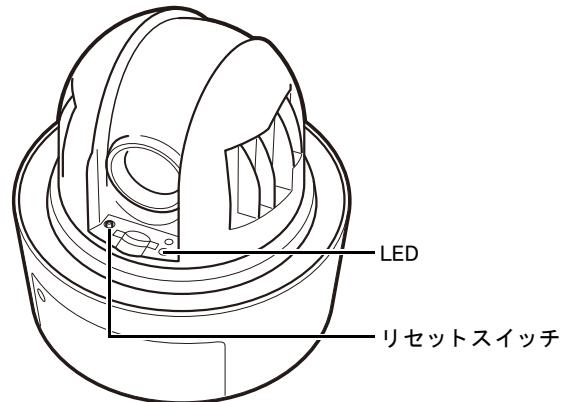
カメラには電源スイッチがありません。電源の入/切は、電源ケーブルの抜き差しで行います。

2 リセットスイッチを押したまま電源ケーブルを差して電源を入れ、5秒以上押し続ける

LEDが点滅します。

3 リセットスイッチを離す

LEDの点滅が終わったら、リセット完了です。



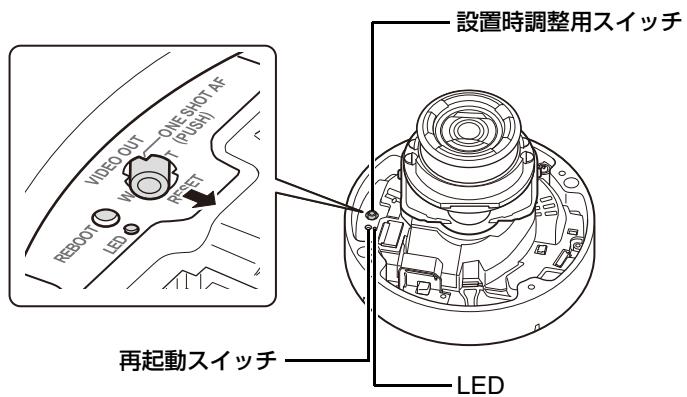
H652

1 設置時調整用スイッチをRESETの方向に傾けながら、先端の細いもので再起動スイッチを押す

2 設置時調整用スイッチを傾けたまま、3秒以上経過してから再起動スイッチを離す

3 LED が点滅したら、設置時調整用スイッチを離す

点滅が終わったら、リセット完了です。



工場出荷設定一覧

項目	設定値
• LAN	
LANインターフェース	オート
最大パケットサイズ	1500
• IPv4	
IPv4アドレス設定方式	自動設定(DHCP) R13 R12 M50 H65x H76x H751
マニュアル設定	R11 R10 M64x M74x
IPv4アドレス	192.168.100.1
サブネットマスク	255.255.255.0
IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	
AutoIPの使用	使用する
IPv4アドレス (AutoIP)	
• IPv6	
IPv6 の使用	使用する
自動設定 (RA)	有効
自動設定 (DHCPv6)	有効
IPv6アドレス (マニュアル設定)	
プレフィックス長	64
IPv6デフォルトゲートウェイアドレス	
IPv6アドレス (自動設定)	
• DNS	
ネームサーバーアドレス 1	
ネームサーバーアドレス 2	
ネームサーバーアドレスの自動設定	使用しない
ホスト名	
ホスト名のDDNS登録	登録しない
サーチドメイン	
サーチドメインリスト	
• mDNS	
mDNSの使用	使用する
• 管理者アカウント	
管理者名	
パスワード	

項目	設定値
• ユーザー権限	
登録ユーザーのカメラ権限	映像配信+特権カメラ制御
一般ユーザーのカメラ権限	映像配信+一般カメラ制御
登録ユーザーの音声配信	配信する
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
一般ユーザーの音声配信	配信する
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
• 現在の日付と時刻	
• 設定	
設定方法	手動で設定する
NTPサーバーの自動設定	使用しない
NTPサーバー	
タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
サマータイム	自動調整しない
■ R13 R12 H65x H76x H751	
• 映像全般	
映像サイズセット	1920x1080/960x540/ 480x270
• JPEG	
映像品質:480x270	6
映像品質:960x540	6
映像品質:1920x1080	6
映像品質：デジタルPTZ H65x H76x H751	6
映像サイズ:映像送信	1920x1080
最大フレームレート:映像送信	15.0
映像サイズ:アップロード/メモリーカード	480x270
• H.264(1)	
映像サイズ	1920x1080
ビットレート制御	ビットレート制御する
目標ビットレート (kbps)	3072
映像品質	6
フレームレート (fps)	15

項目	設定値
Iフレーム間隔(秒)	1
• H.264(2)	
H.264(2)の使用	使用しない
映像サイズ	480x270
ビットレート制御	ビットレート制御する
目標ビットレート(kbps)	1024
映像品質	6
フレームレート(fps)	15
Iフレーム間隔(秒)	1
■ R11 R10 M50 M64x M74x	
• 映像全般	
映像サイズセット	1280x720/640x360/ 320x180
• JPEG	
映像品質:320x180	6
映像品質:640x360	6
映像品質:1280x720	6
映像品質:デジタルPTZ	6
映像サイズ:映像送信	1280x720
最大フレームレート:映像送信	15.0
映像サイズ:アップロード/ メモリーカード	320x180
• H.264(1)	
映像サイズ	1280x720
ビットレート制御	ビットレート制御する
目標ビットレート(kbps)	3072
映像品質	6
フレームレート(fps)	15
Iフレーム間隔(秒)	1
• H.264(2)	
H.264(2)の使用	使用しない
映像サイズ	320x180
ビットレート制御	ビットレート制御する
目標ビットレート(kbps)	1024
映像品質	6
フレームレート(fps)	15
Iフレーム間隔(秒)	1
• 全般	
デフォルトページ	設定ページを表示
• ビューウー設定	
ユーザー認証	認証する

項目	設定値
映像表示の回転	回転しない
■ H65x M64x H76x H751 M74x	
一般ユーザーでのH.264の使用	使用しない
• カメラ名	
カメラ名(半角英数字)	Camera
カメラ名(日本語)	
• カメラ制御	
デジタルズーム	使用しない
拡張デジタルズーム	使用しない
■ R1x M50 H76x	
最大デジタルズーム倍率	5
■ R1x M50 H76x	
ブレ補正	使用しない
スマートシェード補正強度 (オート)	中
かすみ補正強度(オート)	中
赤外照明強度(オート)	強
■ H652 H761 H751 M741	
動き適応ノイズリダクション	使用しない
パン・チルト速度制御	ズーム位置に応じて制御
■ R1x M50	
オートフリップ ■ R1x	有効
• デイナイト(オート設定時)	
切り換える明るさ	標準
応答性(秒)	20
• 鮮明IRモード ■ H761	
赤外照明点灯時間	時刻指定
点灯時刻	18:00
消灯時刻	06:00
• 設置条件	
LEDの点灯	点灯する
■ M50 H76x H751 M74x	
映像反転	反転しない
• カメラ位置制御	
プリセットに限定	限定しない
■ R1x M50 H76x	
制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない
• 外部入力デバイス1	
■ R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
デバイス名(半角英数字)	
デバイス名(日本語)	

項目	設定値
• 外部入力デバイス2 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741 デバイス名(半角英数字) デバイス名(日本語)	
• 外部出力デバイス1 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741 デバイス名(半角英数字) デバイス名(日本語)	
• 外部出力デバイス2 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741 デバイス名(半角英数字) デバイス名(日本語)	
• カメラ位置 パン・チルト・ズーム位置 R1x M50 ズーム位置 H76x デジタルPTZ位置 M50 H65x M64x H76x H751 M74x	登録する 登録する 登録しない
• カメラ設定 フォーカス 露出 AGCリミット シャッターリミット(低速) シャッターリミット(高速) シャッタースピード 絞り ゲイン 露出補正 測光方式 スマートシェード補正 スマートシェード補正レベル ホワイトバランス Rゲイン Bゲイン ノイズリダクション シャープネス 色の濃さ	オート R1x M50 H76x マニュアル H65x M64x H751 M74x オート 6 1/30 1/16000 1/1000 11 9 0 中央部重点 使用しない 1(弱) オート 255 255 標準 3 4

項目	設定値
かすみ補正 かすみ補正レベル 鮮明IRモード デイナイト 赤外照明の使用 H652 H761 H751 M741 赤外照明レベル H652 H761 H751 M741	使用しない 4 使用しない デイモード デイナイト連動 1(弱)
• デイナイトフォーカス デイナイトフォーカス制御 光源 H65x M64x H652 H651 H751 M741	ワンショットAFの実行 蛍光灯
• カメラ制御 デイナイト	デイモード
• パノラマ作成範囲 パノラマ作成範囲の指定 • 撮影時の設定 露出のロック ホワイトバランスのロック フォーカスのロック	指定しない パノラマの中心 ロックしない ロックしない
• 可視範囲 可視範囲制限	適用しない
• プリセット登録 パン・チルト・ズーム位置 R1x M50 ズーム位置 H76x H751 デジタルPTZ位置 H65x M64x H751 M74x カメラ設定 R1x M50 H76x 登録しない H65x M64x H751 M74x プリセット名(半角英数字) プリセット名(日本語) ビューワーでの使用	登録する 登録する 登録する 登録する 登録する 登録しない 登録する preset 1 使用する
• ルート一覧/ルート 有効条件 ルート名(半角英数字) R1x M50 H76x ルート名(日本語) R1x M50 H76x 時間帯の指定 開始時刻	使用しない 使用しない 00:00

項目	設定値
終了時刻	00:00
ルートの反転	反転しない
R1x M50 H76x	
• 巡回ルート編集	
移動速度(PT)	20 (速い)
R1x M50	
移動速度(Z)	8 (速い)
R1x M50 H76x	
静止時間(秒)	0 R1x M50 H76x 1 H65x M64x H751 M74x
• 指定領域	
領域1 (ピンク)	無効
領域2 (紫)	無効
領域3 (青)	無効
領域4 (シアン)	無効
領域5 (緑)	無効
領域6 (黄)	無効
領域7 (オレンジ)	無効
領域8 (白)	無効
• ADSR	
H.264(1)で使用	使用しない
H.264(2)で使用	使用しない
データ量低減レベル	強
• オンスクリーン表示	
日付表示	表示しない
日付表示位置	左上
日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
時刻表示	表示しない
時刻表示位置	左上
テキスト表示	表示しない
テキスト表示位置	左上
テキスト文字列	
テキスト文字列(日本語)	
文字の色	白
背景の色	黒
文字と背景の濃さ	文字と背景を塗りつぶす
• マスク領域	
領域	有効
• プライバシーマスク全般	
色	黒
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
• 音声全般	

項目	設定値
入力音量	50
出力音量	50
エコーキャンセラー	使用しない
音声入力モード	ライン・イン
• 再生音ファイル登録1	
再生音名	
• 再生音ファイル登録2	
再生音名	
• 再生音ファイル登録3	
再生音名	
• HTTPサーバー	
認証方式	Digest認証
HTTPポート番号	80
HTTPSポート番号	443
• SNMPサーバー	
SNMPv1, v2cの使用	使用しない
SNMPv3の使用	使用しない
管理者連絡先	
管理用の機器名称	R13 VB-R13VE/VB-R13 R12 VB-R12VE R11 R10 VB-R11VE/VB-R11/ VB-R10VE M50 VB-M50B H652 VB-H652LVE H651 VB-H651VE/ VB-H651V M641 M640 VB-M641VE/ VB-M641V/ VB-M640VE/VB- M640V H761 VB-H761LVE H760 VB-H760VE H751 VB-H751LE M741 M740 VB-M741LE/VB- M740E
設置場所	
セキュリティレベル	認証なし、暗号化なし

項目	設定値
認証アルゴリズム	MD5
暗号化アルゴリズム	DES
• SNMPv1, v2cサーバー	
コミュニティ名	
• SNMPv3サーバー	
ユーザー名	
セキュリティレベル	認証なし、暗号化なし
認証アルゴリズム	MD5
暗号化アルゴリズム	DES
• FTPサーバー	
FTPサーバーの使用	使用しない
ユーザー名	
• WS-Security	
認証時の時刻チェック	チェックする
• 映像サーバー	
最大クライアント数	30
最大制御権待ち数	30
最大接続時間(秒)	0
カメラ制御時間(秒)	20
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
• 音声サーバー	
カメラからの音声送信	送信しない
無音検出	検出しない
ビューワーからの音声受信	受信しない
• RTPサーバー	
RTPの使用	使用する
RTSP認証方式	Digest認証
RTSPポート番号	554
• 音声マルチキャスト	
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
• RTPストリーム1	
映像サイズ	480x270 JPEG R13 R12 H65x H76x H751 320x180 JPEG R11 R10 M50 M64x M74x
フレームレート	5
マルチキャストアドレス	0.0.0.0

項目	設定値
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
• RTPストリーム2	
映像サイズ	480x270 JPEG R13 R12 H65x H76x H751 320x180 JPEG R11 R10 M50 M64x M74x
フレームレート	10
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
• RTPストリーム3	
映像サイズ	480x270 JPEG R13 R12 H65x H76x H751 320x180 JPEG R11 R10 M50 M64x M74x
フレームレート	15
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
• RTPストリーム4	
映像サイズ	480x270 JPEG R13 R12 H65x H76x H751 320x180 JPEG R11 R10 M50 M64x M74x
フレームレート	30
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号	0
マルチキャストTTL	1
音声送信	使用しない
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	

項目	設定値
• RTPストリーム5 映像サイズ フレームレート マルチキャストアドレス マルチキャストポート番号 マルチキャストTTL 音声送信 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	H.264(1) 5 0.0.0.0 0 1 使用しない
• 映像記録設定 映像記録動作 • アップロード全般 アップロードの動作 映像フォーマット フレームレート イベント前バッファ (枚数) イベント後バッファ (枚数) イベント前バッファ (秒) イベント後バッファ (秒)	アップロード アップロード無効 JPEG 1 0 0 0 0
• HTTPアップロード 通報内容 URI ユーザー名 プロキシサーバー プロキシポート番号 プロキシユーザー名 パラメーター (query string)	HTTPで通知のみ行う 80
• FTPアップロード 通報内容 FTPサーバー ユーザー名 PASVモード ファイルアップロードパス ファイル名記録方式 最大ループ数 作成サブディレクトリ名 作成ファイル名 作成ファイル名	映像をFTPする 使用する 年月日時分秒ms 0 image.jpg video.mov
• メール通報 通報内容 メールサーバー メールポート番号	テキストのみ 25

項目	設定値
差出人メールアドレス (From) 宛先メールアドレス (To) メール認証方式 ユーザー名 POPサーバー 表題 本文 R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	なし
• 外部デバイス出力1 動作モード アクティブ出力の形式 パルスの出力時間 (秒)	ノーマルオープン 連続 1
• 外部デバイス出力2 動作モード アクティブ出力の形式 パルスの出力時間 (秒)	ノーマルオープン 連続 1
• 外部デバイス入力 外部デバイス入力イベント • 外部デバイス入力1 動作モード アクティブイベント時の動作 インアクティブイベント時の動作 アクティブイベント中の動作 プリセット R13 R11 M50 H761 映像記録 メール通報 アクティブイベント時の外部デバイス出力 インアクティブイベント時の外部デバイス出力 アクティブイベント時の音声再生 インアクティブイベント時の音声再生 再生音 音量 デイナイト切り換え • 外部デバイス入力2 動作モード アクティブイベント時の動作	使用する ノーマルオープン 無効 無効 無効 指定しない 実行しない 実行しない 無効 無効 無効 再生しない 再生しない 50 無効 ノーマルオープン 無効

項目	設定値
インアクティブイベント時の動作	無効
アクティブイベント中の動作	無効
プリセット R13 R11 M50 H761	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
アクティブイベント時の音声再生	再生しない
インアクティブイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
デイナイト切り換え	無効
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
• 音量検知	
音量検知イベント	使用しない
検知条件	基準音量レベル以上
基準音量レベル	50
検知条件の継続時間(秒)	0
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット R13 R11 M50 H761	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
• 悲鳴検知	
悲鳴検知イベント	使用しない
ONイベント時の動作	無効
プリセット R13 R11 M50 H761	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効

項目	設定値
• タイマー 1	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット R1x M50 H76x	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力 R13 R11 M50 H761	無効
デイナイト切り換え	無効
• タイマー 2	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット R1x M50 H76x	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力 R13 R11 M50 H761	無効
• タイマー 3	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット R1x M50 H76x	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力 R13 R11 M50 H761	無効
• タイマー 4	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効

項目	設定値
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット R1x M50 H76x	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力 R13 R11 M50 H761	無効
• 動作モード R1x	
モード	映像検知
■ 映像検知	
• 表示オプション	
検知領域/検知ライン	選択中の検知設定のみ
非検知領域	有効な非検知領域のみ
検知結果	選択中の検知設定のみ
• カメラ位置設定	
R1x M50 H76x	
カメラ位置を固定する	チェックなし
■ 自動追尾 R1x	
• 表示オプション	
検知領域	表示する
検知結果	表示する
• カメラ位置設定	
カメラの初期位置を指定する	チェックなし
• デイナイト切り換え	
デイモード切り換え時のプリセット	指定しない
ナイトモード切り換え時のプリセット	指定しない
R13 R11 M50 H65x M641 H761 H751 M741	
• 連結イベント 1	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔（秒）	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	外部デバイス入力状態
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット	指定しない
R13 R11 M50 H761	
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
再生音	再生しない
音量	再生しない
• 連結イベント 2	
連結イベント	再生しない
イベント連結方法	無効
イベント順序	無効
イベント間隔（秒）	無効
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	外部デバイス入力状態
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット	指定しない
R13 R11 M50 H761	
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能

項目	設定値
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット	指定しない
R13 R11 M50 H761	
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
再生音	再生しない
音量	再生しない
• 連結イベント 2	
連結イベント	再生しない
イベント連結方法	無効
イベント順序	無効
イベント間隔（秒）	無効
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	外部デバイス入力状態
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット	指定しない
R13 R11 M50 H761	
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能

項目	設定値
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• 連結イベント 3	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔（秒）	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	入力1
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット	指定しない
R13 R11 M50 H761	
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• 連結イベント 4	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔（秒）	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	入力1
外部デバイス入力状態	アクティブ
イベント 2	

項目	設定値
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
インテリジェント機能状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット	指定しない
R13 R11 M50 H761	
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• IPv4ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
ネットワークアドレス / サブネット	01: / 32 許可 02: / 32 許可 03: / 32 許可 04: / 32 許可 05: / 32 許可 06: / 32 許可 07: / 32 許可 08: / 32 許可 09: / 32 許可 10: / 32 許可 11: / 32 許可 12: / 32 許可 13: / 32 許可 14: / 32 許可 15: / 32 許可 16: / 32 許可 17: / 32 許可 18: / 32 許可 19: / 32 許可 20: / 32 許可

項目	設定値	項目	設定値
• IPv6ホストアクセス制限 ホストアクセス制限の適用 デフォルトポリシー プレフィックス / プレフィックス長	適用しない アクセスを許可する 01: / 128 許可 02: / 128 許可 03: / 128 許可 04: / 128 許可 05: / 128 許可 06: / 128 許可 07: / 128 許可 08: / 128 許可 09: / 128 許可 10: / 128 許可 11: / 128 許可 12: / 128 許可 13: / 128 許可 14: / 128 許可 15: / 128 許可 16: / 128 許可 17: / 128 許可 18: / 128 許可 19: / 128 許可 20: / 128 許可	• IPsec設定方法 IPsec設定方法 自動鍵交換の設定 IPsec SA 暗号化アルゴリズム IPsec SA 認証アルゴリズム IPsec SA 有効期間(分) ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム ISAKMP SA 認証アルゴリズム DHグループ ISAKMP SA 有効期間(分)	自動鍵交換 AES->3DES HMAC_SHA1_96 480 AES->3DES SHA1 グループ14->グループ5->グループ2 480
• 証明書 証明書の状態 国名 (C) 都道府県名 (ST) 市区町村名 (L) 組織名 (O) 組織単位名 (OU) 一般名 (CN) 有効期間開始日 有効期間終了日	インストールされていません	• IPsec セット1 IPsecセットの使用 IPsec動作モード 接続先IPv4アドレス 接続先IPv6アドレス 送信元IPv4アドレス 送信元IPv6アドレス IPsecプロトコル セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	使用しない トンネルモード ESP
• 暗号化通信 HTTPS接続ポリシー	HTTP	接続先のサブネットマスク長 接続先のプレフィックス長 IKE事前共有鍵 SA ESP 暗号化アルゴリズム SA ESP 認証アルゴリズム SA ESP 暗号鍵(送信) SA ESP 認証鍵(送信) SA ESP SPI(送信) SA ESP 暗号鍵(受信) SA ESP 認証鍵(受信) SA ESP SPI(受信) SA AH 認証アルゴリズム SA AH 認証鍵(送信)	16 16 AES HMAC_SHA1_96
• 802.1X認証 802.1X認証の使用 認証の状態 • 認証方式 認証方式 ユーザー名	使用しない 停止 EAP-MD5	SA AH SPI(送信) SA AH 認証鍵(受信) SA AH SPI(受信) • IPsec セット2 IPsecセットの使用 IPsec動作モード	HMAC_SHA1_96 使用しない トンネルモード

項目	設定値
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵(送信)	
SA ESP 認証鍵(送信)	
SA ESP SPI(送信)	
SA ESP 暗号鍵(受信)	
SA ESP 認証鍵(受信)	
SA ESP SPI(受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵(送信)	
SA AH SPI(送信)	
SA AH 暗号鍵(受信)	
SA AH 認証鍵(受信)	
SA AH SPI(受信)	
• IPsec セット3	
IPsec セットの使用	使用しない
IPsec 動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵(送信)	
SA ESP 認証鍵(送信)	
SA ESP SPI(送信)	
SA ESP 暗号鍵(受信)	
SA ESP 認証鍵(受信)	
SA ESP SPI(受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵(送信)	
SA AH SPI(送信)	
SA AH 暗号鍵(受信)	
SA AH 認証鍵(受信)	
SA AH SPI(受信)	
• IPsec セット5	
IPsec セットの使用	使用しない
IPsec 動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	

項目	設定値
SA ESP 認証鍵(送信)	
SA ESP SPI(送信)	
SA ESP 暗号鍵(受信)	
SA ESP 認証鍵(受信)	
SA ESP SPI(受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵(送信)	
SA AH SPI(送信)	
SA AH 暗号鍵(受信)	
SA AH SPI(受信)	
• IPsec セット4	
IPsec セットの使用	使用しない
IPsec 動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsec プロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵(送信)	
SA ESP 認証鍵(送信)	
SA ESP SPI(送信)	
SA ESP 暗号鍵(受信)	
SA ESP 認証鍵(受信)	
SA ESP SPI(受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵(送信)	
SA AH SPI(送信)	
SA AH 暗号鍵(受信)	
SA AH 認証鍵(受信)	
SA AH SPI(受信)	
• IPsec セット5	
IPsec セットの使用	使用しない
IPsec 動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	

項目	設定値
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵(送信)	
SA ESP 認証鍵(送信)	
SA ESP SPI(送信)	
SA ESP 暗号鍵(受信)	
SA ESP 認証鍵(受信)	
SA ESP SPI(受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵(送信)	
SA AH SPI(送信)	
SA AH 認証鍵(受信)	
SA AH SPI(受信)	
• 映像記録設定	
映像記録動作	アップロード
• メモリーカードの操作	
動作設定	ログと映像を保持する
映像フォーマット	JPEG
イベント前バッファ(枚数)	0
イベント後バッファ(枚数)	0
イベント前バッファ(秒)	0
イベント後バッファ(秒)	0
映像の上書き	無効
映像の自動削除	無効
保存日数	30
削除時刻	00:00
• 初期化	
ネットワーク設定	保持する
• バックアップ/リストア	
保存先	メモリーカード

項目	設定値
• フームウェア更新	
初期設定に戻す	戻さない
• ログ通知	
ログ通知の使用	使用しない
通知レベル	エラー
メールサーバー	
メールポート番号	25
差出人メールアドレス(From)	
宛先メールアドレス(To)	
メール認証方式	
ユーザー名	なし
POPサーバー	
表題	

索引

6

目
次

数字

802.1X認証 213

A

ADSR 141
AGCリミット 114
AutoIP 94

D

DHCP 93
DHCPv6 94
DNS 95

F

FTPアップロード 161
FTPサーバー 153

H

H.264(1) 102
H.264(2) 103
H.264映像 22, 59, 141
HTTPS接続ポリシー 212
HTTPSポート番号 152
HTTPアップロード 160
HTTPサーバー 152
HTTP ポート番号 152

I

IPsec 215
IPv4 93
IPv4アドレス 94
IPv6 94
Iフレーム間隔 103

J

JPEG 60, 102

L

LAN 93
LED 109

M

mDNS 96

N

NTPサーバー 99

R

RM-Lite 21
RTP 157
RTSP 157

S

SNMPサーバー 152
SSL/TLS証明書 210

W

WS-Security 154

ア

アクセス制限 52
アップロード 159
暗号化通信 211
アンマウント 219

イ

いたずら検知 175, 188
一般カメラ制御 52, 98
一般ユーザー 52, 98
イベント 201
イベント後バッファ 160, 220
イベントと入出力
 映像検知 81
 音声検知 82
 外部デバイス出力 81
 外部デバイス入力 81
 自動追尾 82
 連結イベント 82
イベント表示 81, 193
イベント前バッファ 160, 220
色の濃さ 117
インストール 28
インテリジェント機能

 映像検知 178
 検知オプション 194
 再起動 202
 自動追尾 196
 動作モード 177
 表示オプション 193
 インフォメーション表示 58

ウ

動き適応ノイズリダクション 107

エ

映像管理情報 221
映像記録 166, 169, 170, 171, 205
映像記録動作 159, 219
映像検知 81, 174, 177, 178
映像サーバー 155
映像サイズ 59, 102, 158
映像サイズセット 101
映像と音声
 H.264 59
 映像サイズ 59
 音声受信 61
 音声送信 61
 最大フレームレート 60
 表示サイズ設定 59
映像の上書き 221
映像の自動削除 221
映像配信 52, 98
映像反転 109
映像表示の回転 104
映像表示部 43, 54, 86
映像品質 102, 103
映像フォーマット 160, 220
映像保存 221
エコーキャンセラー 150
エラーメッセージ 247
選んでインストール 29
エリアズーム 65

オ

オートフリップ 107
置き去り検知 174, 185
おまかせインストール 29
オンスクリーン表示 144
音声検知 82, 168, 176
音声サーバー 156
音声受信 79, 156
音声送信 79, 156
音声入力モード 151
音声配信 52, 98
音声マルチキャスト 157
音量 79, 80, 167, 202
音量検知 168

カ

外部出力デバイス 110
外部デバイス出力 165
外部デバイス入力 81, 166
外部入力デバイス 109
拡張デジタルズーム 65, 106

可視範囲 127
かすみ補正 117
かすみ補正強度 107
カメラアングル 41
カメラ位置を固定する 178
カメラ基本設定 38
カメラ制御権 63
カメラ制御時間 155
カメラ操作
 ズーム 67
 ズーム速度 67
 鮮明IRモード 69
 デイナイト 69
 パン/チルト 67
 パン/チルト速度 67
 フォーカス 69
 露出補正 69
カメラの初期位置を指定する 196
カメラビューウィー 47, 48
カメラマネジメントツール 20, 35
カメラ名 106
簡単カメラ設定 112
管理者 52
管理者アカウント 36, 37, 97
管理者パスワード 37, 97

キ

機器情報 223
基準音量レベル 168
起動時設定 111
逆光補正 70

ク

駆動系リフレッシュ 223
クライアント証明書 214

ケ

警告メッセージ 247
ゲイン 115, 117
権限 98
言語切り替えボタン 84
現在の音量レベル 168
現在の設定 223
検知オプション設定 194
検知種別 174, 179
検知条件 168, 182
検知ライン 190, 193
検知領域 178, 193

コ

工場出荷設定 249, 253

サ

再起動	223
再生音ファイル登録	151
再接続	87
最大クライアント数	155
最大制御権待ち数	155
最大接続時間	155
最大デジタルズーム倍率	107
最大パケットサイズ	93
最大フレームレート	102
サブネットマスク	94
サマータイム	100

シ

時刻	99
自己証明書	210
自動鍵交換	216
自動追尾	177, 196
絞り	115
シャープネス	117
シャッタースピード	115
シャッターリミット	114
修飾子	230
出力音量	150
手動録画	77
巡回ルートの設定	138
情報メッセージ	247
証明書情報	213
証明書の管理	211, 214
初期化	223
初期設定	35
初期設定に戻す	224
侵入検知	175, 192
信頼済みサイト	32

ス

ズーム	44, 64, 67
スナップショット	76, 87
スマートシェード補正	116
スマートシェード補正強度	107
スマートシェード補正レベル	116

セ

制御権	63
静止画	76
赤外照明強度	107
赤外照明点灯時間	109
赤外照明の使用	118
赤外照明レベル	119
赤外線カットフィルター	118
設置ガイド	5
設定値のバックアップ	225
設定値のリストア	225

設定ページ	83
設定メニュー	85, 89
セットアップCD-ROM	5, 20
全画面表示	60
鮮明IRモード	69, 109, 117

ソ

測光方式	115
------	-----

タ

タイマー	171
タイムゾーン	100

チ

チルト	44, 64, 67
-----	------------

ツ

追尾条件	197
通過検知	175, 189
通報内容	160, 161, 163

テ

データ量低減レベル	143
デイナイト	69, 108, 118, 122
デイナイト切り換え	167, 172, 203
デイナイトフォーカス	120
デイモード	69, 118, 122
デジタルPTZ	73
デジタルズーム	65, 106
デバイス名	109, 110
デフォルトゲートウェイアドレス	94, 95
デフォルトページ	104

ト

動作設定	220
動作モード	165, 166
動体検知	174, 184
登録ユーザー	52, 97
特権カメラ制御	52, 98
ドラッグムーブ	66
トラブルシューティング	232

ナ

ナイトモード	69, 118, 122
--------	--------------

一

入力音量	150
認証方式	152, 213

ネ

- ネームサーバーアドレス 95
ネットワーク 93
ネットワークアドレス/サブネット 208

ノ

- ノイズリダクション 117

ハ

- パスワード 49, 97
パノラマ 123
パノラマ画面 87, 137
パノラマ表示パネル 68
パラメーター 230
パルス 166
パン 44, 64, 67

ヒ

- 非検知領域 180, 193
日付 99
ビットレート制御 102
ビデオ出力 92
悲鳴検知 169
ビューワー
　RM-Liteビューワー 21
　カメラビューワー 20, 47
　モバイルカメラビューワー 5, 20
ビューワーPTZ 72
ビューワーメッセージ 247
表示オプション 193
表示サイズ 59

フ

- ファームウェア 223, 226
ファイアウォール 31
フォーカス 69, 112
フォーカス調整 114, 121
フォーマット 221
プライバシーマスク 146
プリセット 70, 75, 131, 166, 169, 170, 205
　タイマー開始時刻 171
　デイナイト切り換え時 203
プリセット巡回 135
プリセット選択ボックス 70
プリセット名 133
フレームレート 103, 158, 160
プレフィックス 95, 209
ブレ補正 107

ホ

- ホームポジション 70, 131
ホストアクセス制限 208, 209
ホワイトバランス 116

マ

- マウント 219
マルチキャストDNS 96

ム

- 無音検出 156

メ

- メール通報 163, 167, 169, 170, 172, 201, 205
メイン

- 言語切り替えボタン 55
　設定ページ 55
　モバイルカメラビューワー 55
　ユーザー切り替え 55

- メッセージ
　エラーメッセージ 247
　警告メッセージ 247
　情報メッセージ 247
　ログメッセージ 235
メモリーカード 18, 19, 219
メモリーカードの情報 221
メモリーカード容量 222
メモリーカード録画 77
メンテナンス 223

モ

- 目標ビットレート 103
持ち去り検知 174, 186
モバイルカメラビューワー 5, 20, 24

ユ

- ユーザー アカウント 97
ユーザー管理 97
ユーザー切り替え 50
ユーザー権限 98
ユーザー認証 49, 104
ユーザーページ 91
ユーザー名 49, 97
ユーザーリスト 98

ラ

- ライセンス 223

リ

- リストア 225
リセットスイッチ 249

レ

- 連結イベント 82, 204

□

- ローテーション 44
ログ 227
録画映像ユーティリティ 5, 21, 78
ログメッセージ 235
露出 114
露出補正 69, 115

ワ

- ワンショットAF 114, 121
ワンショットWB 117

お問い合わせ先

製品に関するお問い合わせは、お客様相談センターをご利用ください。

キヤノンお客様相談センター

ネットワークカメラ / モニタリング機器

 050-555-90074

受付時間 <平日> 9:00～17:00(土・日・祝日および年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

上記番号をご利用いただけないかたは  043-211-9622 をご利用ください。

IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。

受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後 7 年間です。
(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です)